

愛知県埋蔵文化財センター調査報告書 第222集

ま ん ぜ い せ き

万 瀬 遺 跡

2024

公益財団法人愛知県教育・スポーツ振興財団
愛知県埋蔵文化財センター

序

万瀬遺跡の所在する北設楽郡設楽町は愛知県の北東部に位置し、現在でも豊かな自然を残す地域であります。設楽町段戸山に源を発し、設楽町域を流れる寒狭川は、下流では豊川と名前を変え、東三河地域を潤して三河湾へと注ぐ重要な河川である反面、幾度となく洪水氾濫や渇水による被害が発生しており、水量の調節が必要とされてきました。そのために計画され、工事が進行している設楽ダムは、更なる東三河地域の発展に貢献することが期待される一方で、湛水によって水没する地域には多数の遺跡が確認されております。

それに伴い、愛知県埋蔵文化財センターでは平成26年度より設楽ダム事業関連の発掘調査を本格化させ、毎年調査を行ってまいりました。現在、既に発掘調査もピークを超え、多くの調査成果が蓄積されつつあります。成果の公表に目を向けますと、これまでに7冊、遺跡数では9遺跡にわたる発掘調査報告書が刊行され、本報告書以後にも続々と刊行が予定されております。

本報告書で扱う万瀬遺跡では、縄文時代草創期に遡る人類の活動痕跡が確認されたほか、縄文時代と中近世という隔たった2つの時期の集落が検出され、当地で生活していた人々による土地利用の一端が明らかになりました。

万瀬遺跡だけでなく、近隣の遺跡における調査成果が公表されることによって、研究者のみならず、多くの方々へ考古学への興味を持っていただき、埋蔵文化財へのご理解を深めていただけることを願ってやみません。

最後になりましたが、万瀬遺跡の発掘調査を実施し、報告書を作成するにあたり、地元住民の方々をはじめ各方面の方々にご配慮いただき、さらに関係諸機関および関係者のご指導とご協力をいただきましたことを、厚く御礼申し上げます。

令和6年3月31日

公益財団法人 愛知県教育・スポーツ振興財団

理事長 岡本 範重

例言

- 1.本書は、愛知県北設楽郡設楽町川向字マンゼに所在する万瀬遺跡（県道跡番号 700165）の発掘調査報告書である。
- 2.発掘調査は、設楽ダムの事前調査として、国土交通省中部地方整備局から愛知県教育委員会を通じて、公益財団法人愛知県教育・スポーツ振興財団 愛知県埋蔵文化財センターが、管理委託を受けて実施した。
- 3.調査期間および調査面積は、平成26年6月～10月に2,050 m²、令和元年6月～令和2年1月に8200m²である。
- 4.調査は、平成26年度は鈴木正貴（調査研究専門員、現調査課長）と川添和暁（調査研究主任、現調査研究専門員）、令和元年度は酒井俊彦（主任専門員）、川添和暁（調査研究専門員）と河嶋優輝（調査研究主事）が担当した。なお、平成26年度はナカシャクリエイト株式会社、令和元年度は株式会社イビソクによる支援を受けて実施した。
- 5.調査にあたっては、愛知県教育委員会生涯学習課文化財保護室（現・愛知県県民文化局文化財部文化芸術課文化財室）、愛知県埋蔵文化財調査センター、設楽町教育委員会、国土交通省中部地方整備局を始めとして、多くの関係諸機関のご協力を得た。
- 6.本書の執筆に伴う遺物の整理作業は、河嶋優輝・川添和暁が主に担当し、令和4年度に実施した。その際、遺物整理、製図については整理補助員および愛知県埋蔵文化財センター職員の方々のご協力を受けたほか、縄文土器のトレース作業および陶磁器・土師器の実測・トレース作業の一部は国際文化財株式会社に、石器の実測・トレース作業の一部は株式会社アルカに、木製品の実測・トレース作業の一部は株式会社文化財サービスに、土器付着炭化物放射性炭素年代測定（AMS法）および木製品樹種同定は株式会社パレオ・ラボに、黒曜石産地推定は株式会社第四紀地質研究所に、遺物の写真撮影は写真工房遊に委託した。
- 7.本書の編集は河嶋優輝が行った。
- 8.本書の執筆者は、河嶋優輝、川添和暁、鬼頭 剛・古澤 明・パレオ・ラボ AMS年代測定グループ、小林克也（パレオ・ラボ）、鈴木正貴、パレオ・ラボ AMS年代測定グループ、(株) 第四紀地質研究所（50音順）である。執筆者は目次および各文頭に示した。なお、表記の無いものについては河嶋による執筆である。
- 9.遺物の登録は、本書図版の掲載番号を元に整理を行った。
- 10.調査区の座標は、国土交通省告示に定められた平面直角座標 VII 系の新基準に準拠する。
- 11.写真および図面などの調査に係る記録類は、愛知県埋蔵文化財センターで保管している。
（公財）愛知県教育・スポーツ振興財団 愛知県埋蔵文化財センター
〒498-0017 愛知県弥富市前ヶ須町野方 802-24(0567-67-4161)
- 12.出土遺物は、愛知県埋蔵文化財調査センターで保管している。
愛知県埋蔵文化財調査センター
〒498-0017 愛知県弥富市前ヶ須町野方 802-24(0567-67-4164)
- 13.発掘調査の実施、報告書の作成にあたり、次の機関と方々から多くのご協力およびご指導とご助言を得た。記して感謝を申し上げる。
株式会社アーキジオ、荒井重勇、金子健一、国際文化財株式会社、名古屋大学微細構造解析プラットフォーム、平野吾郎、増子康真、矢野健一（敬称略・50音順）

目次

序・例言・目次・挿図目次・表目次

第1章 調査の概要	1
第1節 調査の経緯と方法	1
第2節 遺跡の地理的環境	2
第3節 遺跡の歴史的環境	4
第4節 基本層序	5
第2章 遺構	11
第1節 縄文時代 竪穴建物跡	11
第2節 縄文時代 炉穴・集石炉跡	15
第3節 掘立柱建物跡	18
第4節 柱穴列	28
第5節 柱穴・土坑	35
第6節 炉跡	53
第7節 井戸跡	56
第8節 土葬土坑墓	59
第9節 その他の遺構・自然地形	60
第3章 遺物	65
第1節 縄文土器（川添和暁）	65
第2節 石器・石製品（川添和暁）	88
第3節 古代以降の陶磁器・土師器	116
第4節 木製品	124
第5節 金属製品（鈴木正貴）	129
第4章 自然科学分析	132
第1節 蛍光X線分析による黒曜石産地推定（徳第四紀地質研究所）	132
第2節 万瀬遺跡出土木製品の樹種同定（小林克也（パレオ・ラボ））	136
第3節 土壌出土および土器付着炭化物の放射性炭素年代測定	139
（パレオ・ラボ AMS年代測定グループ）	
第4節 土器に確認された植物種実圧痕について（川添和暁）	155
第5節 万瀬遺跡における層序と堆積年代	157
（鬼頭 剛・古澤 明・パレオ・ラボ AMS年代測定グループ）	
第5章 考察と総括	163
第1節 縄文時代・弥生時代遺物分布状況（川添和暁）	163
第2節 陶磁器類・土師器の出土状況・分布について	171
第3節 遺構の変遷について	179
第4節 総括	181

遺物一覧表・巻末図版・写真図版・報告書抄録

插图目次

图1 北設楽郡設楽町および万瀬遺跡位置図……………	1	图43 193SK ~ 209SK、1010SP ~ 1032SK……………	45
图2 調査区配置概略図……………	1	图44 1031SK ~ 1085SP……………	46
图3 設楽ダム関連遺跡分布図……………	2	图45 1105SK ~ 1246SK……………	47
图4 平成26・令和元年度調査区基本層序模式図……………	6	图46 1250SP ~ 1417SK……………	48
图5 19Ba区南壁土層断面図……………	6	图47 1428SK ~ 1524SP、2001SK・2002SK……………	49
图6 19C区東壁土層断面図……………	7	图48 2025SP ~ 2120SP……………	50
图7 19C区東壁土層註記、 14区北壁土層断面図(1)……………	8	图49 2124SP ~ 2333SK……………	51
图8 14C区北壁土層断面図(2)……………	9	图50 2337SP ~ 2429SK……………	52
图9 19Aa区北壁土層断面図……………	10	图51 14区013SL、105SL(1)……………	53
图10 1700SI・1710SI……………	11	图52 105SL(2)・199SL……………	54
图11 1720SI……………	12	图53 1040SL ~ 1174SL……………	55
图12 1730SI・1740SI……………	13	图54 14区058SE・14区060SE……………	56
图13 2460SI……………	14	图55 14区061SE ~ 14区328SE、181SE……………	57
图14 1527SL・2116SL……………	15	图56 212SE・222SE……………	58
图15 2127SL・2445SL……………	16	图57 2224SZ ~ 2464SZ……………	59
图16 2447SL・2448SL・2449SL……………	17	图58 14区001SX ~ 14区006SX(1)……………	60
图17 300SB(1)……………	18	图59 14区001SX ~ 14区006SX(2)、14区009SI……………	61
图18 300SB(2)・310SB(1)……………	19	图60 075SD・017SX・031SX・032SX……………	62
图19 310SB(2)……………	20	图61 067SX・068SX・081NR……………	63
图20 320SB……………	21	图62 2500SX……………	64
图21 330SB(1)……………	22	图63 土器1 14区001SX出土(1)……………	70
图22 330SB(2)……………	23	图64 土器2 14区001SX出土(2)……………	71
图23 1600SB……………	24	图65 土器3 14区001SX出土(3)……………	72
图24 1630SB・1640SB……………	25	图66 土器4 14区001SX出土(4)、 14区002SX ~ 14区005SX出土……………	73
图25 1650SB……………	26	图67 土器5 14区004SK ~ 046SK出土、 14区052SK出土(1)……………	74
图26 1650SB 柱穴断面図……………	27	图68 土器6 14区052SK出土(2)、14区180SK出土、 14区2層出土(1)……………	75
图27 340SA……………	29	图69 土器7 14区2層出土(2)……………	76
图28 350SA……………	30	图70 土器8 14区2層出土(3)、14区3層築石付返出土、 14区3層出土(1)……………	77
图29 1660SA・1670SA……………	31	图71 土器9 14区3層出土(2)……………	78
图30 1680SA……………	32	图72 土器10 14区3層出土(3)……………	79
图31 1690SA・2600SA……………	33	图73 土器11 14区トレンチ・ベルトなど出土……………	80
图32 2610SA……………	34	图74 土器12 081NR出土(1)……………	81
图33 14区015SK ~ 14区025SP……………	35	图75 土器13 081NR出土(2)……………	82
图34 14区026SP ~ 14区143SK……………	36	图76 土器14 081NR出土(2)、085SK・093SK出土、 19B区包含層など出土……………	83
图35 14区126SK ~ 14区217SP……………	37	图77 土器15 19C区1211SK ~ 1127SK出土……………	84
图36 14区218SP ~ 14区312SP……………	38	图78 土器16 2067SK ~ 2445SL出土……………	85
图37 009SK ~ 033SK……………	39	图79 土器17 2429SK出土……………	86
图38 055SK ~ 089SP……………	40	图80 土器18 2500SX出土、19A区検出面出土など……………	87
图39 090SK ~ 108SK……………	41		
图40 110SP ~ 124SK……………	42		
图41 125SP ~ 142SK……………	43		
图42 147SP ~ 185SK……………	44		

図 81 石器・石製品 1 14 区 001SX ~ 14 区 052SK 出土 97	図 114 日本の黒曜石 $\text{SiO}_2\text{-Al}_2\text{O}_3$ 図 (付図) 135
図 82 石器・石製品 2 14 区 2 層出土、14 区トレンチ出土、 14 区跡土出土 98	図 115 万瀬遺跡出土木製品の光学顕微鏡写真 138
図 83 石器・石製品 3 081NR 出土、19B 区トレンチ出土、 19B 区遺構検出面出土、19B 区表土出土 99	図 116-1-6 放射性炭素年代測定 暦年校正結果 145-150
図 84 石器・石製品 4 1050SP ~ 1730SI 出土、 19C 区遺構検出面出土 100	図 117 放射性炭素年代測定 マルチプロット図 151
図 85 石器・石製品 5 2019SK ~ 2391SK 出土 101	図 118 万瀬遺跡出土土器 (弥生時代前期) 植物種実圧痕 SEM 画像 156
図 86 石器・石製品 6 19C 区 2400SI ~ 2445SI 出土 102	図 119 万瀬遺跡における分析試料採取地点 158
図 87 石器・石製品 7 2446SI ~ 2470SK 出土 103	図 120 地点 1(14 区)における深掘の地層断面 159
図 88 石器・石製品 8 2500SX 出土 (1) 104	図 121 地点 2(19A 区)における深掘の地層断面 159
図 89 石器・石製品 9 2500SX 出土 (2) 105	図 122 地点 3(19A 区)における深掘の地層断面 160
図 90 石器・石製品 10 2500SX 下層出土 (1) 106	図 123 試録地点 B の地質柱状図 160
図 91 石器・石製品 11 2500SX 下層出土 (2) 107	図 124-1-2 万瀬遺跡 縄文時代遺物分布図 土器 164-165
図 92 石器・石製品 12 2500SX 下層出土 (3) 108	図 125-1-5 万瀬遺跡 縄文時代遺物分布図 石器 166-170
図 93 石器・石製品 13 2500SX 下層出土 (4) 109	図 126 瀬戸美濃大窯・速房式登窯製品 時期別点数グラフ 175
図 94 石器・石製品 14 2500SX 下層出土 (5) 110	図 127 中近世遺物出土点数分布図 176
図 95 石器・石製品 15 2500SX 下層出土 (6) 111	図 128 中近世遺物出土重量 (g) 分布図 177
図 96 石器・石製品 16 2500SX 下層出土 (7)、 19A 区表採 112	図 129 主要遺構変遷図 179
図 97 石器・石製品 17 2500SX 出土 (3)、 19A 区遺構検出面出土、19A 区トレンチ出土、 19A 区表土出土 113	図 130 主要遺構分布図 180
図 98 石器・石製品 18 石製品類 114	
図 99 石器・石製品 19 中世以降の石器・石製品 115	
図 100 陶磁器類・土師器 1 14 区・19B 区遺構内出土 117	
図 101 陶磁器類・土師器 2 19C 区・19A 区 遺構内出土 119	
図 102 陶磁器類・土師器 3 遺構検出面出土、 包含層等出土 121	
図 103 陶磁器類・土師器 4 表土出土、表採、 試掘トレンチ出土 123	
図 104 木製品 1 212SE 出土 (1) 125	
図 105 木製品 2 212SE 出土 (2) 126	
図 106 木製品 3 212SE 出土 (3) 127	
図 107 木製品 4 212SE 出土 (4)、1062SK 出土 128	
図 108 万瀬遺跡出土銭貨 130	
図 109 金属製品 131	
図 110 日本の黒曜石 $\text{SiO}_2\text{-Al}_2\text{O}_3$ 図 (万瀬遺跡) 133	
図 111 日本の黒曜石 $\text{Fe}_2\text{O}_3\text{-TiO}_2$ 図 (万瀬遺跡) 133	
図 112 日本の黒曜石 $\text{K}_2\text{O-CaO}$ 図 (万瀬遺跡) 133	
図 113 日本の黒曜石 Rb-Sr 図 (万瀬遺跡) 133	

表目次

表 1	万瀬遺跡 平成 26・令和元年度 調査工程表	1
表 2	万瀬遺跡および周辺遺跡一覧	3
表 3	万瀬遺跡出土縄文土器・弥生土器 分類群別一覧	65
表 4	万瀬遺跡出土土器・石製品 調査区別出土器種点数表	88
表 5-1-3	万瀬遺跡出土土器・石製品 遺構別出土器種点数表	89-91
表 6	万瀬遺跡出土土器・石製品 石材別点数と重量表	96
表 7	黒曜石化学分析表	134
表 8	強被熱黒曜石・EDS・化学表	134
表 9	黒曜石原産地対比表	135
表 10	万瀬遺跡出土木製品の樹種同定結果	136
表 11	万瀬遺跡出土木製品の樹種同定結果一覧	137
表 12-1-4	放射性炭素年代 測定試料および前処理	139,141,142
表 13-1-4	放射性炭素年代測定および暦年校正の結果	143-145
表 14	万瀬遺跡における火山灰分析結果	160
表 15	地点 1(14 区)の放射性炭素年代測定結果	160
表 16	地点 2(19A 区)の放射性炭素年代測定結果	161
表 17	試掘地点 B の放射性炭素年代測定結果	162
表 18	陶磁器・土師器その他の遺物 点数・重量集計表	172
表 19	山茶碗 時期別点数表	173
表 20	古瀬戸製品 時期別点数表	173
表 21	肥前磁器製品 時期別点数表	173
表 22	瀬戸美濃大窯・蓮房式登窯製品 時期別点数表	174
表 23-1-8	土器 掲載遺物一覧表	182-189
表 24-1-3	石器 掲載遺物一覧表	190-192
表 25-1-3	陶磁器類・土師器 掲載遺物一覧表	193-195
表 26	木製品 掲載遺物一覧表	196
表 27	金属製品 掲載遺物一覧表	196

第1章 調査の概要

第1節 調査の経緯と方法

万瀬遺跡(県遺跡番号700165)は、北設楽郡設楽町川向字マンゼ(北緯35度06分43秒・東経137度33分54秒)に所在し、愛知県教育委員会による詳細遺跡分布調査および愛知県埋蔵文化財センターによる範囲確認調査により、縄文時代から戦国時代までの遺物が採取されている。

発掘調査は国土交通省中部地方整備局設楽ダム工事事務所による設楽ダム工事関連事業として、二年度に分けて実施され、いずれも国土交通省中部地方整備局から愛知県教育委員会を通じた委託を受けて平成26年度および令和元年度に実施した。調査期間と調査面積は、平成26年度が平成26年6月から10月に2050㎡、令和元年度が令和元年6月から令和2年1月に8200㎡である。

調査区は、平成26年度調査区を14区とし、令和元年度調査区を19区とした。道路によって分断された19区は、19A区・19B区・19C区の3区に分割し、更に、19A区・19B区は着手した順に19Aa区・19Ab区、19Ba区・19Bb区に細分して調査を行った。したがって、報告中で単に19A区や19B区とした場合、それぞれ19Aa区・19Ab区、19Ba区・19Bb区を包摂するものとする。

調査は、表土の除去を重機(バックホウ)によって行い、包含層掘削および遺構掘削は人力によって行った。



図1 北設楽郡設楽町および万瀬遺跡位置図

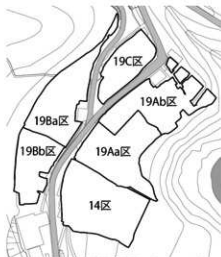


図2 調査区配置概略図(S=1/2400)

表1 万瀬遺跡 平成26・令和元年度 調査工程表

14区	平成26(2014)年											
	4	5	6	7	8	9	10	11	12			

19Aa区 19Ab区 19Ba区 19Bb区 19C区	令和元(2019)年												令和2(2020)年		
	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2				
19Aa区															
19Ab区															
19Ba区															
19Bb区															
19C区															

凡例

発掘調査報告書の作成に係る整理等の作業は令和4年度に実施し、令和6年3月に本書を刊行した。発掘調査の手続きは以下の通りである。

平成26年度：

発掘届出：26 教生第566号・平成26年5月2日／通知：26埋セ第88号・平成26年11月4日／終了届・保管証・発見届：26 教生第2082号・平成26年11月20日／監査結果通知：26埋セ第28-1号・平成26年5月2日

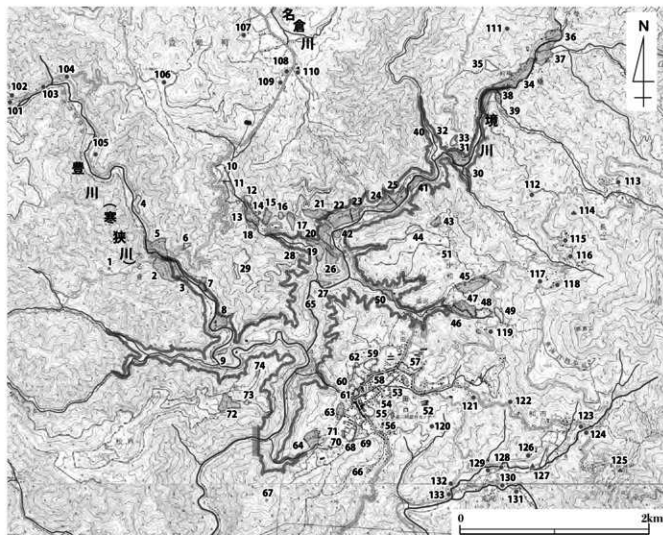
令和元年度：

発掘届出：31 教生第277号・平成31年4月19日／通知：31埋セ第117号・令和2年1月24日／終了届・保管証・発見届：31 教生第3671号・令和2年2月18日／監査結果通知：31埋セ第5号・平成31年4月10日

第2節 遺跡の地理的環境

万瀬遺跡とその周辺の遺跡の立地に関して略述する。北設楽郡設楽町は愛知県の北東山間部に位置し、平成17(2005)年には旧津具村と合併して、東西約22.4km・南北19.7km・総面積273.94km²におよぶ範囲となった。町域内は大部分を山林が占めており、その間を縫うように複数の河川が流れる。設楽町内には豊川水系、矢作川水系、天竜川水系が存在するが、遺跡調査の端緒となった設楽ダムはそのうち豊川水系をなす寒狭川(豊川)に造られる。

寒狭川およびそれに合流する境川などの沿岸には河岸段丘や緩斜面が形成され、多数の遺跡が所在することが確認されており、万瀬遺跡は境川右岸の東向き緩斜面、標高およそ410～425mの地点に所在する。万瀬遺跡から東側の境川対岸には笹平遺跡が位置し、津具方面へ向かって境川右岸を北東に遡上していくと、上ヲロウ・下ヲロウ遺跡、川向近沢遺跡、石原遺跡、下延坂遺跡が連なる。



設楽ダム関連 遺跡分布図

国土地理院発行 2万5千分の1地形図「田口」「海老」より

- 設楽ダム事業により影響を受ける遺跡(埋蔵文化財包蔵地)の範囲
- 設楽ダム常時満水437mの範囲
- ● 遺跡の範囲・地点

図3 設楽ダム開池遺跡分布図(愛知県埋蔵文化財センター2019「西地・東地遺跡」より、一部改変)

表2 万瀬遺跡および周辺遺跡一覧(愛知県埋蔵文化財センター「西地・東地遺跡」より、一部改変)

※ ○・◇は、詳細分布調査および遺跡地図による、◇は発掘調査で新たに見つかった時代

地区 (市町村)	遺跡名	種別	調査年	所在地	縄文時代	弥生時代	古墳時代	飛鳥時代	奈良時代	平安時代	室町時代	徳川時代	備考
大府	1 沢入り遺跡	土器・瓦	199155	大府町 野上1-1	○	?							
大府	2 大府遺跡	古瓦・土器	199207	大府町東ノ上・ ノノ下・ 下田一帯	○	○	○	○	○	○	○	○	下巻跡
大府	3 堀ノ丸遺跡	土器	199191	大府町東ノ上	○								
大府	4 西ノ丸遺跡	土器	199192	大府町東ノ上	○								
大府	5 西ノ丸遺跡	土器	199193	大府町東ノ上	○								
大府	6 西ノ丸遺跡	土器	199194	大府町東ノ上	○								
大府	7 西ノ丸遺跡	土器	199195	大府町東ノ上	○								
大府	8 西ノ丸遺跡	土器	199196	大府町東ノ上	○								
大府	9 西ノ丸遺跡	土器	199197	大府町東ノ上	○								
大府	10 西ノ丸遺跡	土器	199198	大府町東ノ上	○								
大府	11 西ノ丸遺跡	土器	199199	大府町東ノ上	○								
大府	12 西ノ丸遺跡	土器	199200	大府町東ノ上	○								
大府	13 西ノ丸遺跡	土器	199201	大府町東ノ上	○								
大府	14 西ノ丸遺跡	土器	199202	大府町東ノ上	○								
大府	15 西ノ丸遺跡	土器	199203	大府町東ノ上	○								
大府	16 西ノ丸遺跡	土器	199204	大府町東ノ上	○								
大府	17 西ノ丸遺跡	土器	199205	大府町東ノ上	○								
大府	18 西ノ丸遺跡	土器	199206	大府町東ノ上	○								
大府	19 西ノ丸遺跡	土器	199207	大府町東ノ上	○								
大府	20 西ノ丸遺跡	土器	199208	大府町東ノ上	○								
大府	21 西ノ丸遺跡	土器	199209	大府町東ノ上	○								
大府	22 西ノ丸遺跡	土器	199210	大府町東ノ上	○								
大府	23 西ノ丸遺跡	土器	199211	大府町東ノ上	○								
大府	24 西ノ丸遺跡	土器	199212	大府町東ノ上	○								
大府	25 西ノ丸遺跡	土器	199213	大府町東ノ上	○								
大府	26 西ノ丸遺跡	土器	199214	大府町東ノ上	○								
大府	27 西ノ丸遺跡	土器	199215	大府町東ノ上	○								
大府	28 西ノ丸遺跡	土器	199216	大府町東ノ上	○								
大府	29 西ノ丸遺跡	土器	199217	大府町東ノ上	○								
大府	30 西ノ丸遺跡	土器	199218	大府町東ノ上	○								
大府	31 西ノ丸遺跡	土器	199219	大府町東ノ上	○								
大府	32 西ノ丸遺跡	土器	199220	大府町東ノ上	○								
大府	33 西ノ丸遺跡	土器	199221	大府町東ノ上	○								
大府	34 西ノ丸遺跡	土器	199222	大府町東ノ上	○								
大府	35 西ノ丸遺跡	土器	199223	大府町東ノ上	○								
大府	36 西ノ丸遺跡	土器	199224	大府町東ノ上	○								
大府	37 西ノ丸遺跡	土器	199225	大府町東ノ上	○								
大府	38 西ノ丸遺跡	土器	199226	大府町東ノ上	○								
大府	39 西ノ丸遺跡	土器	199227	大府町東ノ上	○								
大府	40 西ノ丸遺跡	土器	199228	大府町東ノ上	○								
大府	41 西ノ丸遺跡	土器	199229	大府町東ノ上	○								
大府	42 西ノ丸遺跡	土器	199230	大府町東ノ上	○								
大府	43 西ノ丸遺跡	土器	199231	大府町東ノ上	○								
大府	44 西ノ丸遺跡	土器	199232	大府町東ノ上	○								
大府	45 西ノ丸遺跡	土器	199233	大府町東ノ上	○								
大府	46 西ノ丸遺跡	土器	199234	大府町東ノ上	○								
大府	47 西ノ丸遺跡	土器	199235	大府町東ノ上	○								
大府	48 西ノ丸遺跡	土器	199236	大府町東ノ上	○								
大府	49 西ノ丸遺跡	土器	199237	大府町東ノ上	○								
大府	50 西ノ丸遺跡	土器	199238	大府町東ノ上	○								
大府	51 西ノ丸遺跡	土器	199239	大府町東ノ上	○								
大府	52 西ノ丸遺跡	土器	199240	大府町東ノ上	○								
大府	53 西ノ丸遺跡	土器	199241	大府町東ノ上	○								
大府	54 西ノ丸遺跡	土器	199242	大府町東ノ上	○								
大府	55 西ノ丸遺跡	土器	199243	大府町東ノ上	○								
大府	56 西ノ丸遺跡	土器	199244	大府町東ノ上	○								
大府	57 西ノ丸遺跡	土器	199245	大府町東ノ上	○								
大府	58 西ノ丸遺跡	土器	199246	大府町東ノ上	○								
大府	59 西ノ丸遺跡	土器	199247	大府町東ノ上	○								
大府	60 西ノ丸遺跡	土器	199248	大府町東ノ上	○								
大府	61 西ノ丸遺跡	土器	199249	大府町東ノ上	○								
大府	62 西ノ丸遺跡	土器	199250	大府町東ノ上	○								
大府	63 西ノ丸遺跡	土器	199251	大府町東ノ上	○								
大府	64 西ノ丸遺跡	土器	199252	大府町東ノ上	○								
大府	65 西ノ丸遺跡	土器	199253	大府町東ノ上	○								
大府	66 西ノ丸遺跡	土器	199254	大府町東ノ上	○								
大府	67 西ノ丸遺跡	土器	199255	大府町東ノ上	○								
大府	68 西ノ丸遺跡	土器	199256	大府町東ノ上	○								
大府	69 西ノ丸遺跡	土器	199257	大府町東ノ上	○								
大府	70 西ノ丸遺跡	土器	199258	大府町東ノ上	○								
大府	71 西ノ丸遺跡	土器	199259	大府町東ノ上	○								
大府	72 西ノ丸遺跡	土器	199260	大府町東ノ上	○								
大府	73 西ノ丸遺跡	土器	199261	大府町東ノ上	○								
大府	74 西ノ丸遺跡	土器	199262	大府町東ノ上	○								
大府	75 西ノ丸遺跡	土器	199263	大府町東ノ上	○								
大府	76 西ノ丸遺跡	土器	199264	大府町東ノ上	○								
大府	77 西ノ丸遺跡	土器	199265	大府町東ノ上	○								
大府	78 西ノ丸遺跡	土器	199266	大府町東ノ上	○								
大府	79 西ノ丸遺跡	土器	199267	大府町東ノ上	○								
大府	80 西ノ丸遺跡	土器	199268	大府町東ノ上	○								
大府	81 西ノ丸遺跡	土器	199269	大府町東ノ上	○								
大府	82 西ノ丸遺跡	土器	199270	大府町東ノ上	○								
大府	83 西ノ丸遺跡	土器	199271	大府町東ノ上	○								
大府	84 西ノ丸遺跡	土器	199272	大府町東ノ上	○								
大府	85 西ノ丸遺跡	土器	199273	大府町東ノ上	○								
大府	86 西ノ丸遺跡	土器	199274	大府町東ノ上	○								
大府	87 西ノ丸遺跡	土器	199275	大府町東ノ上	○								
大府	88 西ノ丸遺跡	土器	199276	大府町東ノ上	○								
大府	89 西ノ丸遺跡	土器	199277	大府町東ノ上	○								
大府	90 西ノ丸遺跡	土器	199278	大府町東ノ上	○								
大府	91 西ノ丸遺跡	土器	199279	大府町東ノ上	○								
大府	92 西ノ丸遺跡	土器	199280	大府町東ノ上	○								
大府	93 西ノ丸遺跡	土器	199281	大府町東ノ上	○								
大府	94 西ノ丸遺跡	土器	199282	大府町東ノ上	○								
大府	95 西ノ丸遺跡	土器	199283	大府町東ノ上	○								
大府	96 西ノ丸遺跡	土器	199284	大府町東ノ上	○								
大府	97 西ノ丸遺跡	土器	199285	大府町東ノ上	○								
大府	98 西ノ丸遺跡	土器	199286	大府町東ノ上	○								
大府	99 西ノ丸遺跡	土器	199287	大府町東ノ上	○								
大府	100 西ノ丸遺跡	土器	199288	大府町東ノ上	○								
大府	101 西ノ丸遺跡	土器	199289	大府町東ノ上	○								
大府	102 西ノ丸遺跡	土器	199290	大府町東ノ上	○								
大府	103 西ノ丸遺跡	土器	199291	大府町東ノ上	○								
大府	104 西ノ丸遺跡	土器	199292	大府町東ノ上	○								
大府	105 西ノ丸遺跡	土器	199293	大府町東ノ上	○								
大府	106 西ノ丸遺跡	土器	199294	大府町東ノ上	○								
大府	107 西ノ丸遺跡	土器	199295	大府町東ノ上	○								
大府	108 西ノ丸遺跡	土器	199296	大府町東ノ上	○								
大府	109 西ノ丸遺跡	土器	199297	大府町東ノ上	○								
大府	110 西ノ丸遺跡	土器	199298	大府町東ノ上	○								
大府	111 西ノ丸遺跡	土器	199299	大府町東ノ上	○								
大府	112 西ノ丸遺跡	土器	199300										

第3節 遺跡の歴史的環境

万瀬遺跡周辺の遺跡について概観する。遺跡に付す番号は図3および表2に対応する。

後期旧石器時代：市場口遺跡(108)では、ナイフ形石器および剥片・石核が出土する。

縄文時代草創期：川向東貝津遺跡(27)では、木葉形尖頭器および有舌尖頭器やその製作に関わる剥片石核類のほか、細石器も出土しており、一部は後期旧石器時代に遡る可能性がある。また、滝瀬遺跡(31)では、縄文時代草創期末から早期初頭に遡る可能性のある、堅穴建物跡10基以上で構成された集落跡が確認された。

縄文時代早期：川向東貝津遺跡・滝瀬遺跡では集石炉跡が調査されており、状況から縄文時代早期に属する可能性がある。特に滝瀬遺跡では境川に接する緩斜面上に10基以上がまとまって見つかっている。川向地区の大栗遺跡(19)では、煙道付炉穴が少なくとも1基調査されており、複数基が存在していた可能性も考えられている。

縄文時代前期：遺物は各遺跡で散在的に確認されているものの遺構の例は少なく、大名倉地区の胡桃窪遺跡(8)で前期後半の堅穴建物跡が検出されているのが挙げられるのみである。

縄文時代中期：縄文時代中期については、石原遺跡(24)で山田平式期頃、笹平遺跡(42)・滝瀬遺跡で中期後半の堅穴建物跡が見つかっている。集落跡としては川向東貝津遺跡と大畑遺跡(26)があり、前者は丘陵裾部の南斜面、後者が同一丘陵の頂部に展開する位置関係にある。大畑遺跡では縄文時代中期後半から弥生時代中期後葉にかけての19基からなる堅穴建物跡群が見つかっており、縄文時代晩期～弥生時代前期には希薄になるものの、連続と建物が築かれている。

縄文時代後期：笹平遺跡では堅穴建物跡30基以上による後期初頭～中葉にかけての集落跡が確認され、マサノ沢遺跡(41)ではハート形土偶などの儀器類を伴う配石・集石墓群が検出されている。

縄文時代晩期：縄文時代晩期の遺物は、大名倉遺跡(2)・笹平遺跡・滝瀬遺跡などで散発的に確認される。マサノ沢遺跡では、晩期後葉の良好な遺物包含層が確認されている。

弥生時代：前期では笹平遺跡やマサノ沢遺跡で土器棺墓が確認されているほか、中期では上ヲロウ・下ヲロウ遺跡(22)と大崎遺跡(65)で堅穴建物跡が検出されている。

古墳時代：後期に比定される丸根古墳や根古屋古墳が名倉地区に所在することが戦前から知られているものの、集落遺跡などは確認されておらず、様相は不明瞭である。

古代：須恵器はごく少数が出土するのみで当該期の集落などは確認されていない。滝瀬遺跡、下延坂遺跡(25)、胡桃窪遺跡、上ヲロウ・下ヲロウ遺跡などでは灰軸陶器の出土する堅穴状遺構が見つかっている。そのうち、滝瀬遺跡のものはカマドを伴い、下延坂遺跡のものは炉跡を伴い、胡桃窪遺跡のものは鉄製品、鍛造鉄片、粒状鉄滓が出土して鍛冶遺構としての性格が想定されている。

中世：西地・東地遺跡(5)で検出された戦国期から近世初頭にかけての堅穴状遺構は、鉄滓や被熱した台石の出土から野鍛冶に関連するものと考えられる。上ヲロウ・下ヲロウ遺跡では中世前半以降の道路状遺構が見つかっている。大畑遺跡では緩斜面地を利用した大規模な水田関連遺構が見つかっており、山茶碗や伊勢型鍋などの遺物が出土する。

近世以降：上ヲロウ・下ヲロウ遺跡で柱穴に根石を伴う掘立柱建物が確認されているほか、滝瀬遺跡では旧伊那街道と考えられる道路状遺構が見つかっている。埋葬遺構としては、土葬土坑墓が上ヲロウ・下ヲロウ遺跡、下延坂遺跡といった境川右岸の遺跡のほか、西地・東地遺跡でも見つかっており、副葬品として銭貨や煙管が出土する例が多い。また、大栗遺跡では礎を方形に組んだ火葬施設と思われる遺構が確認されている。

第4節 基本層序

主に調査区の壁面で記録した土層堆積（図5～図9）をもとに万瀬遺跡の基本層序を示す。

万瀬遺跡は川へ向いた東向きの緩斜面地に立地しており、土層の堆積も全体に西から東へ傾斜する。そのため、土地利用にあたって一部が平場として削平されている。また、境川右岸に連なる他の遺跡では自然の谷地形に沿って土石流堆積が見られることがあるが、万瀬遺跡においては谷地形が2箇所に見られたものの、明瞭な土石流堆積は認められなかった。

各調査区で共通する堆積は上層から、黒褐色シルト等を主体とした近現代の表土層、中世～近代に堆積した黒褐色のシルト～粘土質シルト層、明黄褐色～褐色のシルト～粘土を主体とする基盤層である。このうち、中世～近代の層は縄文時代～近世の遺物を包含し、基盤層上では場所により、縄文時代早期から近世の遺構が検出される。

局所的な遺物包含層としては、19B区から14区にかけて所在する自然の谷地形には縄文時代～近世の遺物包含層が見られる。19C区南東部から19A区北東部にかけての浅い谷地形では、縄文時代早期前半以前の遺物を包含する堆積が見られ、19C区ではその上面で縄文時代早期前半の集落跡が検出された。また、早期前半以前の包含層も存在する。19A区東部の一部では縄文時代の遺物を包含する明黄褐色～黒褐色の包含層が確認された。

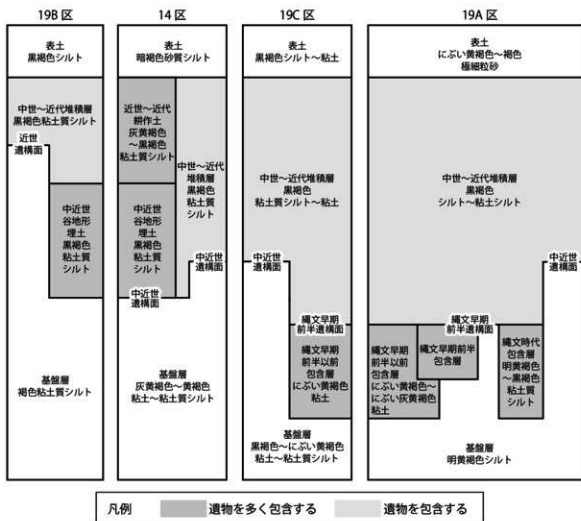


図4 平成26・令和元年度調査区基本層序模式図

第2章 遺構

万瀬遺跡では縄文時代早期前半から近世にかけての遺構が検出された。本章では、縄文時代に属する竪穴建物、炉穴・集石炉跡について記述したのち、中世以降の各種遺構について記述している。各遺構は遺構番号順に配列した。遺構番号は14区が001～333、19B区が001～350、19C区が1001～1740、19A区が2001～2610である（欠番含む）。14区と19B区では遺構番号の重複があるため、14区の遺構にのみ先頭に調査区名を付し、他の調査区の遺構については調査区名を省略した。

第1節 縄文時代 竪穴建物跡

19C区 19C区では、竪穴建物跡5基が重複した建物群が、3333・3432・3433グリッドにかけて黒色土中から検出された。全て19C区南西端に掛かっており、平面形状の全体を把握できるものはない。各建物跡の位置関係は巻末の調査区平面図31を参照されたい。

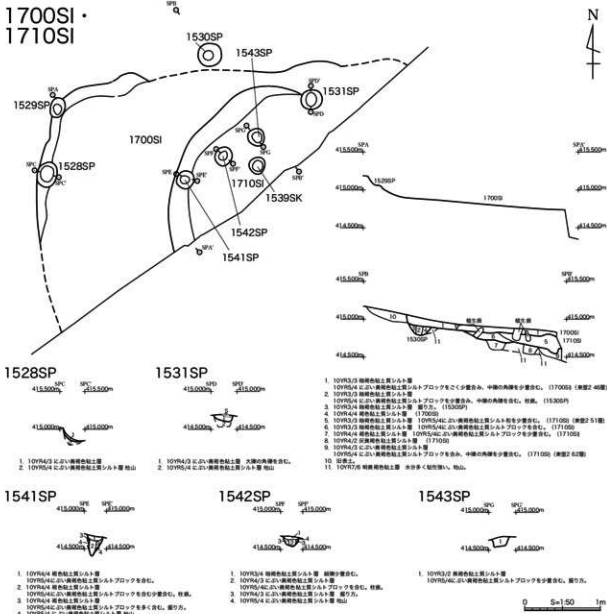
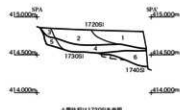
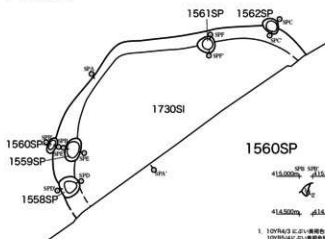


図10 1700SI・1710SI S=1/50

建物群 1700-1740SIでは礫器、磨石・敲石類、石核のほか、剥片が多く出土するものの、土器の時期の出土には乏しい。ただし、1740SIで縄文時代早期前半に比定される土器片が出土しており、当該期の竪穴建物群と想定される。

1730SI



土器断面は1730SI参照

1560SP



1. 10YR4/3 褐色粘土層シルト層
- 10YR5/4C 赤褐色粘土層シルトブロックを多く含む。
2. 10YR5/4 C 赤褐色粘土層シルト層 地盤

1562SP



1. 10YR4/4 褐色粘土層
2. 10YR5/4 C 赤褐色粘土層シルト層 地盤

1558SP



1. 10YR4/4 褐色粘土層シルト層
- 10YR5/4C 赤褐色粘土層シルトブロックを少量含む。

1559SP



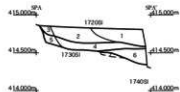
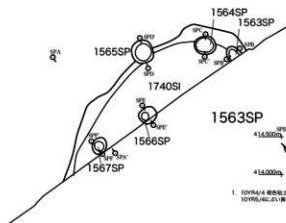
1. 10YR4/2 灰褐色粘土層
2. 10YR5/4 C 赤褐色粘土層

1561SP



1. 10YR4/4 褐色粘土層
- 10YR5/4C 赤褐色粘土層シルトブロックを少量含む。

1740SI



1563SP



1. 10YR4/4 褐色粘土層シルト層
- 10YR5/4C 赤褐色粘土層シルトブロックを含む。

1564SP



1. 10YR5/4 C 赤褐色粘土層シルト層

1565SP



1. 10YR4/4 褐色粘土層シルト層
- 10YR5/4C 赤褐色粘土層シルトブロックを少量含む。
2. 10YR5/4 C 赤褐色粘土層シルト層 地盤

1566SP



1. 10YR4/2 赤褐色粘土層シルト層
- 10YR5/4C 赤褐色粘土層シルトブロックを少量含む。中層の角礫も少量含む。

1567SP



1. 10YR4/3 褐色粘土層シルト層
- 10YR5/4C 赤褐色粘土層シルト層を少量含む。

図12 1730SI・1740SI S=1/50

0 S=1:50 1m

19A区 19A区では3734・3735グリッドにかけて、黄褐色の基盤層上面で竪穴建物跡と想定される円形の落ち込みが検出された。遺構検出面で既に集石が見られたため、廃絶後に礫が投入された竪穴建物と想定したが、土層断面の検討から、竪穴建物の廃絶後に土坑や集石が掘り込まれており、集石はそれらに伴うものであることが確認された。集石跡については次節で記述する。

2400SI 長軸約3.9m、短軸2.6m以上を測り、円形を呈するものと推定される。南東側は削平により遺存しない。廃絶後に複数の土坑・集石が掘り込まれていることもあり、2400SI本来の埋土はほぼ残っていないものの、早期前半大川式の土器片が複数点出土する。北東約5.3m(中心間距離)に当該期の煙道付き竪穴跡2127SLが所在し、2400SIと同時期に利用されていたものと想定される。

建物に重なるように複数の土坑が確認されるが、全て廃絶後のもので、柱穴ではない。

2400SI

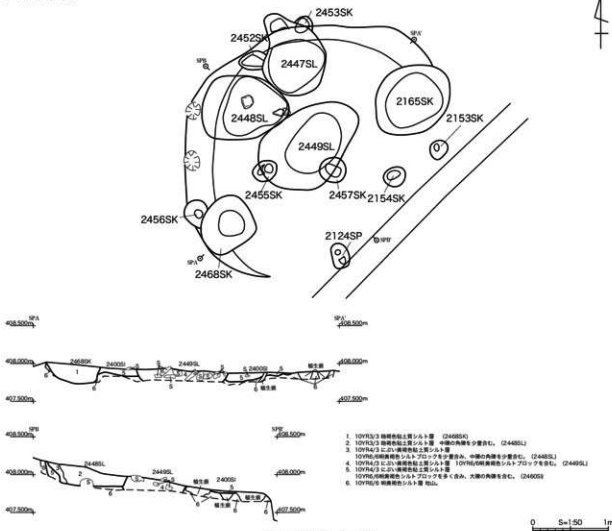


図13 2400SI S=1/50

第2節 縄文時代 炉穴・集石炉跡

19C区 19C区では炉穴1基が検出された。

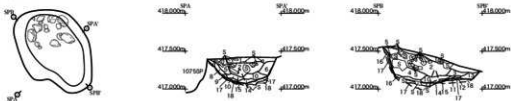
1527SL 19C区北部、3233グリッドの斜面部で検出された炉穴である。長軸約0.9m、短軸約0.6mで、長軸が地形の傾斜方向と一致する。炉の北西側は広くて深く、埋土に炭化物、焼土が含まれるほか、地山に明瞭な被熱痕が確認される。一方の南東側は狭くて浅く、炭化物、焼土がより多量に含まれる層(3・13層)が確認されるため、灰原のような機能を持った部分と推定される。埋土上層の礫を多量に含む層(2層)は廃絶に伴うものと考えられる。縄文時代早期前半の大川式の土器片が複数出土する。

19A区 19A区では炉穴3基と集石炉跡3基が検出された。

2116SL 19A区西部、3631・3731グリッドの斜面部で検出された炉穴である。長軸0.7m以上、短軸約0.6mで、長軸が地形の傾斜方向と一致し、東側は近現代の耕作痕によって破壊されているが、楕円形を呈するものと思われる。出土遺物はないものの、平面形状と主軸方向、遺構壁面の被熱痕、埋土に含まれる焼土、炭化物から縄文時代の炉穴と認定した。

2127SL 19A区中葉部、3635・3735グリッドの斜面部で検出された煙道付き炉穴である。長軸約2.0m、短軸約0.8mで楕円形を呈し、長軸は地形の傾斜方向と一致する。短軸方向の断面図からはややオーバーハングした様子が見られ、トンネル部の天井が崩れた痕跡と考えられる。南東側に開口部があり、中央が炉の本体、北西側に煙道が付き、壁面の地山には被熱痕が、埋土には焼土と炭化物が含まれる。また、煙道と本体部の接続部付近に板石が入れられており、構造を変えつつ使われたものと想定される。出土遺物から早期前半のものと考えられる。

1527SL



- 10Y96/2 褐色色シルト層 10Y96/6 暗褐色粘板状土質シルトブロックを少量含む。中・大礫の散在を含む。
- 7.5Y9/4 暗赤色粘土層 部分(1)の礫を多く含む。焼砂、中砂を含む。焼土、炭化物を含む。
- 2.5Y9/2 灰白色粘土層 中砂、細砂を含む。焼土、炭化物を含む。
- 7.5Y9/3 暗赤色粘土層 焼砂、中砂を含む。灰白色、焼土を少量含む。
- 10Y96/2 灰白色粘土層 部分(4)の中砂、中砂、細砂を含む。焼土、炭化物を含む。
- 10Y96/4 赤い赤褐色粘土層 中砂、細砂を含む。
- 10Y96/2 赤い赤褐色粘土層 部分(4)の中砂を含む。
- 10Y96/2 赤褐色粘土層 中砂、細砂を含む。焼土、炭化物を含む。
- 5Y96/6 褐色粘土層 部分(5)の礫を含む。焼土ブロックを含む。

- 10 2.5Y9/6 暗褐色粘土層 焼土ブロック、炭化物を含む。
- 11 2.5Y9/2 赤い赤褐色粘土層 焼土ブロック、炭化物を含む。
- 12 10Y97/4 赤い赤褐色粘土層 焼土層、炭化物を含む。10、11層との境界が不明瞭。
- 13 10Y97/3 赤い赤褐色粘土層 10Y97/4 暗褐色粘土層を覆っている。焼土、炭化物を多く含む。
- 14 2.5Y9/6 暗褐色粘土層 焼土ブロック、炭化物を含む。
- 15 2.5Y9/4 赤い赤褐色粘土層 焼土ブロック、炭化物を含む。
- 16 10Y97/2 暗褐色粘土層 部分(2)の中砂を含む。焼土、炭化物を含む。
- 17 10Y97/4 赤い赤褐色粘土層 1層の被熱面。
- 18 10Y97/6 暗褐色粘土層 部分(6)の礫を含む。内質は粘土質。

2116SL



- 1 10Y97/4 暗褐色粘土層シルト層 5Y96/6 暗褐色粘板状土ブロックを多く含む。焼土。
- 2 7.5Y9/4 赤い赤褐色粘土層シルト層 中砂の散在を含む。1層による赤褐色面。
- 3 10Y96/6 暗褐色粘土層 粘土。

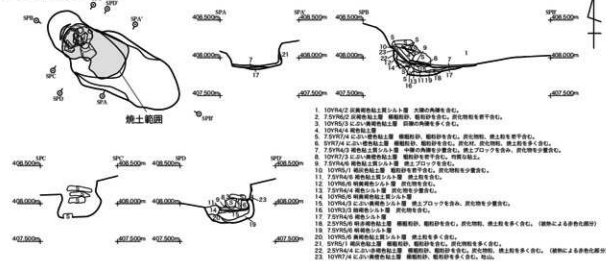
図14 1527SL・2116SL S=1/50

2445SL 19A区中央部の3534グリッドで検出された炉穴である。長軸約1.4m、短軸約0.6mの楕円形を呈す。主軸方向は前述の3基と異なり、地形の傾斜方向に平行からやや傾く。土色や粒径から埋土は3段階に分かれ、I段階からII段階には焼土と炭化物が共に含まれるのに対し、III段階では炭化物のみになるほか、礫が投入されている。I・II段階が炉として利用された際に形成された埋土、III段階は廃絶に伴うものと推定される。出土遺物から早期前半のものとして想定される。

2447SL 2447SL～2449SLは3基とも竪穴建物跡2400SIの埋没後に掘り込まれた集石炉跡である。2448SLり、建物跡の床面を破壊している。各炉跡の規模は、2447SLが長軸約1.2m、短軸約0.9m、2449SL2448SLが長軸約1.1m、短軸約0.8m、2449SLが長軸約1.4m、短軸約1.0mであり、全て被熱痕のある拳大から人頭大の角礫を中心とした集石を伴う。また、2449SLは土層の状況から2度に渡って掘り込まれた可能性がある。

埋土には炭化物、焼土を多く含むほか、縄文時代早期前半大川式の土器片が含まれるが、建物跡を破壊した際に混ざった可能性があり、明確に集石炉の時期とは言い難い。とはいえ、時期の隔たる遺物は出土していないため、建物跡の廃絶からあまり期間を開けず掘り込まれたものと想定される。

2127SL

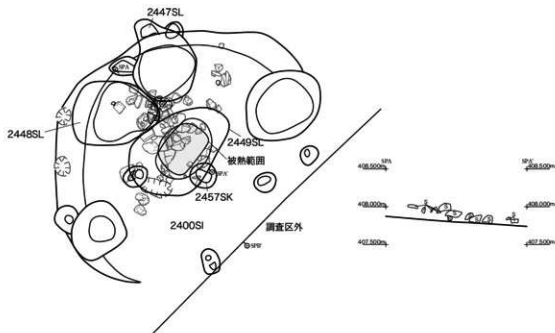


2445SL



図 15 2127SL・2445SL S=1/50

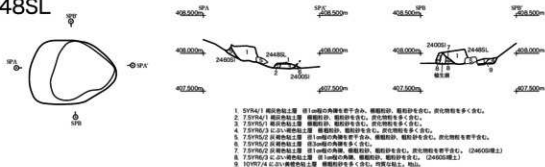
2447SL・2448SL・2449SL



2447SL



2448SL



2449SL



図 16 2447SL・2448SL・2449SL S=1/50



が出土すること、また、310SBを構成する028SKが320SBを構成する146SKを切ること、
形態が類似することから、310SBは先行する320SBを建て替えたものと想定される。

002SP



1. 10VW/2 汎用機色粘土質シルト層 掘削跡、掘削跡を多く含む、径10m程度の角礫を含む。付着。
2. 10VW/2 汎用機色粘土質シルト層 掘削跡、掘削跡を多く含む。盛り方。
3. 10VW/2c 汎用機色粘土質シルト層 掘削跡、掘削跡を多く含む。盛り方。

005SP



1. 10VW/2 汎用機色粘土質シルト層 掘削跡、掘削跡を多く含む、径10m程度の角礫を少量含む。付着。
2. 10VW/2c 汎用機色粘土質シルト層 掘削跡、掘削跡を多く含む、径20m程度の角礫を多く含む。盛り方。
3. 10VW/4c 汎用機色粘土質シルト層 掘削跡、掘削跡を多く含む、径10VW/7程度の角礫を多く含む。盛り方。
4. 10VW/2 汎用機色粘土質シルト層 中粒砂、掘削跡を多く含む。
5. 10VW/2c 汎用機色粘土質シルト層 径10m程度の角礫を多く含む。付着。

003SP



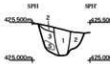
1. 10VW/2 汎用機色粘土質シルト層 掘削跡、掘削跡を多く含む、径10m程度の角礫を多く含む。付着。
2. 10VW/2 汎用機色粘土質シルト層 掘削跡、掘削跡を多く含む。
3. 10VW/2c 汎用機色粘土質シルト層 掘削跡、掘削跡を多く含む。盛り方。

006SP・008SK



1. 10VW/2 汎用機色粘土質シルト層 掘削跡、掘削跡、中粒砂を含む、径5m程度の角礫を少量含む。付着。006SP
2. 10VW/2 汎用機色粘土質シルト層 掘削跡、掘削跡を多く含む、径10m程度の角礫を多く含む。盛り方。006SP
3. 10VW/4c 汎用機色粘土質シルト層 掘削跡、掘削跡、中粒砂を多く含む、径3m程度の角礫を多く含む。盛り方。006SP
4. 10VW/4 汎用機色粘土質シルト層 掘削跡、中粒砂を多く含む。008SK
5. 2.5VW/4 汎用機色粘土質シルト層 径5m程度の角礫を含む。付着。

004SP



1. 10VW/2 汎用機色粘土質シルト層 掘削跡を含む、径20m程度の角礫を多く含む。付着。
2. 10VW/2 汎用機色粘土質シルト層 掘削跡、中粒砂を多く含む。
3. 10VW/4c 汎用機色粘土質シルト層 掘削跡、中粒砂を多く含む、径20m程度の角礫を含む。盛り方。

007SP



1. 同上。掘削跡のみ。
2. 10VW/2 汎用機色粘土質シルト層 掘削跡、掘削跡を含む、10VW/7程度の角礫を多く含む。掘削跡。
3. 10VW/2 汎用機色粘土質シルト層 掘削跡、掘削跡、中粒砂を多く含む。盛り方。
4. 10VW/2c 汎用機色粘土質シルト層 掘削跡、掘削跡を含む。
5. 10VW/2c 汎用機色粘土質シルト層 掘削跡、掘削跡を含む。

310SB

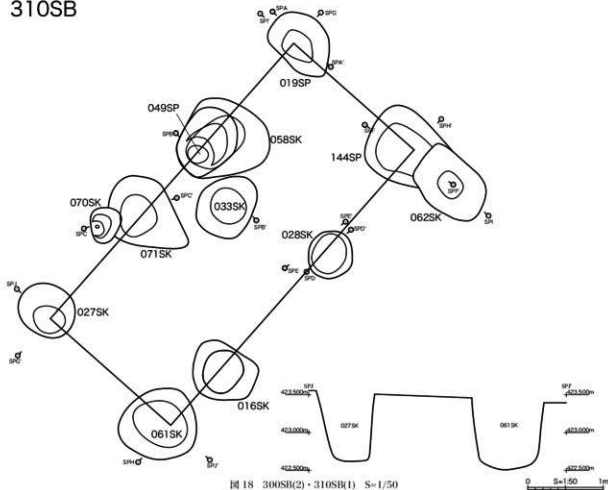
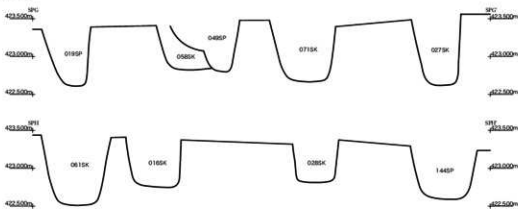


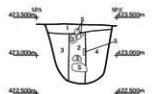
図 18 300SB(2)・310SB(1) S=1/50

310SB・310SB・320SB 両方の柱筋上に位置する 016SK・061SK がどちらに属するかは判断が困難であるが、建て替えの際に一部の柱穴を再利用した可能性が考えられる。

310SB

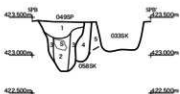


019SP



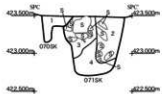
- 1 10FR/3 基礎杭土留シメント層 中～大径の角隅を含む。10FR/4,6基礎杭土留シメントプロックを含む。
- 2 10FR/2 基礎杭土留シメント層 10FR/4,6基礎杭土留シメントプロックを少量含む。大径の角隅を含む。柱脚。
- 3 10FR/4/2 土留シメント層 10FR/4,6基礎杭土留シメントプロックを多く含む。壁り方。
- 4 10FR/4/3 土留シメント層 10FR/4,6基礎杭土留シメントプロックを多く含む。壁り方。

049SP・058SK



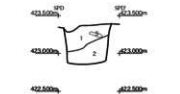
- 1 10FR/4/3 土留シメント層 基礎杭土留シメント層 中径の角隅を含む。大径の角隅を多く含む。(049SP)
- 2 10FR/4/2 土留シメント層 基礎杭土留シメント層 10FR/4,6基礎杭土留シメントプロックを含む。中～大径の角隅を含む。柱脚。(049SP)
- 3 10FR/4/4 基礎杭土留シメント層 中径の角隅を含む。壁り方。(049SP)
- 4 10FR/4/3 土留シメント層 基礎杭土留シメント層 10FR/4,6基礎杭土留シメントプロックを含む。
- 5 10FR/4,6 基礎杭土留シメントプロックを含む。中～大径の角隅を含む。(058SK)

070SK・071SK



- 1 10FR/2/3 基礎杭土留シメント層 中～大径の角隅を含む。並列杭を少量含む。(070SK)
- 2 10FR/4/3 土留シメント層 基礎杭土留シメント層 10FR/3/2基礎杭土留シメントプロックを含む。
- 3 10FR/4/6 基礎杭土留シメント層 10FR/4,6基礎杭土留シメントプロックを多く含む。中～大径の角隅を含む。(071SK)
- 3 10FR/4/2 基礎杭土留シメント層 10FR/3/2基礎杭土留シメントプロックを多く含む。中～大径の角隅を含む。(071SK)
- 4 10FR/4/3 土留シメント層 基礎杭土留シメント層 10FR/4,6基礎杭土留シメントプロックを多く含む。壁り方。

028SK



- 1 10FR/2/2 基礎杭土留シメント層 10FR/4,6基礎杭土留シメント層を少量含む。中～大径の角隅を含む。
- 2 10FR/2/3 基礎杭土留シメント層 10FR/4,6基礎杭土留シメント層を少量含む。中～大径の角隅を含む。

028SK



- 1 10FR/2/3 基礎杭土留シメント層 10FR/4,6基礎杭土留シメント層を多く含む。大径の角隅を含む。
- 2 10FR/2/2 基礎杭土留シメント層 10FR/4,6基礎杭土留シメント層を少量含む。中～大径の角隅を含む。柱脚。
- 3 10FR/4/3 土留シメント層 基礎杭土留シメント層 10FR/4,6基礎杭土留シメントプロックを多く含む。
- 4 10FR/4/6 基礎杭土留シメント層 壁り方。

144SP

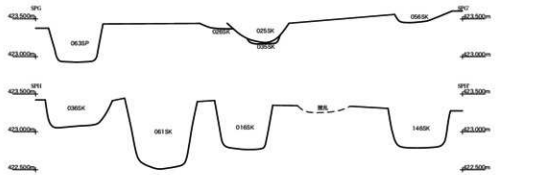
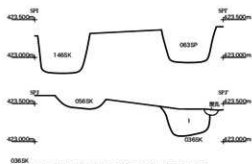
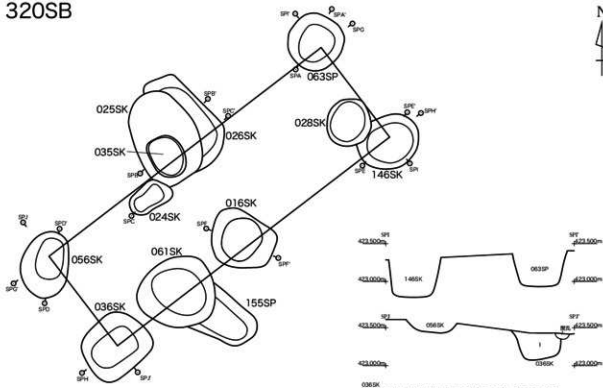


- 1 10FR/3/3 基礎杭土留シメント層 10FR/4,6基礎杭土留シメント層を多く含む。中径の角隅を含む。柱脚。
- 2 10FR/3/2 基礎杭土留シメント層 10FR/4,6基礎杭土留シメント層を少量含む。中～大径の角隅を含む。壁り方。
- 3 10FR/3/3 基礎杭土留シメント層 10FR/4,6基礎杭土留シメント層を多く含む。中～大径の角隅を含む。壁り方。

図 19 310SB(2) S=1/50

0 S=1/50 1m

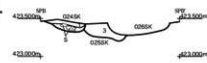
320SB



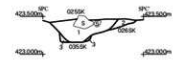
063SP



024SK・025SK



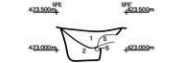
025SK・026SK・035SK



056SK



146SK



016SK



図 20 320SB S=1/50



310SB・061SKからは連房式第5・6小期と連房式第9・10小期に比定される陶磁器が出土して320SBおり、061SKに切られる柱穴155SPからは連房式第7小期の陶器が出土する。個体数が少ないため確実ではないものの、310SBの存続時期を18世紀中葉～19世紀前半、320SBの廃絶時期を17世紀後葉～18世紀中葉と考えたい。

330SB

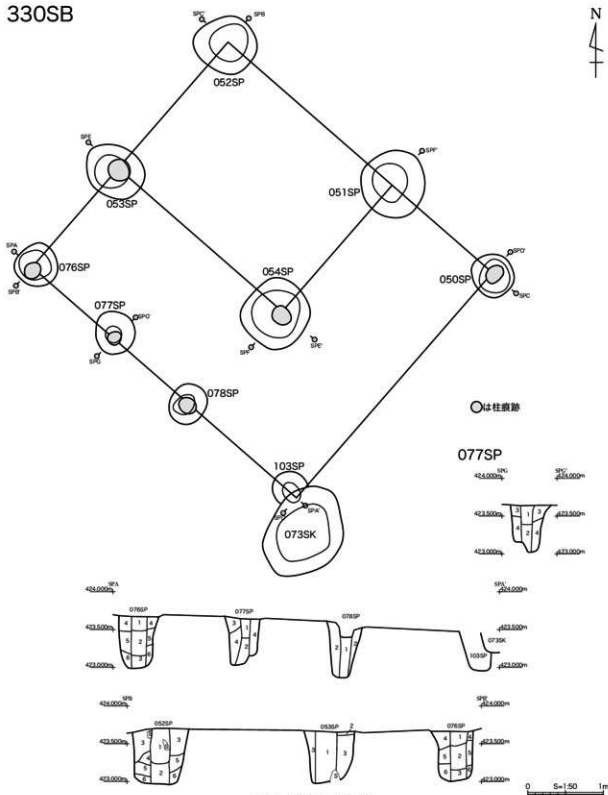
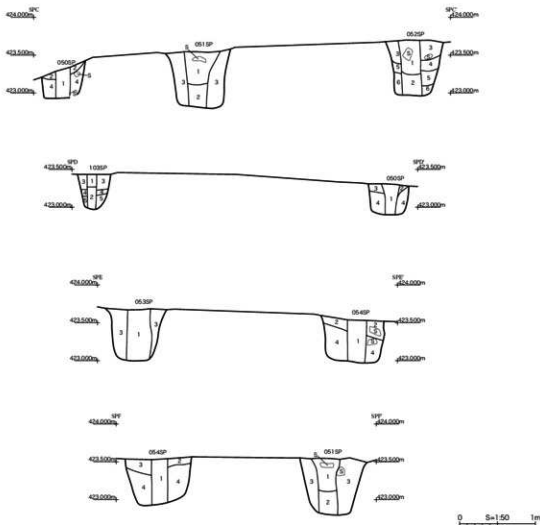


図 21 330SB(1) S=1/50

330SB 310SB・320SBの南側、3528グリッドに位置する桁行3間・梁行2間の掘立柱建物跡である。9基の柱穴は掘方および柱痕跡の規模から大小2種に分かれ、北側の4基(051SP・052SP・053SP・054SP)は大、残る5基は小である。051SPで江戸時代中期、053SPで江戸時代後期の遺物が出土する。

330SB



050SP 1. 10YR2/2 黒褐色シルト層 10YR6/4黄褐色粘土質シルトブロックを含む。中一丈層の角層を含む。柱痕。

2. 10YR2/2 黒褐色シルト層 柱痕。

3. 10YR2/4 緑褐色粘土質シルト層 10YR6/4黄褐色粘土質シルトブロックを含む。中層の角層を含む。柱痕。

4. 10YR2/2 棕色粘土質シルト層 10YR6/4黄褐色粘土質シルトブロックを少量含む。中一丈層の角層を含む。柱痕。

051SP

1. 10YR2/2 黒褐色シルト層 10YR6/4黄褐色粘土質シルトブロックを少量含む。中一丈層の角層を含む。柱痕。

2. 10YR4/4 赤褐色粘土質シルト層 10YR6/4黄褐色粘土質シルトブロックを少量含む。中一丈層の角層を含む。柱痕。

3. 10YR2/2 黒褐色粘土質シルト層 10YR6/4黄褐色粘土質シルトブロックを少量含む。中一丈層の角層を含む。柱痕。

4. 10YR4/4 赤褐色粘土質シルト層 10YR6/4黄褐色粘土質シルトブロックを少量含む。中一丈層の角層を含む。柱痕。

5. 10YR1/2 黄褐色土層 10YR6/4黄褐色粘土質シルトブロックを少量含む。柱痕。

6. 10YR2/2 黒褐色粘土層 10YR6/4黄褐色粘土質シルトブロックを含む。中層の角層を含む。柱痕。

052SP

1. 10YR2/2 黒褐色粘土層 10YR6/4黄褐色粘土質シルトブロックを少量含む。中層の角層を含む。柱痕。

2. 10YR2/2 黒褐色粘土質シルト層 10YR6/4黄褐色粘土質シルトブロックを少量含む。中層の角層を含む。柱痕。

3. 10YR2/2 黒褐色粘土質シルト層 10YR6/4黄褐色粘土質シルトブロックを少量含む。中層の角層を含む。柱痕。

4. 10YR4/4 赤褐色粘土質シルト層 10YR6/4黄褐色粘土質シルトブロックを少量含む。中層の角層を含む。柱痕。

5. 10YR1/2 黄褐色土層 10YR6/4黄褐色粘土質シルトブロックを少量含む。柱痕。

053SP

1. 10YR2/2 黒褐色シルト層

2. 10YR4/4 赤褐色粘土質シルト層 10YR6/4黄褐色粘土質シルトブロックを少量含む。中層の角層を含む。柱痕。

3. 10YR2/2 黒褐色粘土質シルト層 10YR6/4黄褐色粘土質シルトブロックを少量含む。中層の角層を含む。柱痕。

4. 10YR4/4 赤褐色粘土質シルト層 中層の角層を含む。柱痕。

076SP

1. 10YR2/2 黒褐色粘土質シルト層 10YR6/4黄褐色粘土質シルトブロックを少量含む。中層の角層を含む。柱痕。

2. 10YR4/4 赤褐色粘土質シルト層 柱痕。

3. 10YR2/2 棕色粘土質シルト層 柱痕。

4. 10YR4/4 赤褐色粘土質シルト層 10YR6/4黄褐色粘土質シルトブロックを含む。柱痕。

5. 10YR2/2 黒褐色粘土質シルト層 10YR6/4黄褐色粘土質シルトブロックを少量含む。中層の角層を含む。柱痕。

6. 10YR4/4 赤褐色粘土質シルト層 中一丈層の角層を含む。柱痕。

077SP

1. 10YR2/2 黒褐色シルト層 10YR6/4黄褐色粘土質シルトブロックを少量含む。中層の角層を含む。柱痕。

2. 10YR2/2 棕色粘土質シルト層 10YR6/4黄褐色粘土質シルトブロックを少量含む。柱痕。

3. 10YR4/4 赤褐色粘土質シルト層 10YR6/4黄褐色粘土質シルトブロックを少量含む。中一丈層の角層を含む。柱痕。

4. 10YR4/4 赤褐色粘土質シルト層 10YR6/4黄褐色粘土質シルトブロックを少量含む。柱痕。

5. 10YR2/2 黒褐色粘土質シルト層 10YR6/4黄褐色粘土質シルトブロックを少量含む。柱痕。

図 22 330SB(2) S=1/50

- 19C区** 19C区では北側平坦面で1棟、南側平坦面で3棟の掘立柱建物を検出した。
- 1600SB** 3034・3134グリッドに位置する桁行2間(南東辺は1間)・梁間1間の掘立柱建物跡である。出土遺物がなく帰属時期は不明。
- 1630SB**・ 3233・3234・3333・3334グリッドに、2棟が重なって位置する掘立柱建物跡である。
- 1640SB** 1630SBは1205SP・1239SK・1240SK・1170SP・1184SP・1182SK・1345SPから構成され、桁行3間(南西辺は2間)・梁間1間である。1640SBは1204SP・1287SK・1170SP・1183SK・1206SK・1344SKから構成され、桁行2間・梁間1間である。総じて、1640SBの柱穴は1630SBのそれより深く掘り込まれていることが土層断面から観察される。
- 主軸方位がほぼ一致し、1204SP・1205SPや1183SP・1184SPで切合関係が見られることから、1630SBは1640SBを建て替えたものと想定される。1170SPから尾呂茶碗が出土しており、近世に属する。
- 1650SB** 3232・3233・3332・3333グリッドにまたがって位置する桁行5間、梁間1間の掘立柱建物跡であり、14区・19区で検出された竪穴建物跡の中で最大の規模を持つ。柱穴の規模は他の建物跡より大きく、12基の柱穴すべてで柱痕跡が検出されている。
- 出土遺物は、1063SPから古瀬戸後期IV期新段階の陶器と17世紀後半の肥前磁器が出

1600SB

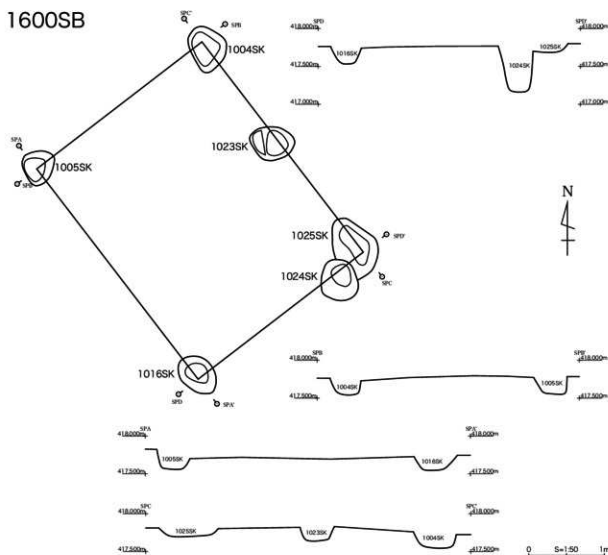


図23 1600SB S=1/50

1630SB ·
1640SB

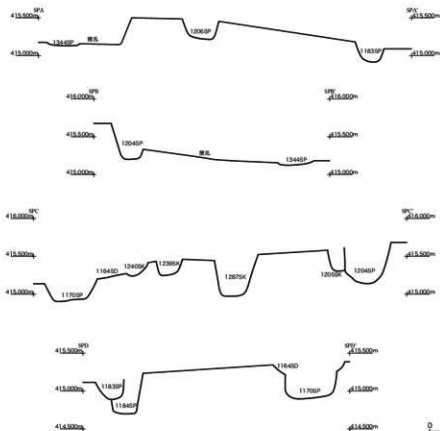
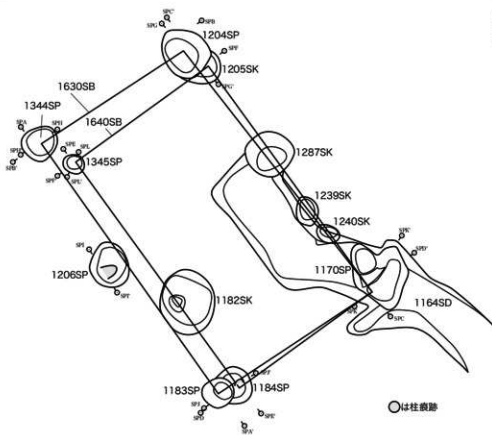


图 24 1630SB · 1640SB S=1/50

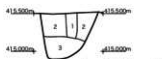
0 S=1/50 1m

土しており、それに切られる土坑 1264SK で古瀬戸後期 IV 期の陶器 2 点が出土する。したがって、1263SP 出土の古瀬戸製品は掘削により 1265SK を破壊した際の混入と考え、肥前磁器の年代を 1650SB の廃絶時期とすると、建物の存続時期は 15 世紀後葉から 17 世紀後半と推定される。単一の建物跡としては時期幅が広すぎるため、同位置で何度か建て替えが行われたものと推定される。

1650SB

1237SP

415,000^{SP}
415,500^{SP}



1. 10YR2/7 黄赤色土質シルト層 大底の内縁を少量含む。砂質。
2. 10YR5/4 赤褐色粘土質シルト層 砂質。
3. 10YR5/4 に近い黄褐色粘土質シルト層 大底の内縁を含む。砂り少。

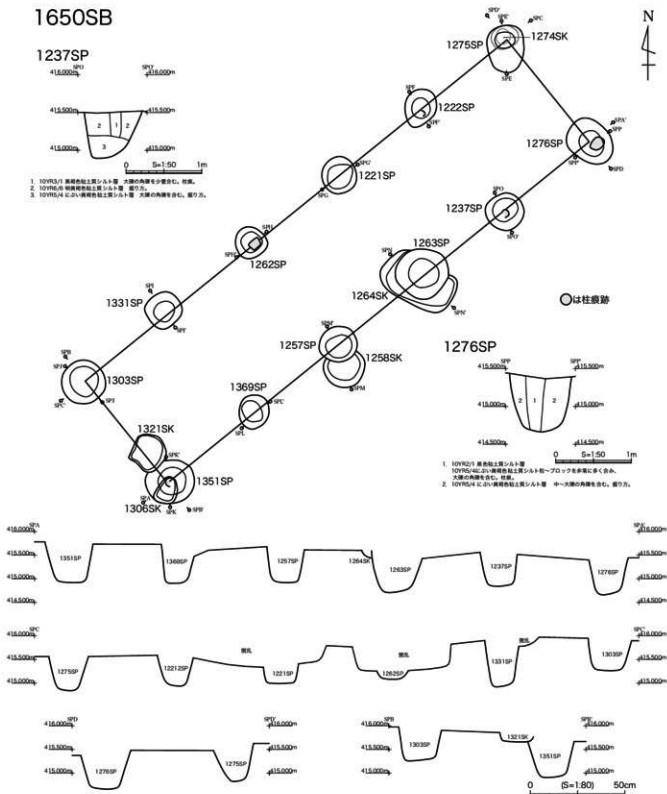


図 25 1650SB S=1/80 (柱穴断面図は S=1/50)

第4節 柱穴列

- 1 4 区 14区では多数の土坑が検出されており、柱穴と考えられるものも多い。しかし、調査区全体が傾斜地となっているため掘立柱建物が存在した可能性は低いものと考えられ、これらについては柱穴列として捉えることとした。その認定に関しては、3基以上の柱穴がある程度一定の間隔をもって直線状に並ぶことを基準とし、12条の柱穴列を検出した。なお、個々の柱穴列の平面形状については巻末の調査区平面図を参照されたい。また、取り挙げた柱穴列からの出土遺物はなく、時期は不明である。
- 14区 400SA 3930 グリッドに位置し、地形の傾斜方向に沿う柱穴列である。029SP、034SP、035SP から構成され、全長は約 1.9m である。
- 14区 410SA 4031 グリッドから 4133 グリッドにかけて位置し、地形の傾斜方向にほぼ平行する柱穴列である。020SP、262SP、272SP、275SP、277SP、284SK、286SK から構成され、275P を基準に若干屈折する。全長は約 19.1m である。
- 14区 420SA 4133 グリッドに位置する柱穴列である。300SP、304SP、306SP から構成され、全長は約 4.0m である。
- 14区 430SA 4133 グリッドから 4233 グリッドにかけて位置する柱穴列である。295SP、296SP、297SP、307SP、315SP から構成され、全長は約 6.6m である。
- 14区 440SA 4130 グリッドに位置し、地形の傾斜方向と直交する柱穴列である。206SP、209SP、210SP から構成され、全長は約 2.1m である。
- 14区 450SA 4130 グリッドに位置し、地形の傾斜方向と直交し 440SA と隣接する柱穴列である。204SP、205SP、207SP、208SP から構成され、全長は約 3.8m である。
- 14区 460SA 4130 グリッドに位置し、地形の傾斜方向に平行し 450SA と交わる柱穴列である。202SP、204SP、215SP、244SP から構成され、全長は約 3.1m である。
- 14区 470SA 4229 グリッドに位置する柱穴列である。101SP、104SP、105SP、141SP、142SP から構成され、全長は約 5.1m である。
- 14区 480SA 4229 グリッドから 4230 グリッドにかけて位置する柱穴列である。131SP、132SP、133SP から構成され、全長は約 0.9m である。
- 14区 490SA 4229 グリッドから 4230 グリッドにかけて位置し、480SA と交わる柱穴列である。137SP、138SP、268SP から構成され、全長は約 3.6m である。
- 14区 500SA 4231 グリッドから 4331 グリッドにかけて位置する柱穴列である。217SP、218SP、219SP から構成され、全長は約 4.7m である。
- 14区 510SA 4333 グリッドに位置する柱穴列である。321SP、323SP、324SP、326SP から構成され、全長は約 3.4m である。
- 1 9 B 区 19B 区では 2 条の柱穴列を検出した。どちらも地形の傾斜方向に直交する。
- 3 4 0 S A 3428 グリッドに、19B 区中央西部の平坦面の北西端に沿う形で位置する柱穴列である。037SK、038SK、039SK、040SK、042SK、045SK、046SK、047SK、048SK から構成され、全長は約 9.8m である。位置から、平坦面に展開する掘立柱建物を保護するための土留めの柵などの機能が想定される。主に連房式第 5 ～ 8 小期の陶器が出土する。
- 3 5 0 S A 3529 グリッドから 2629 グリッドにかけて位置する柱穴列である。091SK、101SP、114SK、129SP、151SP、163SP から構成され、全長は約 10.6m である。連房式第 1 ～

340SA

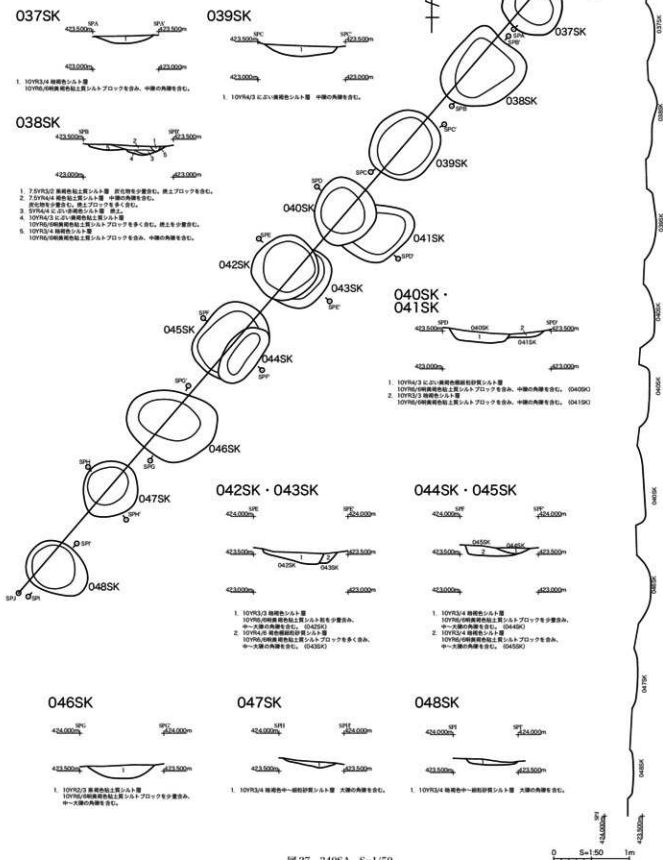
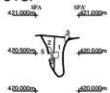


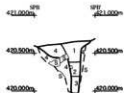
図 27 340SA S-1/50

350SA

151SP

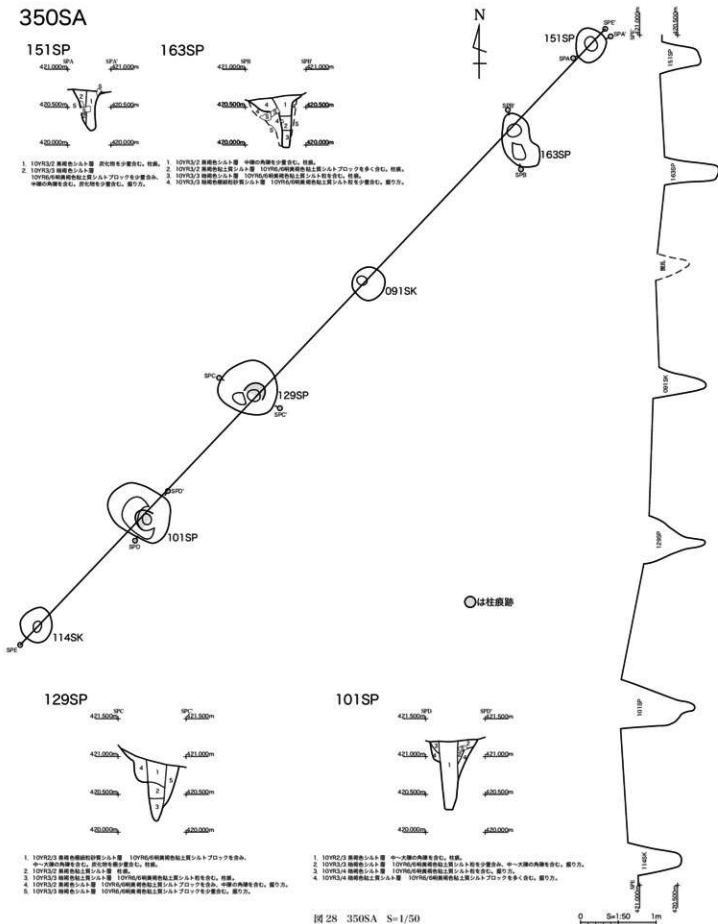


163SP

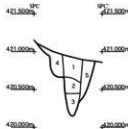


1. 10VR2/2 集積色シルト層 底面層を少量含む。程度。
2. 10VR2/2 集積色シルト層 10VR6/6 砂質粘土質シルト層とブロックを含む。程度。
3. 10VR2/2 集積色シルト層 10VR6/6 砂質粘土質シルト層とブロックを含む。程度。
4. 10VR2/2 集積色シルト層 10VR6/6 砂質粘土質シルト層を少量含む。程度。

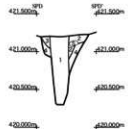
1. 10VR2/2 集積色シルト層 中層の角層を少量含む。程度。
2. 10VR2/2 集積色シルト層 10VR6/6 砂質粘土質シルト層とブロックを含む。程度。
3. 10VR2/2 集積色シルト層 10VR6/6 砂質粘土質シルト層とブロックを含む。程度。
4. 10VR2/2 集積色シルト層 10VR6/6 砂質粘土質シルト層を少量含む。程度。



129SP



101SP



1. 10VR2/2 集積色シルト層 10VR6/6 砂質粘土質シルト層とブロックを含む。程度。
2. 10VR2/2 集積色シルト層 10VR6/6 砂質粘土質シルト層とブロックを含む。程度。
3. 10VR2/2 集積色シルト層 10VR6/6 砂質粘土質シルト層とブロックを含む。程度。
4. 10VR2/2 集積色シルト層 10VR6/6 砂質粘土質シルト層とブロックを含む。程度。
5. 10VR2/2 集積色シルト層 10VR6/6 砂質粘土質シルト層を少量含む。程度。

1. 10VR2/2 集積色シルト層 中層の角層を含む。程度。
2. 10VR2/2 集積色シルト層 10VR6/6 砂質粘土質シルト層を少量含む。中層の角層を含む。程度。
3. 10VR2/2 集積色シルト層 10VR6/6 砂質粘土質シルト層とブロックを含む。程度。
4. 10VR2/2 集積色シルト層 10VR6/6 砂質粘土質シルト層とブロックを多く含む。程度。

図 28 350SA S=1/50

0 5m 1:50 1m

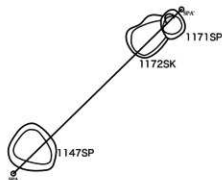
8 小期の陶器が出土する。

19C区 19C区では4条の柱穴列を検出した。主軸方向はほぼ一致しており、大型掘立柱建物1650SBのそれとも一致する。

1660SA 3234グリッドに位置する柱穴列である。1147SP、1171SPから構成され、全長は約2.5mである。出土遺物がないため時期は不明である。

1670SA 3234グリッドに1660SAに平行して位置する柱穴列である。1110SK、1148SK、1150SK、1151SP、1207SK、1208SKから構成され、全長は約4.9mである。1151SKから石器1点が出土するが、周辺の状況も考慮すると中～近世の遺構と考えられる。

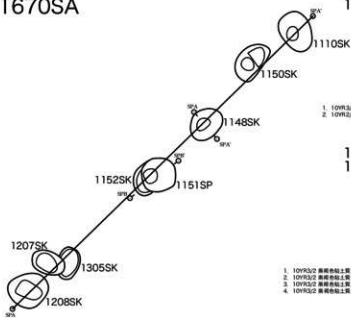
1660SA



1147SP
1. 10YR3/2 黄褐色土質シルト層 10YR5/4C 2.5-黄褐色シルト層を多く含む。中層の内部を多く含む。柱状。
2. 10YR3/2 黄褐色土質シルト層 10YR5/4C 2.5-黄褐色シルト層を多く含む。大層の内部を少量含む。縦り方。
3. 10YR5/4 C 2.5-黄褐色シルト層 柱状

1171SP - 1172SK
1. 10YR3/2 黄褐色土質シルト層 10YR5/4C 2.5-黄褐色シルト層を多く含む。柱状。(1171SP)
2. 10YR3/2 黄褐色土質シルト層 10YR5/4C 2.5-黄褐色シルト層を多く含む。縦り方。(1171SP)
3. 10YR3/2 黄褐色土質シルト層 10YR5/4C 2.5-黄褐色シルト層を多く含む。(1172SK)

1670SA

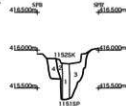


1148SK



1. 10YR3/2 黄褐色土質シルト層 10YR5/4C 2.5-黄褐色シルト層を多く含む。大層の内部を少量含む。縦り方。
2. 10YR2/2 黄褐色土質シルト層 10YR5/4C 2.5-黄褐色シルト層を多く含む。柱状を少量含む。

1151SP・1152SK



1. 10YR3/2 黄褐色土質シルト層 10YR5/4C 2.5-黄褐色シルト層を多く含む。中層の内部を多く含む。柱状。(1151SP)
2. 10YR3/2 黄褐色土質シルト層 10YR5/4C 2.5-黄褐色シルト層を多く含む。縦り方。(1151SP)
3. 10YR3/2 黄褐色土質シルト層 10YR5/4C 2.5-黄褐色シルト層を多く含む。中層の内部を少量含む。縦り方。(1151SP)
4. 10YR3/2 黄褐色土質シルト層 10YR5/4C 2.5-黄褐色シルト層を多く含む。(1152SK)

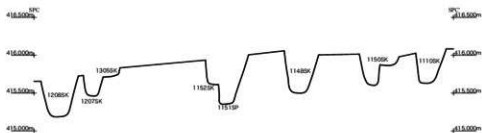


図29 1660SA・1670SA S=1/50

0 S=1/50 1m

1680SA 3233 から 3333 グリッドにかけて、1650SB の内部に位置する柱穴列である。1236SK、1302SP、1413SP、1448SK から構成され、全長は約 6.9m である。1448SP では方形の柱痕跡が確認された。

1650SB とは主軸方位が一致するが、柱穴の配置は互い違いで、柱筋は通らない。また柱穴の規模も 1650SB と比較すると小規模であるため、別の遺構と考えられる。1236SK で 16～17 世紀の土師器鍋の胴部の細片が出土すること、1650SB が 17 世紀後半頃に廃絶するものと考えられることから、17 世紀後半以降に位置づけられるか。

1690SA 3333 グリッドに位置する柱穴列である。1234SK、1245SK、1283SK、1289SK、1555SP から構成され、全長は約 6.8m である。主軸方位は 1650SB・1680SA と平行し、特に 1680SA とは対応する位置関係にあり、1 棟の掘立柱建物跡を構成するようにも捉えうるが、妻側の柱が確認できないこと、柱穴の規模の違いなどから別の遺構と捉えた。出土遺物はないものの、1680SA 同様に近世の遺構と推定される。

1680SA

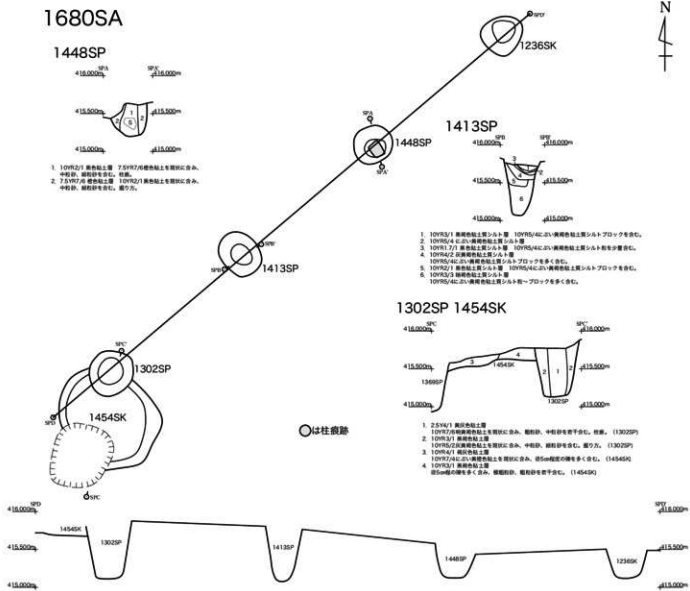
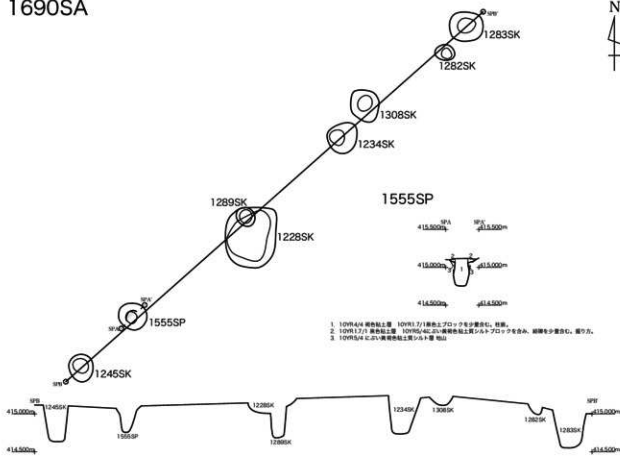


図 30 1680SA S-1/50

1690SA



2600SA

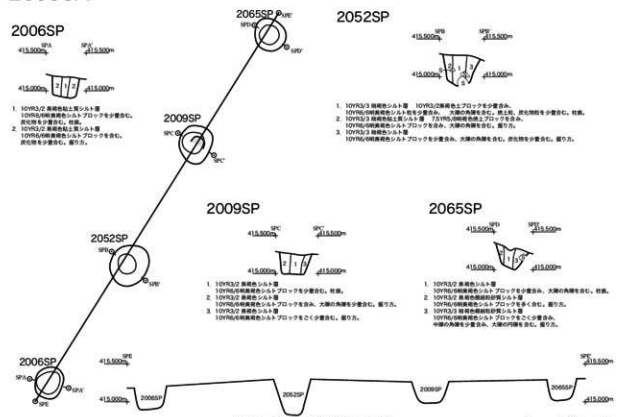


図 31 1690SA・2600SA S=1/50



2600SA 3731・3830・3831 グリッドに位置する柱穴列である。2006SP、2009SP、2052SP、2065SP から構成され、全長は約 5.5m である。全ての柱穴で柱痕跡が確認された。2065SP から大窠第 5～8 小期の丸皿および連房式第 1 小期の段付き天目が出土しており、近世初頭に位置づけられる。

2610SA 3731・3831 グリッドに、2600SA に平行して位置する柱穴列である。2012SP、2013SP、2033SP、2039SP から構成され、全長は約 5.2m である。全ての柱穴で柱痕跡が確認され、2013SP、2039P では柱痕跡の直下で礎が検出されている。

出土遺物には陶器があり、2033SP で大窠第 1・2 小期が 1 点、2039SP で連房式第 2 小期および第 1～4 小期が各 1 点、2053SP で大窠期と連房式第 2 小期が各 1 点出土する。一部に大窠期のものが含まれるものの、2600SA からやや下る時期のものが中心であり、2600SA の廃絶後にやや位置をずらして建て替えられたものと想定できる。

2610SA

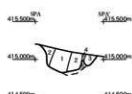
2013SP



1. 10VR/2 黒褐色粘土層シルト層
10VR/6 粘黄褐色シルトブロックを多く含み、中央部の角縁を少量含む。柱跡。
2. 10VR/2 黒褐色粘土層シルト層
10VR/6 粘黄褐色シルトブロックを少量含む。礎跡。
3. 10VR/6 粘黄褐色シルト層 無し。



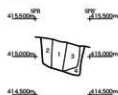
2012SP



1. 10VR/2 黒褐色粘土層
10VR/6 粘黄褐色シルトブロックを含み、中央部の角縁を少量含む。柱跡。
2. 10VR/2 黒褐色粘土層
10VR/6 粘黄褐色シルトブロックを少量含む。礎跡。
3. 10VR/2 粘土層シルト層
10VR/6 粘黄褐色シルトブロックを少量含む。礎跡。
4. 10VR/2 黒褐色粘土層
10VR/6 粘黄褐色シルトブロックを多く含む。礎跡。
5. 10VR/6 粘黄褐色シルト層 無し。

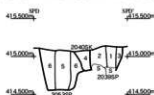


2033SP



1. 10VR/2 黒褐色粘土層シルト層
10VR/6 粘黄褐色シルトブロックを少量含む。大窠の角縁を少量含む。柱跡。
2. 10VR/2 黒褐色粘土層
10VR/6 粘黄褐色シルトブロックを少量含む。中央部の角縁を少量含む。礎跡。
3. 10VR/2 黒褐色粘土層シルト層
10VR/6 粘黄褐色シルトブロックを多く含む。礎跡。
4. 10VR/2 粘黄褐色粘土層シルト層
10VR/6 粘黄褐色シルトブロックを少量含む。礎跡。

2039SP・2040SK・2053SP



1. 10VR/2 黒褐色粘土層
10VR/6 粘黄褐色シルトブロックを含み、中央部の角縁を少量含む。柱跡。(2039SP)
2. 10VR/2 粘黄褐色粘土層
10VR/6 粘黄褐色シルトブロックを多く含む。中央部の角縁を少量含む。礎跡。(2039SP)
3. 10VR/2 粘黄褐色粘土層
10VR/6 粘黄褐色シルトブロックを多く含む。礎跡。(2039SP)
4. 10VR/2 粘黄褐色粘土層
10VR/6 粘黄褐色シルトブロックを多く含む。中央部の角縁を少量含む。(2040SK)
5. 10VR/2 粘黄褐色粘土層
10VR/6 粘黄褐色シルトブロックを多く含む。中央部の角縁を少量含む。柱跡。(2053SP)
6. 10VR/6 粘黄褐色シルト層
10VR/6 粘黄褐色シルトブロックを少量含む。中央部の角縁を少量含む。礎跡。(2053SP)

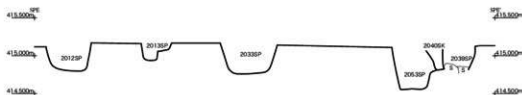


図 32 2610SA S-1/50

0 S=1/50 1m

第5節 柱穴・土坑

本節では紙幅の都合上、主にまとまった量の遺物が出土し時期がある程度推定できるもの、特筆すべきものについてのみ記述し、ほかは平面図・断面図の掲載に留めた。

1 4 区 14区では多数の土坑が検出され、一部では縄文時代の遺物も出土するが、土層の堆積状況から中世以降の遺構と推定される。

14区 017SK 3931 グリッドに位置する最大径約1.3mの不整形形の土坑である。縄文時代後期の深鉢が出土する。

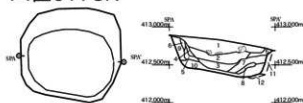
14区 052SK 3930 グリッドに位置する長径約4.6m、短径約2.7mの楕円形の土坑である。縄文時代後期中葉を中心とした深鉢、注口土器のほか、片麻岩を中心とした礫がまとめて出土する。

14区015SK



1. 10VR2/2 黄褐色粘板状土層 腐植層、炭化層を含む。
2. 10VR2/2 黄褐色粘板状土層 10VR5/6(片麻岩粘板状土層)の上に存在。
3. 10VR2/2 黄褐色粘板状土層 腐植層、腐植砂を含む。水層を含む。
4. 10VR2/2 黄褐色粘板状土層 腐植層、腐植砂を含む。10VR5/6(片麻岩粘板状土層)を少量含む。
5. 10VR2/2 黄褐色粘板状土層 10VR5/6(片麻岩粘板状土層)を含む。

14区017SK



1. 10VR3/3 粘板状粘板状土層 腐植層多く含む。炭化層少量を含む。
2. 10VR2/2 黄褐色粘板状土層 腐植層、腐植砂、腐植層を含む。
3. 10VR3/3 黄褐色粘板状土層 腐植層、腐植砂を含む。
4. 10VR5/6 黄褐色粘板状土層 腐植層を含む。
5. 10VR3/3 黄褐色粘板状土層 腐植層、腐植砂を含む。10VR5/6(片麻岩粘板状土層)を少量含む。
6. 10VR2/2 黄褐色粘板状土層 腐植層、腐植砂を含む。
7. 10VR2/2 黄褐色粘板状土層 腐植層、腐植砂を含む。第一中層を含む。
8. 10VR2/2 黄褐色粘板状土層 腐植層、腐植砂を含む。
9. 10VR2/2 黄褐色粘板状土層 腐植層、腐植砂を含む。第一中層、腐植層を含む。
10. 10VR5/6 黄褐色粘板状土層 第一中層を含む。
11. 10VR2/2 黄褐色粘板状土層 腐植層を含む。10VR5/6(片麻岩粘板状土層)を少量含む。
12. 10VR5/6 黄褐色粘板状土層

14区020SP



1. 10VR2/2 黄褐色粘板状土層 腐植層を含む。炭化層を含む。10VR5/6(片麻岩粘板状土層)を含む。
2. 10VR2/2 黄褐色粘板状土層 腐植層を含む。
3. 10VR2/2 黄褐色粘板状土層 腐植層、腐植砂を含む。腐植層を含む。
4. 10VR2/2 黄褐色粘板状土層 腐植層、腐植砂を含む。腐植層を含む。
5. 10VR5/6 黄褐色粘板状土層

14区021SP



1. 10VR2/2 黄褐色粘板状土層 腐植層を含む。
2. 10VR2/2 黄褐色粘板状土層 腐植層を含む。
3. 10VR2/2 黄褐色粘板状土層 腐植層、腐植砂を含む。
4. 10VR5/6 黄褐色粘板状土層

14区022SP



1. 10VR2/2 黄褐色粘板状土層 腐植層、腐植砂を含む。
2. 10VR5/6 片麻岩粘板状土層 10VR2/2(黄褐色粘板状土層)の上に存在。
3. 10VR5/6 片麻岩粘板状土層

14区023SP



1. 10VR3/3 粘板状粘板状土層 腐植層を含む。
2. 10VR2/2 黄褐色粘板状土層 腐植層、腐植砂を含む。
3. 10VR2/2 黄褐色粘板状土層 腐植層、腐植砂を含む。
4. 10VR2/2 黄褐色粘板状土層 腐植層、腐植砂を含む。
5. 10VR5/6 黄褐色粘板状土層

14区024SP



1. 10VR2/2 黄褐色粘板状土層 腐植層、腐植砂を含む。
2. 10VR2/2 黄褐色粘板状土層 腐植層、腐植砂を含む。
3. 10VR2/2 黄褐色粘板状土層 腐植層、腐植砂を含む。
4. 10VR2/2 黄褐色粘板状土層 腐植層、腐植砂を含む。
5. 10VR3/3 粘板状粘板状土層 10VR5/6(片麻岩粘板状土層)の上に存在。

14区025SP



1. 10VR2/2 黄褐色粘板状土層 腐植層、腐植砂を含む。
2. 10VR2/2 黄褐色粘板状土層 腐植層、腐植砂を含む。
3. 10VR2/2 黄褐色粘板状土層 腐植層、腐植砂を含む。
4. 10VR5/6 片麻岩粘板状土層 10VR2/2(黄褐色粘板状土層)の上に存在。
5. 10VR5/6 黄褐色粘板状土層 中層を含む。

図 33 14区 015SK ~ 14区 025SP S=1/50

14区026SP



- 1 10VR2/2 養魚池土質シット層 縦断砂付中、縦断付中。
- 2 10VR2/3 養魚池土質シット層 縦断砂付中、縦断付中。
- 3 10VR2/4 養魚池土質シット層 縦断砂付中。
- 4 10VR5/6 養魚池土質シット層 10VR2/2養魚池土質シット層と併用中。
- 5 10VR5/6 養魚池土質シット層 中継付中。

14区027SP



- 1 10VR2/2 養魚池土質シット層 縦断砂付中、底付中少量付中。
- 2 10VR2/3 養魚池土質シット層 縦断砂付中。
- 3 10VR2/4 養魚池土質シット層 縦断砂付中、縦断付中。
- 4 10VR5/6 養魚池土質シット層 併用中。



14区046SK



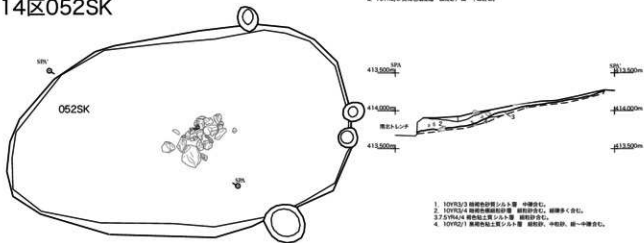
- 1 10VR2/3 養魚池土質シット層 縦断砂付中、縦断付中。
- 2 10VR2/4 養魚池土質シット層 底付中少量付中。
- 3 10VR2/7 養魚池土質シット層 縦断砂付中。
- 4 10VR2/3 養魚池土質シット層 縦断砂付中、縦断付中。
- 5 10VR2/4 養魚池土質シット層 縦断砂付中、併用中。

14区051SP



- 1 10VR2/3 養魚池土質シット層 中継付中、10VR4/4養魚池土質シット層付中。
- 2 10VR2/4 養魚池土質シット層 中継付中、縦断付、底付中少量付中。
- 3 10VR2/3 養魚池土質シット層 中継付、縦断付、10VR5/6養魚池土質シット層併用中。
- 4 10VR2/3 養魚池土質シット層 縦断砂付中、底付中付中。
- 5 10VR2/4 養魚池土質シット層 縦断付中、底付中少量付中。
- 6 10VR4/4 養魚池土質シット層 中継付、中継付、併一中継付中。
- 7 10VR5/6 養魚池土質シット層 縦断砂付、併一中継付中。
- 8 10VR5/6 養魚池土質シット層 縦断砂付、併一中継付中。

14区052SK



- 1 10VR2/3 養魚池土質シット層 中継付中。
- 2 10VR2/4 養魚池土質シット層 縦断砂付中、縦断付中少量付中。
- 3 7.5VR4/4 養魚池土質シット層 縦断砂付中。
- 4 10VR2/1 養魚池土質シット層 縦断砂付、中継付、併一中継付中。

14区102SP



- 1 10VR2/2 養魚池土質シット層 縦断砂付中、併用10cm程度付中。
- 2 10VR5/6 養魚池土質シット層 併用中。

14区107SK



- 1 10VR2/4 養魚池土質シット層 底付中少量付中。
- 2 10VR4/3 土質シット層付中。
- 3 10VR5/6 養魚池土質シット層 底付中少量付中。

14区112SK



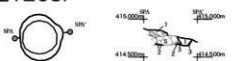
- 1 10VR2/4 養魚池土質シット層 縦断砂付中、底付中、併用上付中、10VR5/6養魚池土質シット層併用中。
- 2 10VR4/3 土質シット層併用中。
- 3 10VR5/6 養魚池土質シット層 縦断砂付中。

14区125SK



- 1 10VR2/3 養魚池土質シット層 縦断砂付中。
- 2 10VR2/4 養魚池土質シット層 縦断砂付中、底付中少量付中。
- 3 10VR2/4 養魚池土質シット層 縦断砂付中、縦断付中。
- 4 10VR2/4 養魚池土質シット層 縦断砂付中、併用中。
- 5 10VR4/6 養魚池土質シット層 縦断砂付中。
- 6 10VR5/6 土質シット層併用中。

14区126SP



- 1 10VR2/3 養魚池土質シット層 縦断砂付中、底付中少量付中。
- 2 10VR4/3 土質シット層併用中。
- 3 10VR5/6 養魚池土質シット層 縦断砂付中。

14区143SK



- 1 10VR2/3 養魚池土質シット層 縦断砂付中、10VR5/6養魚池土質シット層併用中。
- 2 10VR2/4 養魚池土質シット層 縦断砂付中、縦断付中。
- 3 10VR5/6 養魚池土質シット層 併用中。

図 34 14 区 026SP ~ 14 区 143SK S=1/50



14区218SP



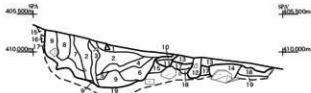
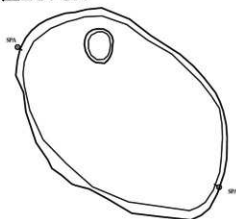
- 1 10VR/4 雑草性地上層シルト層 腐植砂礫層, 腐植砂, 腐植物少量含む。
- 2 10VR/4 雑草性地上層シルト層 腐植砂。
- 3 10VR/4 雑草性地上層シルト層 腐植砂, 腐植砂含む。
- 4 10VR/3 雑草性地上層シルト層 腐植砂含む, 腐植砂。10VR/4(雑草性地上層)の残土上。

14区219SP



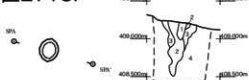
- 1 10VR/4 雑草性地上層シルト層 腐植砂礫層, 腐植砂, 腐植物わずかに含む。
- 2 10VR/4 雑草性地上層シルト層 腐植砂。
- 3 10VR/4 雑草性地上層シルト層 腐植砂, 腐植砂含む。
- 4 10VR/4 雑草性地上層シルト層 腐植砂, 腐植砂含む。
- 5 10VR/3 雑草性地上層シルト層 腐植砂含む, 腐植砂。10VR/4(雑草性地上層)の残土上。
- 6 10VR/3 雑草性地上層シルト層 腐植砂礫層, 腐植砂。

14区267SK



- 1 10VR/4 雑草性地上層 腐植砂層, 中粒砂礫層, 腐-大量含む。
- 2 10VR/4 雑草性地上層シルト層 腐植砂礫層, 腐植砂礫層, 腐植物少量含む。
- 3 10VR/2 雑草性地上層シルト層 腐植砂層, 10VR/4(雑草性地上層)の残土を含む。
- 4 7.5VR/4 雑草性地上層 腐土。
- 5 10VR/3 雑草性地上層シルト層 4年少量含む。
- 6 10VR/2 雑草性地上層シルト層 腐植砂。
- 7 10VR/3 雑草性地上層シルト層 腐植砂, 中粒砂含む。
- 8 10VR/2 雑草性地上層シルト層 腐植砂層, 10VR/4(雑草性地上層)の残土を含む。
- 9 10VR/4 雑草性地上層シルト層 腐植砂層, 中粒砂含む。
- 10 10VR/4 雑草性地上層シルト層 腐植砂。
- 11 10VR/2 雑草性地上層シルト層 腐植砂層。
- 12 10VR/2 雑草性地上層 腐植, 大量含む。
- 13 10VR/2 雑草性地上層シルト層 中粒砂, 腐植砂含む。
- 14 10VR/2 雑草性地上層シルト層 腐植砂, 中粒砂含む, 腐植物少量含む。
- 15 10VR/2 雑草性地上層シルト層 腐植砂層, 腐植砂。
- 16 10VR/2 雑草性地上層シルト層 腐植砂, 中粒砂含む。
- 17 10VR/2 雑草性地上層シルト層 10VR/4(雑草性地上層)の残土を含む。
- 18 15t1.70層上層
- 19 10VR/4 雑草性地上層 中粒砂含む, 腐植砂の中-腐植砂。

14区271SP



- 1 10VR/2 雑草性地上層シルト層 腐植砂, 腐植砂。
- 2 10VR/2 雑草性地上層シルト層 腐植砂, 腐植砂含む, 腐-中粒砂含む。
- 3 10VR/2 雑草性地上層シルト層 腐植砂含む, 腐-中粒砂含む。10VR/4(雑草性地上層)を覆状に含む。
- 4 10VR/4 雑草性地上層 腐植砂, 中粒砂含む, 腐植物の可能性がある。

14区277SP



- 1 10VR/2 雑草性地上層シルト層 腐植砂, 腐植砂。
- 2 10VR/2 雑草性地上層シルト層 腐植砂, 腐植砂。
- 3 10VR/2 雑草性地上層シルト層 腐植砂。
- 4 10VR/2 雑草性地上層シルト層 腐植砂。10VR/4(雑草性地上層)を含む。

14区282SP



- 1 10VR/2 雑草性地上層シルト層 腐植砂礫層。
- 2 10VR/2 雑草性地上層シルト層 腐植砂, 腐植砂含む。
- 3 10VR/2 雑草性地上層シルト層 腐植砂礫層。
- 4 10VR/4 雑草性地上層シルト層

14区286SK



- 1 10VR/2 雑草性地上層シルト層 腐植砂, 腐植砂含む。
- 2 10VR/2 雑草性地上層シルト層 腐植砂, 腐植砂少量含む。
- 3 10VR/3 雑草性地上層シルト層 腐植砂少量含む。10VR/4(雑草性地上層)を少量含む。
- 4 10VR/2 雑草性地上層シルト層 腐植砂, 腐植砂含む。10VR/4(雑草性地上層)を少量含む。
- 5 10VR/2 雑草性地上層シルト層 10VR/4(雑草性地上層)を少量含む。
- 6 10VR/3 雑草性地上層 10VR/4(雑草性地上層)を覆状に含む。
- 7 10VR/4 雑草性地上層 10VR/4(雑草性地上層)を少量含む。
- 8 10VR/3 雑草性地上層シルト層 腐植砂, 腐植砂。
- 9 10VR/4 雑草性地上層 腐植砂礫層。
- 10 10VR/2 雑草性地上層シルト層 10VR/4(雑草性地上層)を覆状に含む。
- 11 10VR/4 雑草性地上層 10VR/4(雑草性地上層)を覆状に含む。厚 270mm 含む。
- 12 10VR/4 雑草性地上層シルト層 腐植砂, 腐植砂。
- 13 10VR/2 雑草性地上層シルト層 10VR/4(雑草性地上層)を含む。
- 14 10VR/4 雑草性地上層 腐植砂礫層, 中粒砂。
- 15 10VR/4 雑草性地上層 大量砂を含む。
- 16 10VR/4 雑草性地上層

14区298SP



- 1 10VR/2 雑草性地上層シルト層 腐植砂。
- 2 10VR/2 雑草性地上層シルト層 腐植砂礫層。
- 3 10VR/4 雑草性地上層シルト層 粘土含む。

14区314SP



- 1 10VR/2 雑草性地上層シルト層 腐植砂, 中粒砂。
- 2 10VR/2 雑草性地上層シルト層 腐植砂。

14区312SP



- 1 10VR/2 雑草性地上層シルト層 中粒砂含む。
- 2 10VR/2 雑草性地上層シルト層 腐植砂, 腐植砂少量含む。
- 3 10VR/4 雑草性地上層シルト層 粘土質シルト層を覆状に含む。

図 36 14 区 218SP ~ 312SP S=1/50

S=1/50 1m

0 2 2 S P 3429 グリッドに位置する柱穴である。柱痕跡内に平坦な面を上にした礎が検出されたほか、310SBの柱筋の延長線上にあり、その一部であった可能性がある。

009SK



- 1 10VW2/3 基礎色柱上置シルト層 中一太脚の内縁を含む。
- 2 10VW3/3 基礎色柱上置シルト層 中脚の内縁を含む。
- 3 10VW3/3 基礎色柱上置シルト層 中一太脚の内縁を含む。

010SK 011SK



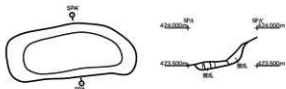
- 1 10VW2/1 基礎シルト層 中脚の内縁を含む。(010SK)
- 2 10VW2/2 基礎色柱上置シルト層 中脚の内縁を含む。

012SP



- 1 10VW3/3 基礎色シルト層 10VW6/6基礎色柱上置シルトブロックを多く含む、しりぞい。
- 2 10VW3/3 基礎色シルト層 柱筋。
- 3 10VW2/3 基礎色シルト層 10VW6/6基礎色柱上置シルトブロックを含む。盛り方。
- 4 10VW3/3 基礎色シルト層 10VW2/1基礎色ブロックを含む。

013SK



- 1 10VW2/2 基礎色柱上置シルト層 10VW6/6基礎色柱上置シルト層を含む。

014SP



- 1 10VW3/3 基礎色シルト層 10VW6/6基礎色柱上置シルトブロックを含む。柱筋。
- 2 10VW3/4 基礎色柱上置シルト層 10VW6/6基礎色柱上置シルトブロックを含む。盛り方。
- 3 10VW3/4 基礎色シルト層 10VW6/6基礎色柱上置シルトブロックを含む。盛り方。

015SK



- 1 10VW2/3 基礎色柱上置シルト層 10VW6/6基礎色柱上置シルトブロックを多く含む。
- 2 10VW3/3 基礎色シルト層 10VW6/6基礎色柱上置シルトブロックを含む。

018SP



- 1 10VW3/4 基礎色中粒砂質シルト層 10VW6/6基礎色柱上置シルトブロックを少量含む。
- 2 10VW3/4 中粒砂質シルト層 10VW6/6基礎色柱上置シルトブロックを含む。柱筋。
- 3 10VW3/3 基礎色シルト層 10VW6/6基礎色柱上置シルトブロックを多く含む。盛り方。

021SP



- 1 10VW2/2 基礎色シルト層 10VW6/6基礎色柱上置シルトブロックを含む。柱筋。
- 2 10VW3/3 基礎色シルト層 10VW6/6基礎色柱上置シルトブロックを多く含む。盛り方。

022SP



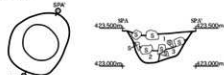
- 1 10VW3/4 基礎色シルト層 10VW6/6基礎色柱上置シルトブロックを少量含む。
- 2 10VW3/4 基礎色柱上置シルト層 10VW6/6基礎色柱上置シルトブロックを少量含む。柱筋。
- 3 10VW3/3 基礎色シルト層 10VW6/6基礎色柱上置シルトブロックを多く含む。盛り方。

023SK



- 1 10VW4/3 中一太脚基礎色柱上置シルト層 10VW6/6基礎色柱上置シルトブロックを含む。中一太脚の内縁を含む。
- 2 10VW3/3 基礎色シルト層 中一太脚の内縁を含む。

033SK



- 1 10VW3/3 基礎色中粒砂質シルト層 10VW6/6基礎色柱上置シルトブロックを少量含む。大脚の内縁を多く含む。
- 2 10VW3/3 基礎色柱上置シルト層 大脚の内縁を含む。
- 3 10VW4/2 基礎色柱上置シルト層 10VW6/6基礎色柱上置シルトブロックを多く含む。大脚の内縁を含む。

034SK(SX)



- 1 10VW2/2 基礎色柱上置シルト層 10VW6/6基礎色柱上置シルト層を多く少量含む。大脚の内縁を含む。
- 2 10VW4/4 基礎色柱上置シルト層 10VW2/2基礎色ブロックを少量含む。

図 37 009SK ~ 033SK S=1/50

0 S=1/50 1m

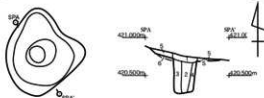
093SK 3630 グリッドに位置する、最大径約 1.4m の不整形形の土坑である。弥生時代後期の壺および高坏・器台類が出土する。

090SK



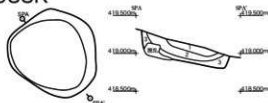
1. 10VR2/2 黒褐色土層シムト層 10VR6/6 黒褐色粘土層シムト層少量含む。底土層を多く含む。断面の大断面を注意。
2. 10VR6/6 黒褐色土層シムト層 黒土。

092SP



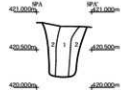
1. 10VR2/2 黒褐色土層シムト層 中層の黒土を含む。
2. 10VR2/2 黒褐色粘土層シムト層 10VR6/6 黒褐色粘土層シムト層少量含む。中層。
3. 10VR3/3 黒褐色粘土層シムト層 10VR6/6 黒褐色粘土層シムト層を少量含む。底土層。
4. 10VR3/3 黒褐色粘土層シムト層 10VR6/6 黒褐色粘土層シムト層を少量含む。底土層。
5. 10VR2/2 黒褐色土層シムト層 10VR6/6 黒褐色粘土層シムト層を少量含む。底層以外の断面の形状を注意。
6. 10VR6/6 黒褐色粘土層シムト層 黒土。

093SK



1. 10VR2/2 黒褐色土層シムト層 10VR6/6 黒褐色粘土層シムト層少量含む。中層の黒土を少量含む。中層。
2. 10VR2/2 黒褐色土層シムト層 10VR6/6 黒褐色粘土層シムト層を少量含む。中層の黒土を少量含む。底土層。
3. 10VR2/2 黒褐色土層シムト層 10VR6/6 黒褐色粘土層シムト層を少量含む。中層の黒土を少量含む。底土層。
4. 10VR3/3 黒褐色粘土層シムト層 10VR6/6 黒褐色粘土層シムト層を少量含む。底土層。

094SP



1. 10VR2/2 黒褐色土層シムト層 10VR6/6 黒褐色粘土層シムト層を少量含む。中層の黒土を含む。
2. 10VR2/2 黒褐色土層シムト層 10VR6/6 黒褐色粘土層シムト層を少量含む。中層の黒土を含む。
3. 10VR2/2 黒褐色土層シムト層 10VR6/6 黒褐色粘土層シムト層を少量含む。中層の黒土を含む。底土層。

095SP



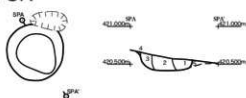
1. 10VR3/3 黒褐色土層シムト層 10VR6/6 黒褐色粘土層シムト層を少量含む。中層の黒土を少量含む。中層。
2. 10VR2/2 黒褐色粘土層シムト層 10VR6/6 黒褐色粘土層シムト層を少量含む。中層の黒土を少量含む。底土層。
3. 10VR2/2 黒褐色土層シムト層 10VR6/6 黒褐色粘土層シムト層を少量含む。中層の黒土を少量含む。底土層。
4. 10VR3/3 黒褐色粘土層シムト層 10VR6/6 黒褐色粘土層シムト層を少量含む。底土層。

096SP



1. 10VR3/3 黒褐色土層シムト層 10VR6/6 黒褐色粘土層シムト層を少量含む。中層の黒土を少量含む。中層。
2. 10VR3/3 黒褐色土層シムト層 10VR6/6 黒褐色粘土層シムト層を少量含む。中層の黒土を少量含む。底土層。

097SK



1. 10VR3/3 黒褐色土層シムト層 10VR6/6 黒褐色粘土層シムト層を少量含む。底土層を少量含む。中層。
2. 10VR4/4 黒褐色土層シムト層 10VR6/6 黒褐色粘土層シムト層を少量含む。底土層を少量含む。中層。
3. 10VR2/2 黒褐色土層シムト層 10VR6/6 黒褐色粘土層シムト層を少量含む。中層の黒土を少量含む。底土層。
4. 10VR3/3 黒褐色粘土層シムト層 10VR6/6 黒褐色粘土層シムト層を少量含む。底土層。
5. 10VR4/4 黒褐色粘土層シムト層 黒土。

099SK・100SK



1. 10VR2/2 黒褐色粘土層シムト層 10VR6/6 黒褐色粘土層シムト層を少量含む。100SK
2. 10VR2/2 黒褐色土層シムト層 10VR6/6 黒褐色粘土層シムト層を少量含む。中層の黒土を少量含む。100SK

102SP



1. 10VR3/3 黒褐色粘土層シムト層 10VR6/6 黒褐色粘土層シムト層を少量含む。中層の黒土を少量含む。中層。
2. 10VR4/4 黒褐色土層シムト層 10VR6/6 黒褐色粘土層シムト層を少量含む。中層の黒土を少量含む。底土層。
3. 10VR3/3 黒褐色土層シムト層 10VR6/6 黒褐色粘土層シムト層を少量含む。中層の黒土を少量含む。底土層。

104SP



1. 10VR3/3 黒褐色粘土層シムト層 10VR6/6 黒褐色粘土層シムト層を少量含む。中層の黒土を少量含む。中層。
2. 10VR4/4 黒褐色土層シムト層 10VR6/6 黒褐色粘土層シムト層を少量含む。中層の黒土を少量含む。底土層。
3. 10VR4/4 黒褐色土層シムト層 10VR3/3 黒褐色粘土層シムト層を少量含む。中層の黒土を少量含む。底土層。
4. 10VR2/2 黒褐色土層シムト層 10VR6/6 黒褐色粘土層シムト層を少量含む。中層の黒土を少量含む。底土層。

107SK



1. 10VR3/3 黒褐色土層シムト層 中層の黒土を含む。
2. 10VR4/4 黒褐色土層シムト層 中層の黒土を含む。
3. 10VR6/6 黒褐色粘土層シムト層 黒土。

108SK



1. 10VR3/3 黒褐色土層シムト層 中層の黒土を含む。断面に注意。
2. 10VR2/2 黒褐色土層シムト層 中層の黒土を含む。断面に注意。

○は柱痕跡

図 39 090SK ~ 108SK S=1/50

0 S=1/50 1m

125SP



1. 10YR3/3 黄褐色粘板状土層シムト層
2. 10YR3/6 中黄褐色粘土層シムト層を少量含む、中～大塊の角礫を含む。粗砂。
3. 10YR3/4 粘板状土層シムト層
4. 10YR3/6 中黄褐色粘土層シムト層に一部フロックを多く含む。大塊の角礫を含む。粗砂。
5. 10YR4/6 赤褐色粘土層シムト層
6. 10YR3/3 粘板状土層シムト層
7. 10YR4/6 赤褐色粘土層シムト層

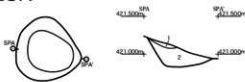
130SP



1. 10YR3/3 黄褐色粘板状土層シムト層
2. 10YR3/6 中黄褐色粘土層シムト層を多く含むが、中塊の角礫は少量を含む。粗砂。
3. 10YR3/3 粘板状土層シムト層
4. 10YR3/3 粘土層シムト層



132SK



1. 10YR3/3 黄褐色シムト層
2. 10YR4/6 赤褐色粘土層シムト層

133SK



1. 10YR3/3 黄褐色粘板状土層シムト層
2. 10YR3/3 黄褐色粘板状土層シムト層

134SP



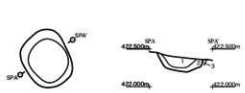
1. 10YR3/3 黄褐色シムト層
2. 10YR3/6 中黄褐色粘板状土層シムト層に一部フロックを含む。粗砂。
3. 10YR3/3 粘板状土層シムト層

135SK



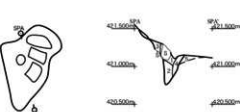
1. 10YR3/3 黄褐色シムト層
2. 10YR3/3 粘板状土層シムト層

136SK



1. 10YR3/3 粘板状土層シムト層
2. 10YR3/6 中黄褐色粘板状土層シムト層に一部フロックを少量含む、中～大塊の角礫を多く含む。粗砂を多く含む。
3. 10YR3/3 粘板状土層シムト層

139SP



1. 10YR3/3 黄褐色シムト層
2. 10YR3/3 粘板状土層シムト層
3. 10YR3/3 粘板状土層シムト層
4. 10YR3/3 粘板状土層シムト層
5. 10YR3/6 中黄褐色粘板状土層シムト層に一部フロックを多く含む。粗砂。

140SP



1. 10YR3/3 黄褐色粘板状土層シムト層
2. 10YR3/3 粘板状土層シムト層
3. 10YR3/6 中黄褐色粘板状土層シムト層

142SK

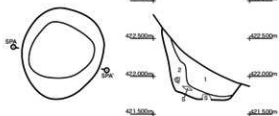


1. 10YR3/3 黄褐色粘板状土層シムト層
2. 10YR4/6 赤褐色粘土層シムト層
3. 10YR3/6 中黄褐色粘板状土層シムト層

図41 125SP～142SK S=1/50

0 5=150 1m

193SK



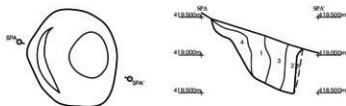
1. 10VR3/2 黄褐色粘土層シルト層
- 10VR6/4C.2a 黄褐色粘土層シルト層→ブロックを多く含み、中～大塊の角礫を含む。
2. 10VR3/2 黄褐色粘土層シルト層
- 10VR6/4C.1b 黄褐色粘土層シルト層→ブロックを含む、中～大塊の角礫を含む。

196SK



1. 10VR3/2 黄褐色粘土層シルト層
- 10VR6/4C.1b 黄褐色粘土層シルト層→ブロックをごく少量含み、中塊の角礫を少量含む。
2. 10VR3/2 黄褐色粘土層シルト層
- 10VR6/4C.1b 黄褐色粘土層シルト層→ブロックを含む、大塊の角礫を多く含む。

209SK



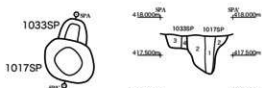
1. 10VR3/3 黄褐色粘土層
- 10VR6/4C.1b 黄褐色粘土層シルト層→ブロックをごく少量含み、細礫を少量含む。
2. 10VR3/3 黄褐色粘土層
- 10VR6/4C.1b 黄褐色粘土層シルト層→ブロックを少量含み、中塊の角礫を少量含む。
3. 10VR6/4C.1a.1 黄褐色粘土層
- 10VR6/4C.1b 黄褐色粘土層シルト層→ブロックを含む、細礫を少量含む。
4. 10VR6/4C.1a.1 黄褐色粘土層
- 10VR6/4C.1b 黄褐色粘土層シルト層→ブロックを含む、細礫を少量含む。
5. 10VR6/4C.1b 黄褐色粘土層シルト層 局所。

1010SP



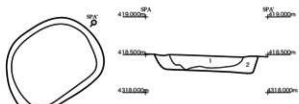
1. 10VR2/2 黄褐色粘土層シルト層
- 10VR6/4C.2a 黄褐色粘土層シルト層→ブロックを少量含み、大塊の角礫を多く含む。粗礫。
2. 10VR2/2 黄褐色粘土層シルト層
- 10VR3/2 黄褐色粘土層シルト層→ブロックを含む、大塊の角礫を含む。粗礫。

1017SP・1033SP



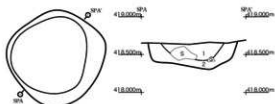
1. 10VR1/7/1 黄褐色粘土層シルト層
- 10VR6/4C.1b 黄褐色粘土層シルト層
- 10VR2/2 黄褐色粘土層シルト層
- 10VR3/2 黄褐色粘土層シルト層
- 10VR4/5 黄褐色粘土層シルト層

1019SK



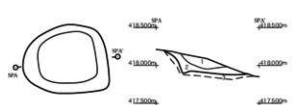
1. 10VR1/7/1 黄褐色粘土層
- 10VR6/4C.2a 黄褐色粘土層シルト層→ブロックを少量含む、大塊の角礫を少量含む。
2. 10VR2/2 黄褐色粘土層シルト層
- 10VR6/4C.2a 黄褐色粘土層シルト層→ブロックを多く含む、中塊の角礫を多く含む。
3. 10VR6/4C.2a 黄褐色粘土層シルト層 局所。

1021SK



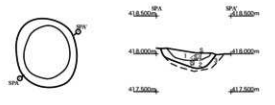
1. 10VR1/7/1 黄褐色粘土層
- 10VR2/2 黄褐色粘土層
- 10VR6/4C.2a 黄褐色粘土層シルト層→ブロックを含む、大塊の角礫を少量含む。

1031SK



1. 10VR2/2 黄褐色粘土層
- 10VR6/4C.2a 黄褐色粘土層シルト層→ブロックを少量含む、大塊の角礫を含む。
2. 10VR2/2 黄褐色粘土層
- 10VR6/4C.2a 黄褐色粘土層シルト層→ブロックを多く含む、中塊の角礫を少量含む。
3. 10VR6/4C.2a 黄褐色粘土層シルト層 局所。

1032SK



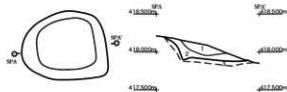
1. 10VR2/2 黄褐色粘土層
- 10VR6/4C.2a 黄褐色粘土層シルト層→ブロックを含む、中～大塊の角礫を少量含む。
2. 10VR2/2 黄褐色粘土層
- 10VR6/4C.2a 黄褐色粘土層シルト層→ブロックを含む、中～大塊の角礫を含む。
3. 10VR6/4C.2a 黄褐色粘土層シルト層 局所。

図 43 193SK ~ 209SK, 1010SP ~ 1032SK S=1/50

0 S=1:50 1m

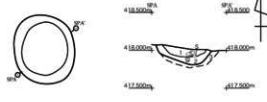
19C区 3134グリッドに位置する、直径約0.3mの円形の柱穴である。柱痕跡が深さ0.5m以上1085SPに渡って残る。江戸時代後期の掘鉢が出土する。

1031SK



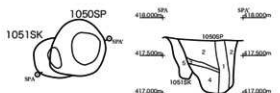
- 10VR2/2 築地粘土質シルト層 10VR5/4C.2/A 褐色粘土質シルト層をごく少量含む。大層の角層を含む。
- 10VR2/2 築地シルト層
- 10VR5/4C.2/A 褐色粘土質シルト層→ブロックを多く含む。中層の角層をごく少量含む。
- 10VR5/4C.2/A 褐色粘土質シルト層 同左。

1032SK



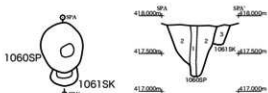
- 10VR2/1 築地掘削砂質シルト層 中～大層の角層を含む。
- 10VR2/1 築地シルト層 10VR5/4C.2/A 褐色粘土質シルト層を多く含む。中～大層の角層を含む。
- 10VR5/4C.2/A 褐色粘土質シルト層 同左。

1050SP・1051SK



- 10VR1/2/F 築地粘土質シルト層 10VR5/4C.2/A 褐色粘土質シルト層を多く含む。中層の角層を多く含む。柱跡。(1050SP)
- 10VR5/4C.2/A 褐色粘土質シルト層 同左。(1050SP)
- 10VR2/2 築地シルト層
- 10VR5/4C.2/A 褐色粘土質シルト層→ブロックを多く含む。中層の角層を多く含む。掘り方。(1050SP)
- 10VR2/2 築地シルト層
- 10VR5/4C.2/A 褐色粘土質シルト層を多く含む。中層の角層を少量含む。掘り方。(1050SP)
- 10VR2/2 築地掘削砂質シルト層 中～大層の角層を少量含む。(1051SK)

1060SP・1061SK



- 10VR2/2 築地粘土質シルト層 10VR5/4C.2/A 褐色粘土質シルト層を多く含む。柱跡。(1060SP)
- 10VR2/2 築地粘土質シルト層 大層の角層を多く含む。掘り方。(1060SP)
- 10VR2/2 築地粘土質シルト層
- 10VR5/4C.2/A 褐色粘土質シルト層を多く含む。中層の角層を少量含む。(1061SK)

1062SP



- 10VR3/2 築地粘土質シルト層 10VR5/4C.2/A 褐色粘土質シルト層→ブロックを少量含む。柱跡を含む。柱跡。
- 10VR3/2 築地粘土質シルト層
- 10VR5/4C.2/A 褐色粘土質シルト層→ブロックを少量含む。中層の角層を少量含む。掘り方。

1064SP



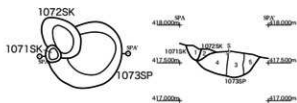
- 10VR1/2/F 築地粘土質シルト層
- 10VR5/4C.2/A 褐色粘土質シルト層を多く含む。中層の角層を多く含む。柱跡。
- 10VR3/2 築地粘土質シルト層
- 10VR3/2 築地粘土質シルト層
- 10VR3/2 築地粘土質シルト層
- 10VR5/4C.2/A 褐色粘土質シルト層→ブロックを多く含む。中層の角層を少量含む。掘り方。

1067SP



- 10VR3/2 築地粘土質シルト層
- 10VR5/4C.2/A 褐色粘土質シルト層→ブロックを少量含む。中層の角層を多く含む。柱跡。
- 10VR3/2 築地粘土質シルト層
- 10VR5/4C.2/A 褐色粘土質シルト層→ブロックを少量含む。中層の角層を多く含む。掘り方。
- 10VR5/4C.2/A 褐色粘土質シルト層 同左。

1071SK・1072SK・1073SP



- 10VR3/4 築地粘土質シルト層 10VR5/4C.2/A 褐色粘土質シルト層を少量含む。柱跡を少量含む。(1071SK)
- 10VR2/2 築地粘土質シルト層
- 10VR5/4C.2/A 褐色粘土質シルト層→ブロックを多く含む。大層の角層を少量含む。(1072SK)
- 10VR2/1 築地粘土質シルト層 中～大層の角層を含む。柱跡。(1073SP)
- 10VR2/2 築地粘土質シルト層
- 10VR5/4C.2/A 褐色粘土質シルト層を多く含む。中層の角層を少量含む。掘り方。(1073SP)
- 10VR2/2 築地粘土質シルト層
- 10VR5/4C.2/A 褐色粘土質シルト層を多く含む。中層の角層を少量含む。掘り方。(1073SP)

1081SK



- 10VR3/2 築地掘削砂質シルト層
- 10VR4/4C.2/A 褐色粘土質シルト層 10VR5/4C.2/A 褐色粘土質シルト層を少量含む。

1085SP



- 10VR2/1 築地シルト層 柱跡。
- 10VR2/2 築地シルト層

図44 1031SK ~ 1085SP S=1/50

0 S=1/50 1m

1211SP 3234 グリッドに位置する、直径約0.6mの柱穴である。縄文時代早期初頭の深鉢胴部片が出土する。

1105SK



1. 10YR3/2 黄褐色粘土質シムト層 10YR5/4C2の浅褐色粘土質シムト層を少量含む。大塚の角層を多く含む。柱状。
2. 10YR3/2 黄褐色粘土質シムト層 10YR5/4C2の浅褐色粘土質シムト層を少量含む。中塚の角層を多く含む。柱状。
3. 10YR3/2 黄褐色粘土質シムト層 10YR5/4C2の浅褐色粘土質シムト層を少量含む。中塚の角層を少量含む。柱状。
4. 10YR5/4C2の浅褐色粘土質シムト層 柱状。

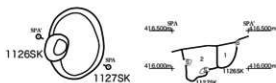
1107SP



1. 10YR3/2 黄褐色粘土質シムト層 10YR5/4C2の浅褐色粘土質シムト層を少量含む。大塚の角層を多く含む。柱状。
2. 10YR3/2 黄褐色粘土質シムト層 10YR5/4C2の浅褐色粘土質シムト層を少量含む。中塚の角層を少量含む。柱状。
3. 10YR3/2 黄褐色粘土質シムト層 10YR5/4C2の浅褐色粘土質シムト層を少量含む。中塚の角層を多く含む。柱状。
4. 10YR5/4C2の浅褐色粘土質シムト層 柱状。



1126SK・1127SK



1. 10YR3/2 黄褐色粘土質シムト層 10YR5/4C2の浅褐色粘土質シムト層を少量含む。中塚の角層を少量含む。(1126SK)
2. 10YR3/2 黄褐色粘土質シムト層 10YR5/4C2の浅褐色粘土質シムト層を少量含む。中塚の角層を少量含む。(1127SK)

1144SP



1. 10YR3/2 黄褐色粘土質シムト層 中塚の角層を少量含む。柱状。
2. 10YR3/2 黄褐色粘土質シムト層 10YR5/4C2の浅褐色粘土質シムト層を少量含む。柱状。

1192SP



1. 10YR3/2 黄褐色粘土質シムト層 10YR5/4C2の浅褐色粘土質シムト層を少量含む。中塚の角層を少量含む。柱状。
2. 10YR3/2 黄褐色粘土質シムト層 10YR5/4C2の浅褐色粘土質シムト層を少量含む。中塚の角層を少量含む。柱状。

1195SP



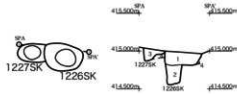
1. 10YR3/2 黄褐色粘土質シムト層 10YR5/4C2の浅褐色粘土質シムト層を少量含む。柱状。
2. 10YR3/2 黄褐色粘土質シムト層 10YR5/4C2の浅褐色粘土質シムト層を少量含む。中塚の角層を少量含む。柱状。

1211SP



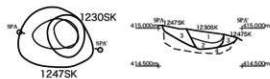
1. 10YR3/2 黄褐色粘土質シムト層 10YR5/4C2の浅褐色粘土質シムト層を少量含む。中塚の角層を少量含む。柱状。
2. 10YR3/2 黄褐色粘土質シムト層 10YR5/4C2の浅褐色粘土質シムト層を少量含む。中塚の角層を少量含む。柱状。

1226SK・1227SK



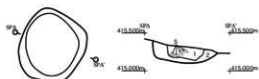
1. 10YR2/2 黄褐色粘土質シムト層 10YR5/4C2の浅褐色粘土質シムト層を少量含む。(1226SK)
2. 10YR2/2 黄褐色粘土質シムト層 10YR5/4C2の浅褐色粘土質シムト層を少量含む。中塚の角層を少量含む。(1226SK)
3. 10YR2/2 黄褐色粘土質シムト層 10YR5/4C2の浅褐色粘土質シムト層を少量含む。(1227SK)
4. 10YR5/4C2の浅褐色粘土質シムト層 柱状。

1230SK・1247SK



1. 10YR2/2 黄褐色粘土質シムト層 10YR5/4C2の浅褐色粘土質シムト層を少量含む。大塚の角層を含む。(1230SK)
2. 10YR2/2 黄褐色粘土質シムト層 (1230SK)
3. 10YR2/2 黄褐色粘土質シムト層 10YR5/4C2の浅褐色粘土質シムト層を少量含む。大塚の角層を少量含む。(1247SK)
4. 10YR5/4C2の浅褐色粘土質シムト層 柱状。

1246SK



1. 10YR3/2 黄褐色粘土質シムト層 10YR5/4C2の浅褐色粘土質シムト層を少量含む。大塚の角層を多く含む。
2. 10YR3/2 黄褐色粘土質シムト層 10YR5/4C2の浅褐色粘土質シムト層を少量含む。中塚の角層を少量含む。



図 45 1105SK～1246SK S=1/50

1266SK 3333グリッドに位置する直径約0.8mの不整形形の土坑で、柱穴1268SPなどと切り合い関係を持つ。古瀬戸の腰折皿が出土する。

1309SK 3333グリッドに位置する長径約1.1m、短径約0.6mの長楕円形の土坑で、伊勢型鍋の口縁部から胴部が出土する。

1250SP



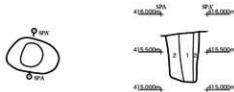
- 1 10VR3/1 黒褐色粘土製土器シルト層
10VR9/4に比べ焼成温度シルト層プロックを少量含む。大塚の角縁を少量含む。柱痕。
- 2 10VR2/2 黒褐色粘土製土器シルト層
10VR9/4に比べ焼成温度シルト層プロックを少量含む。中塚の角縁を少量含む。磨り丸。

1254SP・1255SP



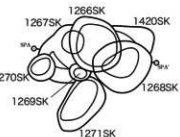
- 1 10VR3/1 黒褐色粘土製土器シルト層
10VR9/4に比べ焼成温度シルト層プロックを少量含む。中塚の角縁を少量含む。柱痕。(1254SP)
- 2 10VR3/2 黒褐色粘土製土器シルト層
10VR9/4に比べ焼成温度シルト層プロックを多く含む。中塚の角縁を少量含む。磨り丸。(1255SP)
- 3 10VR2/2 粘土製土器シルト層
10VR9/4に比べ焼成温度シルト層プロックを少量含む。柱痕。(1254SP)
- 4 10VR3/2 黒褐色粘土製土器シルト層
10VR9/4に比べ焼成温度シルト層プロックを多く含む。磨り丸。(1255SP)

1261SP



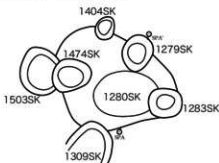
- 1 10VR3/1 黒褐色粘土製土器シルト層
10VR9/4に比べ焼成温度シルト層プロックを少量含む。柱痕。
- 2 10VR2/2に比べ焼成温度シルト層プロックを多く含む。中塚の角縁を少量含む。磨り丸。

1266SK・1267SK・1268SP



- 1 10VR2/2 黒褐色粘土製土器シルト層
10VR9/4に比べ焼成温度シルト層プロックを多く含む。大塚の角縁を含む。(1266SK)
- 2 10VR3/2 黒褐色粘土製土器シルト層
10VR9/4に比べ焼成温度シルト層プロックを多く含む。(1267SK)
- 3 10VR9/4に比べ焼成温度シルト層プロックを多く含む。
10VR2/2 黒褐色粘土製土器シルト層
中塚の角縁を少量含む。柱痕。(1268SP)
- 4 10VR2/2 黒褐色粘土製土器シルト層
中塚の角縁を少量含む。(1268SP)
- 5 10VR3/2 黒褐色粘土製土器シルト層
10VR9/4に比べ焼成温度シルト層プロックを少量含む。中塚の角縁を少量含む。磨り丸。(1268SP)
- 6 10VR9/4に比べ焼成温度シルト層プロックを多く含む。中塚の角縁を少量含む。柱痕。

1279SK 1280SK

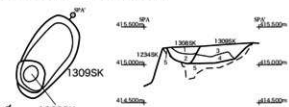


- 1 10VR2/2 黒褐色粘土製土器シルト層
10VR9/4に比べ焼成温度シルト層プロックを少量含む。中塚の角縁を多く少量含む。磨り丸を少量含む。(1279SK)
- 2 10VR2/2 黒褐色粘土製土器シルト層
中塚の角縁を少量含む。(1280SK)
- 3 10VR3/2 黒褐色粘土製土器シルト層
10VR9/4に比べ焼成温度シルト層プロックを多く含む。中塚の角縁を少量含む。(1280SK)
- 4 10VR9/4に比べ焼成温度シルト層プロックを多く含む。柱痕。

1288SK



1308SK・1309SK



- 1 10VR3/1 黒褐色粘土製土器シルト層
10VR9/4に比べ焼成温度シルト層プロックを少量含む。中塚の角縁を少量含む。(1308SK)
- 2 10VR3/2 黒褐色粘土製土器シルト層
10VR9/4に比べ焼成温度シルト層プロックを多く含む。(1308SK)
- 3 10VR2/2 黒褐色粘土製土器シルト層
中塚の角縁を少量含む。(1309SK)
- 4 10VR9/4に比べ焼成温度シルト層プロックを多く含む。中塚の角縁を少量含む。(1309SK)
- 5 10VR3/2 黒褐色粘土製土器シルト層
10VR9/4に比べ焼成温度シルト層プロックを少量含む。(1309SK)
- 6 10VR9/4に比べ焼成温度シルト層プロックを多く含む。柱痕。

1417SK



- 1 10VR3/2 黒褐色粘土製土器シルト層
7.5VR5/4に比べ焼成温度シルト層プロックを多く含む。大塚の角縁を含む。
- 2 10VR3/2 黒褐色粘土製土器シルト層
7.5VR5/4に比べ焼成温度シルト層プロックを多く含む。
- 3 7.5VR5/4に比べ焼成温度シルト層プロックを多く含む。柱痕。



図46 1250SP～1417SK S=1/50

1468SK 3332 グリッドに位置する、最大径約2.6mの不整形の土坑である。埋土に礫を多く含み、古瀬戸の筒型香炉および器種不明の陶器が出土する。

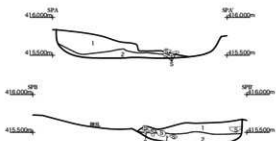
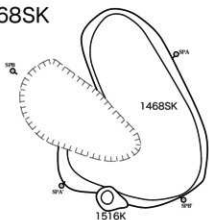
1428SK・1429SK



- 1 10YR3/1 黄褐色土層 10YR3/2黄褐色土プロットを含む。
- 2 10YR6/4C 赤褐色土層 10YR6/4C赤褐色土層プロットを含む。大塚の内縁を少量含む。(1428SK)
- 3 10YR1/1 黄褐色土層 10YR1/1黄褐色土層プロットを含む。
- 4 7.5YR5/4C 赤褐色土層 7.5YR5/4C赤褐色土層プロットを含む。大塚の内縁を少量含む。(1428SK)
- 5 10YR2/2 黄褐色土層 10YR2/2黄褐色土層プロットを含む。中塚の内縁を少量含む。(1429SK)
- 6 10YR4/3 赤褐色土層 10YR4/3赤褐色土層プロットを含む。中塚の内縁を少量含む。(1429SK)



1468SK



- 1 10YR3/1 黄褐色土層 径2-5m位の坑。埋砂を多く含む。
- 2 10YR4/3 赤褐色土層 10YR4/3赤褐色土層プロットを多く含む。中塚、埋砂を含む。

1491SP



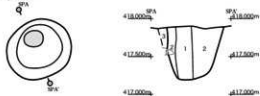
- 1 7.5YR4/1 赤褐色土層 10YR7/3黄褐色土層を埋土に多く含む。径3m程度の坑。埋砂を多く含む。盛り方。
- 2 10YR3/1 黄褐色土層 10YR7/3黄褐色土層を埋土に多く含む。埋砂を含む。埋砂を多く含む。盛り方。
- 3 10YR3/2 赤褐色土層 10YR3/2黄褐色土層を埋土に多く含む。径3m程度の、埋砂を含む。埋砂を多く含む。盛り方。

1496SP



- 1 10YR2/2 黄褐色土層 10YR6/4C赤褐色土層土層プロットを少量含む。
- 2 10YR2/2 黄褐色土層 10YR6/4C赤褐色土層土層プロットを少量含む。埋砂。
- 3 10YR4/3 赤褐色土層 埋砂を含む。
- 4 10YR2/2 黄褐色土層 10YR6/4C赤褐色土層土層プロットを多く含む。盛り方。

1515SP



- 1 10YR2/2 黄褐色土層 10YR6/4C赤褐色土層土層プロットを少量含む。埋砂。
- 2 10YR4/3 赤褐色土層 10YR2/2黄褐色土層土層プロットを少量含む。埋砂の内縁を多く含む。盛り方。
- 3 10YR4/3 赤褐色土層 埋砂を含む。

1524SP



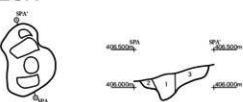
- 1 10YR2/1 黄褐色土層 10YR6/4C赤褐色土層土層プロットを多く含む。大塚の内縁を少量含む。埋砂。
- 2 10YR2/2 黄褐色土層 埋砂を含む。
- 3 10YR4/3 赤褐色土層 10YR6/4C赤褐色土層土層プロットを多く含む。盛り方。

2001SK



- 1 10YR2/2 黄褐色土層 10YR6/4C赤褐色土層土層プロットを少量含む。
- 2 10YR4/3 赤褐色土層 10YR2/2黄褐色土層土層プロットを含む。

2002SK



- 1 10YR2/2 黄褐色土層 10YR6/4C赤褐色土層土層プロットを少量含む。
- 2 10YR2/2 黄褐色土層 10YR6/4C赤褐色土層土層プロットを多く含む。
- 3 10YR3/2 黄褐色土層 10YR6/4C赤褐色土層土層プロットを含む。

○は柱状跡

図 47 1428SK ~ 1524SP, 2001SK・2002SK S=1/50

0 5m 10m

1 9 A 区 3830 グリッドに位置する、直径約 0.3m の円形の柱穴である。連房式第 5・6 小期のほ
2 0 7 3 S P ば完工形の端反腕が出土する。

2025SP



1. 10V9/4 ② 黒褐色粘土層シルト層 10V9/6 ④ 黒褐色粘土層シルト層を多く含む。柱壁。
2. 10V9/4 ② 黒褐色粘土層シルト層 10V9/6 ④ 黒褐色粘土層シルト層プロックを含む。中環の角部を少量含む。柱壁。
3. 10V9/6 ④ 黒褐色粘土層シルト層 柱壁。

2026SP



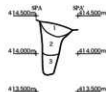
1. 10V9/3 ③ 黒褐色粘土層シルト層 10V9/6 ④ 黒褐色粘土層シルト層プロックを含む。柱壁。
2. 10V9/3 ③ 黒褐色粘土層シルト層 10V9/6 ④ 黒褐色粘土層シルト層プロックを多く含む。壁り方。
3. 10V9/6 ④ 黒褐色粘土層シルト層 柱壁。

2027SP



1. 10V9/2 ② 黒褐色粘土層シルト層 10V9/6 ④ 黒褐色粘土層シルト層プロックを多く含む。中環の角部を少量含む。柱壁。反り物を少量含む。柱壁。
2. 10V9/4 ② ③ ④ 黒褐色粘土層シルト層 10V9/3 ③ 黒褐色粘土層シルト層プロックを含む。中環の角部を少量含む。柱壁。
3. 10V9/4 ② ③ ④ 黒褐色粘土層シルト層 10V9/3 ③ 黒褐色粘土層シルト層を多く含む。中環の角部を含む。壁り方。
4. 10V9/4 ② ③ ④ 黒褐色粘土層シルト層 10V9/3 ③ 黒褐色粘土層シルト層を多く含む。壁り方。

2045SK



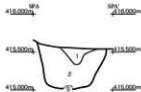
1. 10V9/2 ② 黒褐色粘土層シルト層 10V9/6 ④ 黒褐色粘土層シルト層プロックを少量含む。大環の角部を含む。
2. 10V9/3 ③ 黒褐色粘土層シルト層 10V9/6 ④ 黒褐色粘土層シルト層プロックを少量含む。大環の角部を含む。
3. 10V9/3 ③ 黒褐色粘土層シルト層 10V9/6 ④ 黒褐色粘土層シルト層プロックを多く含む。壁り方。

2054SP



1. 10V9/4 ② ③ ④ 黒褐色粘土層シルト層 黒褐色を多く含む。柱壁。
2. 10V9/2 ② 黒褐色粘土層シルト層 10V9/6 ④ 黒褐色粘土層シルト層プロックを多く含む。中環の角部を少量含む。柱壁。
3. 10V9/3 ③ 黒褐色粘土層シルト層 10V9/6 ④ 黒褐色粘土層シルト層プロックを多く含む。壁り方。

2060SK



1. 10V9/3 ③ 黒褐色粘土層シルト層 10V9/6 ④ 黒褐色粘土層シルト層プロックを含む。大環の角部を少量含む。
2. 10V9/4 ② 黒褐色粘土層シルト層 10V9/3 ③ 黒褐色粘土層シルト層プロックを含む。中環の角部を含む。

2071SP



1. 10V9/3 ③ 黒褐色粘土層シルト層 10V9/6 ④ 黒褐色粘土層シルト層を少量含む。柱壁。
2. 10V9/3 ③ 黒褐色粘土層シルト層 10V9/6 ④ 黒褐色粘土層シルト層プロックを多く含む。中環の角部を少量含む。柱壁。
3. 10V9/3 ③ 黒褐色粘土層シルト層 10V9/6 ④ 黒褐色粘土層シルト層プロックを多く含む。壁り方。

2073SP



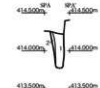
1. 10V9/3 ③ 黒褐色粘土層シルト層 10V9/6 ④ 黒褐色粘土層シルト層を少量含む。
2. 10V9/3 ③ 黒褐色粘土層シルト層 10V9/6 ④ 黒褐色粘土層シルト層プロックを含む。

2074SP



1. 10V9/2 ② 黒褐色粘土層シルト層 10V9/6 ④ 黒褐色粘土層シルト層を少量含む。柱壁。
2. 10V9/3 ③ 黒褐色粘土層シルト層 10V9/6 ④ 黒褐色粘土層シルト層プロックを多く含む。柱壁。
3. 10V9/3 ③ 黒褐色粘土層シルト層 10V9/6 ④ 黒褐色粘土層シルト層プロックを多く含む。壁り方。

2091SP



1. 10V9/2 ② 黒褐色粘土層 柱壁。
2. 10V9/3 ③ 黒褐色粘土層 10V9/6 ④ 黒褐色粘土層シルト層プロックを少量含む。壁り方。

2094SP



1. 10V9/2 ② 黒褐色粘土層 10V9/6 ④ 黒褐色粘土層シルト層プロックを含む。柱壁。
2. 10V9/6 ④ 黒褐色粘土層シルト層 10V9/3 ③ 黒褐色粘土層シルト層を少量含む。壁り方。
3. 10V9/3 ③ 黒褐色粘土層シルト層 10V9/6 ④ 黒褐色粘土層シルト層を少量含む。中環の角部を少量含む。壁り方。

2120SP



1. 10V9/3 ③ 黒褐色粘土層 10V9/6 ④ 黒褐色粘土層シルト層プロックを少量含む。柱壁。
2. 10V9/2 ② 黒褐色粘土層 10V9/6 ④ 黒褐色粘土層シルト層プロックを含む。壁り方。
3. 10V9/6 ④ 黒褐色粘土層シルト層 柱壁。

図 48 2025SP ~ 2120SP S=1/50

0 S=1/50 1m



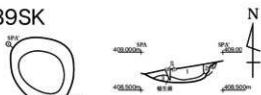
2301SK・3436グリッドに位置し、長径約0.9mの楕円形の柱穴2301SPが埋設したのち、土坑2302SP2301SKが掘り込まれる。出土層位は不明なもの、縄文時代後期の深鉢が出土する。

2124SP



1. 10YR3/1 黄褐色土層 シルト層
2. 10YR2/2 黄褐色土層 シルト層 盛り方
3. 10YR6/6 黄褐色粘土層 シルト層 盛り方
4. 10YR6/6 黄褐色粘土層 シルト層 盛り方

2139SK



1. 10YR4/3 灰土層 黄褐色粘土層 大塚の内側を少量含む。
2. 10YR4/4 灰色粘土層
3. 10YR6/6 灰土層 黄褐色粘土層
4. 10YR6/6 黄褐色粘土層 シルト層 盛り方

2157SP



1. 10YR3/2 黄褐色土層 シルト層
2. 10YR3/2 黄褐色土層 シルト層 盛り方
3. 10YR3/3 黄褐色土層 シルト層
4. 10YR6/6 黄褐色粘土層 シルト層 盛り方

2159SP



1. 10YR2/2 黄褐色土層 シルト層
2. 10YR3/2 黄褐色土層 シルト層
3. 10YR3/3 黄褐色土層 シルト層
4. 10YR6/6 黄褐色粘土層 シルト層 盛り方

2180SK



1. 10YR3/2 黄褐色土層 シルト層
2. 10YR3/2 黄褐色土層 シルト層 盛り方
3. 10YR3/3 黄褐色土層 シルト層
4. 10YR6/6 黄褐色粘土層 シルト層 盛り方

2183SK



1. 10YR2/2 黄褐色土層 シルト層
2. 10YR3/2 黄褐色土層 シルト層
3. 10YR3/3 黄褐色土層 シルト層
4. 10YR6/6 黄褐色粘土層 シルト層 盛り方

2217SK



1. 10YR3/2 黄褐色土層 シルト層
2. 10YR3/2 黄褐色土層 シルト層 盛り方
3. 10YR3/3 黄褐色土層 シルト層
4. 10YR6/6 黄褐色粘土層 シルト層 盛り方

2278SP



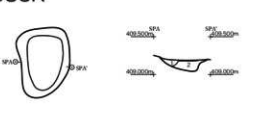
1. 10YR3/2 黄褐色土層 シルト層
2. 10YR3/2 黄褐色土層 シルト層 盛り方
3. 10YR3/3 黄褐色土層 シルト層
4. 10YR6/6 黄褐色粘土層 シルト層 盛り方

2301SK・2302SP



1. 10YR3/1 黄褐色土層 シルト層
2. 10YR2/2 黄褐色土層 シルト層
3. 10YR3/2 黄褐色土層 シルト層

2308SK



1. 10YR3/2 黄褐色土層 シルト層
2. 10YR3/2 黄褐色土層 シルト層 盛り方
3. 10YR3/3 黄褐色土層 シルト層

2318SP



1. 10YR2/2 黄褐色土層
2. 10YR3/2 黄褐色土層 シルト層
3. 10YR6/6 黄褐色粘土層 シルト層

2333SK



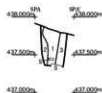
1. 10YR2/2 黄褐色土層
2. 10YR4/2 黄褐色土層

図49 2124SP～2333SK S=1/50

0 5m 1.50 1m

2429SK 3336 グリッドに位置する、長径約 1.9m、短径約 1.3m の不整な隅丸方形の土坑である。中央からやや外れた位置において、縄文時代早期前半の深鉢 (0408) が横位で押し潰された状態で出土した。土器は口縁部から胴部下半までが残存する。平面図上では便宜的に 1-3 面に分けたが、実際には土器は単一の層中から出土している。その上にはやや外れた位置で 0.2m 四方ほどの大きさの礫が検出されており、土器とともに設置された可能性も考えられる。また、最終的に土坑の埋没後には上から複数の土坑が掘り込まれる。

2337SP



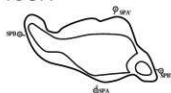
- 1 10V92/2 黄褐色粘土層シルト層 本層の厚さを少量含む。柱状。
- 2 10V95/4 黄褐色粘土層シルト層 10V92/2 黄褐色粘土層シルト層を少量含む。緩り方。
- 3 10V93/3 黄褐色粘土層シルト層 10V95/4 黄褐色粘土層シルト層を少量含む。緩り方。

2339SP



- 1 10V93/3 黄褐色粘土層シルト層 10V95/4 黄褐色粘土層をごく少量含む。
- 2 10V92/2 黄褐色粘土層シルト層 10V93/3 黄褐色粘土層シルト層を少量含む。柱状。
- 3 10V95/4 黄褐色粘土層シルト層 10V92/2 黄褐色粘土層シルト層を少量含む。緩り方。
- 4 10V96/6 黄褐色粘土層シルト層 柱状。

2446SK



- 1 10V93/3 黄褐色粘土層シルト層 10V96/6 黄褐色粘土層シルト層を少し含む。大層の角層を含む。
- 2 10V94/3 土色黄褐色粘土層シルト層 10V93/3 黄褐色粘土層シルト層を少し含む。大層の角層を含む。

2466SK



- 1 10V92/2 黄褐色粘土層 中層の角層を少量含む。
- 2 10V92/2 黄褐色粘土層 10V96/6 黄褐色粘土層シルト層を少量含む。
- 3 10V92/2 黄褐色粘土層 10V96/6 黄褐色粘土層シルト層を少量含む。
- 4 10V96/6 黄褐色粘土層シルト層 柱状。

2467SP



- 1 10V93/3 黄褐色粘土層 柱状。
- 2 10V93/3 黄褐色粘土層 10V96/6 黄褐色粘土層シルト層を少量含む。大層の角層を含む。緩り方。
- 3 10V93/3 黄褐色粘土層シルト層 10V96/6 黄褐色粘土層シルト層を少量含む。大層の角層を含む。緩り方。

2429SK

1面



2面



3面



- 1 10V94/3 土色黄褐色粘土層シルト層 大層の角層を含む。
- 10V94/3 土色黄褐色粘土層シルト層
- 10V95/4 土色黄褐色粘土層シルト層 (古い礫層などの磁器破片)

0 S=1/50 1m

図 50 2337SP ~ 2429SK S=1/50

第6節 炉跡

焼土・炭化物が多く堆積するものを炉跡とした。14区で1箇所、19B区で2箇所、19C区で2箇所が確認された。

14区 013SL 3930 グリッドに位置する直径約1.0mの不整円形の炉跡で、堅穴状遺構 043SI の内部に位置する。縄文時代後期の深鉢の破片が出土するが、付近で碗型鉄洋や炭化物が出土し、043SI 床面で山茶碗が出土することから、13世紀前葉の鍛冶遺構としての性格が想定される。

105SL 3528・3529 グリッドを中心に位置する、約3.4m×3.0mの範囲に広がる炉跡群である。310SB・320SB・330SB と同一の平坦面にあり、それらに挟まれるように位置する。掘り込みは7回分確認でき、重なり合って繰り返し掘り込まれている。それぞれ 105SL-1-7 として示した。全て埋土に炭化物、焼土を含み、一部には被熱痕を残す礫も多く含まれるが、炉の構造として掘えられた様子は確認できない。出土遺物は古いもので大室期の陶器、新しいもので近代の磁器が含まれるが、大半は連房式期、特に第8～11小期に比定されるものが多い。また、各掘り込みごとの出土遺物に明確な時期差は見られない。被熱による地山の硬化面などが確認できず、付近に併行する時期の建物跡が見つかったことを考慮すると、炉跡ではなく焼土・炭化物を含む廃棄土坑と考えることも可能である。

14区013SL

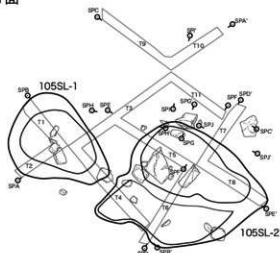


1. 2.5VX/34 磁器焼成土層(土坑)層 磁器片等七、炭化物等七、焼土。
2. 10VX/22 炭化物焼成土層(土坑)層 磁器片、砂礫等七、炭化物等七、1を少量含む七。
3. 10VX/22 炭化物焼成土層(土坑)層 磁器片、砂礫等七、炭化物等七、1を少量含む七。
4. 10VX/22 炭化物焼成土層(土坑)層 磁器片等七、焼土。
5. 2.5VX/34 磁器焼成土層(土坑)層 炭化物等七、焼土。
6. 10VX/22 炭化物焼成土層(土坑)層 炭化物等七、焼土。
7. 10VX/22 炭化物焼成土層(土坑)層 磁器片、砂礫等七。



105SL

1面



2面

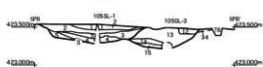
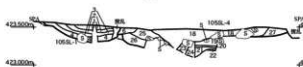
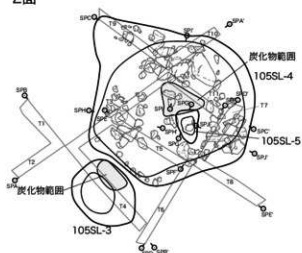
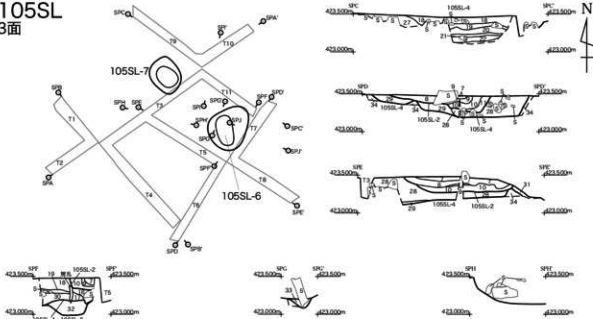


図51 14区013SL、105SL(1) S=1/50

0 S=1/50 1m

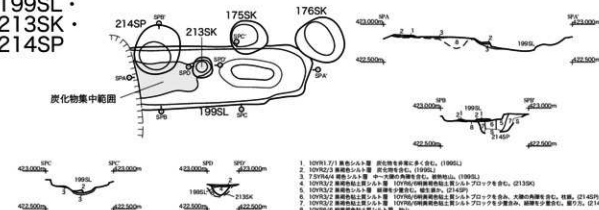
199SL 4127グリッドに位置する、長軸2.3m以上、短軸約0.8mの隅丸長方形の炉跡である。19B区南端部の平坦面に位置し、土坑213SK、柱穴214SPを壊して掘り込まれる。底部は平坦で、東寄りを一階段深く掘り下げる。炭化物が広範囲に遺存し、特に西側に集中する。床面では被熱痕が確認できる。出土遺物が少ないため帰属時期は不明である。

105SL
3面



- 1 105SL34 縦断切取シット等 S19A20の傾斜面上プロットを少量含む。105SL22の傾斜面上土層シットプロットを少量含む。中級の角礫を含む。炭化物を含む。(105SL-1)
- 2 105SL4 土の下の非炭化物層切取シット等 S19A20の傾斜面上プロットを含む。105SL22の傾斜面上プロットを少量含む。大級の角礫を少量含む。(105SL-1)
- 3 105SL4 土の下の非炭化物層切取シット等 大級の角礫を含む。(105SL-1)
- 4 105SL4 土の下の非炭化物層切取シット等 S19A20の傾斜面上プロットを少量含む。炭化物を少量含む。(105SL-1)
- 5 105SL4 土の下の非炭化物層切取シット等 105SL22の傾斜面上土層シットプロットを少量含む。中級の角礫を含む。炭化物を少量含む。(105SL-1)
- 6 105SL4 土の下の非炭化物層切取シット等 S19A20の傾斜面上プロットを少量含む。炭化物を少量含む。(105SL-1)
- 7 105SL4 土の下の非炭化物層切取シット等 S19A20の傾斜面上プロットを少量含む。炭化物を少量含む。(105SL-1)
- 8 105SL4 土の下の非炭化物層切取シット等 S19A20の傾斜面上プロットを少量含む。炭化物を少量含む。(105SL-1)
- 9 105SL4 土の下の非炭化物層切取シット等 S19A20の傾斜面上プロットを少量含む。炭化物を少量含む。(105SL-1)
- 10 105SL4 土の下の非炭化物層切取シット等 S19A20の傾斜面上プロットを少量含む。炭化物を少量含む。(105SL-1)
- 11 105SL4 土の下の非炭化物層切取シット等 S19A20の傾斜面上プロットを少量含む。炭化物を少量含む。(105SL-1)
- 12 105SL4 土の下の非炭化物層切取シット等 S19A20の傾斜面上プロットを少量含む。炭化物を少量含む。(105SL-1)
- 13 105SL4 土の下の非炭化物層切取シット等 S19A20の傾斜面上プロットを少量含む。炭化物を少量含む。(105SL-1)
- 14 105SL4 土の下の非炭化物層切取シット等 S19A20の傾斜面上プロットを少量含む。炭化物を少量含む。(105SL-1)
- 15 105SL4 土の下の非炭化物層切取シット等 S19A20の傾斜面上プロットを少量含む。炭化物を少量含む。(105SL-1)
- 16 105SL4 土の下の非炭化物層切取シット等 S19A20の傾斜面上プロットを少量含む。炭化物を少量含む。(105SL-1)
- 17 105SL4 土の下の非炭化物層切取シット等 S19A20の傾斜面上プロットを少量含む。炭化物を少量含む。(105SL-1)
- 18 105SL4 土の下の非炭化物層切取シット等 S19A20の傾斜面上プロットを少量含む。炭化物を少量含む。(105SL-1)
- 19 105SL4 土の下の非炭化物層切取シット等 S19A20の傾斜面上プロットを少量含む。炭化物を少量含む。(105SL-1)
- 20 105SL4 土の下の非炭化物層切取シット等 S19A20の傾斜面上プロットを少量含む。炭化物を少量含む。(105SL-1)
- 21 105SL4 土の下の非炭化物層切取シット等 S19A20の傾斜面上プロットを少量含む。炭化物を少量含む。(105SL-1)
- 22 105SL4 土の下の非炭化物層切取シット等 S19A20の傾斜面上プロットを少量含む。炭化物を少量含む。(105SL-1)
- 23 105SL4 土の下の非炭化物層切取シット等 S19A20の傾斜面上プロットを少量含む。炭化物を少量含む。(105SL-1)
- 24 105SL4 土の下の非炭化物層切取シット等 S19A20の傾斜面上プロットを少量含む。炭化物を少量含む。(105SL-1)
- 25 105SL4 土の下の非炭化物層切取シット等 S19A20の傾斜面上プロットを少量含む。炭化物を少量含む。(105SL-1)
- 26 105SL4 土の下の非炭化物層切取シット等 S19A20の傾斜面上プロットを少量含む。炭化物を少量含む。(105SL-1)
- 27 105SL4 土の下の非炭化物層切取シット等 S19A20の傾斜面上プロットを少量含む。炭化物を少量含む。(105SL-1)
- 28 105SL4 土の下の非炭化物層切取シット等 S19A20の傾斜面上プロットを少量含む。炭化物を少量含む。(105SL-1)
- 29 105SL4 土の下の非炭化物層切取シット等 S19A20の傾斜面上プロットを少量含む。炭化物を少量含む。(105SL-1)
- 30 105SL4 土の下の非炭化物層切取シット等 S19A20の傾斜面上プロットを少量含む。炭化物を少量含む。(105SL-1)
- 31 105SL4 土の下の非炭化物層切取シット等 S19A20の傾斜面上プロットを少量含む。炭化物を少量含む。(105SL-1)
- 32 105SL4 土の下の非炭化物層切取シット等 S19A20の傾斜面上プロットを少量含む。炭化物を少量含む。(105SL-1)
- 33 105SL4 土の下の非炭化物層切取シット等 S19A20の傾斜面上プロットを少量含む。炭化物を少量含む。(105SL-1)
- 34 105SL4 土の下の非炭化物層切取シット等 S19A20の傾斜面上プロットを少量含む。炭化物を少量含む。(105SL-1)

199SL・
213SK・
214SP



- 1 199SL 1/1 炭化物層切取シット等 炭化物を豊富に含む(214SP)。(199SL)
- 2 105SL22 炭化物層切取シット等 炭化物を少量含む。(199SL)
- 3 105SL4 炭化物層切取シット等 中一級の角礫を含む。炭化物を少量含む。(199SL)
- 4 105SL22 炭化物層切取シット等 105SL22の傾斜面上土層シットプロットを含む。炭化物を少量含む。(213SK)
- 5 105SL22 炭化物層切取シット等 炭化物を少量含む。柱穴(214SP)
- 6 105SL22 炭化物層切取シット等 炭化物を少量含む。炭化物を少量含む。(199SL)
- 7 105SL22 炭化物層切取シット等 105SL22の傾斜面上土層シットプロットを含む。大級の角礫を含む。炭化物を少量含む。(214SP)
- 8 105SL22 炭化物層切取シット等 105SL22の傾斜面上土層シットプロットを少量含む。炭化物を少量含む。層(214SP)

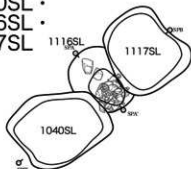
図 52 105SL(2)・199SL S=1/50

0 5=150 1m

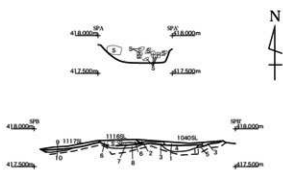
1040SL 3134 グリッドに位置する、3基が切りあった炉跡群である。それぞれ約1.2×1.0m、
 1116SL約0.9×0.8m、約1.1×1.0mと似通った規模を持ち、平面形状は不整形ながら隅丸方形
 1117SLである。3基とも炭化物の堆積と被熱によると思われる硬化面が確認されており、3基
 の中で最も古い1116SLでは礫がまとまって出土する。1040SLから鉄製品が出土する
 ことから、鍛造遺構とも考えうる。出土遺物はないため時期は不明であるが、周辺の遺
 構から中近世のものと考えられる。

1174SL 3134 グリッド、1117SLの北東に位置する、長軸1.7m、短軸1.3mの楕円形の炉跡で
 ある。1040SLから4基が連なる形となり、土坑1175SKを破壊して掘り込み、埋没後
 に柱穴1119SPが上から掘り込まれる。被熱痕のある礫がまとまって出土するが、被熱
 による硬化面などは確認できない。1040SL等と同様に出土遺物はないものの、同じく
 中近世の遺構と考えられる。

1040SL・
 1116SL・
 1117SL

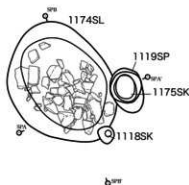


1. 10VRS/4 北の1-隅部彩色磁器片群シムト層 10VRS/2彩色土ブロックを少量含む、炭化物を少量含む。(1040SL)
2. 10VRS/2 炭化物土見シムト層 10VRS/4北の1-隅部彩色土ブロックを少量含む、中級の角礫を少量含む。(1040SL)
3. 10VRS/2 北の1-隅部彩色土見シムト層 炭化物を少量含む。(1040SL)
4. 5VRS/6 彩色磁器片群シムト層 中級の角礫を多く含む、炭化土塊あり。
5. 10VRS/4 彩色土見シムト層 大級の角礫を多く含む。



6. 10VRS/2 彩色土見シムト層 中-大級の角礫を多く含む。(1116SL)
7. 10VRS/2 北の1-隅部彩色土見シムト層 (1116SL)
8. 5VRS/6 彩色磁器片群シムト層 中-大級の角礫を多く含む、炭化土塊あり。
9. 10VRS/2 彩色土見シムト層 10VRS/4北の1-隅部彩色土見シムト層を少量含む。(1117SL)
10. 7SVRS/6 彩色磁器片群シムト層 炭化土塊あり。
11. 10VRS/4 北の1-隅部彩色土見シムト層 礫あり。

1119SP・1174SL・1175SK



1. 10VRS/2 彩色土見シムト層 5VRS/6彩色磁器片群土ブロックを少量含む、10VRS/4北の1-隅部彩色土見シムト層を多く含む。(1119SP)
2. 10VRS/2 彩色土見シムト層 10VRS/2彩色土ブロックを多く少量含む、10VRS/4北の1-隅部彩色土見シムト層を少量含む、大級の角礫を少量含む、掘り方。(1119SP)
3. 7SVRS/6 彩色土見シムト層 7SVRS/6彩色土ブロックを少量含む、中級の角礫を少量含む。(1174SL)
4. 10VRS/2 彩色土見シムト層 2SVRS/6彩色土ブロックを多く含む、10VRS/4北の1-隅部彩色土見シムト層を多く含む、中-大級の角礫を多く含む。(1174SL)
5. 10VRS/2 彩色土見シムト層 10VRS/2彩色土見シムト層を少量含む、10VRS/2彩色土見シムト層を少量含む、大級の角礫を多く含む。(1174SL)
6. 10VRS/2 彩色土見シムト層 大-巨級の角礫を多く含む。(1174SL)
7. 10VRS/4 彩色土見シムト層 10VRS/4北の1-隅部彩色土見シムト層を少量含む、大級の角礫を多く含む。(1174SL)
8. 2SVRS/6 彩色磁器片群シムト層 大級の角礫を多く含む。(1174SL)
9. 10VRS/2 北の1-隅部彩色土見シムト層 10VRS/2彩色土見シムト層を少量含む、炭化土塊あり。(1174SL)
10. 10VRS/4 北の1-隅部彩色土見シムト層 礫あり。

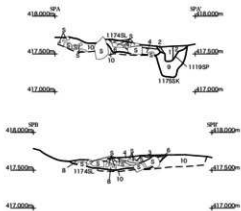


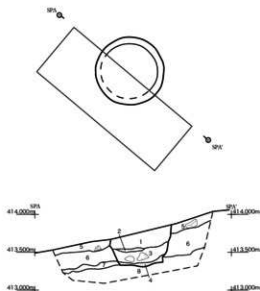
図 53 1040SL～1174SL S=1/50



第7節 井戸跡

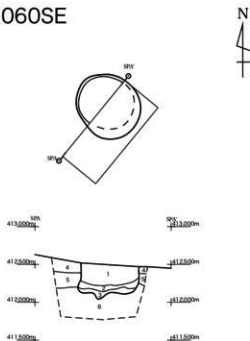
- 1 4 区 14区では、調査区北西部に6基が確認された。南東に向けて傾斜する谷地形の凹部に位置しており、湧水しやすい地点に掘られたものと思われる。構造は全て素掘りで、出土遺物はなく時期は不明である。
- 14区 058SE 3929 グリッドに位置する直径約 0.9m、深さ 0.7m 以上の井戸跡である。上層には砂、下層には粘土が堆積する。
- 14区 059SE 3930 グリッドに位置する直径約 0.9m、深さ 0.1m 以上の井戸跡である。
- 14区 060SE 4030 グリッドに位置する直径約 0.9m、深さ 0.5m 以上の井戸跡である。上層には砂、下層には粘土が堆積し、鉄分の沈着が多く見られる。
- 14区 061SE 3930 グリッドに位置する直径約 1.0m、深さ 0.4m 以上の井戸跡である。下部がやや袋状に広がる構造を持つ。
- 14区 327SE 4030 グリッドに位置する直径約 1.0m、深さ 1.2m 以上の井戸跡である。堆積は粘土質土が中心で、底部に向かって徐々に径が狭まる。
- 14区 328SE 4030 グリッドに位置する直径約 0.7m、深さ 0.8m 以上の井戸跡である。堆積状況、構造など 327SE との類似点が多い。

14区058SE



1. 10VRS/4 におい黄褐色中粒砂層 腐植砂多く含む。鉄化物少量含む。
2. 10VRS/4 におい黄褐色中粒砂層
3. 10VRS/2 におい黄褐色粘土質シルト層 中粒砂、大層含む。
4. 10VRS/2 におい黄褐色粘土層
5. 10VRS/4 黄褐色粘土質シルト層 腐植砂
6. 10VRS/2 黄褐色粘土質シルト層 腐植砂、中粒砂、小層含む。
7. 10VRS/4 黄褐色粘土層 中粒砂、腐植砂多く含む。
8. 10VRS/6 黄褐色粘粒砂層 鉄一中層を多量に多く含む。

14区060SE



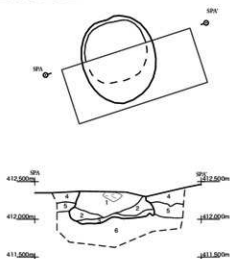
1. 10VRS/4 におい黄褐色中粒砂層 粘土ブロック含む。鉄質、鉄化物含む。
2. 10VRS/4 におい黄褐色粘粒砂シルト層 中粒砂多く含む。鉄質含む。
3. 10VRS/4 におい黄褐色粘粒土層 鉄質、鉄化物含む。
4. 10VRS/3 黄褐色粘土質シルト層 腐植砂、腐植砂、腐植砂。
5. 10VRS/6 黄褐色粘土層 腐植砂、一層含む。
6. 10VRS/6 黄褐色粘粒砂層 鉄一中層を多量に多く含む。

図54 14区058SE・14区060SE S=1/50

0 S=1/50 1m

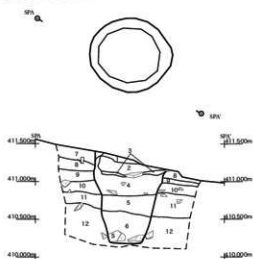
- 1 9 B 区 令和元年度調査で検出された井戸は3基で、全て19B区に所在する。
- 1 8 1 S E 4027グリッドの谷地形斜面部に位置する、最大径約1.4m、深さ0.8m以上の不整形形の素掘り井戸である。出土遺物がなため時期は不明である。
- 2 1 2 S E 4027グリッド、谷地形斜面部の傾斜の緩く平場状になった一角に位置する、長径約1.4m、短径約1.2m、深さ1.7m以上の楕円形の井戸である。構造は上下3段に分かれ、上段はマツ属複雑管束亜属の板材を立てて円形に並べ、少なくとも1条の簀で固定していたことが痕跡から確認できる。また、北東側では板材の外側に裏込めのように礫を詰めた様子が観察できる。中段は礫を円形に積み上げるもので、最上段は上段の板材を据

14区061SE



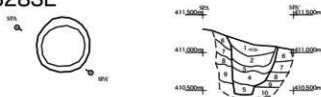
- 10VRS/4 土間の溝埋め土質シルト層 中硬砂、礫砂少量含む、大入礫層含む。
- 10VRS/4 土間の溝埋め土質シルト層 中硬砂多く含む、灰砂、灰化層含む。
- 10VRS/4 土間の溝埋め土質シルト層 灰砂、礫砂を含む。
- 10VRS/2 溝埋め土質シルト層 腐植砂、礫砂、腐植砂を含む、腐植砂を含む。
- 10VRS/2 溝埋め土質シルト層 中一硬砂を含む。
- 10VRS/2 溝埋め土質シルト層 中一硬砂多く含む。

14区327SE



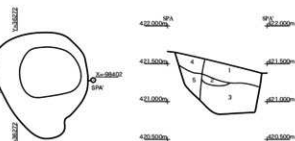
- 10VRS/1 反斜形埋め土質シルト層 腐植砂、礫砂を含む。
- 10VRS/1 反斜形埋め土質シルト層 腐植砂、礫砂を含む。
- 10VRS/2 反斜形埋め土質シルト層 腐植砂、礫砂を含む。
- 10VRS/1 反斜形埋め土質シルト層 腐植砂、礫砂を含む、中一硬砂を含む。
- 10VRS/1 反斜形埋め土質シルト層 腐植砂、礫砂を含む、中一硬砂を含む。
- 10VRS/2 反斜形埋め土質シルト層 腐植砂、礫砂を含む、中一硬砂を含む。
- 10VRS/2 反斜形埋め土質シルト層 腐植砂、礫砂を含む、中一硬砂を含む。
- 10VRS/2 反斜形埋め土質シルト層 腐植砂、礫砂を含む、中一硬砂を含む。
- 10VRS/2 反斜形埋め土質シルト層 腐植砂、礫砂を含む、中一硬砂を含む。
- 10VRS/2 反斜形埋め土質シルト層 腐植砂、礫砂を含む、中一硬砂を含む。
- 10VRS/2 反斜形埋め土質シルト層 腐植砂、礫砂を含む、中一硬砂を含む。
- 10VRS/2 反斜形埋め土質シルト層 腐植砂、礫砂を含む、中一硬砂を含む。

14区328SE



- 10VRS/3 土間の溝埋め土質シルト層 腐植砂、中硬砂、大礫層を含む。
- 10VRS/4 土間の溝埋め土質シルト層 腐植砂、小礫層を含む。
- 10VRS/2 反斜形埋め土質シルト層 腐植砂、礫砂を含む、中一硬砂を含む。
- 10VRS/3 溝埋め土質シルト層 腐植砂、礫砂を含む、中一硬砂を含む。
- 10VRS/3 溝埋め土質シルト層 腐植砂を含む。
- 10VRS/4 溝埋め土質シルト層 腐植砂を含む。
- 10VRS/4 溝埋め土質シルト層 腐植砂を含む。
- 10VRS/4 溝埋め土質シルト層 腐植砂を含む、中一硬砂を含む。
- 10VRS/4 溝埋め土質シルト層 腐植砂、礫砂を含む、中一硬砂を含む。

181SE



- 10VRS/1 溝埋め土質シルト層
- 10VRS/2 溝埋め土質シルト層 大礫の夾層層を含む、灰砂の夾層層を含む。
- 10VRS/1 溝埋め土質シルト層
- 10VRS/2 溝埋め土質シルト層 大礫の夾層層を含む。
- 10VRS/2 溝埋め土質シルト層 大礫の夾層層を含む。

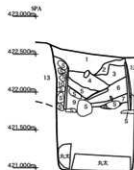
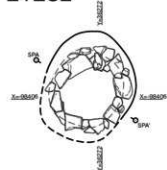
図 55 14区061SE～14区328SE、181SE S=1/50



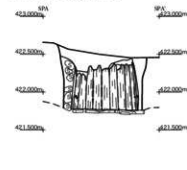
えるため、上面が平滑な礫が選択されている。下段は加工したカエデ属の丸太材を方形に組む。出土遺物には江戸時代前半と思われる水滴があるが、連房式第7小期に比定される尾呂茶碗やそれ以後の時期の仏納具が含まれるため、廃絶時期は江戸後期と考えられる。

2 2 2 S E 3727 グリッドの谷地形の中心部近くに位置する、直径約1.6m、深さ5.0m以上の円形の素掘り井戸である。出土遺物がなく、また他の井戸と比べて深すぎるため、井戸ではないか、または近現代に属する掘り込みである可能性も考えられる。

212SE

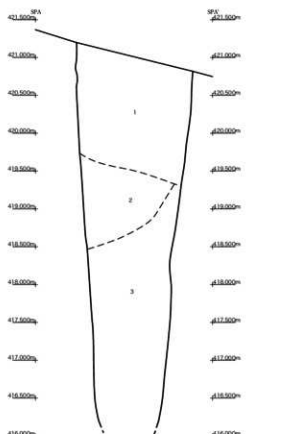
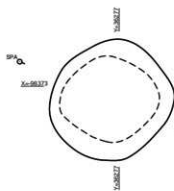


212SE 上段部立面



1. 10VW4/2 炭酸カルシウム結晶付砂質凝結砂層 中→大礫の肉厚を多く含む。
2. 10VW5/2 炭酸カルシウム結晶付シルト層
3. 10VW6/2 炭酸カルシウム結晶付シルト層 縦層を少量含む。木炭を少量含む。
4. 10VW7/2 炭酸カルシウム結晶付シルト層 木炭・木炭を含む。
5. 10VW8/2 炭酸カルシウム結晶付砂質凝結砂層 大礫の肉厚を含む。木炭を含む。
6. 10VW9/2 炭酸カルシウム結晶付シルト層 木炭・木炭を含む。
7. 10VW4/1 凝結炭土層
8. 7.5VW4/1 凝結炭土層 凝結炭土層 大礫の肉厚を多く含む。
9. 10VW5/1 凝結炭土層 凝結炭土層 大礫の肉厚を多く含む。
10. 10VW6/1 炭酸カルシウム結晶付シルト層 大礫の肉厚を含む。
11. 2.5V4/2 炭酸カルシウム結晶付シルト層
12. 2.5V4/2 炭酸カルシウム結晶付砂質凝結砂層
13. 10VW9/1 凝結炭土層 凝結炭土層 中→大礫の肉厚を含む。

222SE



1. 10VW3/3 凝結炭土層シルト層 中→大礫の肉厚を含む。
2. 10VW2/2 凝結炭土層シルト層 10VW6/1の凝結炭土層シルト層とプロットを含む。
3. 10VW3/2 凝結炭土層シルト層

図56 212SE・222SE S=1/50



第8節 土葬土坑墓

- 1 9 A 区 万瀬遺跡では19A区で土葬土坑墓が4基確認されている。構造上の特徴としては隅丸方形または隅丸長方形の平面形、床面がほぼ平坦であることが挙げられ、出土遺物には副葬品と考えられる銭貨、煙管が含まれる。焼土・炭化物など火葬を思わせる特徴は見られず、棺の類に関しても痕跡は確認されていない。
- 2 1 7 8 S Z 3833 グリッドに位置する長軸約1.1m、短軸約0.6mの隅丸長方形の土葬土坑墓である。出土遺物は北宋銭のみで、帰属時期は中世となる。
- 2 2 2 4 S Z 3831・3832 グリッドにまたがって位置する、長軸約1.0m、短軸約1.0mの隅丸方形の土葬土坑墓である。床面上、中央部付近で煙管と銭貨、やや東に離れた位置で銭貨が出土しており、出土する銭貨から時期は18世紀以降と考えられる。
- 2 3 2 6 S Z 3435 グリッドに位置する長軸1.0m、短軸0.9m以上の不整形の土葬土坑墓である。床面上およびやや浮いた位置で銭貨が出土しており、時期は18世紀以降と考えられる。
なお、南西に隣接する2333SKは2326SZと形状・規模が類似しているものの、副葬品類の出土が確認できなかったため単純な土坑とした。
- 2 4 6 4 S Z 3435 グリッドに位置する長軸1.1m、短軸0.8mの隅丸方形の土葬土坑墓である。床面上で煙管の雁首・羅字部が出土する。
2464SZの東に位置する2465SDでは煙管吸口部が出土しており、2464SDの雁首・吸口部と組み合わせる可能性がある。あるいは、2465SDに破壊されている2373SKが土葬土坑墓であった可能性も考えられる。

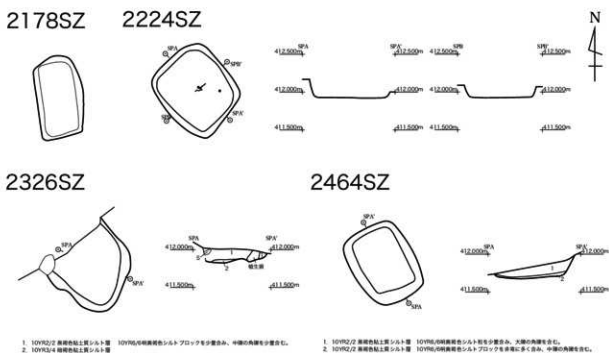


図 57 2224SZ ~ 2464SZ S=1/50

0 5m 1.50 3m

第9節 その他の遺構・自然地形

1 4 区 3930 グリッドを中心に、東西約 12.8m、南北約 9.8m の範囲に広がる集石遺構である。001SX ～ 礫の分布には一定のまとまりが見られるため、それぞれ 001SX ～ 006SX とし、001SX 006SX はさらに 001SX-1 ～ 3 に細分した。礫は大部分が角礫で、最下部では敲打痕・被熱痕のある礫も確認されている。縄文時代後期中葉から後期末を中心とした土器や磨石・敲打石類、打製石斧がまもって出土しており、特に 001SX の範囲に集中する。下層から

14区001SX～006SX

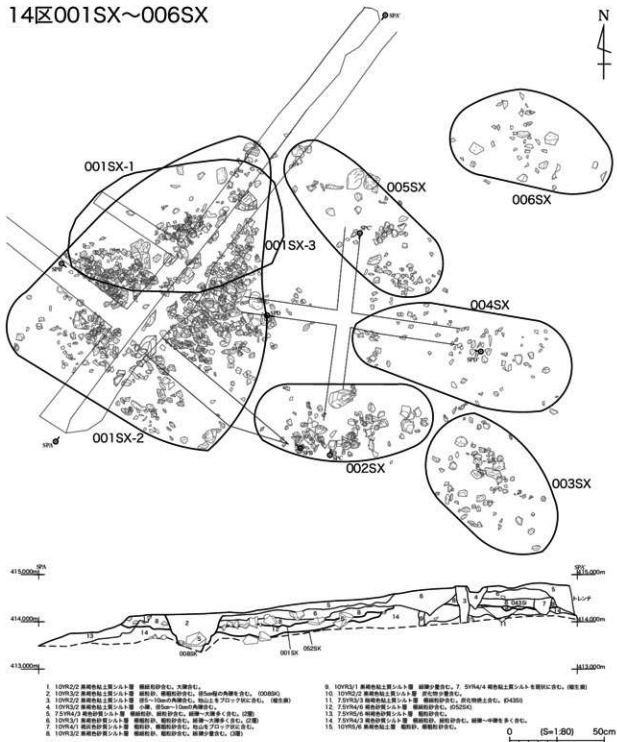
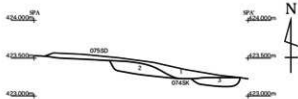
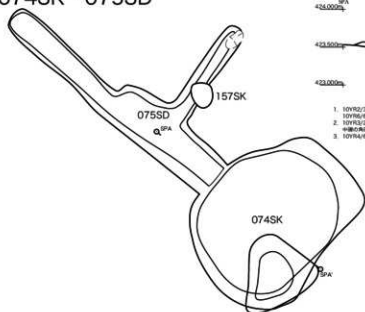


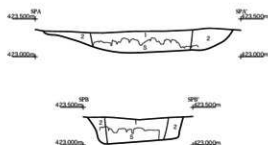
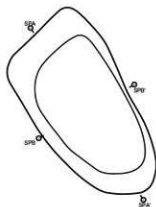
図 58 14区 001SX ～ 14区 006SX(1) S=1/80

074SK・075SD



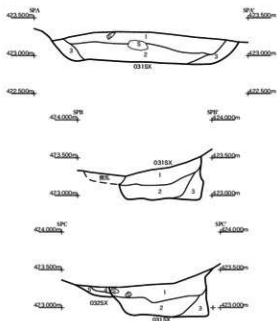
1. 10YR2/3 黒褐色シルト層 10YR6/6暗褐色粘土質シルト層が少量あり、中～大礫の角礫を含む。(075SD)
2. 10YR2/3 黒褐色シルト層 10YR6/6暗褐色粘土質シルト層が少量あり、中礫の角礫を含む。大礫の角礫も多少あり。(074SK)
3. 10YR4/6 褐色シルト層 10YR3/3暗褐色土質シルト層が少量あり、中礫の角礫を含む。(074SK)

017SX



1. 10YR2/3 黒褐色粘土質シルト層 中～大礫の角礫を含む。
2. 10YR3/3 暗褐色粘土質シルト層 10YR6/6暗褐色粘土質シルト層が少量あり、中～大礫の角礫を含む。

031SX・032SX



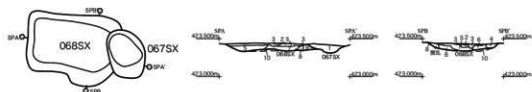
1. 10YR2/3 黒褐色粘土質シルト層 中～大礫の角礫を含む。(031SX)
2. 10YR2/3 黒褐色粘土質シルト層 10YR6/6暗褐色粘土質シルト層が少量あり、中～大礫の角礫を含む。(031SX)
3. 10YR2/3 黒褐色粘土質シルト層 10YR6/6暗褐色粘土質シルト層を含む。(031SX)
4. 10YR2/3 黒褐色粘土質シルト層 10YR6/6暗褐色粘土質シルト層が少量あり。(032SX)
5. 10YR3/3 暗褐色シルト層 10YR6/6暗褐色粘土質シルト層が少量あり。(032SX)

図 60 075SD・017SX・031SX・032SX S=1/50

081NR 3627 から 3829 グリッドにわたって流れる谷地形である。位置関係上、14 区を北西から南東へ流れる谷地形に接続するものと考えられる。平面図には堆積層の断面記録を行った地点付近を抜粋した。全体像は巻末調査区平面図を参照されたい。

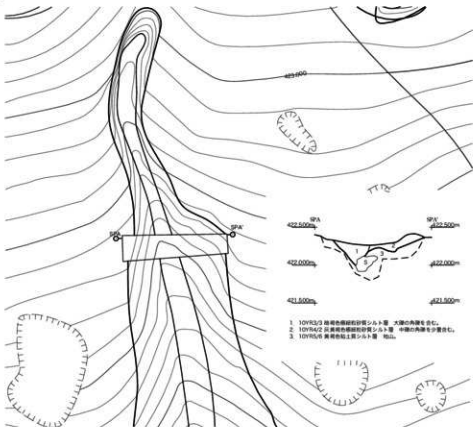
埋土には大量の礫とともに縄文時代晩期～弥生時代前期の土器片がまぎれ込んで含まれるが、連房式期の陶器も含まれるほか、14 区では中世以降の遺構を覆っていたことから、081NR は近世に埋没したものであり、土器については二次堆積によるものと考えられる。

067SX・068SX



- | | |
|---|--|
| <ol style="list-style-type: none"> 1. 1079A② 濃い黄褐色腐植質シルト層 腐植質を少量含む。埋土ブロックを少量含む。(067SX) 2. 7359A④ 褐色シルト層 中層にブロックを少量含む。(068SX) 3. 1079B② 黄褐色腐植質シルト層 1079A/1079B黄褐色粘土質シルト層トップ層をのみ、中層の内層をのみ。埋土ブロックを多く含む。埋土ブロックを多く含む。(068SX) 4. 7359A④ 褐色シルト層 埋土ブロックを少量含む。(068SX) 5. 1079B④ 黄褐色シルト層 中層の内層をのみ。腐植質を少量含む。埋土ブロックを少量含む。(068SX) | <ol style="list-style-type: none"> 6. 7359A④ 褐色シルト層 埋土をのみ。(068SX) 7. 1079A④ 褐色シルト層 埋土ブロックをのみ。(068SX) 8. 7359A④ 褐色腐植質シルト層 9. 7359A④ 褐色腐植質シルト層をのみ。埋土ブロックをのみ。(068SX) 10. 1079A④ 褐色シルト層 1079B④黄褐色腐植質シルト層トップ層を多く含む。(068SX) 11. 1079B④ 黄褐色粘土質シルト層 埋土 |
|---|--|

081NR



1. 1079B② 黄褐色腐植質シルト層 中層の内層をのみ。
2. 1079A② 黄褐色腐植質シルト層 中層の内層を少量含む。
3. 1079B④ 黄褐色粘土質シルト層 埋土。

図 61 067SX・068SX・081NR S=1/50

2500SX 19A区北部、3434グリッドから3536グリッドにかけて広がる、浅い自然の谷地形に形成された包含層である。出土遺物には土器、石器があり、土器は縄文時代草創期～早期前半のものがまとめて出土する。石器は石鏃、礫器、剥片・石核類、磨石・敲石類、石皿・台石類などがあり、下層では草創期に遡る有舌尖頭器と木葉形尖頭器が各1点出土した。土器の時期は2500SXの北西に位置する竪穴建物群1700～1740SIや19C区・19A区に点在する竪穴と一致しており、それらの集落に対する捨て場として自然の谷地形を利用していた様子が想定できる。

2500SX

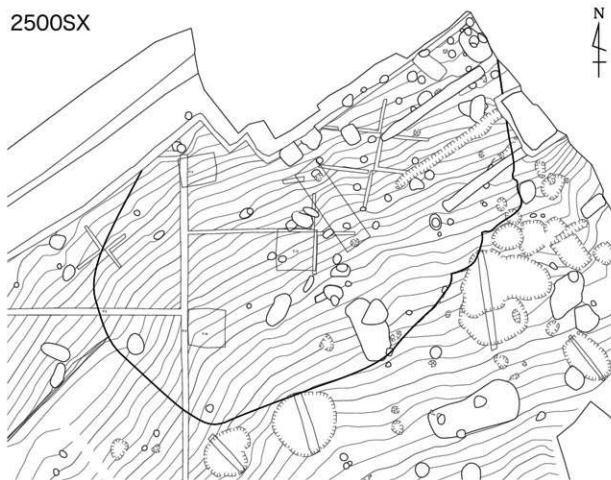


図62 2500SX S=1/200

第3章 遺物

第1節 土器

川添和純

万瀬遺跡では、総計900点程度、総重量8,930.5gの土器が出土している。第2章の各遺構で報告したように、14区では縄文時代後期中葉・後期末、19B区では縄文時代晩期～弥生時代前期、19A区および19C区では縄文時代草創期～早期の土器がまとめて出土した。また、19B区では土坑内から弥生時代後期の資料も出土している。

時期別に群分けをすると以下のようになる。遺物図面は、遺構順などの出土状況に基づく配列となっているため、出土時代・時期の様相は、表3を参照されたい。なお、破片数などの集計は、残存径1cm以上の資料を対象に実施した。

表3 万瀬遺跡出土縄文土器・弥生土器分類群別一覧

群大別	群組別	総破片数	総重量(g)	調査資料番号(調査番号)
第1群土器 縄文時代草創期～早期前半【深埋もしくは浅埋】	A 縄文縄文土器 (表裏縄文・押捺縄文など)	6	1175.7	309・406・408・424・428・438
	B ネガティブ押型土器	48	314.9	371・372・373・374・375・376・377・378・379・380・381・382・383・385・386・391・392・393・394・395・396・397・403・404・407・409・410・411・412・413・414・415・416・417・418・419・420・421・436・437
	C 山形押型土器	2	7.0	405・422
	D ポジティブ押型土器 (門・櫛門)	1	23.4	367
	E 標末土器	3	14.6	370・423・426
	F その他土器1	4	207.0	398・399・400・401
	G その他土器2	10	54.2	425・427・429・430・431・432
第2群土器 縄文時代早期後半【深埋もしくは浅埋】	A	2	8.7	402
第3群土器 縄文時代中期初頭および後半【深埋もしくは浅埋】	A 縄文時代中期初頭土器	2	16.6	301・302
B 縄文時代中期後半土器	2	47.5	206・288	
第4群土器 縄文時代後期前期～中葉前半【深埋もしくは浅埋】	A 口縁部・胴部 有文土器	78	511.9	1・2・3・4・6・7・8・9・10・11・12・13・14・15・16・17・18・19・20・21・22・23・24・25・26・27・102・105・125・126・127・128・130・131・132・138・168・174・179・180・184・185・186・187・188・189・190・191・192・193・194・195・196・197・198・199・200・201・202・203・204・208・303・304・305・384・435
	B 口縁部・胴部 地文・調整痕のみの土器 (いわゆる無文土器)	203	1184.0	28・29・30・31・32・33・34・35・36・37・38・39・40・41・42・43・44・46・47・48・49・50・51・52・53・54・55・56・57・58・59・60・62・63・68・89・91・93・94・95・98・99・101・103・109・110・111・112・113・114・115・135・136・138・139・140・144・145・146・147・149・152・163・165・166・170・175・176・177・207・208・209・210・211・212・213・214・215・216・217・218・219・220・221・222・223・224・225・227・228・230・231・232・235・236・237・238・240・241・242・243・244・245・246・247・249・250・251・254・256・257・258・259・260・261・265・266・267・268・278・279・280・283・287・290・291・292・293・295・296・297・308・311・334・387・388・390・433・434・439
	C 裝飾部	1	14.8	272
第5群土器 縄文時代後期後葉～末【深埋もしくは浅埋】	A 有文土器	8	100.6	5・6・133・134・203・204・205・285
B 地文・調整痕のみの土器	40	488.7	45・96・106・107・129・137・142・143・151・153・154・155・157・158・159・160・161・162・164・169・229・233・248・253・255・282・284・286・289・306・307・309・310	
第6群土器 縄文時代後期末以前の浅埋もしくは浅埋	A	7	65.4	61・167・269・354・355・357・389
第7群土器 縄文時代後期末以前の浅埋もしくは浅埋	A 口縁部・胴部	53	110.8	64・65・67・68・69・70・71・72・73・74・75・76・77・78・79・80・90・100・117・118・119・120・121・122・123・178・181・183・262・271・273・274・281・299・300・368
B 注口部	4	57.2	66・116・270	
第8群土器 縄文時代後期中葉～弥生時代前期・中期前半	A 深埋もしくは浅埋	97	1731.3	104・141・148・150・156・225・234・239・252・313・314・315・316・317・318・319・320・321・322・323・324・325・326・327・328・329・330・331・332・333・335・336・337・338・340・341・342・343・344・345・346・347・348・349・350・351・352・353・356・360・361
	B 浅埋あるいは浅埋	1	9.3	312
	C 壺	2	39.2	309・358
第9群土器 縄文時代後期～弥生時代前期・中期前半		258	2084.2	
第10群土器 弥生時代【深埋・浅埋・注口土器】		25	354.8	81・82・83・84・85・86・87・92・97・108・124・171・172・173・182・275・276・277・294・350・440
第11群土器 弥生時代後期【壺・甕・高杯】		6	208.2	362・363・364・365・366

以下、各土器群の特徴的なものについて報告する。

第1群土器 縄文時代草創期～早期前半【深鉢もしくは鉢】

第1群土器-A 縄文施文土器（表裏縄文・押捺縄文など）

369は深鉢小片で、表面に押捺縄文が認められる。406は表面が少々荒れているが、表裏に回転縄文が施されているか。408は口縁部から胴部下半までである本遺跡で最も残存状況が良好な土器である。口縁端部がやや尖る形状の砲弾形の深鉢で、口縁部は緩やかな小波状を呈するか。表裏には回転縄文が施されており、表面（外面）は全面、裏面（内面）は口縁部に集中している。原体も、表面はLRを主体とする一方、内面はrやRLがあるなど、複数の異なる燃りの原体が用いられていたようである。胎土は厚さが5～7mm程度と薄手である。424は深鉢胴部で、表面に回転縄文が認められる。428はやや外反する深鉢口縁部で、口縁端部と器面表裏ともにLRによる回転縄文が施されている。表面では表面が剥落した部分にも縄文が認められ、粘土の輪積み中にも回転縄文が施されていたことが分かる。408と比較すると器壁はやや厚手であり、草創期にさかのぼる可能性がある。438は胴部片で、RLによる回転縄文が認められる。

第1群土器-B ネガティブ押型文土器（方形あるいは長菱形）

372・417は深鉢口縁部、それ以外は深鉢胴部である。押型文は表面（外面）側のみであり、395はやや菱形に近い形状を呈しているものの、その他の押型文は細長い長方形が連続して認められる。押型文は互い違い状に出現するものが多いものの、381は押型文の端部が一直線上に存在する。これらは、概ね大川式の新段階に比定されるものと考えられ、万瀬遺跡において縄文時代早期土器の主体となるものである。

第1群土器-C 山形押型文土器

405・422ともに深鉢胴部小片である。特に422は立野式に比定されるものと考えられる。

第1群土器-D ポジティブ押型文土器（円・楕円）

367は深鉢胴部で、下半部分と推測される。楕円の形状が小さく、より正円に近い。胎土に繊維を含む。黄島式に比定されるものであろう。

第1群土器-E 燃糸文土器

370は深鉢口縁部で、表面には ℓ 燃りの燃糸文が施されている。内面にも浅いながらも同様の痕跡があり、燃糸文が施されていた可能性があるか。423は表面にRLによる燃糸文が認められる。426は原体が細かいものの、r燃りの燃糸文が施されている。

第1群土器-F その他土器1

398～401は同一個体の土器片で、最も残存が良好なものは口縁部形状の明らかな398である。口縁端部に向かって直立気味に立ち上がる形状を呈する深鉢で、胎土に繊維を含む厚手の土器である。口縁端部と表面（外面）には径5～7mm程度の浅くて楕円状の粒が連なった状態の原体が回転施文されている。原体は太い繊維による縄文もしくは枝とも考えられる。口縁端部には補修孔が認められる。

第1群土器-G その他土器2

425は深鉢胴部片で、外面の文様は長い押型文のようにも短い条痕のようにも観察できる。427も深鉢胴部片で、外面には微隆起伏の貼付が認められる。429は口縁部片で、表裏ともにナデ調整で、胎土には繊維を含む。430・431も表裏ともにナデ調整で、430の器面は平滑な状態である。

第2群土器 縄文時代早期後半【深鉢もしくは鉢】

402は胴部小片で、表裏ともにナデ調整である。胎土には繊維を含むものである。文様・調整の特徴認められず、ここでは早期後半まで下る可能性をしているが、第1群土器に含まれる可能性も否定できない。

第3群土器 縄文時代中期初頭および後半【深鉢もしくは鉢】

第3群土器-A 縄文時代中期初頭土器

301・302は同一個体と考えられる。胴部屈曲部に横方向に凹線状の沈線が認められる。中期初頭の北裏C1式と考えられる。

第3群土器-B 縄文時代中期後半土器

206は深鉢胴部片で、幅太い隆帯が縦に貼り付けられている。288は口縁部から胴部への屈曲部で、屈曲部端を中心に弧状に隆帯が貼り付けられている。いずれも破片の範囲の中では縄文・沈線などの装飾は認められない。

第4群土器 縄文時代後期前葉～中葉前半【深鉢もしくは鉢】

第4群土器-A 口縁部・胴部 有文土器

沈線および縄文が施された有文土器を一括している。1・2は対向する弧状の沈線とそこから派生する横沈線が特徴的で、堀之内2式に比定されるものである。その他は、並行する2本沈線内やその中に縄文LRやRLが充填されているものなどがあり、概ね八王子式（八王子1式）に比定されるものと考えられる。7～9は大きな波状を呈する器形で、9では波頂部に上下刺突列が施されている。器面調整は一般的にはナデやケズリなどと言われるものであるが、数条が併走していたりするものが多く、報告書はかつて壊れたアカシなどでの器面調整の可能性を示したことがあり、これらを中型巻貝調整と呼称した（川添2017[※]）。この中型巻貝調整は、中期後半以降に散発的に登場し、後期後葉まで認められようであるが、後期前葉から中葉前半までの、いわゆる巻貝条痕が盛行するまでの時期が主体である。本群の器面調整はこの中型巻貝調整を基本とすると考えている。

第4群土器-B 口縁部・胴部 地文・調整痕のみの土器（いわゆる無文土器）

本群は、器形や上述したものと同様の器面調整の見られる資料を一括した。時期比定の可能な土器群の中ではこの群の資料が最も多い。

第4群土器-C 装飾部

272は角状に突出する把手で、表側（外側）と裏側（内側）からの盲孔が直交方向に施されている。この穿孔には渦を巻いているような工具痕跡がある。巻貝工具によるものの可能性が高い。加曾利B式の精製深鉢土器に見られる装飾に比定されるものである。

※ 川添和暁 2017「器面調整から見た土器様相—西尾市八王子貝塚出土土器を中心に—」

『東海縄文論集Ⅱ』pp.1～22 東海縄文研究会

第5群土器 縄文時代後期後葉～末【深鉢もしくは鉢】

第5群土器-A 有文土器

5は接合しない口縁2片である。口縁端部は直立する器形で、縄文LRの上に横方向になでられていない凹線が施されている。寺津下層式(神谷沢段階)に比定される。6は折り返しのある口縁端部で、表裏には巻貝による調整が認められる。133は弱い波状を呈する深鉢片で、表裏には巻貝条痕、口縁端部にはいわゆる区状工具による施文がある。134も同様の土器であるが平縁であることと、いわゆる櫛描文が弧状を呈する。この櫛描文は実際にはカワイイなどの巻貝による施文の可能性が高い。後期末伊川津2式に比定されるものである。203・204は凹線文土器で、凹線内がなでられているものである。元住吉山Ⅱ式に比定されるものである。一方、205は同じ凹線文土器でも、凹線内がなでられていないものである。こちらは宮滝式に比定されるものと考えられる。285は表裏および口縁端部上面にも巻貝条痕が施されており、口縁部にはなでられていない三条の凹線が併走する。伊川津1式に比定されよう。

第5群土器-B 地文・調整痕のみの土器(いわゆる無文土器)

この群の土器は、特に表面に巻貝条痕の認められるもので、裏面(内面)はナデのものもあるが、137・142・143など多くのものには巻貝条痕が施されている。この巻貝条痕調整は、東海地域では縄文時代後期中葉後半以降(西北出式・八王寺2式)以降、晩期中葉(桜井式)まで主体的に認められる調整技法であるが、特に後期後葉から晩期前葉にかけてが最も盛行する。

第6群土器 縄文時代後期末以前の浅鉢もしくは鉢

61・167・269・354・355・357は、器面調整がナデなどで施文などの加飾性が見られないものが多い。一方、389は横方向の沈線と格子目状の沈線が施されているもので、晩期前半の樞原系文様である可能性がある。

第7群土器 縄文時代後期末以前の壺もしくは注口土器

第7群土器-A 口縁部・胴部

壺形を呈する器形を一括した。残存破片でみると文様などでの装飾が施されている破片は多くはない。その中でも、文様の認められる2個体分のみを示しておく。64は、口縁部から胴部上半までと最も残存状況の良いものである。並行する2本沈線内に縄文LRが充填されているもので、口縁部の沈線端部には工具による押圧があり、中央にはV字状の沈線が認められる。口縁には突起が付いており、側面と上面からは工具による盲孔が施されている。盲孔には工具痕跡があり渦を巻いている。文様のない所では中型巻貝による器面調整痕が認められる。八王子式(八王子1式)に比定される。117～120は同一個体と考えられる。いずれも沈線区内面にLRの縄文が施されている。118は注口部との接点で、ここでは注口の根の部分で環状の文様構成となっている。

第7群土器-B 注口部

口縁部・胴部片の比べて注口部片の出土は極めて少ない。66は根の部分に扁平な貼付が認められるものである。116・270には、文様や装飾などは認められなかった。

第 8 群土器 縄文時代晩期中葉～弥生時代前期・中期前半

第 8 群土器 - A 深鉢もしくは鉢

二枚貝条痕を器面調整とする土器を集めた。当地では、二枚貝条痕は縄文時代晩期前半のある段階から出現し、晩期後半以降に盛行するようである。今回、最も残存状況の良い 317 について特に報告する。317 は胴部上半から下半、そして底部にかけて残存している個体である。土器棺墓であった可能性も否定できないが、谷内からの出土で、積極的に埋納状態にあったとすることもできなかった。表面（外面）は横方向を主体とする二枚貝条痕が、裏面（内面）にはナデ調整が主体となる。底部はごく若干の凹み状を呈するもので底部外面にも条痕調整で整えられているようである。後述するように、器面表面からは種実圧痕が複数確認された。時期は弥生時代前期の壜王式期になると思われる。

第 8 群土器 - B 浅鉢あるいは鉢

312 は口縁部で、端部に向かって内湾気味の器形となる。端部上面は凹み、外面も凹線状に凹む。一部に赤彩痕跡が認められる。

第 8 群土器 - C 壺

339 は口縁部から頸部片で、口縁端部に厚みがある。口縁部上端には工具による刺突列、外面には二枚貝条痕が施されている。弥生時代中期前半か。358 は大型壺の口縁部で、外反気味の形状で、端部外面には袋状突起帯が認められる。弥生時代前期水神平式と思われる。

第 9 群土器 縄文時代後期～弥生時代前期・中期前半【深鉢の胴部・口縁部】

詳細な時期の特定に至らなかった土器群を一括した。主に胴部片で、器面調整はナデのものが多い。第 4 群土器もしくは第 8 群土器に伴うものと考えられる。表 3 でも明らかなように、今回の出土資料の中では最も多くの点数・量を占める。

第 10 群土器 底部【深鉢・鉢・浅鉢・注口土器】

器種に関係なく底部を一括した。第 4 群土器・第 6 群土器・第 7 群土器に伴うものが主体であり、87・182 が壺もしくは注口土器の底部である以外は、深鉢・鉢・浅鉢である。底部外面には編組製品圧痕が多数認められる。編組技術で見るといずれも組み技術で、81 が 3 本越え・3 本潜り・1 本送りのゴザ目、83 が 2 本越え・2 本潜り・1 本送りのゴザ目、84 が網代、85 が 2 本越え・1 本潜り・1 本送りのゴザ目、87 が網代、108 が 2 本越え・2 本潜り・1 本送りゴザ目、124 が 2 本越え・2 本潜り・1 本送りゴザ目、173 が 2 本越え・2 本潜りのゴザ目で、172・276・277・400 には編組製品圧痕が認められるものの技術名は不明である。なお、294 には木葉痕が確認される。

第 11 群土器 弥生時代後期【壺・壺・高杯】

362 は壺胴部、363・364 は壺で 363 は口縁部側、364 は底部側である。365 も壺で底部、366 は高杯もしくは器台の脚部である。362・363 にはハケ目調整があり、366 には念密なタテミガキが施されている。いずれも欠山式に属するものと考えられる。



图63 土器 1 14区0015X出土(1) S=1/3

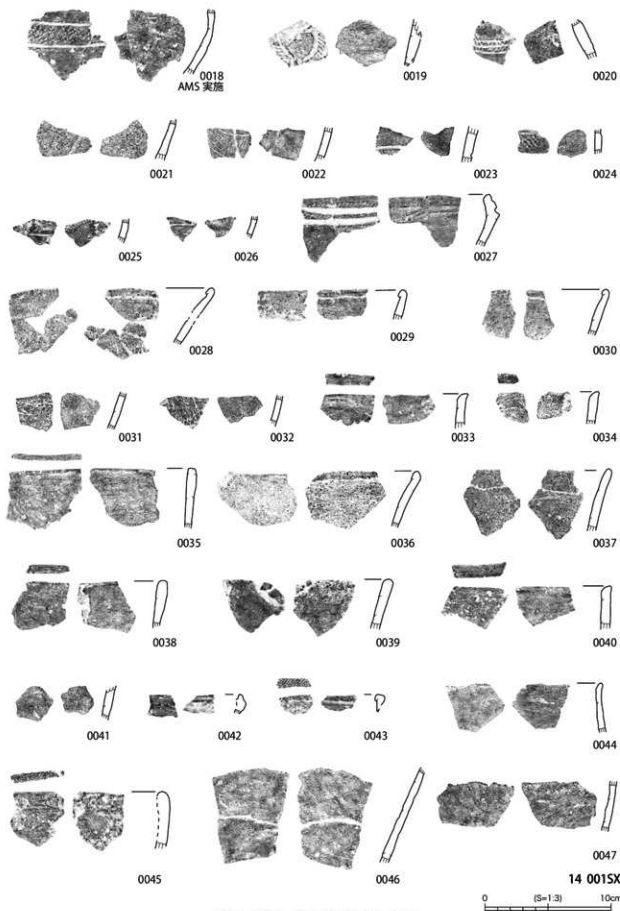


图 64 土器 2 14 区 0015X 出土 (2) S=1/3

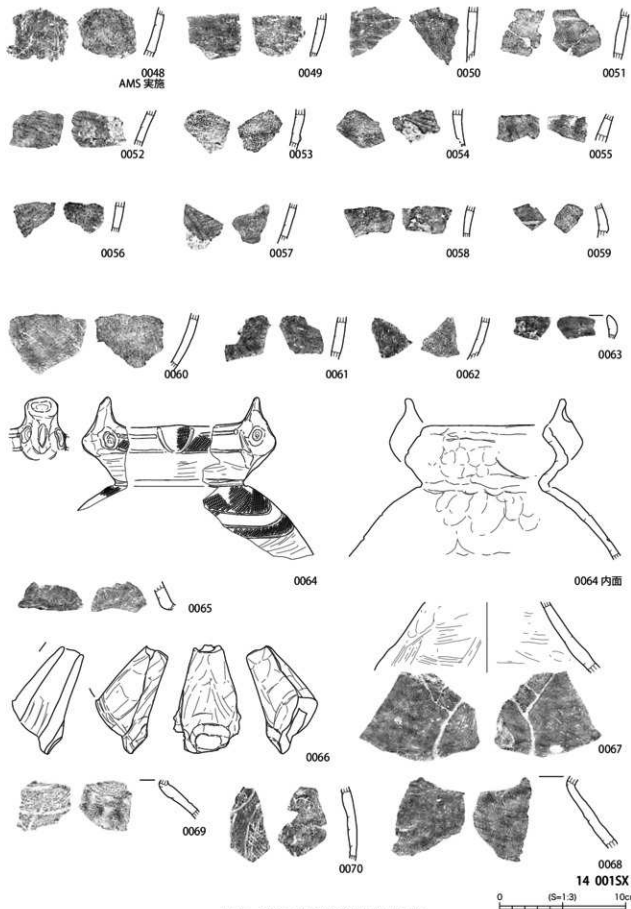


图 65 土器 3 14 区 0015X 出土 (3) S=1/3

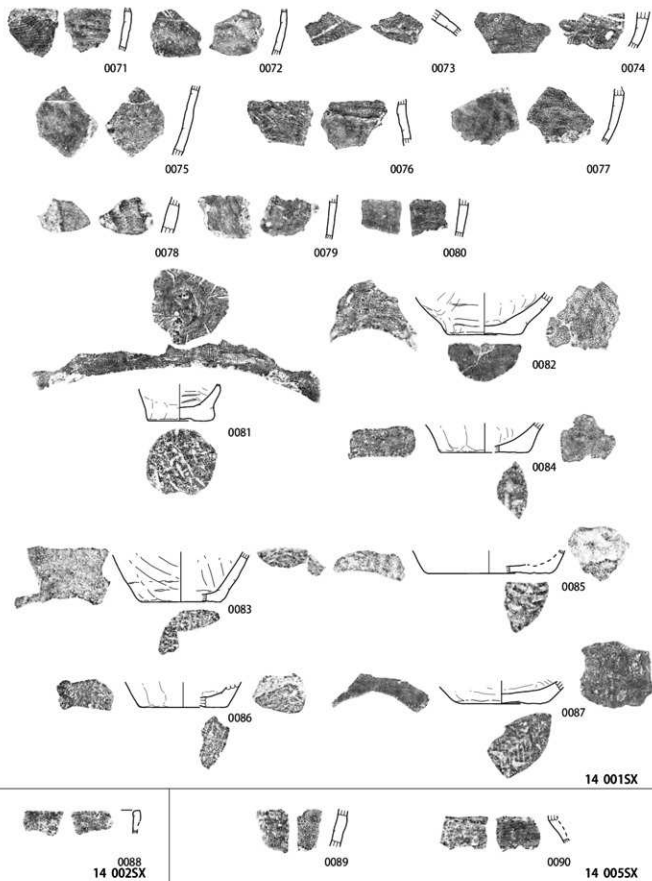


图 66 土器 4 14 区 0015SX 出土 (4), 14 区 0025SX ~ 14 区 0055SX 出土 S=1/3

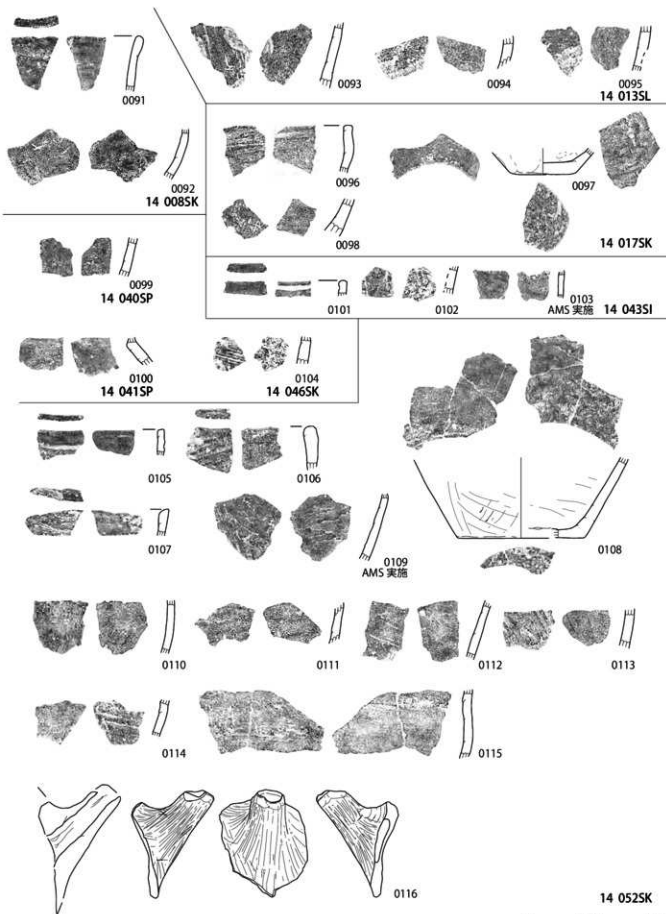
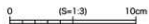


图 67 土器 5 14区004SK ~ 046SK出土、14区052SK出土(I) S=1/3



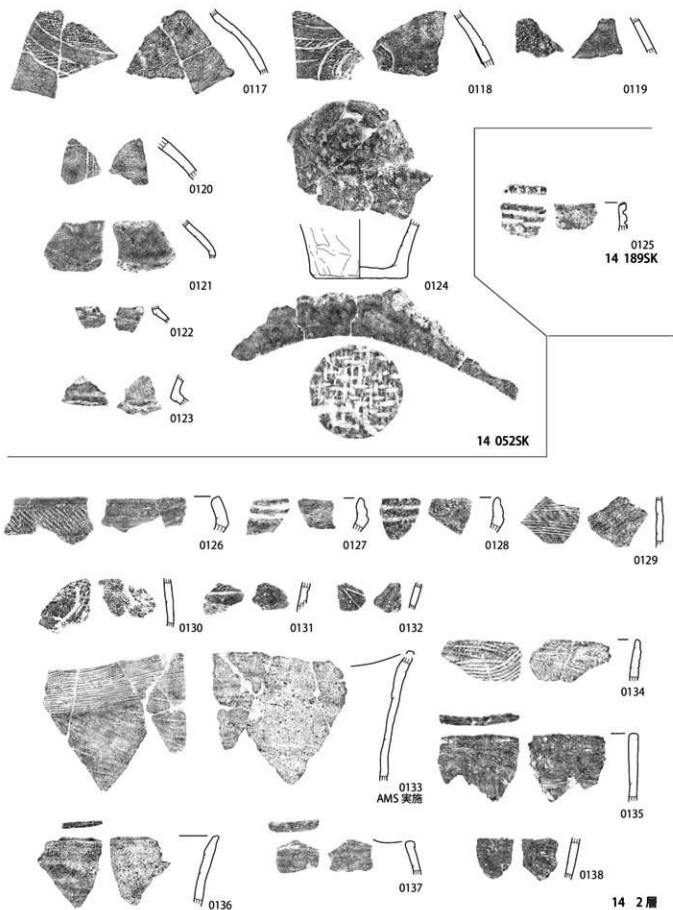
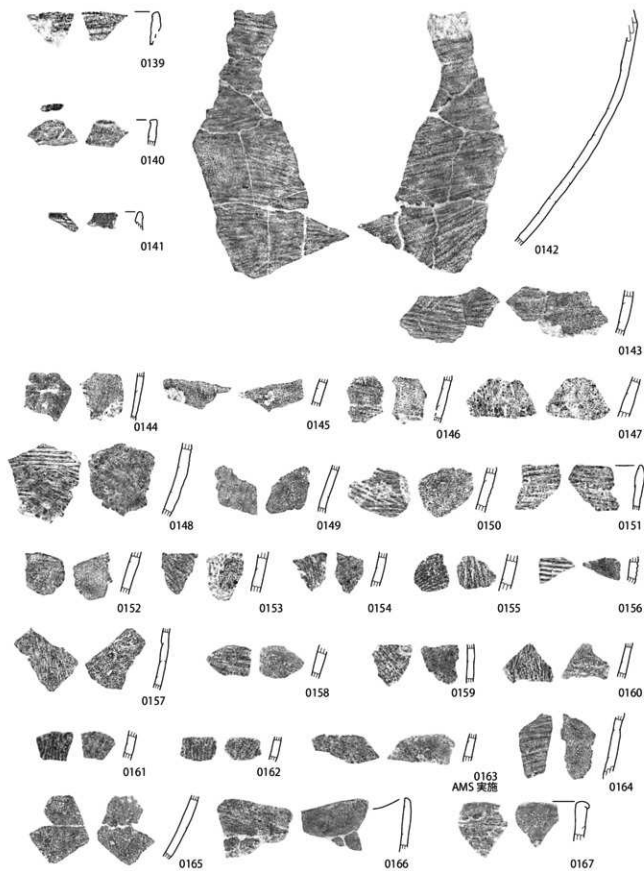
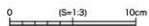


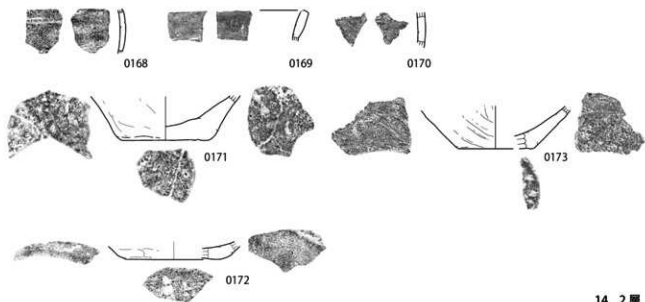
图 68 土器 G 14 区 052SK 出土(2)、14 区 189SK 出土、14 区 2 層出土(1) S=1/3



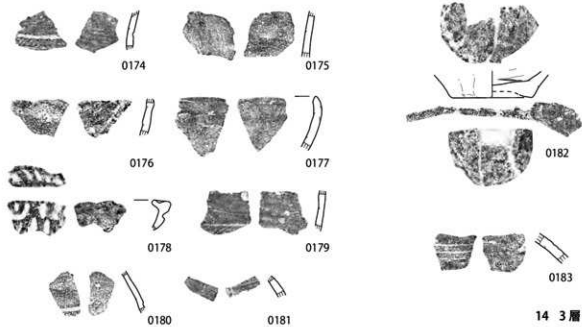
14 2層

图 69 土器 7 14 区 2 層出土 (2) S=1/3

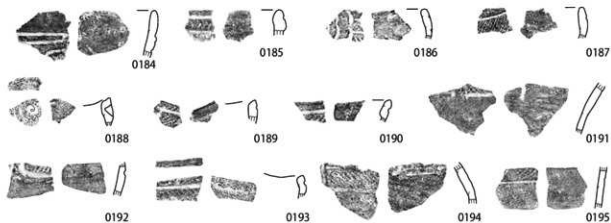




14 2層



14 3層 集石付近



14 3層

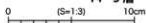


图70 土器 8 14区2層出土(3)、14区3層集石付近出土、14区3層出土(1) S=1/3

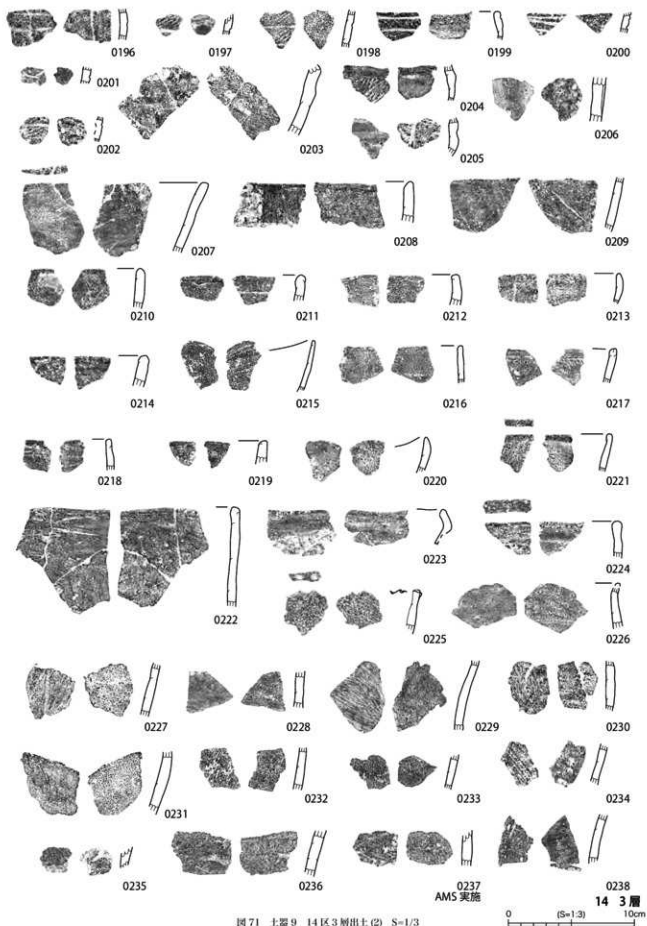


图 71 土器 9 14 区 3 層出土(2) S=1/3

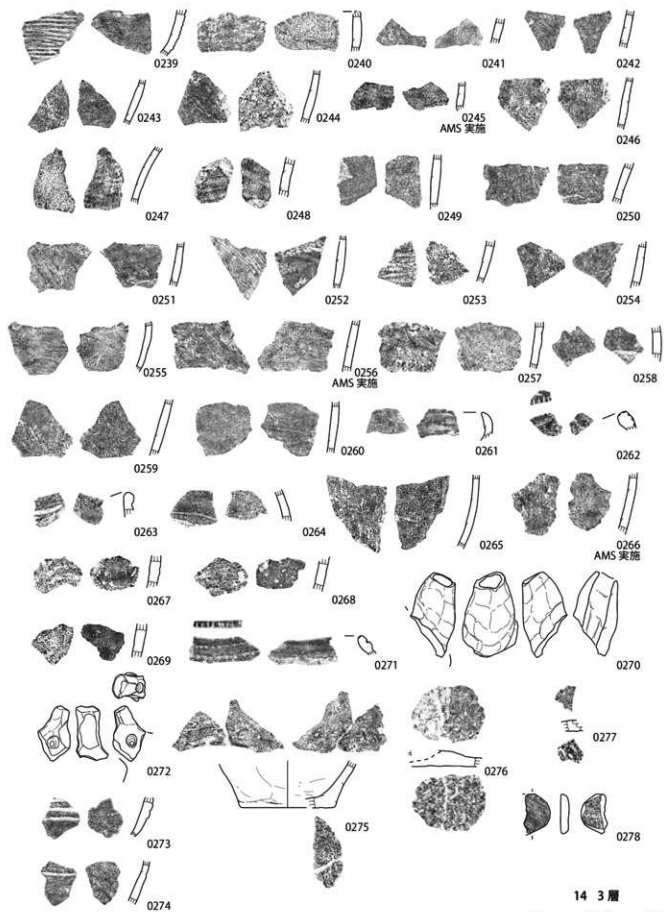
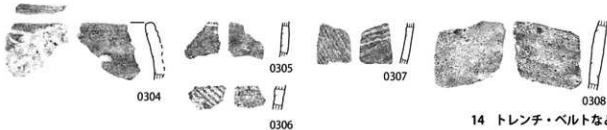
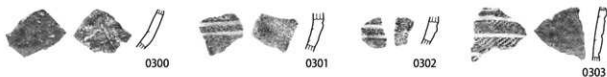
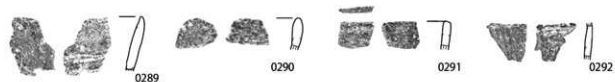
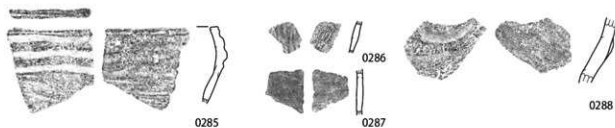
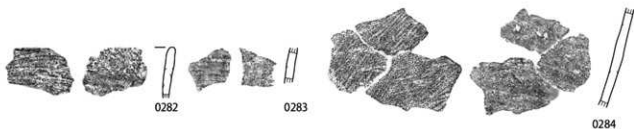


图 72 土器 10 14 区 3 層出土 (S) S=1/3



14 4層



14 トレンチ・ベルトなど

0 (S=1:3) 10cm

図73 土器11 14区トレンチ・ベルトなど出土 S=1/3

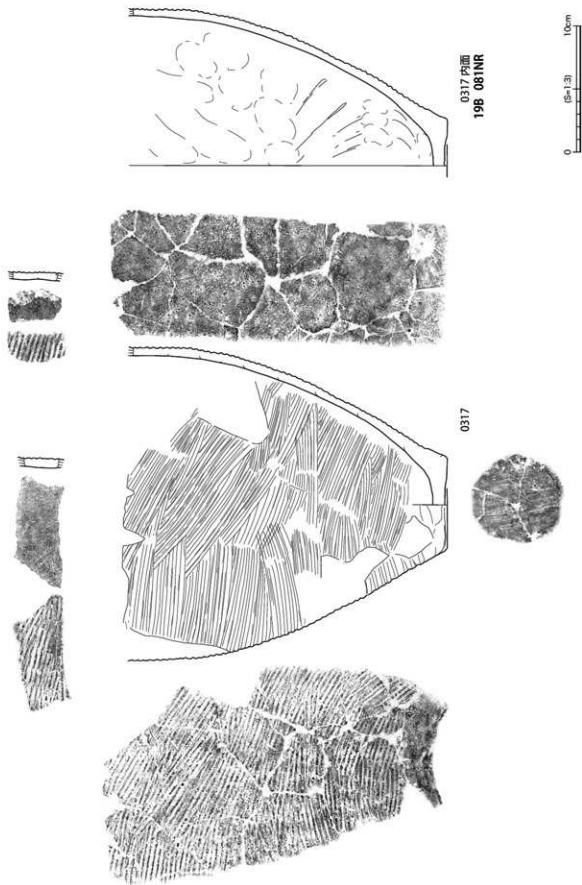
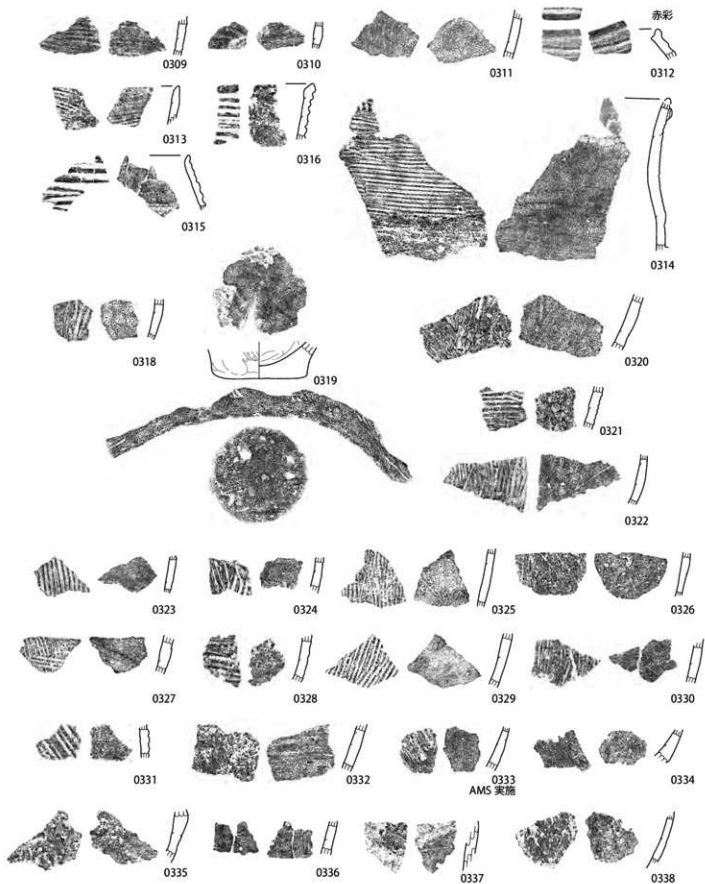


图 74 上層 12 081NR 面 L (0) S-1/3



19B 081NR
(S=1.3)
0 10cm

图75 土器13 081NR出土(2) S=1/3

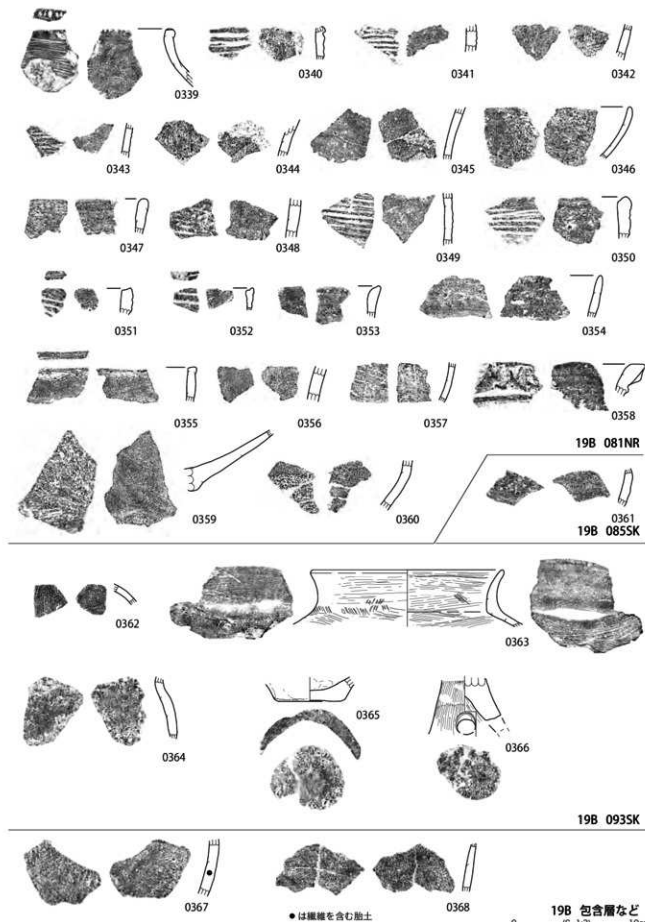


図 76 土器 14 081NR 出土 (2)、085SK・093SK 出土、19B 区包含層など出土 S=1/3

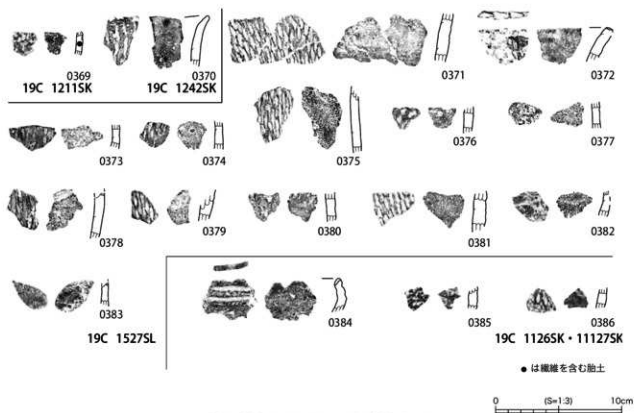


図77 上層 15 1211SK ~ 1127SK 出土 S=1/3

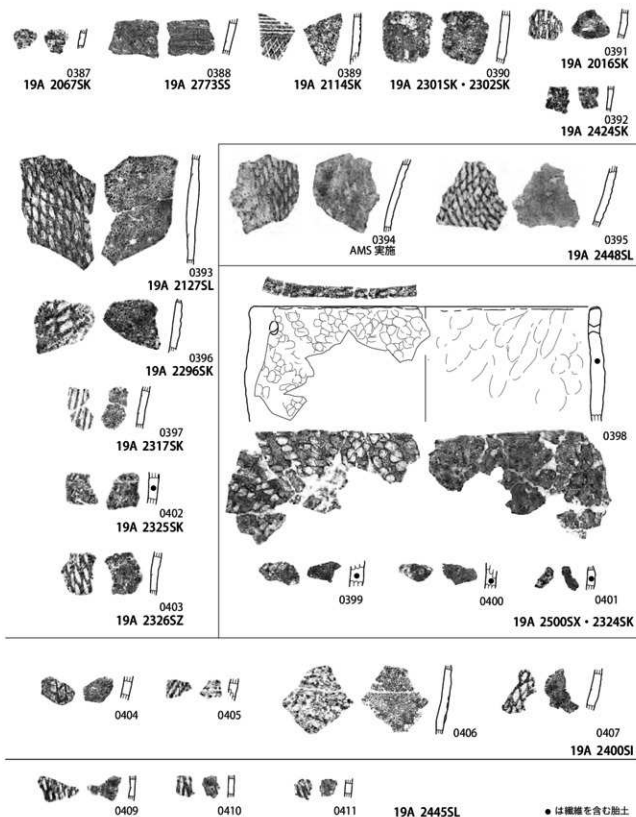


図78 土器 16 2067SK ~ 2445SL出土 S=1/3

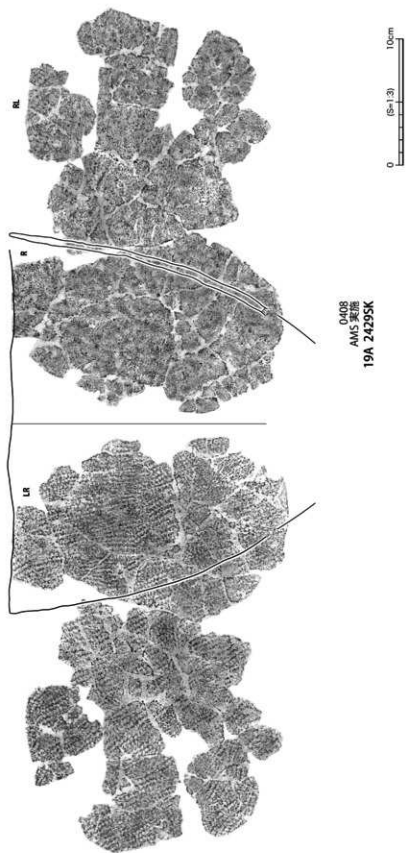
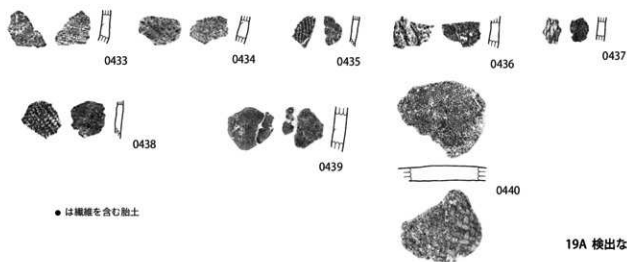


图79 上组 17 2420SK 出上 S=1/3



19A 2500SX



0 (S-1.3) 10cm

図 80 土器 18 2500SX 出土、19A 区検出出土など S-1/3

第2節 石器

川添和暁

万瀬遺跡では、総計 866 点の石器・石製品が出土している。第 2 章の各遺構で報告したように、14 区では縄文時代後期中葉・後期末、19B 区では縄文時代晩期～弥生時代前期、19A 区および 19C 区では縄文時代草創期～早期の土器がまとめて出土した。従って、表 4 に示した、調査区別の石器一覧表は、およそその出土土器に対応した石器群の組成を示しているといえよう。

本章で報告する石器・石製品は、圧倒的に多いのは縄文時代の資料であるが、1104 および 1501 ～ 1510 は中世以降に属するものであり、これは別途報告する。

表 5-1-3 は、この遺構番号順に出土石器・石製品の出土点数を示したものである。また遺物図面は、遺構順などの出土状況に基づく配列にしてある。この両者から遺構別の出土様相は確認されたい。一方、紙面の都合上、資料の報告は器種別に実施することにする。

なお、石材の同定は堀木真美子によるが、安山岩の分類は第 211 集『西地・東地遺跡』報告書に従っている（堀木 2019[※]）。

表 4 万瀬遺跡出土石器・石製品 調査区別出土器種点数表

調査区	石 器 種 類																			石 製 品 器 種														
	木 葉 形 尖 頭 器	有 舌 尖 頭 器	丸 ノ ミ 形 石 斧	石 錐	石 鏃	ス ク レ イ バ ー	使 用 痕 の あ る 小 型 削 片	小 型 削 片 石 器	二 次 加 工 の あ る 小 型 削 片	二 次 加 工 の あ る 小 型 削 片	麻 糸 削 片	小 型 削 片	小 型 削 片 石 核	微 細 削 片	打 製 石 斧	刀 器	使 用 痕 の あ る 削 片	二 次 加 工 の あ る 削 片	削 片	礫 器	礫 器 も し く は 石 核	石 核	磨 石 も し く は 石 核	磨 製 石 斧	砥 石	磨 石 砥 石 類	石 皿 台 石 類	敲 打 の あ る 礫	被 熱 礫	大 型 石 棒 ?	岩 版 岩 佩 類	石 製 品 ?		
14				2	1							9			8				2	60	4	1	1	1	1	1	5	10	1	2	15			1
19Aa (19A)		1					1	3			28	3	4	2				3	30	2	1		1			5	13		2	58			1	
19Ab	1	1	1	6	1	4	2	1	6	1	133	10	19	3	1	2	6	173	8	1	6	2			4	18	4		4					
19B						2						1		10			5	19	1							1	12	1		9				
19C							1	3			24	3	5	1			2	39	1		1				2	16		1	5	1				
器種 総計	1	2	1	8	1	7	4	1	12	1	194	17	28	24	1	2	18	321	16	3	8	4	1	17	69	6	5	91	1	1	1	1	1	

※ 堀木真美子 2019「石材分類について」『西地・東地遺跡』pp.205～206

縄文時代 木葉形尖頭器【1083】

の石器・ 石製品

完形資料で、長さ5.9cm・幅3.2cm・厚さ1.0cmを測る。基部側は凹基状を呈するもので、縁辺から身部中央にかけての深い剥離によって製作されており、その様子は両平面とも同様である。断面形状は扁平な菱形を呈している。側辺の湾曲具合は左右非対称となっている。溶結凝灰岩製である。

有舌尖頭器【1046・1105】

いずれも身部一部のみが残存である。1046は、残存で長さ2.5cm・幅1.5cmを測る。両面ともに斜行剥離が認められ、断面形状は菱形を呈する。泥質凝灰岩製である。1105は残存で長さ3.7cm・幅3.2cmを測り、1046よりも幅広である。両面ともに斜行剥離が認められるが、一平面では身部中央で剥離が留まったことにより大きなコブ状を形成している。使用による先端部からの衝撃で、大きく剥離状に欠損をしている。凝灰岩製である。

丸ノミ形石斧【1137】

完形資料で、長さ13.6cm・幅4.7cm・厚さ3.0cmを測る。平面形状は短冊形を呈するもので、厚みのある形状となっている。石材表面の風化が著しいものの、刃部には研磨調整があり、局部磨製石斧であると考えられる。閃緑岩製である。

石鏃【1005・1006・1071・1107・1108・1109・1199】

7点出土し、すべてを図化した。いずれも凹基無茎鏃である。1005と1006は14区出土で、縄文時代後期以降に属するものと考えられる。両平面で剥離調整の程度の差が著しいようである。黒曜石と安山岩製である。一方、1071・1107・1108・1109・1199はAb区出土で、縄文時代早期前半に属するものと考えられる。両平面加工の程度に著しい差は無いようで、より小振りのものが主体である。特に1107は側辺が身内部に湾曲する平面形状であり、欠損のため断言はできないが、脚の片側のみ長脚であった可能性があらう。溶結凝灰岩と黒曜石製であるが、溶結凝灰岩の使用が圧倒的に多い。

石錐【1110】

定型器種として特定できた点数は極めて少ない。長さ2.3cm・幅1.2cmの小型剥片を素材としており、尖った端部には回転使用による微細剥離・磨滅が形成されている。黒曜石製である。

スクレイパー【1003・1016・1017・1070・1188・1198・1200】

7点確認し、すべてを図化した。刃部剥離調整のあるものを集めたが、実際のところ使用による剥離との峻別が難しい資料もある。1003は貝殻状剥片の端部に刃部が形成されているものである。1016は打点側には素材稜面が残るもので、長い横長剥片の端部に刃部形成が認められる。時期を特定できるものではないが、縄文時代後期・晩期によく見られる形態である。1017は小型剥片の側面に調整の認められるものである。1070は貝殻状の剥片の対向する2辺に刃部形成が認められる。1188は剥片側面に刃部のあるもの、1198は長い横長剥片の端部に刃部が形成されているものである。1200は対向する原石両端に剥離が認められるもので、楔形石器である可能性もある。使用石材には、安山岩B・黒曜石・溶結凝灰岩がある。

使用痕のある小型剥片【1030・1114・1115・1194】

4点確認し、すべて図化した。1030は貝殻状剥片の側辺に微細剥離が認められる。1114は貝殻状剥片の端辺に不連続な微細剥離が認められる。1115・1194は剥片の側辺に不連続な微細剥離が認められる。石材は、溶結凝灰岩・凝灰岩・オパールがある。

小型剥片石器【1085】

使用痕のある剥片、あるいは楔形にも思われるものである。剥片両端に剥離が集中している。身部は厚みがある。黒曜石製である。

二次加工のある小型剥片【1033・1039・1040・1049・1058・1068・1072・1111・1112・1113・1193】

定型器種の加工途上段階と考えられる資料群である。11点を確認し、10点を図化した。特に、1039・1040・1049・1058・1193は石鏃製作途上段階と考えられ、より石鏃に近い形状となっている。石材には溶結凝灰岩・凝灰岩・黒曜石を確認したが、溶結凝灰岩が圧倒的に多い。

縦長剥片【1192】

打面の調整後、連続した縦長剥片の作出が窺える資料である。断面形状は扁平な三角形状を呈する。溶結凝灰岩製で、縄文時代草創期や後期旧石器時代にまでさかのぼりうる資料かも知れない。

小型剥片【1041・1042・1043・1044・1061・1116・1117・1118・1119・1120・1121・1122・1123・1124・1125・1126・1127・1128・1129・1130・1131・1132・1133・1189・1190・1191】

主に石鏃などに対応する石材由来の剥片で、200点確認し、26点を図化した。図化資料は、19C区および19Aa区の包含層からの出土で、縄文時代早期前半を主体とする時期資料である。菱形および貝殻状を呈するなど横長気味の剥片が多いなか、1191など縦長気味の剥片も認められる。使用石材は溶結凝灰岩・凝灰岩・黒曜石で、溶結凝灰岩の比率が極めて高い。

小型剥片石核【1035・1037・1050・1059・1062・1073・1082・1084・1086・1134・1135・1136】

上述した小型剥片に対応する石核である。17点を確認し、10点を図化した。1059・1062・1136はサイコロ状などの形状、1050・1134・1135は細長の形状を呈しており、打面転移をさせながら周囲から剥片を作出を連続したものと思われる。使用石材には溶結凝灰岩・凝灰岩・黒曜石があり、溶結凝灰岩が圧倒的に多い。1050は松脂石である。

打製石斧【1101・1002・1007・1008・1009・1010・1012・1014・1018・1019・1020・1021・1022・1023・1060・1195・1201】

24点確認し、17点を図化した。平面形状が窺える資料でみると、1001・1010・1012・1018～1020・1022が楕形、1002・1007～1009・1014・1060が短冊形、1021が分銅形である。身部中央に認められる大きな剥離と縁辺に連続して認められる小さな剥離とは剥離作用が一致しないのか散見されるようで、大きく形を成形する剥離と側辺などを最終的に調整する剥離とは動作・作用が異なる可能性がある。刃部が残存しているものを見ると、端部には階段状のツブレや磨減痕が観察される。使用石材は、安山岩B・安山岩D・安山岩E・安山岩F・その他安山岩・閃緑岩で、安山岩Bの使用

が多い。また、出土調査区が14区と19B区に集中している。縄文時代後期以降の資料であることをよく示しているといえる。

刃器および使用痕のある剥片【1090・1145・1146】

確認できたのは1点のみであった。貝殻状剥片の側面および端部に使用によると思われる剥離が認められるものである。石材は安山岩Bと凝灰岩である。

二次加工のある剥片【1013・1024・1025・1026・1028・1032・1034・1051・1053・1054・1056・1058・1065・1066・1144】

中型・大型の打製石器の製作途上と考えられる石器を一括した。19点のうち15点を図化した。このうち、1013・1024～1026・1032・1034・1051・1054・1056・1065は打製石斧の製作途上資料と考えられる。石材には安山岩B・安山岩D・安山岩E・その他安山岩・砂質凝灰岩・泥質凝灰岩がある。

剥片【1045・1063・1064・1067・1069・1074・1079・1080・1091・1092・1093・1094・1095・1096・1097・1098・1099・1100・1147・1148・1149・1150・1151・1152・1153・1154・1155・1156・1157・1158・1159・1160・1161・1162・1163・1164・1165・1166・1167・1168・1169・1170・1171・1172・1173・1176】

中型・大型の打製石器に対応する剥片を一括している。326点のうち、47点を図化した。小型剥片同様に、菱形および貝殻状を呈するなど横長気味の剥片が多い。石材には、安山岩A・安山岩B・安山岩D・安山岩E・安山岩F・その他安山岩・凝灰岩・凝灰質泥岩・砂質凝灰岩・泥質凝灰岩・溶結凝灰岩がある。

石核【1015・1031・1057・1087・1174・1175・1177・1196】

8点確認し、すべて図化した。1174・1175などは、打面転移をして連続して剥片が作出されている。1177は片面のみで、上下から剥片作出が行われている。1196は打面調整の後、同一方向から剥片を連続的に作出している。縄文時代草創期以前、場合によっては後期旧石器時代にまでさかのぼる資料かも知れない。石材には、安山岩B・安山岩D・安山岩E・その他安山岩がある。

礫器（礫器もしくは石核）【1027・1036・1075・1088・1089・1138・1139・1140・1141・1142・1143・1197】

19点確認し、12点を図化した。1027・1197は棒状礫の端部が片刃状になっているものである。1140は剥片状となった端部に刃部が形成されており、刃器に近いかもしれない。石材には、安山岩B・安山岩D・安山岩E・凝灰岩がある。

磨製石斧【1011】

磨製石斧身部のごく一部のみが残存しているものである。使用などの欠損によって剥片状となったものである。石材は塩基性岩で、縄文時代晩期以降に属するものと考えられる。

砥石【1081・1178】

2点確認し、すべてを図化した。1981は有溝砥石である。側面には敲打などした整形の痕があり、その上で両平面には使用による磨痕が著しく残る。有溝は浅く、小刻みに使用痕跡を確認することができる。縄文時代草創期に属するものか。砂質凝灰岩製である。1178は側面と一平面に磨痕が明瞭に残る。凝灰質砂岩製である。

磨石・砥石類【1038・1047・1048・1055・1076・1077・1078・1101・1102・1103・
1104・1179・1180・1181・1182・1183・1184・1185】

69点確認し、18点を図化した。多くは、磨痕と敲打痕の両方が認められる。69点のうち凹み明瞭のいわゆる凹石も3点確認できた（未図化）。楕円形・円形の河原石を使用する道具であるが、1185のように石蝕形を呈するものもある。石材は、花こう岩・片麻岩・砂岩・凝灰岩・閃緑岩・ハンレイ岩・アブライトなどがある。

石皿・台石類【1029・1052・1186・1187・1202】

6点確認し、5点を図化した。板石状のものをそのまま使用しており、局所的に磨減痕が認められる。石材は、花こう岩・片麻岩である。

大型石棒？【1301】

現存で、長さ37cm・幅11.9cmを測る棒状の製品である。表面の剥落が著しいものの、自然石などを大型石棒として使用した可能性も考えられるものである。閃緑岩製である。

岩偶岩版類【1302】

残存部分でみると扁平な円盤状を呈するもので、特に両平面には研磨調整が著しい。研磨の後に両面からの穿孔が行われており、貫通している。岩偶岩版類であれば、頭部の可能性があろう。砂質凝灰岩製である。

使用石材
について

器種別報告でも使用石材について触れたが、石材別に対応器種の傾向を見たのが、表6である。石織などの小型剥片石器について、今回の調査では、黒曜石の使用よりもむしろ溶結凝灰岩の使用が顕著である。また、スクレイパー・使用痕剥片からやや大型の石器に対応する石材として各種安山岩の使用が著しく、特に安山岩Bと安山岩Dは多用されている。安山岩Bと安山岩Dは、遺跡の東を南流する境川の河床に転石として多くあり、そこから採取された原石が遺跡に持ち込まれて加工がなされている様子は、後期旧石器時代から縄文時代・弥生時代にかけて変わらないことが、今回の報告資料でもいえることである。

今回の報告資料は、縄文時代後期以降の14区および19B区が主に情報からの土石流堆積など二次堆積資料で、19A区・19C区の縄文時代草創期～早期前半の資料は安定的であることを勘案する必要がある。

中世以降
の石器・
石製品

石皿・台石類【1004】

14区052SK底面から出土したもので、両平面ともに平坦である。使用痕としては敲打などによるアレと、線状の細い工具の当たった痕がある。工具痕は鋭く、金属によるものと考えられる。また、この資料は全体的に被熱により赤色化をしている。野鍛冶などを行うに際して、製品を当てた台石（いわゆる金床石）になると考えられる。花こう岩の板石を利用している。

砥石【1501・1502・1503・1504・1505・1506・1507・1508・1509・1510】

1501・1502・1510は置砥石である。1501は枕石のような形状で、一部に著しい磨減痕と敲打などによるアレが認められる。いずれも片麻岩を使用している。その他は手持砥石などにも使用されたものであろうか。側面の使用も著しい。1503・1505は、特に金属工具の痕跡が明瞭に残る。凝灰岩・砂質凝灰岩が主体で、片麻岩も使用されている。

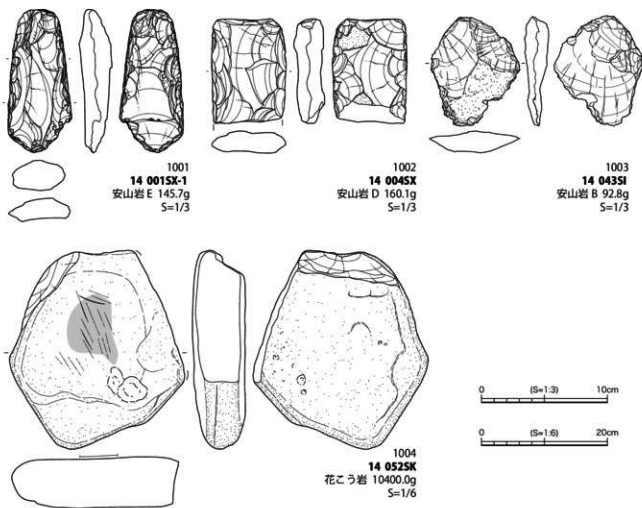


図81 石器・石製品1 14区001SX～14区052SK出土 S=1/3,1/6

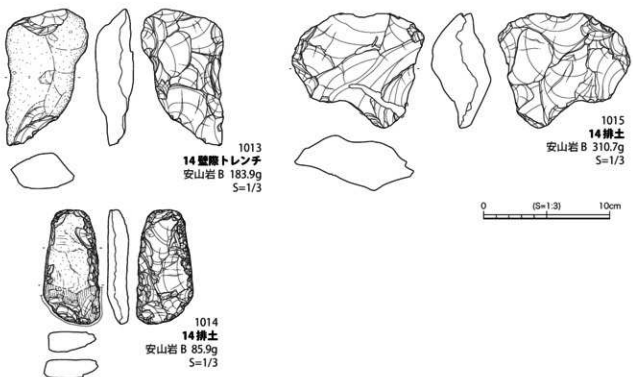
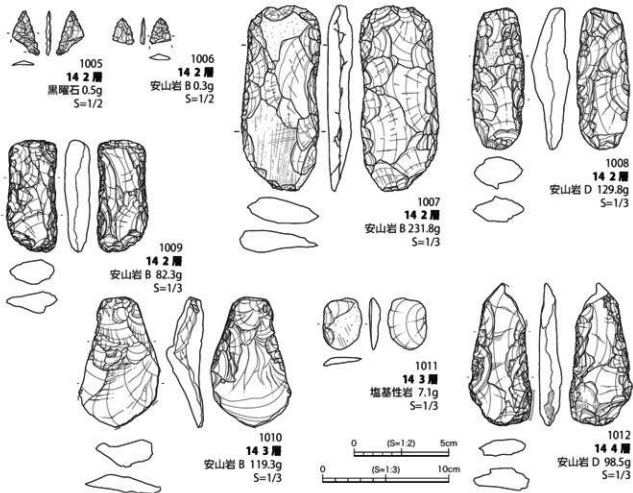


図82 石器・石製品2 14区2層出土、14区トレンチ出土、14区排土出土 S=1/2,1/3

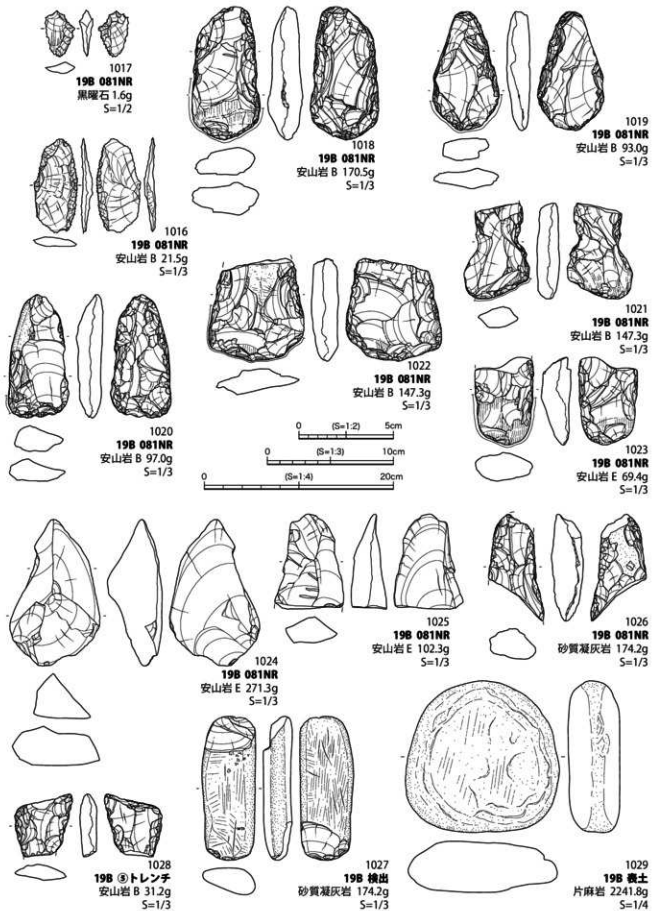
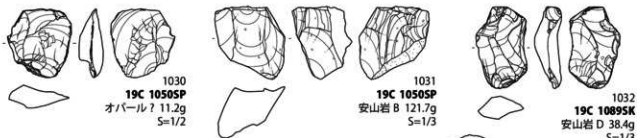


図 83 石器・石製品 3 081NR 出土、トレンチ出土、遺構検出面出土、表土出土 S=1/2,1/3,1/4



1030
19C 1050SP
オパール? 11.2g
S=1/2

1031
19C 1050SP
安山岩 B 121.7g
S=1/3

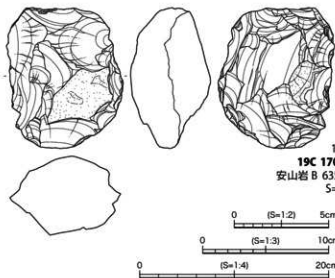
1032
19C 1089SK
安山岩 D 38.4g
S=1/3



1033
19C 1100SP
安山岩 D 38.4g
S=1/2

1034
19C 1228SK
安山岩 B 192.3g
S=1/3

1035
19C 1527SL
溶結凝灰岩 17.7g
S=1/2



1036
19C 1700SI
安山岩 B 635.2g
S=1/3



1040
19C 検出
黒曜石 5.4g
S=1/2

1041
19C 検出
黒曜石 0.6g
S=1/2



1042
19C 検出
溶結凝灰岩 11.3g
S=1/2

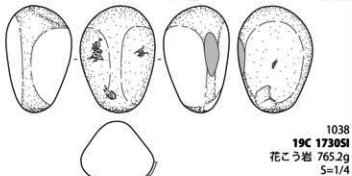


1043
19C 検出
溶結凝灰岩 7.0g
S=1/2

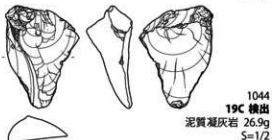


1037
19C 1720SI
黒曜石 3.7g
S=1/2

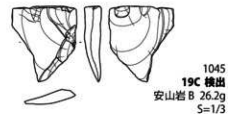
1039
19C 1730SI
溶結凝灰岩 0.7g
S=1/2



1038
19C 1730SI
花こう岩 765.2g
S=1/4



1044
19C 検出
泥質凝灰岩 26.9g
S=1/2



1045
19C 検出
安山岩 B 26.2g
S=1/3

図 84 石器・石製品 4 1050SP ~ 1730SI 出土、19C 区遺構検出出土。 S=1/2, 1/3, 1/4

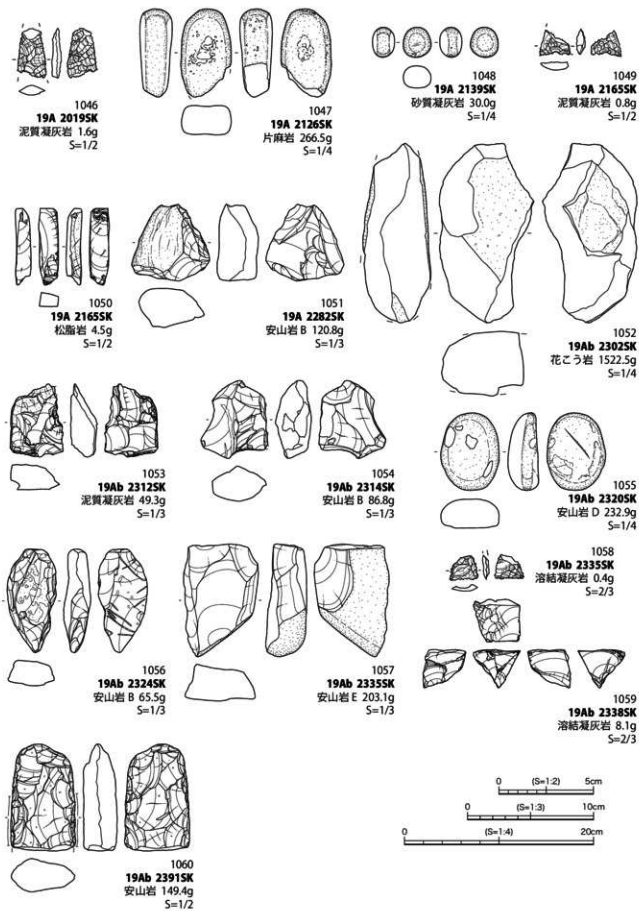


図 85 石器・石製品 5 2019SK ~ 2391SK 出土 S=1/2, 1/3, 1/4

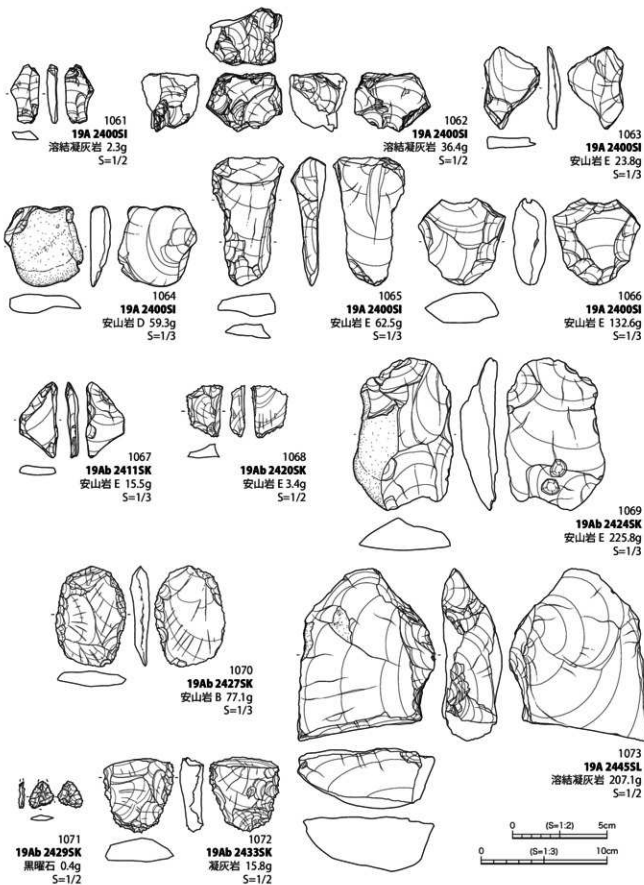


图 86 石器·石製品 6 19C 区 2400S1 ~ 24455L 出土 S=1/2, 1/3

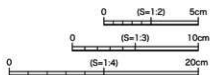
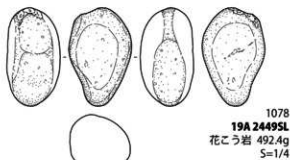
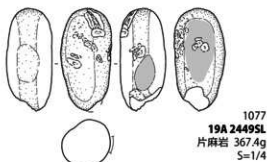
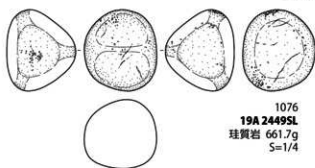
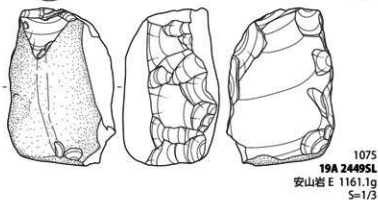
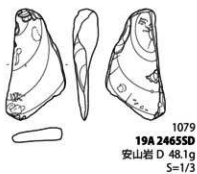
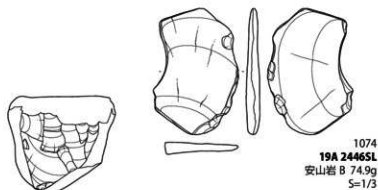


図 87 石器・石製品 7 2446SL ~ 2470SK 出土 S=1/2, 1/3, 1/4

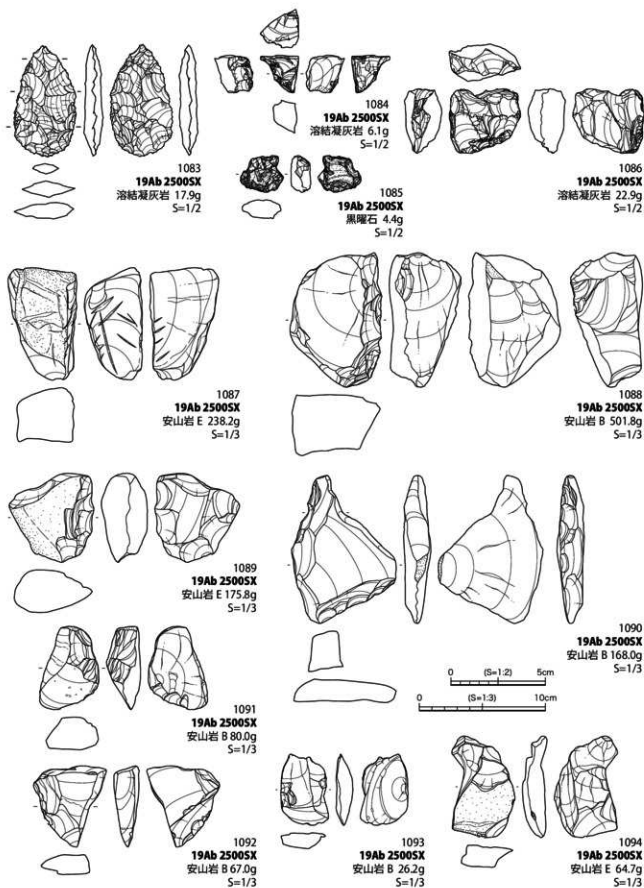


图 88 石器·石製品 B 2500SX 出土(1) S=1/2, 1/3

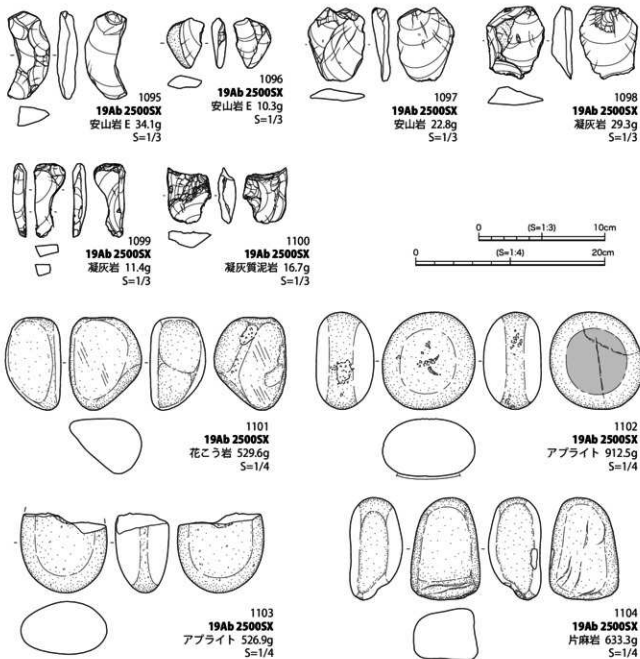


図 89 石器・石製品 9 2500SX出土(2) S=1/3,1/4

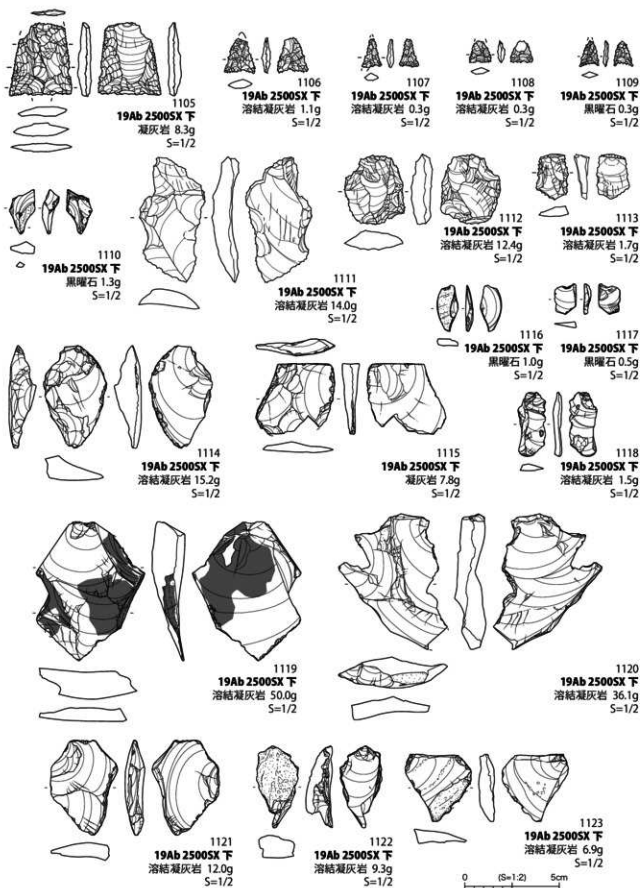


图 90 石器·石製品 10 2500SX 下層出土(1) S=1/2

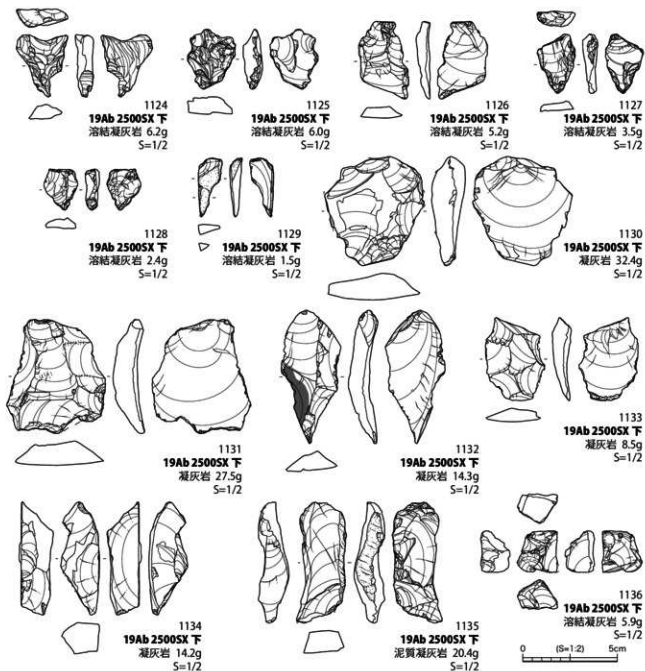


圖 91 石器・石製品 II 2500SX 下層出土(2) S=1/2

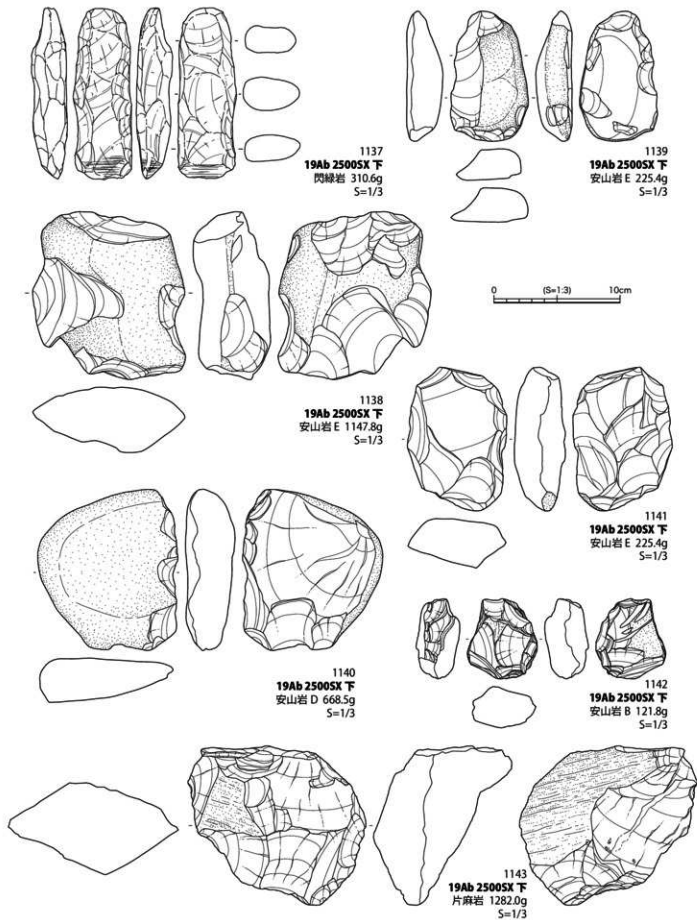


图 92 石器·石製品 12 2500SX 下層出土(3) S=1/3

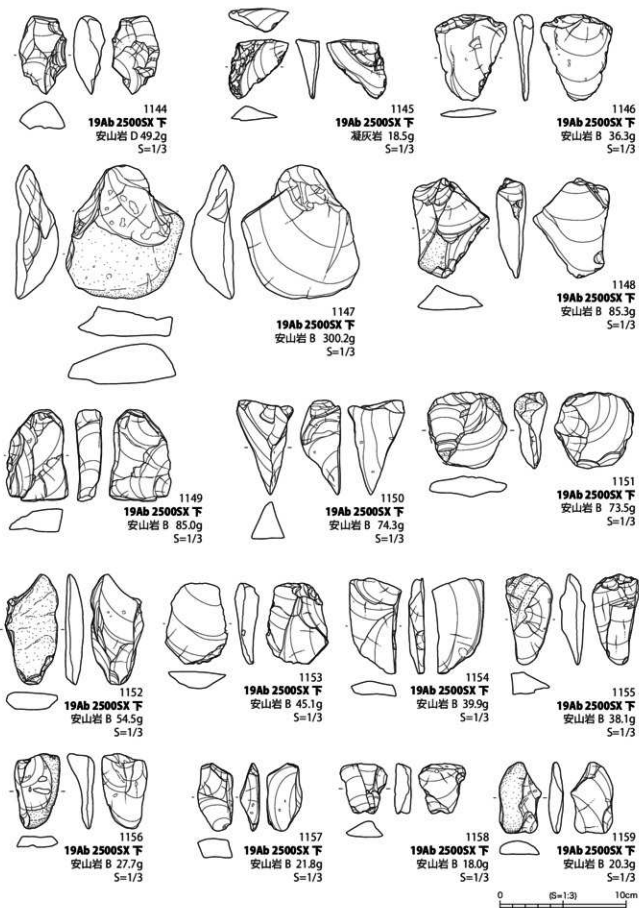


图 93 石器·石制品 13 2500SX 下出土(4) S=1/3

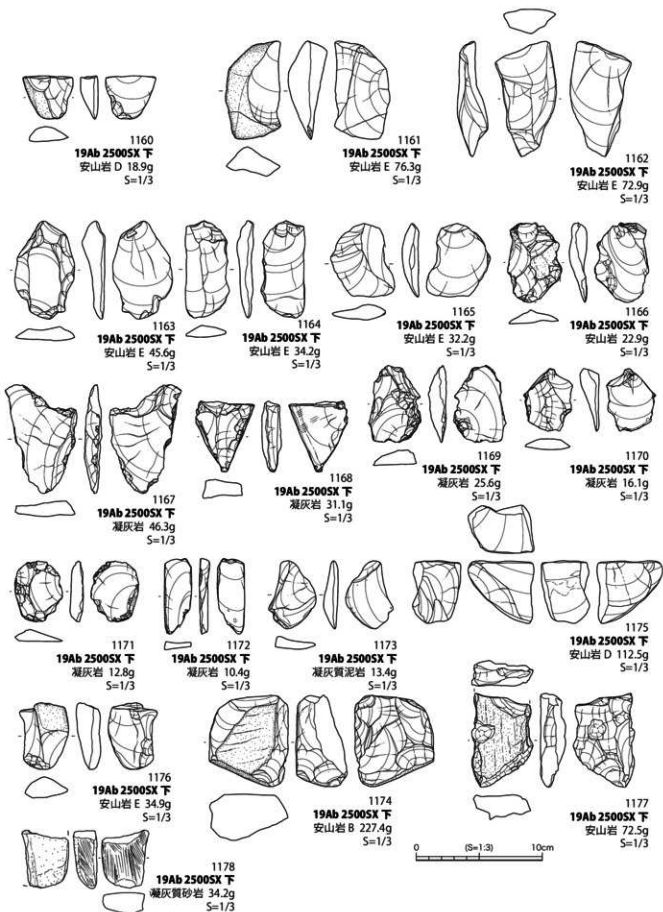


图 94 石器·石製品 14 2500SX 下層出土(5) S=1/3

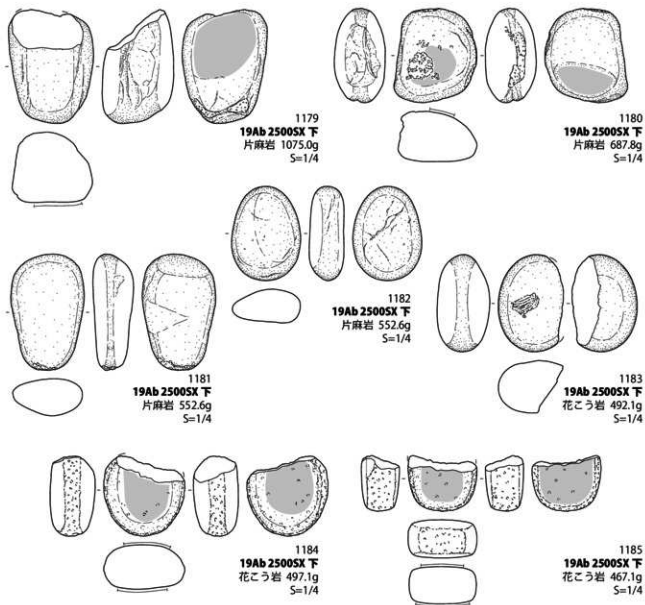
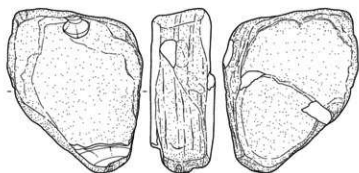
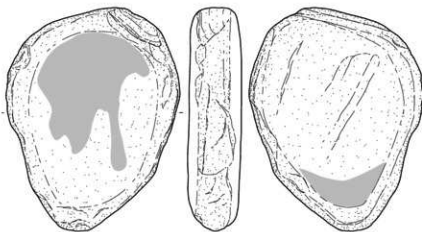


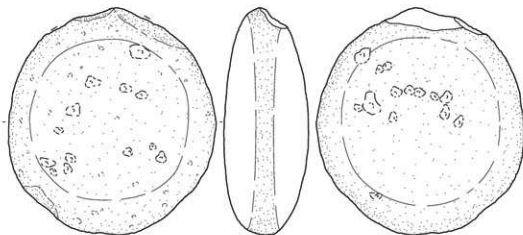
図 95 石器・石製品 15 2500SX 下層出土(6) S=1/4



1186
19Ab 2500SX 下
片麻岩 12400.0g
S=1/6



1187
19Ab 2500SX 下
片麻岩 8900.0g
S=1/6



1202
19A 表採
花こう岩 222600.0g
S=1/6

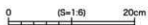


図96 石器・石製品 16 2500SX 下層出土(7), 19A区表採 S=1/6

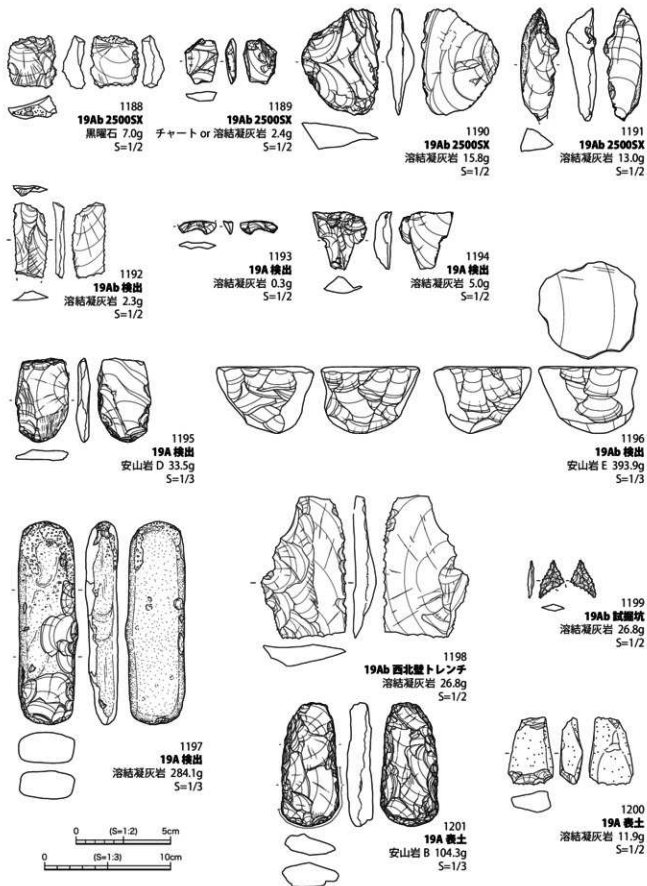


図 97 石器・石製品 17 2500SX 出土 (C), 19A 区遺構検出面上出土, 19A 区トレンチ出土, 19A 区表土出土 S=1/2, 1/3

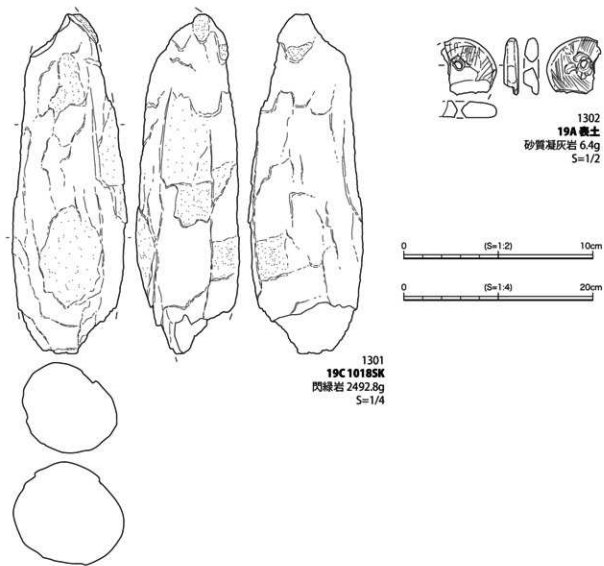


图98 石器·石製品 18 石製品類 S=1/2, 1/4

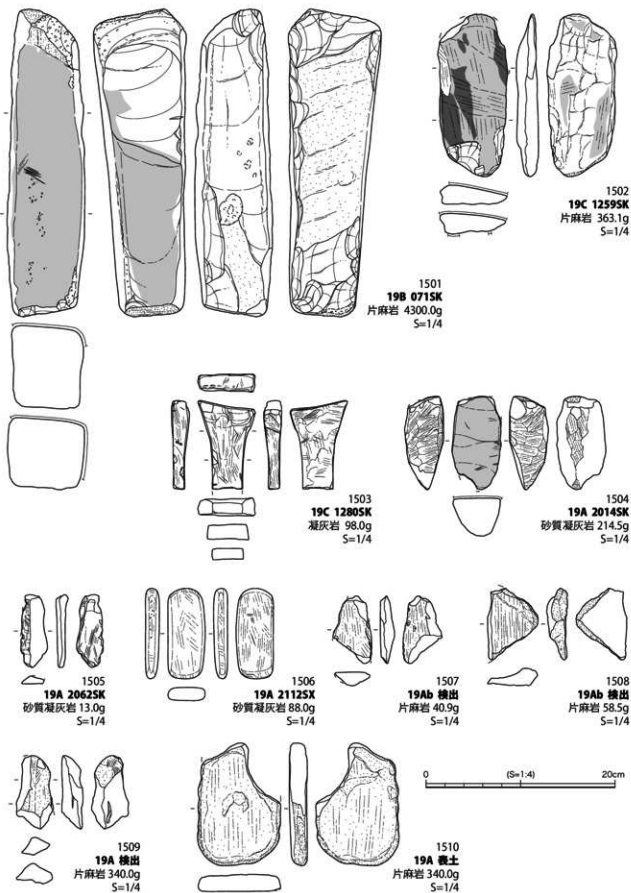


图 99 石器・石製品 19 中世以降の石器・石製品 S=1/4

第3節 陶磁器類・土師器

万瀬遺跡では陶磁器類・土師器その他の遺物が729点(残存長1cm以上の破片を1点と認識、明らかに同一個体の破片は合わせて1点と認識)出土した。古代では須恵器、中世では山茶碗や古瀬戸含む施釉陶器、土師器、近世では施釉陶器、炆器、磁器、土師器、近代では施釉陶器、磁器のほか、ガラス製品などが確認されている。本節では、そのうち図化できたもの161点について取り上げる。

遺物は、土師器・施釉陶器といったカテゴリ、瀬戸美濃・肥前といった産地等、天目茶碗・広東碗といった器種で分類を行った。それらの比定については瀬戸市文化振興財団の金子健一氏のご教示を賜り、反映した。なお、本報告に係る文責は当センターの報告担当者にある。

本節においては原則として、出土した遺構、カテゴリ、器種によって配列した。なお、紙幅の都合上記述を一部省略している。カテゴリについては、主体となる施釉陶器の場合は省略し、型式・時期の比定についても基本的に省略した。省略事項については陶磁器類・土師器掲載遺物一覧表(193頁～195頁)を参照されたい。

-
- | | |
|-----------|---|
| 14区 043SI | 2001は渥美・湖西型山茶碗の碗。内面と高台端部は摩耗する。 |
| 14区 025SP | 2002は東濃型山茶碗の碗。内面全体に自然釉が掛かる。 |
| 14区 053SP | 2003は美濃炆器の染付広東碗。内面口縁部下には1条の横線を描き、外面は不詳。 |
| 14区 101SP | 2004は美濃の掛け分け鉢。鉄軸、灰軸の順で施釉がされる。 |
| 0 2 4 S K | 2005は瀬戸の皿で、器形は梅文皿に似る。高台周辺を除いて灰軸を施したのち、鉄軸、緑色釉で上絵付けを行う。鉄軸は遺存するが、緑色釉は剥落が著しく、やや膨らんだ痕跡と僅かに緑色が残る。文様は草花文か。 |
| 0 2 7 S K | 2006は美濃の尾呂茶碗。2007は肥前磁器の染付丸碗で、外面口縁部下に2条の横線、その下に草花文を描く。 |
| 0 3 3 S K | 2008は美濃炆器の箱型湯呑。外面は菊花文と斜格子文、内面は口縁部下に2条、屈曲部に1条の横線を描く。 |
| 0 3 6 S K | 2009,2010は瀬戸美濃の鉄軸丸碗。2009は外面に灰軸の流し掛けがある。2011は瀬戸美濃の御室茶碗。2012は文様部分が遺存しないが、胎土、軸、器形から美濃の摺絵皿と推定される。 |
| 0 4 2 S K | 2013は美濃の摺鉢。外面の一部に炭化物が付着する。 |
| 0 4 5 S K | 2014は手捏ねのかわらけ。 |
| 0 4 6 S K | 2015は瀬戸美濃の灰軸の輪壳皿。内面の無軸部分にはやや自然釉が掛かる。 |
| 0 7 4 S K | 2016,2017は筒型香炉で、2016は瀬戸美濃、2017は瀬戸。器形は類似するが2016は外面上方に5条以上の沈線を施す。2016は胎軸、2017は灰軸を外面全体と内面上方に施す。 |
| 1 4 5 S K | 2018は美濃の灰軸の丸碗。2019は美濃炆器の灰軸の鉢か。2020は瀬戸の湯呑で、鉄絵の上に透明釉を施す。文様は文字か。2021は瀬戸の灰軸大皿。 |
| 1 5 5 S P | 2022は輪壳部が残存しないが、器形と軸調から美濃の灰軸の折縁輪壳鉢と推定される。2023は瀬戸美濃の黄瀬戸鉢。獅描き波状文と緑軸・鉄軸の流し掛けのある体部片も出土している。 |
| 1 0 5 S L | 2024は瀬戸美濃の鉄軸の丸碗。2025は美濃の拳骨茶碗。2026は瀬戸の腰銘湯呑。 |

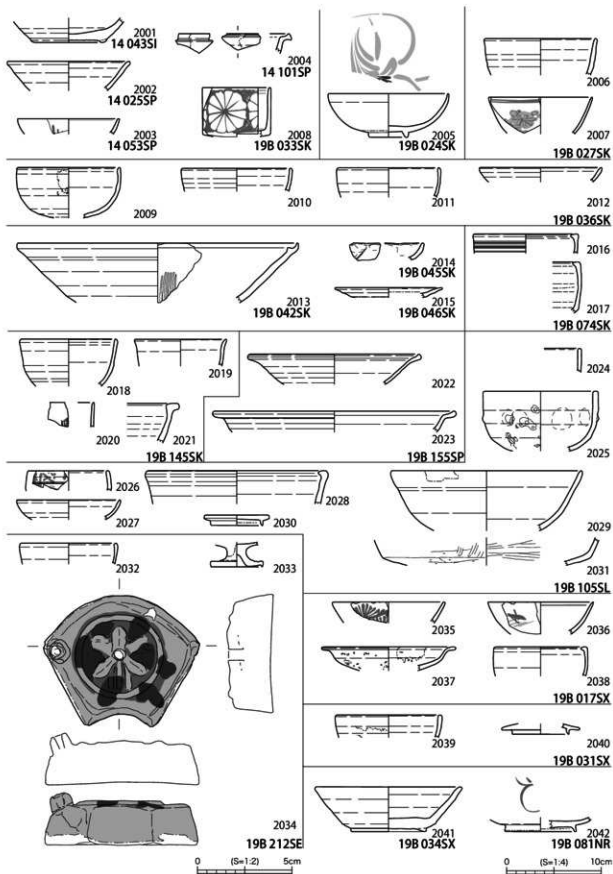


図100 陶磁器類・土師器 14区・19B区遺構内出土 S=1/4 (2034のみS=1/2)

体部上方しか残存しないが、体部下方は鉄軸、上方は染付と透明軸を施し、少なくとも2条の沈線が巡る。2027は瀬戸の灰軸丸皿。2028は瀬戸美濃の船軸片口鉢。2029は瀬戸の灰軸鉢。2030は瀬戸美濃の盒子蓋で、上面全体と下面中央に灰軸を施す。2031は瓦質土器の鍋類。

- 212SE 2032は美濃の尾呂茶碗。2033は美濃の仏飴具で、脚部中ほどから下を除いて灰軸を施す。2034は瀬戸美濃の水滴。扇面形で、上面には凸線で円と立ち沢瀉文が造り出される。側面下方およそ1/3と底面を除いた全体に御深井軸を施し、上面には凸線周辺の内部に灰軸を掛け、まだらに鉄軸を掛ける。特注品の類と想定される。
- 017SX 2035,2036は染付広東碗。2035は瀬戸陶器で文様は松枝文か。2036は美濃拓器で文様は帆掛け船か。2037は瀬戸の鉄軸皿。内面口縁部付近の一部に灰軸を流し掛ける。2038は美濃の鉄軸筒型香か。
- 031SX 2039は瀬戸美濃の鉄軸丸碗で、外面に灰軸を流し掛ける。2040は瀬戸美濃の土瓶類の蓋で、上面に鉄軸を施す。
- 034SX 2041は瀬美・湖西型山茶碗の碗。内面、特に底部は摩耗する。高台端部には初般痕が僅かに残る。高台内の中央には糸切り痕が残るが、周縁部はナデ消す。
- 081NR 2042は瀬戸美濃の陶器染付の皿。上面に染付をし、高台端部を除いた全体に灰軸を施す。文様はごく薄く、不詳。破断部の一部は研磨されたように摩耗する。
- 1263SP 2043は古瀬戸の播鉢。2044は肥前磁器の丸碗で、外面に染付で一重網目文を描く。
- 1022SK 2045は瀬戸の行平鍋。蓋の受け口と体部下方を除く全面に灰軸を施す。体部外面の露胎部には煤が付着し、施軸部と露胎部にかけて7条の沈線が巡る。
- 1085SP 2046は瀬戸の播鉢。体部内面の下方は激しい摩耗により飾目外の軸が剥けており、底部はほとんど飾目が消失している。内面には黒色の付着物があるが、使用によるものは不明。底部には回転糸切り痕とヘラを差し込んだような痕が残る。
- 1123SK 2047は瀬戸美濃の灰軸の端反皿。
- 1126SK 2048は半球型内耳鍋で、外面には炭化物が付着する。
- 1235SK 2049は瀬戸の船軸の皿。
- 1143SK 2050は瀬戸美濃の天目茶碗。
- 1149SK 2051は古瀬戸の平碗。
- 1214SK 2052は古瀬戸の播鉢。
- 1224SK 2053は半球型内耳鍋で、外面には一部炭化物が付着する。
- 1226SK 2054は瀬美・湖西型山茶碗の碗。口縁部内側がやや摩耗する。
- 1265SK 2055は古瀬戸の播鉢。
- 1266SK 2056は古瀬戸の腰折皿で、内面全体と外面上半部に灰軸を施す。内面2箇所に目痕が残る。
- 1300SK 2057は山茶碗の碗。内面はやや摩耗する。2058は山茶碗の輪花碗。不明瞭だが薄く灰軸漬け掛けの痕跡が残る。
- 1309SK 2059は伊勢型鍋。胴部片も遺存するが接合、復元には至らなかった。
- 1310SK 2060は瀬戸の播鉢。
- 1360SK 2061は瀬戸の腰詰湯呑。外面は高台端部を除いて鉄軸を施し、内面は灰軸を施す。体部の破断部近くには沈線が見られる。

- 1378SK 2062は古瀬戸の折縁深皿か直縁大皿。内面には灰軸をハケ塗り、外面にも一部灰軸が付着する。底部内面と外面それぞれ1箇所に目跡が残る。
- 1426SK 2063は瀬戸の天目茶碗で、高台周辺を除き鉄軸を施す。
- 1468SK 2064は古瀬戸の筒型香炉。外面から口縁部に灰軸を施し、内面は全体が無軸である。体部外面に菊花文の印花を施す。2065は器種不明。残存部の上面と外面には鉄軸を施し、脚状部の内面は無軸。燭台の上部にも似るが、上面中央に穿孔はない。釉調などから古瀬戸後期の製品と思われ、高盤のような製品が。

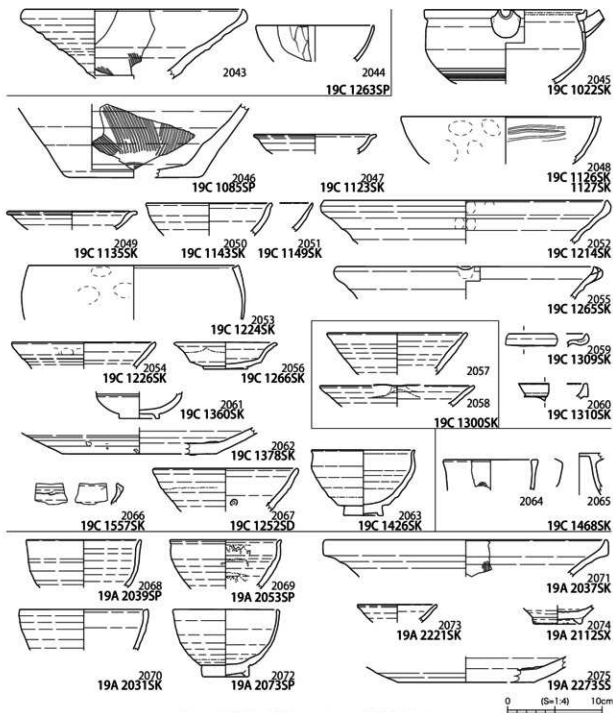


図101 陶磁器類・土師器2 19C・19A区遺構内出土 S=1/4

- 1 5 5 7 S K 2066 はくの字型内耳鍋。
- 1 2 5 2 S D 2067 は古瀬戸の平椀。内面1箇所に目跡が残る。
- 2 0 3 9 S P 2068 は瀬戸美濃の鉄軸の碗で、口縁部はやや反り気味で直線的。
- 2 0 5 3 S P 2069 は瀬戸美濃の天目茶碗で、内面に灰軸を流し掛ける。
- 2 0 3 1 S K 2070 は瀬戸の灰軸の片口鉢。
- 2 0 3 7 S K 2071 は瀬戸美濃の搦鉢。
- 2 0 7 3 S P 2072 は瀬戸美濃の鉄軸の端反椀。
- 2 2 2 1 S K 2073 は渥美・湖西型山茶碗の小皿で、内面は摩耗する。
- 2 1 1 2 S X 2074 は尾張型山茶碗の小碗。高台端部に明瞭な初段痕が残り、高台内の中心に停止糸切り痕、周縁部にナデ消し痕が残る。内面は摩耗し、一部には自然軸が付着する。
- 2 2 7 3 S S 2075 は古瀬戸の折縁深皿か直縁大皿で、内面には灰軸をハケ塗りし、内面1箇所に目跡が残る。
- 1 4 区 2076 は尾張型山茶碗の碗で、内面は摩耗する。2077 は加工円盤。瀬戸美濃の丸碗ベールの加工品と思われる、高台端部を除いて長石軸または灰軸を施すが、著しく焼成が不良。
- 14区トレンチ 2078,2079 は瀬戸美濃の志野丸皿。2078 は高台内部2箇所に目跡が残る。2079 は外面の軸が薄く一部で剥けている。
- 2080 は尾張型山茶碗の小碗。外面に黒色の付着物がある。
- 19B区トレンチ 2081 は美濃の船軸の鉢類。
- 1 4 区 2082 ~ 2084 は尾張型山茶碗で、2082 は片口鉢。高台内の中央には糸切り痕、周縁部はナデ消し痕が残る。内面は一部摩耗する。2083 は碗。高台端部には初段痕が残り、高台端部と内面は著しく摩耗する。2084 は小碗で、口縁部と内面は摩耗する。
- 2085 は美濃の灰軸の折縁輪弁鉢。2086 は美濃の灰軸の湯呑。
- 14区 2層・3層 2087 ~ 2096 は山茶碗で、2087、2089、2093、2094、2096 は尾張型、その他は渥美・湖西型。2091 は輪花碗で、内面は薄く自然軸が掛かる。2087 ~ 2090、2092 ~ 2095 は碗。2087 は口縁部外面に自然軸が掛かり、口縁部内面は摩耗する。2088 は内面に自然軸が掛かり、内面は摩耗する。2089 は外面に薄く、内面に厚く自然軸が掛かる。2090 は口縁部内面が摩耗する。2092 は口縁部内面が帯状に著しく摩耗する。2094 は外面から口縁部内面にかけて自然軸が掛かる。2095 は内面に薄く自然軸が掛かる。2096 は小碗。
- 2097 は美濃の長石軸の折縁小皿。2098 ~ 2105 は瀬戸美濃の陶器。2098 ~ 2100 は天目茶碗で、2100 は内面に灰軸を流し掛ける。2101 は天目形の小杯で、体部外面下方以外に灰軸を施す。2102 ~ 2104 は志野丸皿。2105 は瀬戸の鉄軸の皿で、体部外面下方は露胎。2106 は瀬戸の鉢で、内面に鉄絵を描いた後、全体に透明釉を施す。2107 は瀬戸の搦鉢で、外面に3条の沈線が巡る。2108,2109 は加工円盤で、瀬戸美濃の丸碗底部の加工品か。どちらも内面に鉄軸を施す。
- 1 9 B 区 2110 ~ 2112 は染付広東碗で、2110 は瀬戸美濃磁器、2111,2112 は美濃炆器。
- 遺構検出面2110 は外面は不詳、内面は口縁部下と中ほどに横線を描く。2111 は外面は無文、内面は口縁部下に横線を描く。2112 の外面は鹿を描いたものか。内面口縁部下の横線は途中で途切れるものと、その下を流れる薄く細いものの2条となる。
- 2113 ~ 2115 は染付箱型湯呑で、2113 は瀬戸陶器、2114 は美濃炆器、2115 は瀬

戸垢器。2113の外面の文様は不詳であるが、内面は口縁部下に1条の横線を描く。
 2114,2115の文様は外面は菊花文と斜格子文、内面は口縁部下に2条の横線を描き、
 2114は屈曲部にも1条の横線が描かれる。2116は瀬戸の灰釉の小碗。

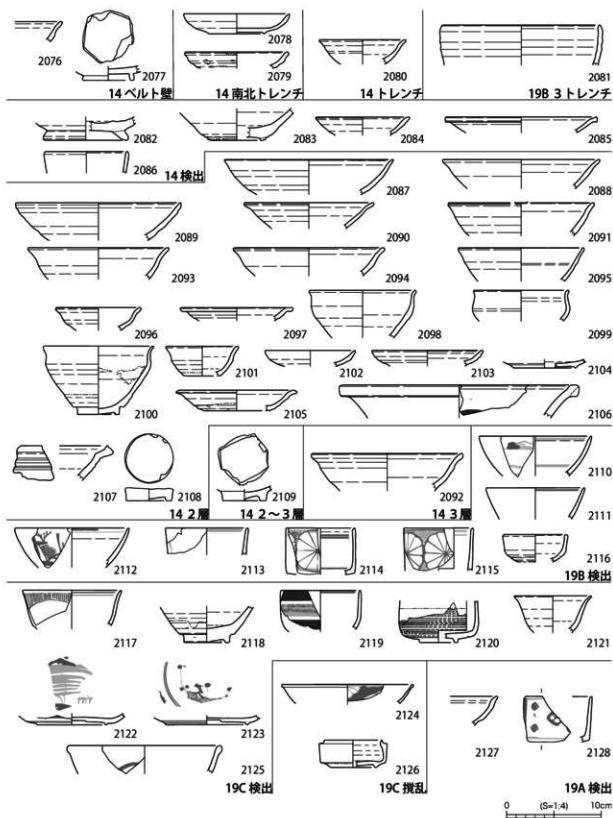


図102 陶磁器類・土師器3 遺構検出面・包含層等出土 S=1/4

- 19C区 2117は瀬戸美濃磁器の染付端反碗Lで、外面は口縁部下に1状の横線、体部に1遺構検出面状の弧線を描き、その間を縦線で充填する。内面は口縁部下に2条の横線を描く。
- ・ 攪乱 2118は瀬戸美濃の天目茶碗。2119は美濃妬器の湯呑。体部外面上下に鉄軸で横線を描いた後、間に鋸歯文を帯状に刻み、上から須須で横線を描き、内外面に透明釉を施す。2120は美濃の鍍湯呑。施文ののち、外面は高台端部を除いて胎釉、体部外面上方から内面は鉄軸を施す。2121は肥前磁器の小杯。2122,2123は磁器の染付皿で、2122は瀬戸美濃、2123は肥前。どちらも底部外面は蛇の目状に軸を剥ぎ、中央を凹ませる。2122の文様は不詳だが、簡素な楼閣山水文か。2123は上面に2条の圏線と梅文を描く。松竹梅文の一部か。圏線の外側にも文様はあるが不詳。2124は瀬戸磁器の染付端反皿で、内面に半菊を描く。2125は瀬戸磁器の鉢類で文様は不詳。2126は瀬戸美濃の盆子。底部内外面と上面の蓋に覆われる部分を除いて灰軸を施す。底部外面の外縁部と中心部には墨痕が見られるが、文字や図形としては読み取れない。
- 19A区 検出 2127は古瀬戸の平碗。2128は美濃妬器の染付箱型湯呑。外面は斜格子文、内面は口縁部下に2条の横線を描く。
- 14区 表土・ 2129,2130は天目茶碗で、2129は瀬戸、2130は瀬戸美濃。2130は灰軸を施す。
- 調査区 壁面 2131は美濃妬器の染付箱型湯呑で、外面は菊花文と斜格子文、内面は口縁部下に2条の横線を描く。
- 19B区 表土 2132,2133は天目茶碗。2132は瀬戸、2133は瀬戸美濃で破断面に漆による補修の痕跡が見られる。2134は美濃の尾呂茶碗。2135は瀬戸美濃磁器の染付端反碗Lで、外面は草花文、内面は1条の横線を描く。焼成が不良。2136は美濃妬器の染付箱型湯呑で、外面は口縁部下に1状の横線と斜格子文、内面は口縁部下に2条の横線を描く。2137は踏徳利で、肩に1条の小凸線を巡らせ、全面に胎釉を施す。2138は蓋で行平鍋に対応し、鍋と接する端部を除いて全体に灰軸を施す。器形の歪み大きい。2139はくの字形内耳鍋。2140はクロコ造りのかわらけ。底部には回転系切り痕が残り、一部被熱する。
- 19C区 表土 2141は尾張型山茶碗の片口鉢。体部外面下方はヘラケズリを施す。内面は著しく摩耗する。2142は美濃の尾呂茶碗。2143は瀬戸美濃の鉄軸の湯呑。体部外面に太く浅い沈線が2条巡る。2144は瀬戸の天目茶碗。2145は瀬戸美濃磁器の染付小碗で、外面は不詳、内面は口縁部下に1条の横線を描く。2146,2147は瀬戸美濃磁器の染付端反碗L。外面は2146が2145と同系統の文様、2147が半菊文で、内面はどちらも荒い筆致の横線を描く。2148は瀬戸陶器の染付広東碗で、外面は高台部に1条、体部下端に1条の横線を巡らせる。体部の文様も一部が残るが不詳。内面は1条の横線と五弁花を描く。2149は瀬戸磁器の染付端反碗Mで、外面は三方に間弁を持つ四弁花と、口縁部下に1条、体部下方から高台にかけて3条の横線を描き、内面は口縁部下に2条、体部下方に1条の横線を描く。内面中心にも文様があるが不詳。2150,2151は染付箱型湯呑で、2150は肥前磁器、2151は美濃妬器。2150は外面に菊花文と斜格子文、内面は口縁部下に2条、屈曲部に1条の横線を描く。2151は外面に半菊文と斜格子文、内面は口縁部下に太い横線を1条描く。2152は瀬戸の灰軸の輪赤皿。高台周辺を除いて灰軸を施し、内面は輪状に軸を剥ぐ。底部内面中央は2段になって凹み、中心は突出して尖る。2153は美濃の灰軸の片口鉢。2154は瀬戸美

濃の行平鍋。蓋の受け口を除いて灰軸を施すが、被熱によるものか外面は灰色に変色する。蓋の受け口に炭化物の付着がある。

19A区表土 2155は瀬戸美濃の天目茶碗。2156は産地不明の輪秃皿。高台周辺を除いて灰軸を施し、上面は輪状に軸を割ぐ。高台は外側は直線的に立ち上がり、内側は反る。2157は瀬戸美濃の鉄軸の鉢。2158は瀬戸の搦鉢。2159は美濃の瓢箪型徳利。内面は錆軸、外面は鉄軸で、頸部から肩部にかけて灰軸を流し掛ける。2160は瀬戸美濃の搦鉢体部の加工品で、砥石として利用したものか。

トレンチ TT04 2161は美濃の灰軸の小碗。

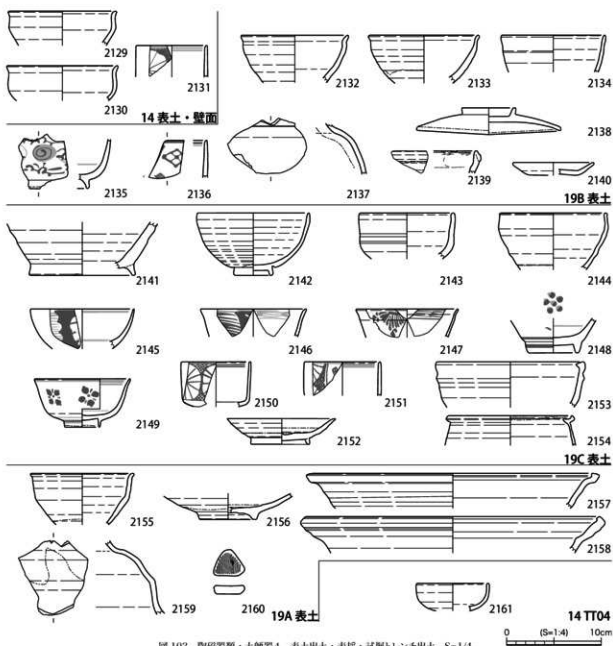


図 103 陶磁器類・土師器4 表土出土・表探・試掘トレンチ出土 S=1/4

第4節 木製品

万瀬遺跡では木製品として2遺構から74点以上を取り上げた。そのうち、自然木と考えられるものなどを除き、32点を図化した。なお、文中の樹種や木取りについては第4章第2節に依る。

212SE 3001～3029は全て井戸212SEを構成する部材である。

3001～3024は井戸上部の側板で、上部は割れているものが多いが、長さは最大で65.5cm。幅は最小10.7cm、最大12.3cmで中央値・平均値は11.3cm。厚さは最小2.9cm、最大3.4cmで中央値・平均値は3.1cm。明確なサイズ差は見られず、同じ規格で作られたものと思われる。全て同じマツ属複雑管束亜属で木取りは追柂目、長軸方向にチョウナ痕が残る。

3025～3029は井戸下部から出土した部材で、厳密な出土状況は不明であるものの、方形または井桁状に組まれていたものである。加工には主に2種があり、材の両端を上下から切り欠いて尖らせるもの(2025～2027)と、上側のみを切り欠いて両端に平坦面を造り出すもの(2028,2029)が見られる。また、芯持丸木材(2025,2026)と、半割材(2027～2029)にも二分でき、いずれも加工にはチョウナが用いられている。

1062SK 3030,3031は曲物の側板。3030は3枚、3031は2枚を重ねており、黒色の樹皮と見られるもので綴じる。3032は加工痕の確認できる木材で、柱材などであった可能性がある。

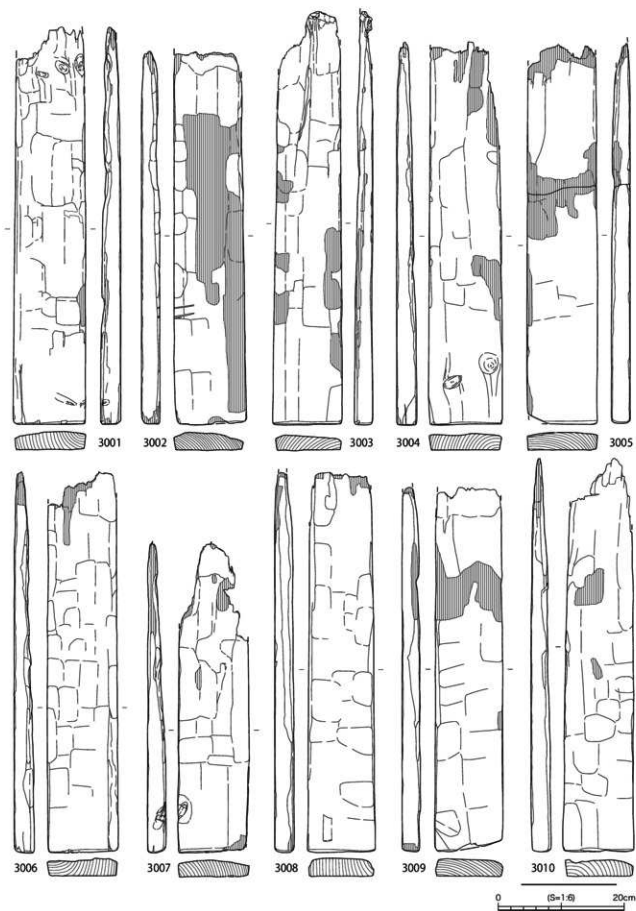


图 104 木製品1 212SE出土(1) S-1/6

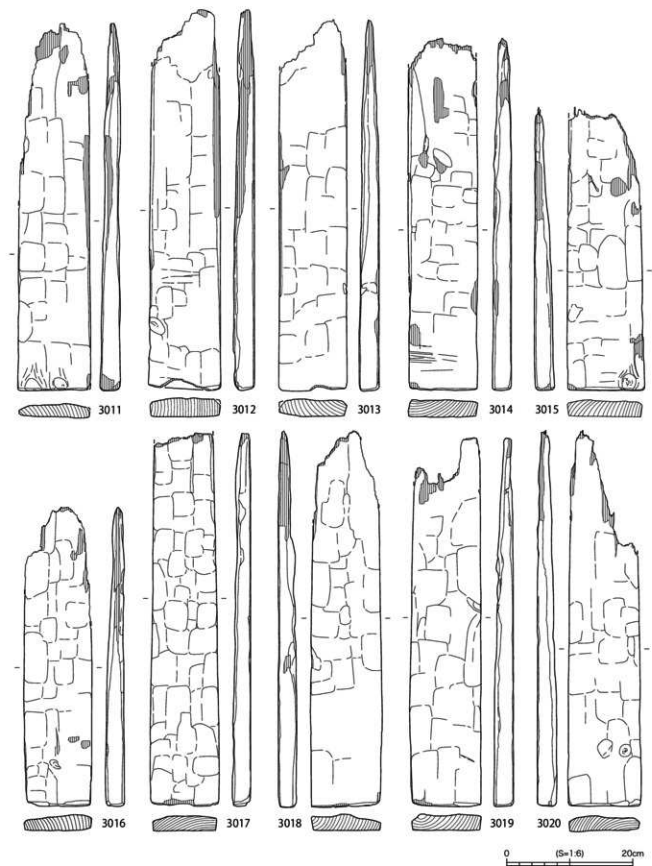


图 105 木製品2 212SE出土(2) S=1/6

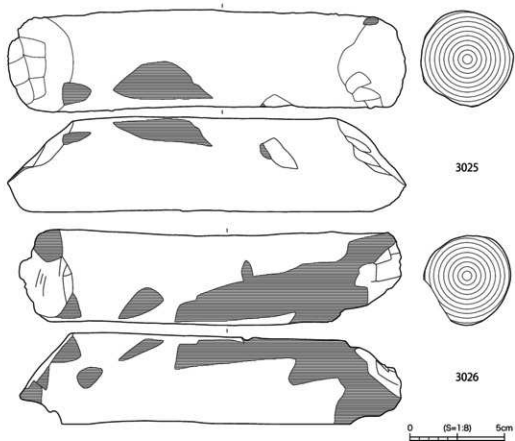
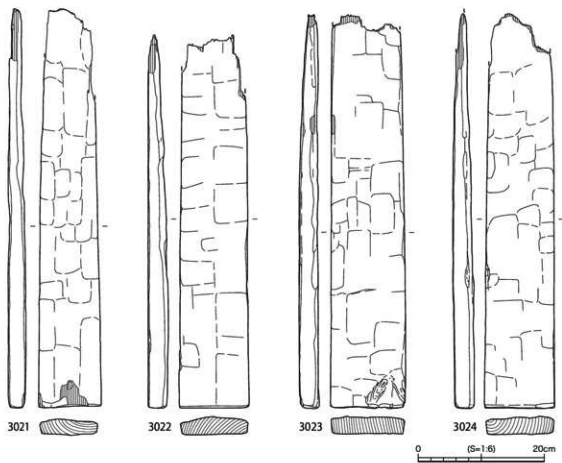


图 106 木製品 3 212SE 出土 (3) S-1/6 (3021 ~ 3024)、S-1/8 (3025, 3026)

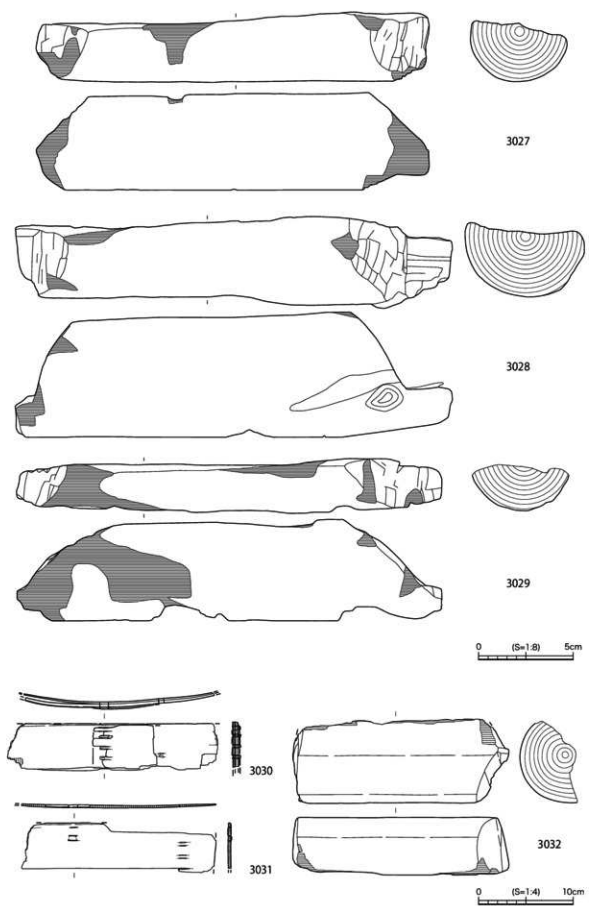


图 107 木製品4 212SE出土(4)、1062SK出土 S=1/8 (3027 ~ 3029)、S=1/4 (3030 ~ 3032)

第5節 金属製品

鈴木正貴

万瀬遺跡の金属製品は土葬土坑墓に伴うものが多く、主な製品は銭貨、煙管、鉄製刀子などである。このような状況から、明瞭に遺構に伴わないものも含めて多くの金属製品は、本来は副葬品であったものと推定される。

- 2178SZ** 土葬土坑墓2178SZからは銭貨5枚(1~5)が重なった状態で出土した。これを剥離した結果、1枚目の紹聖元寶(篆書背文なし)が裏向き、2枚目の聖宋元寶(篆書背文なし)が裏向き、3枚目の大觀通寶(真書背文なし)が表向き、4枚目の熙寧元寶(真書背文なし)が裏向き、5枚目の元祐通寶(行書背文なし)が表向きの状態で重なっていたことが判明した。銭貨は全て北宋銭で、2178SZの時期は中世(おそらく15~16世紀頃か)と位置付けられる。
- 2224SZ** 土葬土坑墓2224SZからは銭貨12枚(6~9)と銅製煙管(24)が出土した。銭貨は6を除き重複した状態で出土し各銭貨は白色粘土を間に挟み固着していた。6は新寛永通寶1枚である。7は7枚の銭貨が重複しそのうちの1枚が新寛永通寶である。8と9は5枚の銭貨が重なった状態であったが、8と9が分離できた。8は3枚の銭貨が重複し1枚が新寛永通寶である。9は2枚の銭貨が重複し1枚が新寛永通寶、もう1枚が新寛永通寶(文銭)である。これらの状況からみて、銭貨は全て新寛永通寶と推測され、2224SKの時期は18世紀以降と位置付けられる。24は銅製煙管と思われるが、雁首か吸口かは特定できない。
- 2464SZ** 土葬土坑墓2464SZからは銭貨7枚(10~12)が出土した。銭貨は10を除き重複した状態で出土しており白色粘土を間に挟み固着していたが、1枚(11)のみ剥離することができた。10と11はそれぞれ新寛永通寶1枚である。12は5枚の銭貨が重複し1枚が新寛永通寶、もう1枚が新寛永通寶(文銭)である。銭貨は全て新寛永通寶と推測され、2464SKの時期は18世紀以降と位置付けられる。
- 1224SK** 土坑1224SKからは銭貨1枚(13)が出土した。元々の銭面の鋳出しが不明瞭な上に白色粘土を含む土砂が固着しており、銭種は不明であるが、寛永通寶と推測される。
- 036SK** 柱穴036SKからは新寛永通寶1枚(14)が出土した。
- 2326SZ** 土葬土坑墓2326SZからは煙管が1点出土した(22)。銅製雁首と竹製羅字があり、吸口が欠損している。羅字は雁首に装着された部分と単独に存在するものに分離している。雁首側面には僅かに重ね合わせた痕跡が認められ、受皿部との境界に低い突帯が確認できる。
- 2465SD** 銅製煙管の吸口部が1点出土した(23)。雁首と羅字は残存していない。
- 包含層等** 15は14区の視乱から出土した新寛永通寶1枚、16と17は14区2層から出土した
- 銭貨** 銭貨6枚である。白色粘土を含む土砂が固着し重なった状態であったが、1枚が分離できた。16は新寛永通寶1枚で、17は5枚の銭貨が重複し1枚が新寛永通寶である。銭種は全て寛永通寶と推測され、本来は土葬土坑墓に伴う副葬品とみられる。
- 18と19は19C区から出土した銭貨で、18は新寛永通寶1枚、19は銭面の鋳出しが

不明瞭な上に土砂が固着して銭種は不明であるが、寛永通寶と推測される。20は19A区、
21は19B区のそれぞれ表土から出土した銭貨で、ともに新寛永通寶1枚である。この

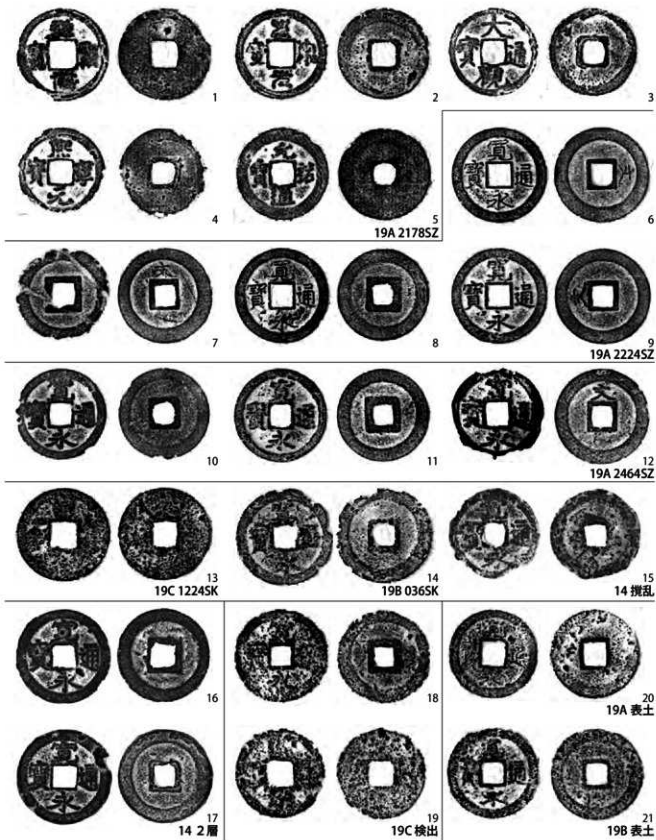


図 108 万瀬遺跡出土銭貨

他に図示しなかったが、1020SKから出土した銭貨1枚?があるが、固着が激しく詳細は不明。

金属製品 25～28は14区2層から出土した鉄製品であり、25は鉄釘、26と27は刀子、28は鉄塊系遺物でおそらく鋳造品の破片の一部と推定される。

金属関連遺物 29は14区トレンチから出土した2分の1分割輪型鉄滓である。上面は気泡がやや大きめで少なく比較的平坦で、下面は土砂が激しく固着していた。鍛錬鍛冶に伴う鉄滓と推定される。

なお、万瀬遺跡では中世段階の地床炉跡が複数確認されており、その一部が鍛冶炉の可能性が考えられた。このため、19C区1527SL、19A区2127SL、19A区2445SL、19A区2448SL、19A区2449SLについて炉跡とその周辺の土壌をサンプル採取し水洗篩別作業を行って分析を進めた。この結果、19C区1527SLでわずかに鉄滓状微細遺物を2点ほど検出したにとどまっており、これらが鍛冶炉である可能性は極めて低いことが判明した。

近代以降の金属製品 これまでは近世まで遡る可能性のある遺物を紹介したが、近代に属する遺物も少なく出土しているため、その一部を紹介する。1235SKでは鉄釘2点と釘類1点が出土した(30～32)。また、33は蹄鉄である。

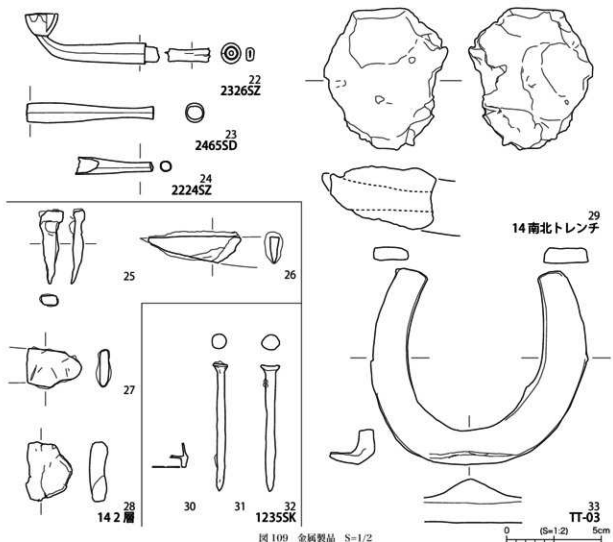


図109 金属製品 S=1/2

第4章 自然化学分析

第1節 蛍光X線分析による黒曜石産地推定

（株）第四紀 地質研究所

実験条件 分析はエネルギー分散型蛍光X線分析装置（日本電子製J SX-1000 S）で行なった。

この分析装置は標準試料を必要としないファンダメンタルパラメータ法（FP法）による自動定量計算システムが採用されており、6 C～9 2 Uまでの元素分析ができ、ハイパワーX線源（最大30 k V、4 mA）の採用で微量試料～最大290 mmφ×80 mm Hまでの大型試料の測定が可能である。分析はバルクFP法でおこなった。FP法とは試料を構成する全元素の種類と濃度、X線源のスペクトル分布、装置の光学系、各元素の質量吸収係数など装置定数や物性値を用いて、試料から発生する各元素の理論強度を計算する方法である。

実験条件はバルクFP法（スタンダードレス方式）、分析雰囲気＝真空、X線管ターゲット素材＝Rh、加速電圧＝30 k V、管電流＝自動制御、分析時間＝24秒（有効分析時間）である。

分析対象元素はSi, Ti, Al, Fe, Mn, Mg, Ca, Na, K, P, Rb, Sr, Y, Zrの14元素、分析値は黒曜石の含水量＝0と仮定し、酸化物の重量％を100％にノーマライズし、表示した。

地質学的には分析値の重量％は小数点以下2桁で表示することになっているが、微量元素のRb, Sr, Y, Zrは重量％では小数点以下3～4桁の微量となり、小数点以下2桁では0と表示される。ここでは分析装置のソフトにより計算された小数点以下4桁を用いて化学分析結果を表示した。

主要元素と微量元素の酸化物濃度（重量％）で $\text{SiO}_2\text{-Al}_2\text{O}_3\text{-Fe}_2\text{O}_3\text{-TiO}_2\text{-K}_2\text{O-CaO}$ の各相関図、Rb-Srは積分強度の相関図の4組の組み合わせで図を作成した。

分析結果 表7 化学分析表には分析結果、表8には強被熱を受けた万瀬-27のEDS分析結果表、表9 黒曜石原産地対比表には分析結果に基づいて原産地が記載してある。

1) 万瀬遺跡出土黒曜石遺物は図111 $\text{Fe}_2\text{O}_3\text{-TiO}_2$ 図、図112 $\text{K}_2\text{O-CaO}$ 図にみられるように和田峠系-2の星ヶ塔産であることを示している。強被熱を受けている遺物は万瀬-27の1個である。

2) 万瀬遺跡の和田峠系-2（星ヶ塔）とされた遺物は新鮮なもの、遺物表面が風化した風化1と風化2の3種類に分類される。風化1としたものは第2図 $\text{Fe}_2\text{O}_3\text{-TiO}_2$ 図の中で TiO_2 の値が0.2～0.3の領域にあり、風化2としたものは TiO_2 の値が0.05～1.5の領域にあり、領域を異にしている。

3) 図114 $\text{SiO}_2\text{-Al}_2\text{O}_3$ 図（付図）にみられるように万瀬-9, 13, 14の3個は SiO_2 の値が71～73の領域にあり、明らかに異質であり、原産地は不明である。万瀬-31は SiO_2 の値が99.7%あり、ガラス片のように見受けられる。

表7 重層化化学分析表

試料名	Na2O	MgO	Al2O3	SiO2	P2O5	K2O	CaO	TO2	MnO	FeO	R2O3	SiO2	Y2O3	ZrO2	Total	検出			
方層-1	2.7500	0.0000	12.5000	75.3000	0.0400	71.8000	0.6000	0.7300	0.1200	1.6100	0.0200	0.0100	0.0100	0.0100	99.9300	2033	753	和陶峰基-2(骨ヶ塚)	小型碎片
方層-2	2.7300	0.0000	12.1000	77.6000	0.0000	63.1000	0.7400	0.1400	0.1500	0.7100	0.0100	0.0100	0.0100	0.0100	100.0000	1981	587	和陶峰基-2(骨ヶ塚)	石皿
方層-3	1.8400	0.1100	12.6000	76.6000	0.0900	63.1000	0.7300	0.1300	0.1000	0.3000	0.0300	0.0100	0.0100	0.0200	99.9800	1602	468	和陶峰基-2(骨ヶ塚)	小型碎片
方層-4	1.8900	0.1000	12.3000	74.5000	0.3300	0.7900	0.6200	0.8400	0.1400	0.3600	0.0200	0.0100	0.0000	0.0200	100.0200	2032	230	和陶峰基-2(尾川)	小型碎片
方層-5	1.9600	0.1000	12.1000	77.2000	0.0500	63.5000	0.7200	0.1600	0.1100	0.8000	0.0200	0.0100	0.0000	0.0200	99.9400	1716	538	和陶峰基-2(尾川)	小型碎片
方層-8	1.9100	0.1000	12.1000	76.1000	0.0200	67.5000	0.7100	0.1200	0.1600	0.6500	0.0200	0.0100	0.0100	0.0200	99.9700	1930	233	和陶峰基-2(尾川)	スレイトパー
方層-7	1.9900	0.0000	12.1000	77.4000	0.0500	67.8000	0.6800	0.1500	0.1300	0.7000	0.0200	0.0100	0.0100	0.0100	99.9900	1135	546	和陶峰基-2(尾川)	小型碎片
方層-9	2.2000	0.0000	12.1000	77.1000	0.0000	63.7000	0.9000	0.2000	0.1600	1.8000	0.0500	0.0100	0.0100	0.0400	99.9900	2061	0	和陶峰基-2(尾川)	敷地碎片
方層-8	2.3000	0.1100	13.6000	71.1000	0.2900	62.5000	0.7500	0.0500	0.1100	0.3000	0.0300	0.0100	0.0100	0.0200	99.9500	1885	499	産地不明(安山岩系?)	敷地碎片
方層-10	1.8000	0.1200	13.1000	74.7000	0.2200	71.7000	0.7600	0.7800	0.1500	1.9000	0.0400	0.0100	0.0100	0.0300	100.0200	2233	307	和陶峰基-2(尾川)	敷地碎片
方層-11	2.1600	0.0800	12.3000	76.6000	0.1900	67.9000	0.7100	0.1600	0.1200	1.6200	0.0200	0.0100	0.0100	0.0200	99.9700	1749	612	和陶峰基-2(尾川)	小型碎片
方層-12	2.0700	0.1500	12.7000	76.4000	0.0700	63.9000	0.7100	0.1700	0.1100	1.8000	0.0200	0.0100	0.0100	0.0200	99.9800	1849	477	和陶峰基-2(尾川)	小型碎片
方層-13	1.9600	0.3000	14.6000	75.0000	0.1800	62.2000	1.0500	0.0300	0.0600	2.7000	0.0200	0.0100	0.0100	0.0800	99.6700	1521	664	産地不明(安山岩系?)	小型碎片
方層-14	0.9000	0.4400	14.3000	72.2000	0.2400	33.1000	1.0900	0.2600	0.0900	3.6000	0.0200	0.0100	0.0100	0.0700	100.0700	1463	237	産地不明(安山岩系?)	小型碎片
方層-15	1.9700	0.1400	12.8000	77.4000	0.0500	61.4000	0.7900	0.1200	0.1000	0.9200	0.0300	0.0100	0.0000	0.0200	99.9900	1822	310	和陶峰基-2(尾川)	小型碎片
方層-16	2.1800	0.0000	12.6000	76.8000	0.0900	72.1000	0.6900	0.1900	0.1100	0.9600	0.0200	0.0100	0.0000	0.0200	99.9900	2054	469	和陶峰基-2(尾川)	敷地碎片
方層-17	1.5500	0.4100	14.8000	75.5000	0.1300	39.9000	0.6600	0.2300	0.1100	3.4000	0.0400	0.0200	0.0100	0.0200	100.0300	1070	396	和陶峰基-2(尾川)	敷地碎片
方層-18	1.8000	0.1300	11.9000	77.6000	0.0900	63.3000	0.6900	0.1500	0.1200	0.9400	0.0300	0.0100	0.0000	0.0200	100.0200	1767	377	和陶峰基-2(尾川)	敷地碎片
方層-19	2.1400	0.2300	13.4000	75.7000	0.0900	62.5000	0.7200	0.1100	0.1300	0.2000	0.0100	0.0100	0.0100	0.0100	99.9800	1529	753	和陶峰基-2(尾川)	石皿
方層-20	2.1100	0.0000	12.6000	76.9000	0.0000	67.9000	0.7800	0.1300	0.1900	1.3400	0.0600	0.0300	0.0100	0.0100	99.8400	1422	222	和陶峰基-2(尾川)	小型碎片
方層-21	2.7100	0.1300	12.9000	74.9000	0.0300	79.5000	0.9300	0.1800	0.1500	1.3400	0.0200	0.0100	0.0100	0.0200	100.0600	4443	479	和陶峰基-2(尾川)	小型碎片内石皿
方層-22	2.9600	0.1000	12.9000	76.9000	0.0000	63.4000	0.7400	0.1600	0.1100	0.9500	0.0200	0.0100	0.0000	0.0200	100.0100	1712	688	和陶峰基-2(尾川)	敷地碎片
方層-23	2.1000	0.0000	12.9000	77.9000	0.0400	63.5000	0.6900	0.1700	0.1100	1.6900	0.0200	0.0100	0.0100	0.0100	100.0200	1516	373	和陶峰基-2(尾川)	敷地碎片
方層-24	2.5000	0.1000	13.6000	76.1000	0.0800	64.9000	0.7000	0.1800	0.1200	1.6200	0.0200	0.0100	0.0100	0.0100	100.0300	1470	322	和陶峰基-2(尾川)	敷地碎片
方層-25	1.2500	0.1200	12.6000	77.1000	0.0000	63.9000	0.7100	0.1200	0.1600	0.6200	0.0400	0.0200	0.0100	0.0200	100.0100	1771	665	和陶峰基-2(尾川)	小型碎片
方層-26	2.8000	0.1200	12.3000	74.9000	0.0300	62.7000	0.6200	0.1400	0.1600	1.2600	0.0400	0.0200	0.0100	0.0200	100.0100	1521	179	和陶峰基-2(尾川)	小型碎片
方層-27	1.9100	0.1200	12.3000	74.9000	0.0300	61.0000	0.6900	0.1600	0.1200	1.3500	0.0200	0.0100	0.0100	0.0200	100.0100	1521	517	和陶峰基-2(尾川)	小型碎片
方層-28	1.9100	0.1200	12.3000	74.9000	0.0300	61.0000	0.6900	0.1600	0.1200	1.1100	0.0200	0.0100	0.0100	0.0200	100.0100	1521	517	和陶峰基-2(尾川)	小型碎片
方層-29	2.1900	0.1700	13.6000	76.9000	0.0800	64.8000	0.7300	0.1800	0.1200	1.7000	0.0400	0.0200	0.0100	0.0200	100.0400	2077	362	和陶峰基-2(尾川)	石皿
方層-30	2.1900	0.1700	13.6000	76.9000	0.0800	64.8000	0.7300	0.1800	0.1200	1.7000	0.0400	0.0200	0.0100	0.0200	100.0400	2077	362	和陶峰基-2(尾川)	小型碎片
方層-31	0.0000	0.0000	0.0000	99.7000	0.0000	0.0500	0.0400	0.0400	0.0000	0.0000	0.0000	0.0000	0.0000	0.0000	99.8900	0	0	ガラス	一次加工のある小型碎片
方層-32	2.4600	0.0000	12.9000	76.6000	0.0300	63.9000	0.6800	0.1500	0.1600	0.9400	0.0300	0.0100	0.0100	0.0100	99.9900	2047	533	和陶峰基-2(尾川)	敷地碎片
方層-33	2.4600	0.1200	12.7000	75.7000	0.0200	72.1000	0.7100	0.1600	0.1100	0.9100	0.0200	0.0100	0.0000	0.0200	100.0200	3102	844	和陶峰基-2(尾川)	小型碎片
方層-34	2.1100	0.1000	13.3000	75.0000	0.0600	63.7000	0.7300	0.1700	0.1100	1.2100	0.0200	0.0100	0.0100	0.0200	100.0400	5133	0	和陶峰基-2(尾川)	小型碎片
方層-35	2.3600	0.0000	14.1000	74.2000	0.2700	70.9000	0.7300	0.1400	0.1600	0.9000	0.0300	0.0100	0.0100	0.0100	99.9500	1933	592	和陶峰基-2(尾川)	小型碎片
方層-36	2.4600	0.1100	13.5000	75.5000	0.0200	64.9000	0.7200	0.1600	0.1200	0.9500	0.0200	0.0100	0.0100	0.0100	99.9800	2066	1134	和陶峰基-2(尾川)	小型碎片
方層-37	2.4000	0.0000	13.1000	75.5000	0.0700	64.9000	0.6800	0.1700	0.1200	1.0000	0.0200	0.0100	0.0100	0.0100	100.0300	2050	671	和陶峰基-2(尾川)	小型碎片
方層-38	2.4000	0.0000	13.1000	76.8000	0.0000	63.1000	0.7100	0.1600	0.1000	1.6000	0.0200	0.0100	0.0000	0.0200	99.9300	1921	360	和陶峰基-2(尾川)	小型碎片
方層-39	2.1900	0.1100	12.7000	76.5000	0.0300	64.1000	0.6600	0.1700	0.1100	1.6100	0.0200	0.0000	0.0000	0.0100	99.9500	1931	216	和陶峰基-2(尾川)	敷地碎片

表8 焼熱減量分析・EDS・化学分析表

試料名	Na2O	MgO	Al2O3	SiO2	P2O5	K2O	CaO	TO2	MnO	Fe2O3	Total
方層-27	0.5000	0.0000	12.6000	72.0000	0.0000	10.8000	0.8200	0.4500	0.4900	4.1300	100.0000

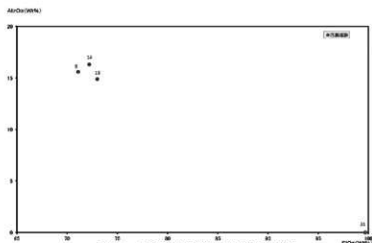


図 114 日本の黒曜石 SiO_2 - Al_2O_3 図 (付図)

表 9 黒曜石原産地対比表

試料名	原産地	器種
万葉-1	和歌山系-2(東ケ峰)	小型割片
万葉-2	和歌山系-2(東ケ峰)	石鏃
万葉-3	和歌山系-2(東ケ峰)	小型割片
万葉-5	和歌山系-2(東ケ峰)	小型割片
万葉-6	和歌山系-2(東ケ峰)	スクレイパー
万葉-7	和歌山系-2(東ケ峰)	小型割片
万葉-11	和歌山系-2(東ケ峰)	小型割片
万葉-12	和歌山系-2(東ケ峰)	小型割片
万葉-15	和歌山系-2(東ケ峰)	小型割片
万葉-16	和歌山系-2(東ケ峰)	微細割片
万葉-18	和歌山系-2(東ケ峰)	石鏃
万葉-22	和歌山系-2(東ケ峰)	小型割片
万葉-23	和歌山系-2(東ケ峰)	微細割片
万葉-24	和歌山系-2(東ケ峰)	小型割片
万葉-25	和歌山系-2(東ケ峰)	小型割片
万葉-27	和歌山系-2(東ケ峰)	小型割片
万葉-28	和歌山系-2(東ケ峰)	スクレイパー
万葉-29	和歌山系-2(東ケ峰)	石鏃
万葉-32	和歌山系-2(東ケ峰)	小型割片
万葉-33	和歌山系-2(東ケ峰)	小型石鏃
万葉-38	和歌山系-2(東ケ峰)	小型割片
万葉-37	和歌山系-2(東ケ峰)	小型割片
万葉-38	和歌山系-2(東ケ峰)	小型石鏃
万葉-39	和歌山系-2(東ケ峰)	微細割片
万葉-4	和歌山系-2(東北1)	小型割片
万葉-10	和歌山系-2(東北1)	微細割片
万葉-17	和歌山系-2(東北1)	微細割片
万葉-19	和歌山系-2(東北1)	微細割片
万葉-21	和歌山系-2(東北1)	小型割片石鏃
万葉-25	和歌山系-2(東北1)	小型石鏃
万葉-6	和歌山系-2(東北2)	微細割片
万葉-20	和歌山系-2(東北2)	小型割片
万葉-26	和歌山系-2(東北2)	石鏃
万葉-30	和歌山系-2(東北2)	小型割片
万葉-34	和歌山系-2(東北2)	小型割片
万葉-31	ガラス?	二次加工のある小型割片
万葉-9	産地不明・安山岩系?	微細割片
万葉-13	産地不明・安山岩系?	小型割片
万葉-14	産地不明・安山岩系?	小型石鏃

引用文献

- 井上 巖 (2000) 東北・北陸北部における原産地黒曜石の蛍光X線分析 (XRF) 北越考古学、第11号、23-38。
- 井上 巖 (2001) テフラ中の火山ガラスの同定に関する一提言、軽石学雑誌、第7号 23-51。
- 井上 巖 (2008) 東北日本の原産地黒曜石 関東・中部・東海編
- 井上 巖 (2008) 東北日本の原産地黒曜石 東北・北陸編
- 井上 巖 (2008) 東北日本の原産地黒曜石 北海道編
- 井上 巖 (2008) 東北日本の原産地黒曜石写真集

考 察 井戸枠および柱材？は、いずれもマツ属複維管束亜属であった。マツ属複維管束亜属は、木理通直でまっすぐに生育し、加工性が良い樹種である。また油分が多く、耐朽性が高い（伊東ほか，2011）。

井戸部材はいずれもカエデ属、曲物側板はヒノキであった。ヒノキはマツ属複維管束亜属と同様にまっすぐに加工性が良く、カエデ属は堅硬な樹種である（伊東ほか，2011）。

井戸跡 212SE では、井戸枠にはマツ属複維管束亜属、井戸部材にはカエデ属のみが利用されており、部材ごとに堅硬な樹種や耐朽性の高い樹種を使い分けて利用していたと考えられる。

愛知県の江戸時代頃の井戸部材では、愛知県の郷土遺跡ではマツ属複維管束亜属の残木が確認されているが、それ以外は概ねヒノキ属やスギであった（伊東・山田編，2012）。万瀬遺跡の井戸部材では、井戸枠にはマツ属複維管束亜属のみが利用され、底部木枠である井戸部材ではカエデ属のみが利用されており、異なる様相を示した。

引用文献

- 伊東隆夫・佐野雄三・安部 久・内海泰弘・山口和穂（2011）日本有用樹木誌，238p，海青社。
 伊東隆夫・山田昌久編（2012）木の考古学—出土木製品用材データベース—，449p，海青社。

表 11 万瀬遺跡出土木製品の樹種同定結果一覧

試料No.	整理No.	調査区	グリッド	遺構等	器種名	樹種	木取り	時期	
1-1	1	19B	4027	212SE	井戸枠	マツ属複維管束亜属	追柱目	近世	
1-2	2	19B	4027	212SE	井戸枠	マツ属複維管束亜属	追柱目	近世	
1-3	3	19B	4027	212SE	井戸枠	マツ属複維管束亜属	追柱目	近世	
1-4	4	19B	4027	212SE	井戸枠	マツ属複維管束亜属	追柱目	近世	
1-5	5	19B	4027	212SE	井戸枠	マツ属複維管束亜属	追柱目	近世	
1-6	6	19B	4027	212SE	井戸枠	マツ属複維管束亜属	追柱目	近世	
1-7	7	19B	4027	212SE	井戸枠	マツ属複維管束亜属	追柱目	近世	
2-1	8	19B	4027	212SE	井戸枠	マツ属複維管束亜属	追柱目	近世	
2-2	9	19B	4027	212SE	井戸枠	マツ属複維管束亜属	追柱目	近世	
2-3	10	19B	4027	212SE	井戸枠	マツ属複維管束亜属	追柱目	近世	
2-4	11	19B	4027	212SE	井戸枠	マツ属複維管束亜属	追柱目	近世	
2-5	12	19B	4027	212SE	井戸枠	マツ属複維管束亜属	追柱目	近世	
2-6	13	19B	4027	212SE	井戸枠	マツ属複維管束亜属	追柱目	近世	
2-7	14	19B	4027	212SE	井戸枠	マツ属複維管束亜属	追柱目	近世	
2-8	15	19B	4027	212SE	井戸枠	マツ属複維管束亜属	追柱目	近世	
2-9	16	19B	4027	212SE	井戸枠	マツ属複維管束亜属	追柱目	近世	
3-1	17	19B	4027	212SE	井戸枠	マツ属複維管束亜属	追柱目	近世	
3-2	18	19B	4027	212SE	井戸枠	マツ属複維管束亜属	追柱目	近世	
3-3	19	19B	4027	212SE	井戸枠	マツ属複維管束亜属	追柱目	近世	
3-4	20	19B	4027	212SE	井戸枠	マツ属複維管束亜属	追柱目	近世	
3-5	21	19B	4027	212SE	井戸枠	マツ属複維管束亜属	追柱目	近世	
3-6	22	19B	4027	212SE	井戸枠	マツ属複維管束亜属	追柱目	近世	
3-7	23	19B	4027	212SE	井戸枠	マツ属複維管束亜属	追柱目	近世	
3-8	24	19B	4027	212SE	井戸枠	マツ属複維管束亜属	追柱目	近世	
4-1	25	19B	4027	212SE	底部木枠	井戸部材	カエデ属	芯持丸木	近世
4-2	26	19B	4027	212SE	底部木枠	井戸部材	カエデ属	芯持丸木	近世
4-3	27	19B	4027	212SE	底部木枠	井戸部材	カエデ属	半割	近世
4-4	28	19B	4027	212SE	底部木枠	井戸部材	カエデ属	半割	近世
4-5	29	19B	4027	212SE	底部木枠	井戸部材	カエデ属	半割	近世
5-1-1	30	19C	3232	1062SK d-0094	曲物側板	ヒノキ	経目	近世	
5-1-2	31	19C	3232	1062SK d-0094	曲物側板	ヒノキ	経目	近世	
5-6	32	19C	3232	1062SK d-0094	柱材？	マツ属複維管束亜属	半割	近世	

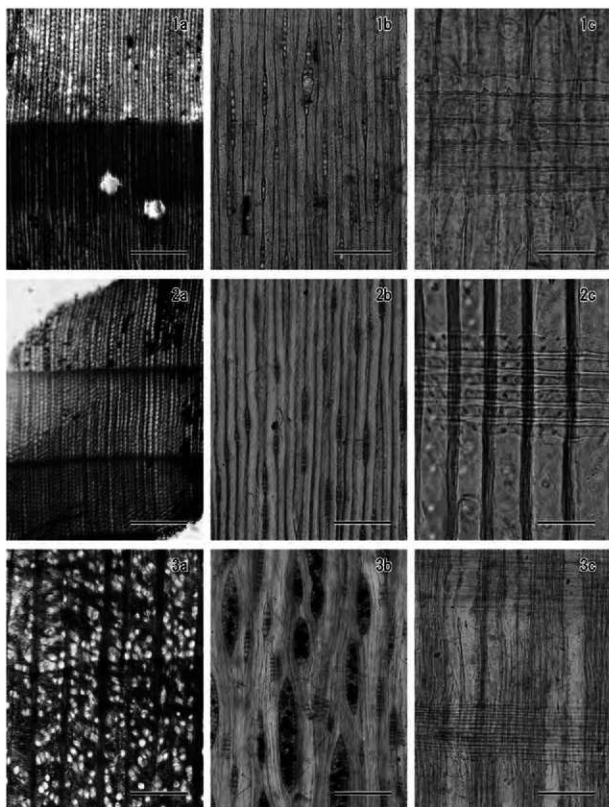


図 115 万瀬遺跡出土木製品の光学顕微鏡写真

1a-1c. マツ属履帯管束葉属 (No.3-4)、2a-2c. ヒノキ (No.5-1-2)、3a-3c. カエデ属 (No.4-1)

a: 横断面 (スケール=500 μm)、b: 接線断面 (スケール=200 μm)、c: 放射断面 (スケール=1:250 μm · 3:200 μm)

第3節 土壌出土および土器付着炭化物の放射性炭素年代測定

パレオ・ラボ AMS 年代測定グループ

- (I) 伊藤 茂・安昭炫・佐藤正教・廣田正史・山形秀樹・小林統一・Zaur Lomtadize・Ineza Jorjoliiani・小林克也
 (II) 伊藤 茂・佐藤正教・廣田正史・山形秀樹・Zaur Lomtadize・中村賢太郎
 (III) 伊藤 茂・加藤和浩・廣田正史・佐藤正教・山形秀樹・Zaur Lomtadize・山本 華・小林克也

(編注) 本節については、試料によって分析担当者および報文の執筆者が異なる。したがって、報文は (I) ~ (III) を付してどのグループによるものかを示し、共通する部分は (共通) とした。

はじめに(共通) 愛知県北設楽郡に位置する万瀬遺跡から出土した試料について、加速器質量分析法 (AMS 法) による放射性炭素年代測定を行った。

(III) なお、試料の採取、報告書作成は山本、小林が行った。

試料と(I) 試料は、グリッド 3930 の2層で出土した鉢 (登録番号 0133) の、胴部外面付着炭化物1点 (PLD-29203) である。時期については、縄文時代後期末であると考えられている。測定試料の情報、調製データは表 12-1 のとおりである。

表 12-1 放射性炭素年代 測定試料および前処理 (I)

測定番号	遺跡データ	試料データ	前処理
PLD-29203	グリッド: 3930 層位: 2層 登録番号: 0133	器種: 鉢 採取部位: 胴部外面 種類: 付着炭化物	超音波洗浄 酸・アルカリ・酸洗浄 (塩酸: 1.2N, 水酸化ナトリウム: 1.0N, 塩酸: 1.2N)

表 12-2 放射性炭素年代 測定試料および前処理 (II)

測定番号	遺跡データ	試料データ	前処理
PLD-40567	調査区: 4KMZ19A グリッド: 3731 遺構: 21165L 取り上げ番号: d-0162 日付: 20191113	種類: 炭化材 試料の性状: 不明 状態: dry	超音波洗浄 有機溶剤処理: アセトン 酸・アルカリ・酸洗浄 (塩酸: 1.2 mol/L, 水酸化ナトリウム: 1.0 mol/L, 塩酸: 1.2 mol/L)
PLD-40568	調査区: 4KMZ19A グリッド: 3735 遺構: 24005I 登録番号: 0394 日付: 20191220	種類: 土器付着炭化物 部位: 胴部内面 備考: 表裏縄文土器 状態: dry	超音波洗浄 有機溶剤処理: アセトン 酸・アルカリ・酸洗浄 (塩酸: 1.2 mol/L, 水酸化ナトリウム: 1.0 mol/L, 塩酸: 1.2 mol/L)
PLD-40569	調査区: 4KMZ19Ab グリッド: 3336 遺構: 24295K 登録番号: 0408 日付: 20191224	種類: 土器付着炭化物 部位: 胴部外面 備考: 表裏縄文土器 状態: dry	超音波洗浄 有機溶剤処理: アセトン 酸・アルカリ・酸洗浄 (塩酸: 1.2 mol/L, 水酸化ナトリウム: 1.0 mol/L, 塩酸: 1.2 mol/L)
PLD-40570	調査区: 4KMZ19C グリッド: 3233 遺構: 15275L 日付: 20191129	種類: 炭化材 試料の性状: 不明 状態: dry	超音波洗浄 有機溶剤処理: アセトン 酸・アルカリ・酸洗浄 (塩酸: 1.2 mol/L, 水酸化ナトリウム: 1.0 mol/L, 塩酸: 1.2 mol/L)
PLD-40571	調査区: 4KMZ19C グリッド: 3433 遺構: 17205I 日付: 20191126	種類: 炭化材 試料の性状: 不明 状態: dry	超音波洗浄 有機溶剤処理: アセトン 酸・アルカリ・酸洗浄 (塩酸: 1.2 mol/L, 水酸化ナトリウム: 1.0 mol/L, 塩酸: 1.2 mol/L)
PLD-40572	調査区: 4KMZ19C グリッド: 3433 遺構: 17305I 日付: 20191205	種類: 炭化材 試料の性状: 不明 状態: dry	超音波洗浄 有機溶剤処理: アセトン 酸・アルカリ・酸洗浄 (塩酸: 1.2 mol/L, 水酸化ナトリウム: 1.0 mol/L, 塩酸: 1.2 mol/L)
PLD-40573	調査区: 4KMZ19C グリッド: 3433 遺構: 17405I 日付: 20191205	種類: 炭化材 試料の性状: 不明 状態: dry	超音波洗浄 有機溶剤処理: アセトン 酸・アルカリ・酸洗浄 (塩酸: 1.2 mol/L, 水酸化ナトリウム: 1.0 mol/L, 塩酸: 1.2 mol/L)

- (Ⅱ) 測定試料の情報、調製データは表 12-2 のとおりである。
- (Ⅲ) 試料は、土器の内外面に付着した炭化物 25 点である。各試料の時期および測定試料の情報、調製データは表 12-3、12-4 に示す。なお、登録番号 0284 (PLD-47195)、登録番号 0317 (PLD-47198)、登録番号 0323 (PLD-47202) の土器付着炭化物は、前処理の時点で年代測定に必要な炭素量が確保できなかつたため、測定は行えなかつた。よって測定試料は、22 点となった。また、炭素量が十分に確保できた試料についてはグラファイト化を行ったが、登録番号 0003 (PLD-47186)、登録番号 0245 (PLD-47192)、登録番号 0322 (PLD-47200) の試料についてはグラファイト化を行うための炭素量が十分に確保できなかつたため、セメント化を行った。
- (共通) 試料は調製後、加速器質量分析計 (パレオ・ラボ、コンパクト AMS: NEC 製 1.5SDH) を用いて測定した。得られた ^{14}C 濃度について同位体分別効果の補正を行った後、 ^{14}C 年代、暦年代を算出した。

結果 (Ⅰ) 表 13-1 に、同位体分別効果の補正に用いる炭素同位体比 ($\delta^{13}\text{C}$)、同位体分別効果の補正を行って暦年較正に用いた年代値と較正によって得られた年代範囲、慣用に従って年代値と誤差を丸めて表示した ^{14}C 年代を、図 116-1 に暦年較正結果をそれぞれ示す。

(Ⅱ) 表 13-2 に、同位体分別効果の補正に用いる炭素同位体比 ($\delta^{13}\text{C}$)、同位体分別効果の補正を行って暦年較正に用いた年代値と較正によって得られた年代範囲、慣用に従って年代値と誤差を丸めて表示した ^{14}C 年代、暦年較正結果を、図 116-2,3 に暦年較正結果をそれぞれ示す。

(Ⅲ) 表 13-3、13-4 に、同位体分別効果の補正に用いる炭素同位体比 ($\delta^{13}\text{C}$)、同位体分別効果の補正を行って暦年較正に用いた年代値と較正によって得られた年代範囲、慣用に従って年代値と誤差を丸めて表示した ^{14}C 年代を、図 116-4-6 に暦年較正結果を、図 117 にマルチプロット図をそれぞれ示す。

(共通) 暦年較正に用いた年代値は下 1 桁を丸めていない値であり、今後暦年較正曲線が更新された際にこの年代値を用いて暦年較正を行うために記載した。

^{14}C 年代は AD1950 年を基点にして何年前かを示した年代である。 ^{14}C 年代 (yrBP) の算出には、 ^{14}C の半減期として Libby の半減期 5568 年を使用した。また、付記した ^{14}C 年代誤差 ($\pm 1\sigma$) は、測定の統計誤差、標準偏差等に基づいて算出され、試料の ^{14}C 年代がその ^{14}C 年代誤差内に入る確率が 68.2% (※ (Ⅲ) のみ 68.27%) であることを示す。

なお、暦年較正の詳細は以下のとおりである。暦年較正とは、大気中の ^{14}C 濃度が一定で半減期が 5568 年として算出された ^{14}C 年代に対し、過去の宇宙線強度や地球磁場の変動による大気中の ^{14}C 濃度の変動、および半減期の違い (^{14}C の半減期 5730 ± 40 年) を較正して、より実際の年代値に近いものを算出することである。

^{14}C 年代の暦年較正には OxCal4.2 (較正曲線データ: IntCal13) を使用した。なお、 1σ 暦年代範囲は、OxCal の確率法を使用して算出された ^{14}C 年代誤差に相当する 68.2% (※ (Ⅲ) のみ 68.27%) 信頼限界の暦年代範囲であり、同様に 2σ 暦年代範囲は 95.4% (※ (Ⅲ) のみ 95.45%) 信頼限界の暦年代範囲である。カッコ内の百分率の値は、その範囲内に暦年代が入る確率を意味する。グラフ中の縦軸上の曲線は ^{14}C 年代の確率分布を示し、二重曲線は暦年較正曲線を示す。

表 12-3 放射性炭素年代測定試料および前処理 (III)

測定番号	試料番号	試料データ	測定時期	前処理
PLD-47185	試料No. 19 登録番号: 0048	種類: 土器付着炭化物 器種: 深鉢 部位: 胴部下外面 状態: dry	縄文時代後期	超音波洗浄 有機溶剤処理: アセトン 酸・アルカリ・酸洗浄 (塩酸: 1.2 mol/L, 水酸化ナトリウム: 0.01 mol/L, 塩酸: 1.2 mol/L) グラファイト化
PLD-47186	試料No. 55 登録番号: 0003	種類: 土器付着炭化物 器種: 深鉢 部位: 胴部外面 状態: dry	縄文時代後期中葉	超音波洗浄 有機溶剤処理: アセトン 酸・アルカリ・酸洗浄 (塩酸: 1.2 mol/L, 水酸化ナトリウム: 0.01 mol/L, 塩酸: 1.2 mol/L) セメントタイト化
PLD-47187	試料No. 84 登録番号: 0018	種類: 土器付着炭化物 器種: 深鉢 部位: 胴部外面 状態: dry	縄文時代後期中葉	超音波洗浄 有機溶剤処理: アセトン 酸・アルカリ・酸洗浄 (塩酸: 1.2 mol/L, 水酸化ナトリウム: 0.01 mol/L, 塩酸: 1.2 mol/L) グラファイト化
PLD-47188	試料No. 185 登録番号: 0103	種類: 土器付着炭化物 器種: 深鉢 部位: 胴部内面 状態: dry	縄文時代後期中葉以降	超音波洗浄 有機溶剤処理: アセトン 酸・アルカリ・酸洗浄 (塩酸: 1.2 mol/L, 水酸化ナトリウム: 0.01 mol/L, 塩酸: 1.2 mol/L) グラファイト化
PLD-47189	試料No. 193 登録番号: 0109	種類: 土器付着炭化物 器種: 深鉢 部位: 胴部下内面 状態: dry	縄文時代後期中葉～後葉	超音波洗浄 有機溶剤処理: アセトン 酸・アルカリ・酸洗浄 (塩酸: 1.2 mol/L, 水酸化ナトリウム: 0.01 mol/L, 塩酸: 1.2 mol/L) グラファイト化
PLD-47190	試料No. 321 登録番号: 0237	種類: 土器付着炭化物 器種: 深鉢 部位: 胴部外面 状態: dry	縄文時代後期	超音波洗浄 有機溶剤処理: アセトン 酸・アルカリ・酸洗浄 (塩酸: 1.2 mol/L, 水酸化ナトリウム: 1.0 mol/L, 塩酸: 1.2 mol/L) グラファイト化
PLD-47191	試料No. 324 登録番号: 0256	種類: 土器付着炭化物 器種: 深鉢 部位: 胴部外面 状態: dry	縄文時代後期～晩期	超音波洗浄 有機溶剤処理: アセトン 酸・アルカリ・酸洗浄 (塩酸: 1.2 mol/L, 水酸化ナトリウム: 0.01 mol/L, 塩酸: 1.2 mol/L) グラファイト化
PLD-47192	試料No. 399 登録番号: 0245	種類: 土器付着炭化物 器種: 深鉢 部位: 胴部内面 状態: dry	縄文時代後期中葉以降	超音波洗浄 有機溶剤処理: アセトン 酸・アルカリ・酸洗浄 (塩酸: 1.2 mol/L, 水酸化ナトリウム: 0.01 mol/L, 塩酸: 1.2 mol/L) セメントタイト化
PLD-47193	試料No. 419 登録番号: 0266	種類: 土器付着炭化物 器種: 鉢 部位: 胴部内面 状態: dry	縄文時代後期～晩期	超音波洗浄 有機溶剤処理: アセトン 酸・アルカリ・酸洗浄 (塩酸: 1.2 mol/L, 水酸化ナトリウム: 0.01 mol/L, 塩酸: 1.2 mol/L) グラファイト化
PLD-47194	試料No. 566 登録番号: 0280	種類: 土器付着炭化物 器種: 深鉢 部位: 胴部外面 状態: dry	縄文時代後期中葉以降	超音波洗浄 有機溶剤処理: アセトン 酸・アルカリ・酸洗浄 (塩酸: 1.2 mol/L, 水酸化ナトリウム: 1.0 mol/L, 塩酸: 1.2 mol/L) グラファイト化
PLD-47195	試料No. 635 登録番号: 0284	種類: 土器付着炭化物 器種: 深鉢 部位: 胴部内面 状態: dry	縄文時代後期後葉	測定不可
PLD-47196	試料No. 663 登録番号: 0163	種類: 土器付着炭化物 器種: 深鉢 部位: 胴部内面 状態: dry	縄文時代後期～晩期	超音波洗浄 有機溶剤処理: アセトン 酸・アルカリ・酸洗浄 (塩酸: 1.2 mol/L, 水酸化ナトリウム: 1.0 mol/L, 塩酸: 1.2 mol/L) グラファイト化
PLD-47197	試料 No. 1005 登録番号: 0333	種類: 土器付着炭化物 器種: 深鉢 部位: 胴部内面 状態: dry	縄文時代晩期～ 弥生時代前期	超音波洗浄 有機溶剤処理: アセトン 酸・アルカリ・酸洗浄 (塩酸: 1.2 mol/L, 水酸化ナトリウム: 1.0 mol/L, 塩酸: 1.2 mol/L) グラファイト化

表 12-4 放射性炭素年代測定試料および前処理 (III-2)

測定番号	試料番号	試料データ	推定時期	前処理
PLD-47198	試料 No. 1012 登録番号: 0317	種類: 土器付着炭化物 器種: 深鉢 部位: 胴部外面 状態: dry	縄文時代晩期後半	測定不可
PLD-47199	試料 No. 1013 登録番号: 0320	種類: 土器付着炭化物 器種: 深鉢 部位: 胴部下半・内面 状態: dry	縄文時代晩期	超音波洗浄 有機溶剤処理: アセトン 酸・アルカリ・酸洗浄 (塩酸: 1.2 mol/L, 水酸化ナトリウム: 0.1 mol/L, 塩酸: 1.2 mol/L) グラファイト化
PLD-47200	試料 No. 1024 登録番号: 0322	種類: 土器付着炭化物 器種: 深鉢 部位: 胴部・外面 状態: dry	縄文時代晩期	超音波洗浄 有機溶剤処理: アセトン 酸・アルカリ・酸洗浄 (塩酸: 1.2 mol/L, 水酸化ナトリウム: 0.01 mol/L, 塩酸: 1.2 mol/L) セメント化
PLD-47201	試料 No. 1027 登録番号: 0317	種類: 土器付着炭化物 器種: 深鉢 部位: 胴部・底部・外面 状態: dry	縄文時代晩期後半	超音波洗浄 有機溶剤処理: アセトン 酸・アルカリ・酸洗浄 (塩酸: 1.2 mol/L, 水酸化ナトリウム: 1.0 mol/L, 塩酸: 1.2 mol/L) グラファイト化
PLD-47202	試料 No. 1030 登録番号: 0323	種類: 土器付着炭化物 器種: 深鉢 部位: 胴部外面 状態: dry	縄文時代晩期	測定不可
PLD-47203	試料 No. 1058 登録番号: 0326	種類: 土器付着炭化物 器種: 深鉢 部位: 胴部外面 状態: dry	縄文時代晩期	超音波洗浄 有機溶剤処理: アセトン 酸・アルカリ・酸洗浄 (塩酸: 1.2 mol/L, 水酸化ナトリウム: 0.01 mol/L, 塩酸: 1.2 mol/L) セメント化
PLD-47204	試料 No. 1089 登録番号: 0349	種類: 土器付着炭化物 器種: 深鉢 部位: 胴部外面 状態: dry	縄文時代晩期	超音波洗浄 有機溶剤処理: アセトン 酸・アルカリ・酸洗浄 (塩酸: 1.2 mol/L, 水酸化ナトリウム: 0.1 mol/L, 塩酸: 1.2 mol/L) グラファイト化
PLD-47205	試料 No. 1094 登録番号: 0363	種類: 土器付着炭化物 器種: 甕 部位: □縁部～胴部外面 状態: dry	弥生時代後期	超音波洗浄 有機溶剤処理: アセトン 酸・アルカリ・酸洗浄 (塩酸: 1.2 mol/L, 水酸化ナトリウム: 1.0 mol/L, 塩酸: 1.2 mol/L) グラファイト化
PLD-47206	試料 No. 1129 登録番号: 0404	種類: 土器付着炭化物 器種: 深鉢 部位: 胴部外面 状態: dry	縄文時代早期前半	超音波洗浄 有機溶剤処理: アセトン 酸・アルカリ・酸洗浄 (塩酸: 1.2 mol/L, 水酸化ナトリウム: 0.01 mol/L, 塩酸: 1.2 mol/L) グラファイト化
PLD-47207	試料 No. 1137 登録番号: 0394	種類: 土器付着炭化物 器種: 深鉢 部位: 胴部外面 状態: dry	縄文時代早期前半	超音波洗浄 有機溶剤処理: アセトン 酸・アルカリ・酸洗浄 (塩酸: 1.2 mol/L, 水酸化ナトリウム: 1.0 mol/L, 塩酸: 1.2 mol/L) グラファイト化
PLD-47208	試料 No. 1138 登録番号: 0395	種類: 土器付着炭化物 器種: 深鉢 部位: 胴部内面 状態: dry	縄文時代早期前半	超音波洗浄 有機溶剤処理: アセトン 酸・アルカリ・酸洗浄 (塩酸: 1.2 mol/L, 水酸化ナトリウム: 1.0 mol/L, 塩酸: 1.2 mol/L) グラファイト化
PLD-47209	試料 No. 1144 登録番号: 0429	種類: 土器付着炭化物 器種: 深鉢 部位: □縁部外面 状態: dry	縄文時代早期前半	超音波洗浄 有機溶剤処理: アセトン 酸・アルカリ・酸洗浄 (塩酸: 1.2 mol/L, 水酸化ナトリウム: 1.0 mol/L, 塩酸: 1.2 mol/L) グラファイト化

表 13-1 放射線炭素年代測定および暦年校正の結果 (I)

測定番号	$\delta^{13}C$ (‰)	暦年校正用年代 ($\pm 1\sigma$)	^{14}C 年代 ($\pm 1\sigma$)	^{14}C 年代を暦年年代に校正した年代範囲	
				1 σ 暦年代範囲	2 σ 暦年代範囲
PLD-29203 登録番号0133	-23.64 \pm 0.18	3026 \pm 19	3025 \pm 20	1368-1363 cal BC (3.4%) 1382-1343 cal BC (17.7%)	1306-1216 cal BC (77.7%)

表 13-2 放射線炭素年代測定および暦年校正の結果 (II)

測定番号	$\delta^{13}C$ (‰)	暦年校正用年代 ($\pm 1\sigma$)	^{14}C 年代 ($\pm 1\sigma$)	気年未を暦年年代に校正した年代範囲		気年未を暦年年代に校正した年代範囲	
				1 σ 暦年代範囲	2 σ 暦年代範囲	1 σ 暦年代範囲	2 σ 暦年代範囲
PLD-40567	-31.95 \pm 0.36	9427 \pm 40	9425 \pm 40	8756-8696 cal BC (40.9%) 9683-8640 cal BC (27.3%)	8307-8017 cal BC (95.4%)	10705-10645 cal BP (46.9%) 10632-10589 cal BP (27.3%)	10756-10566 cal BP (95.4%)
PLD-40568	-28.90 \pm 0.23	9455 \pm 35	9455 \pm 35	8794-8705 cal BC (61.1%) 8670-8656 cal BC (7.1%)	8836-8628 cal BC (95.4%)	10740-10654 cal BP (61.1%) 10619-10605 cal BP (7.1%)	10785-10577 cal BP (95.4%)
PLD-40569	-22.95 \pm 0.19	8331 \pm 27	8330 \pm 25	7471-7444 cal BC (18.0%) 7439-7421 cal BC (10.7%)	7491-7231 cal BC (95.4%)	9420-9393 cal BP (18.0%) 9388-9370 cal BP (10.7%)	9440-9280 cal BP (95.4%)
PLD-40570	-25.83 \pm 0.22	9378 \pm 31	9380 \pm 30	8711-8616 cal BC (68.2%)	8741-8569 cal BC (95.4%)	10660-10565 cal BP (68.2%)	10690-10518 cal BP (95.4%)
PLD-40571	-26.11 \pm 0.21	9502 \pm 31	9500 \pm 30	9109-9096 cal BC (9.4%) 9040-9031 cal BC (3.2%)	9120-9005 cal BC (29.4%) 8917-8899 cal BC (2.0%)	11069-11035 cal BP (9.4%) 10966-10848 cal BP (2.0%)	11089-10954 cal BP (29.4%) 10817-10665 cal BP (63.9%)
PLD-40572	-26.55 \pm 0.15	9589 \pm 34	9570 \pm 35	8837-8750 cal BC (55.6%) 9123-9000 cal BC (46.0%)	8868-8716 cal BC (63.9%) 9141-8796 cal BC (95.4%)	10796-10609 cal BP (55.6%) 11072-10949 cal BP (46.0%)	10859-10783 cal BP (28.2%) 11090-10745 cal BP (95.4%)
PLD-40573	-28.90 \pm 0.12	9603 \pm 35	9605 \pm 35	8920-8834 cal BC (28.2%) 9151-9117 cal BC (11.4%)	9188-8822 cal BC (95.4%)	10850-10783 cal BP (28.2%) 11100-11066 cal BP (11.4%)	11137-10771 cal BP (95.4%)

表 13-3 放射性炭素年代測定および暦年校正の結果 (III-1)

測定番号	$\delta^{13}\text{C}$ (‰)	暦年校正用年代 (yrBP $\pm 1\sigma$)	^{14}C 年代 (yrBP $\pm 1\sigma$)	^{14}C 年代を暦年代に校正した年代範囲	
				1 σ 暦年代範囲	2 σ 暦年代範囲
PLD-47185 試料No. 19 登録番号: 0048	-25.15 \pm 0.12	2519 \pm 20	2520 \pm 20	774-750 cal BC (20.19%) 684-667 cal BC (14.82%) 635-619 cal BC (10.52%) 615-590 cal BC (19.44%) 578-572 cal BC (3.31%)	778-742 cal BC (23.80%) 692-664 cal BC (18.41%) 647-547 cal BC (53.24%)
PLD-47186 試料No. 55 登録番号: 0003	-48.32 \pm 0.53	3793 \pm 130	3790 \pm 130	2455-2418 cal BC (8.85%) 2408-2372 cal BC (6.01%) 2365-2362 cal BC (0.42%) 2360-2122 cal BC (46.55%) 2094-2039 cal BC (9.43%)	2617-2612 cal BC (0.11%) 2580-1881 cal BC (95.14%) 1837-1829 cal BC (0.20%)
PLD-47187 試料No. 84 登録番号: 0018	-27.03 \pm 0.19	3320 \pm 23	3320 \pm 25	1615-1599 cal BC (16.54%) 1591-1543 cal BC (51.72%)	1666-1659 cal BC (0.88%) 1631-1516 cal BC (94.57%)
PLD-47188 試料No. 185 登録番号: 0103	-24.25 \pm 0.14	3425 \pm 22	3425 \pm 20	1862-1857 cal BC (2.29%) 1765-1760 cal BC (2.50%) 1750-1686 cal BC (60.80%) 1650-1645 cal BC (2.69%)	1871-1847 cal BC (8.50%) 1773-1629 cal BC (86.93%)
PLD-47189 試料No. 193 登録番号: 0109	-25.68 \pm 0.21	3464 \pm 24	3465 \pm 25	1873-1845 cal BC (23.61%) 1818-1801 cal BC (11.56%) 1776-1742 cal BC (28.98%) 1708-1701 cal BC (4.12%)	1881-1837 cal BC (28.88%) 1830-1735 cal BC (55.98%) 1717-1693 cal BC (10.59%)
PLD-47190 試料No. 321 登録番号: 0237	-26.60 \pm 0.12	2439 \pm 20	2440 \pm 20	723-706 cal BC (8.91%) 662-651 cal BC (6.34%) 544-461 cal BC (44.73%) 438-420 cal BC (8.29%)	747-689 cal BC (20.98%) 665-644 cal BC (8.57%) 566-410 cal BC (65.91%)
PLD-47191 試料No. 324 登録番号: 0256	-27.53 \pm 0.21	2474 \pm 23	2475 \pm 25	752-717 cal BC (16.68%) 710-683 cal BC (12.78%) 667-661 cal BC (2.95%) 654-633 cal BC (9.65%) 623-612 cal BC (4.09%) 592-542 cal BC (22.12%)	767-510 cal BC (92.59%) 505-482 cal BC (2.86%)
PLD-47192 試料No. 399 登録番号: 0245	-28.73 \pm 0.67	3464 \pm 38	3465 \pm 40	1876-1842 cal BC (20.86%) 1823-1795 cal BC (14.96%) 1779-1740 cal BC (24.66%) 1712-1697 cal BC (7.79%)	1890-1675 cal BC (94.22%) 1653-1642 cal BC (1.23%)
PLD-47193 試料No. 419 登録番号: 0266	-25.98 \pm 0.13	2566 \pm 21	2565 \pm 20	793-772 cal BC (68.27%)	803-754 cal BC (87.04%) 681-669 cal BC (3.86%) 629-626 cal BC (0.32%) 610-593 cal BC (4.23%)
PLD-47194 試料No. 560 登録番号: 0280	-26.86 \pm 0.14	3476 \pm 22	3475 \pm 20	1875-1844 cal BC (25.46%) 1820-1798 cal BC (17.77%) 1777-1747 cal BC (25.04%)	1882-1741 cal BC (92.15%) 1710-1700 cal BC (3.30%)
PLD-47196 試料No. 663 登録番号: 0163	-26.53 \pm 0.19	3407 \pm 22	3405 \pm 20	1742-1709 cal BC (30.67%) 1700-1671 cal BC (25.19%) 1654-1639 cal BC (12.42%)	1862-1857 cal BC (0.83%) 1765-1761 cal BC (0.70%) 1750-1623 cal BC (93.92%)
PLD-47197 試料No. 1005 登録番号: 0333	-26.65 \pm 0.15	2491 \pm 21	2490 \pm 20	757-740 cal BC (8.62%) 693-680 cal BC (7.02%) 671-664 cal BC (3.69%) 647-606 cal BC (22.64%) 597-548 cal BC (26.30%)	771-717 cal BC (19.61%) 710-661 cal BC (19.63%) 654-542 cal BC (56.21%)

表 13-4 放射性炭素年代測定および暦年校正の結果 (III-2)

測定番号	$\delta^{13}\text{C}$ (‰)	暦年校正用年代 (yrBP $\pm 1\sigma$)	^{14}C 年代 (yrBP $\pm 1\sigma$)	^{14}C 年代を暦年年代に校正した年代範囲	
				1 σ 暦年代範囲	2 σ 暦年代範囲
PLD-47199 試料No. 1013 登録番号: 0320	-23.89 \pm 0.29	2499 \pm 23	2500 \pm 25	761-746 cal BC (7.95%) 690-676 cal BC (7.44%) 674-665 cal BC (5.11%) 645-564 cal BC (44.86%) 557-551 cal BC (2.90%)	773-720 cal BC (20.01%) 708-662 cal BC (19.25%) 652-543 cal BC (56.19%)
PLD-47200 試料No. 1024 登録番号: 0322	-34.28 \pm 0.82	2436 \pm 41	2435 \pm 40	735-695 cal BC (13.96%) 663-649 cal BC (5.07%) 546-414 cal BC (49.24%)	754-681 cal BC (21.32%) 669-628 cal BC (10.31%) 627-608 cal BC (2.78%) 594-405 cal BC (61.04%)
PLD-47201 試料No. 1027 登録番号: 0317	-26.14 \pm 0.22	2461 \pm 20	2460 \pm 20	749-686 cal BC (33.88%) 666-639 cal BC (12.79%) 587-581 cal BC (1.81%) 569-536 cal BC (13.69%) 533-516 cal BC (6.11%)	754-681 cal BC (35.83%) 669-608 cal BC (19.21%) 595-461 cal BC (37.92%) 437-420 cal BC (2.49%)
PLD-47203 試料No. 1058 登録番号: 0326	-29.88 \pm 0.83	2554 \pm 36	2555 \pm 35	797-751 cal BC (40.92%) 683-667 cal BC (9.83%) 633-622 cal BC (5.27%) 613-591 cal BC (12.25%)	805-738 cal BC (45.54%) 693-664 cal BC (13.26%) 648-546 cal BC (36.65%)
PLD-47204 試料No. 1089 登録番号: 0349	-24.40 \pm 0.14	2500 \pm 21	2500 \pm 20	761-747 cal BC (8.36%) 689-676 cal BC (7.77%) 674-665 cal BC (5.55%) 644-565 cal BC (46.60%)	772-724 cal BC (19.13%) 706-701 cal BC (1.04%) 699-662 cal BC (17.72%) 651-544 cal BC (57.55%)
PLD-47205 試料No. 1094 登録番号: 0363	-27.47 \pm 0.19	1957 \pm 21	1955 \pm 20	26-47 cal AD (20.76%) 56-83 cal AD (29.04%) 96-114 cal AD (18.48%)	23- 18 cal BC (0.75%) 8-124 cal AD (94.70%)
PLD-47206 試料No. 1129 登録番号: 0404	-26.93 \pm 0.19	9260 \pm 32	9260 \pm 30	8558-8428 cal BC (66.74%) 8365-8360 cal BC (1.53%)	8616-8582 cal BC (6.56%) 8571-8382 cal BC (80.33%) 8380-8342 cal BC (8.56%)
PLD-47207 試料No. 1137 登録番号: 0394	-26.44 \pm 0.15	9414 \pm 30	9415 \pm 30	8738-8696 cal BC (30.96%) 8683-8634 cal BC (37.31%)	8790-8617 cal BC (95.45%)
PLD-47208 試料No. 1138 登録番号: 0395	-26.02 \pm 0.24	9318 \pm 33	9320 \pm 35	8625-8548 cal BC (61.97%) 8504-8493 cal BC (6.30%)	8703-8672 cal BC (4.96%) 8645-8457 cal BC (90.49%)
PLD-47209 試料No. 1144 登録番号: 0429	-26.27 \pm 0.28	9388 \pm 33	9390 \pm 35	8729-8724 cal BC (2.70%) 8713-8621 cal BC (65.56%)	8751-8560 cal BC (95.45%)

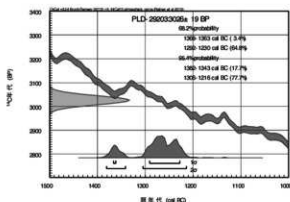


図 116-1 放射性炭素年代測定 暦年校正結果 (1) (cal BC 単位)

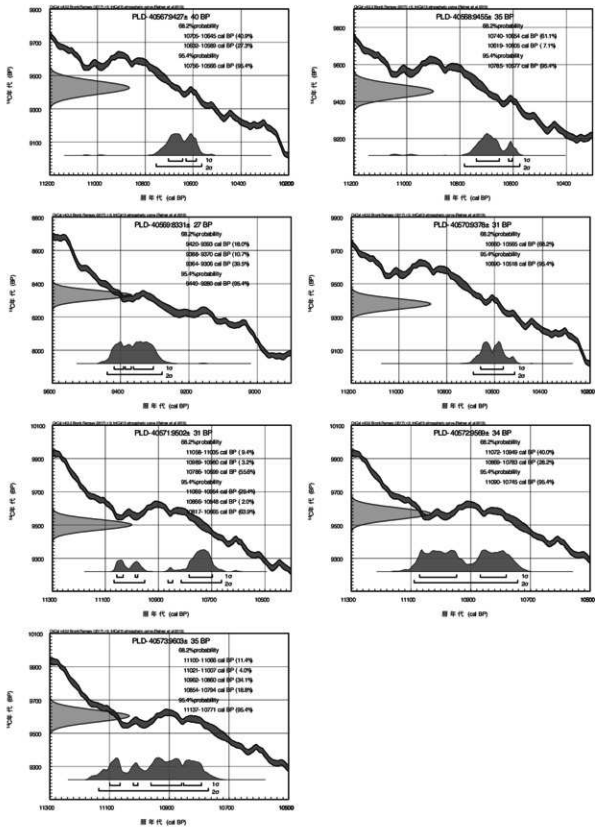


图 116-2 放射性碳素年代測定 曆年校正結果 (II) (cal BP 單位)

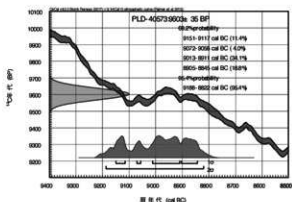
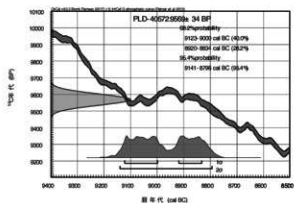
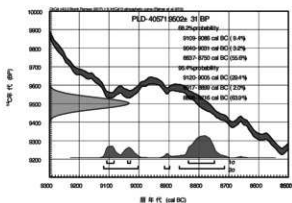
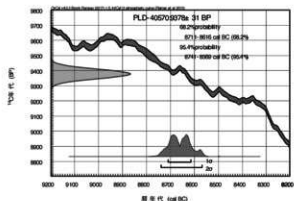
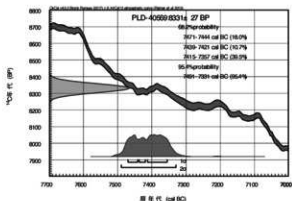
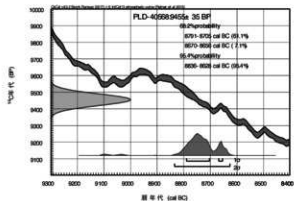
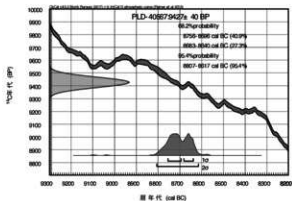


圖 116-3 放射性碳素年代測定 曆年校正結果 (II) (cal BC 單位)

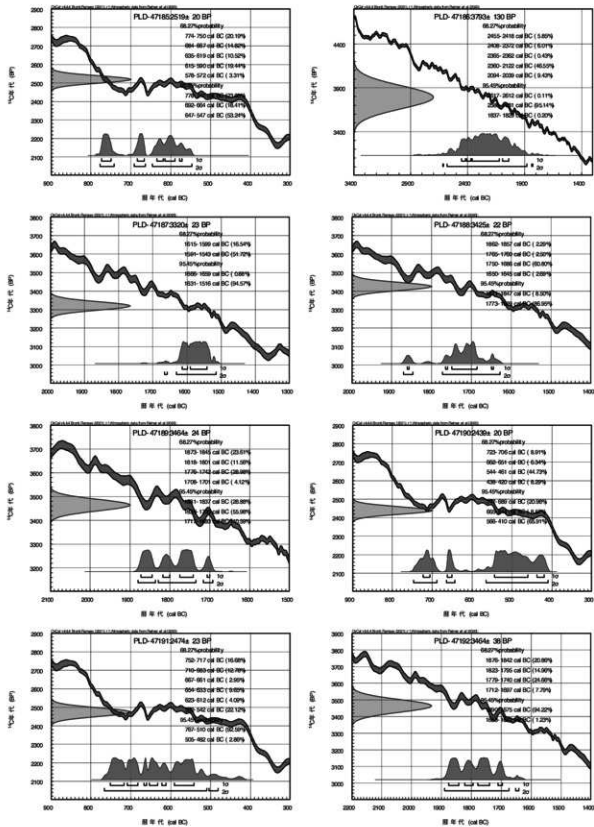


圖 116-4 放射性碳素年代測定 曆年校正結果 (圖-1) (cal BC 單位)

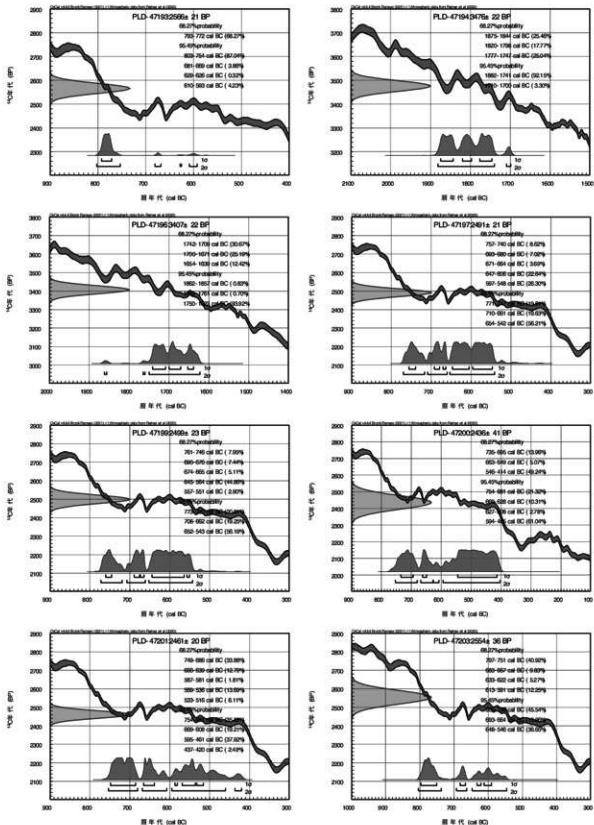


图 116-5 放射性碳素年代测定 曆年校正結果 (III-2) (cal BC 單位)

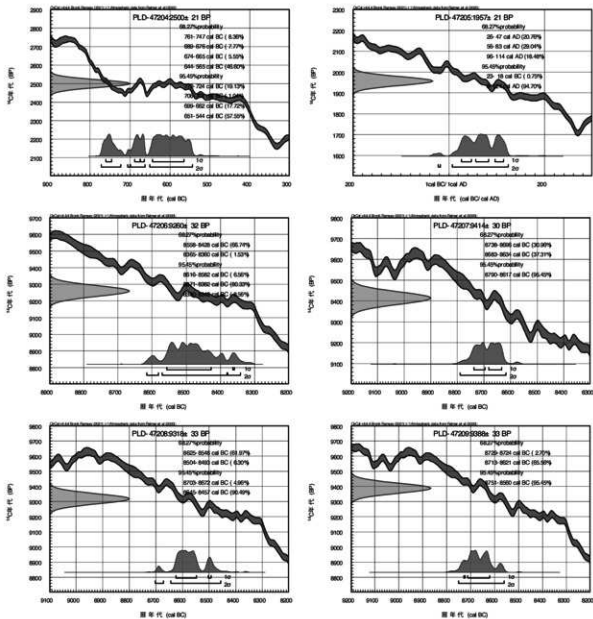


図 116-6 放射性炭素年代測定暦年校正結果 (Ⅲ-3) (cal BC 単位)

考 察 (I) 登録番号 0133 の胴部外面付着炭化物 (PLD-29203) は、 14C 年代が 3025 ± 20 yr BP、 2σ 暦年代範囲 (確率 95.4%) は 1382-1343 cal BC (17.7%) および 1306-1216 cal BC (77.7%) となった。これは小林 (2008)、工藤 (2012)、岡田 (2008) を参照すると、縄文時代後期後葉に相当する。試料の時期は縄文時代後期末と考えられており、測定結果と調和的である。

(Ⅲ) 以下、 14C 年代および 2σ 暦年代範囲 (確率 95.45%) に着目して、測定結果を年代の古い順に整理する (図 4)。なお、暦年代と縄文土器との対応については、小林 (2017) を、弥生土器との対応については藤尾 (2013) を参照した。

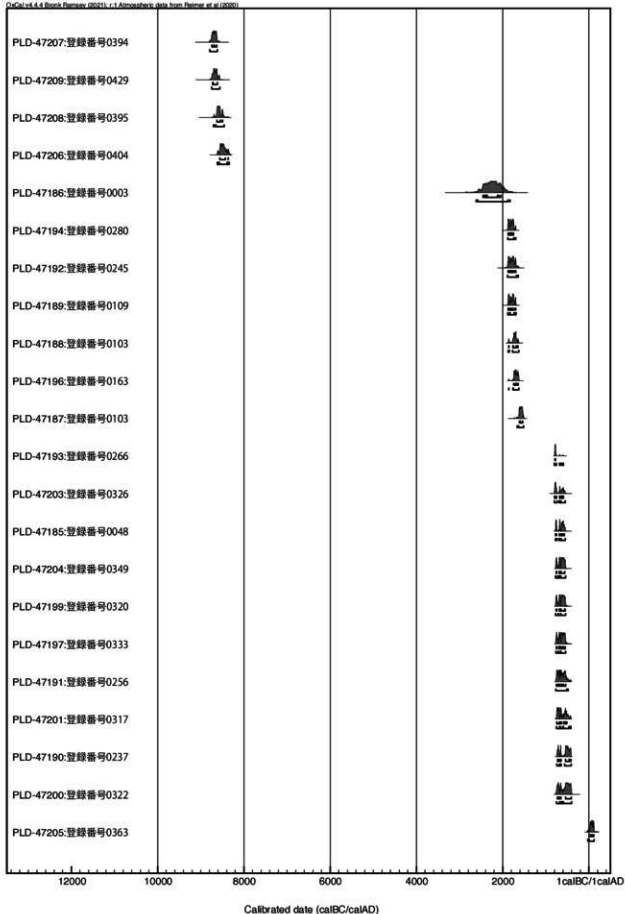


図 117 放射性炭素年代測定 マルチプロット図 (Ⅲ)

縄文 登録番号 0394 (PLD-47207) は、14C 年代で 9415 ± 30 14C BP、 2σ 暦年代範囲で
早期前半 $8790-8617$ cal BC (95.45%) の暦年代、

登録番号 0429 (PLD-47209) は、14C 年代で 9390 ± 35 14C BP、 2σ 暦年代範囲で
 $8751-8560$ cal BC (95.45%) の暦年代、

登録番号 0395 (PLD-47208) は、14C 年代で 9320 ± 35 14C BP、 2σ 暦年代範囲で
 $8703-8672$ cal BC (4.96%) および $8645-8457$ cal BC (90.49%) の暦年代、

登録番号 0404 (PLD-47206) は、14C 年代で 9260 ± 30 14C BP、 2σ 暦年代範囲で
 $8616-8582$ cal BC (6.56%)、 $8571-8382$ cal BC (80.33%)、 $8380-8342$ cal BC (8.56%) の暦
年代をそれぞれ示した。

これらは、縄文時代早期前半に相当する。発掘調査所見では、試料はいずれも縄文時
代早期前半と考えられており、測定結果と調査所見は整合的である。

縄文中期 登録番号 0003 (PLD-47186) は、14C 年代で 3790 ± 130 14C BP、 2σ 暦年代範囲で
後半 $\sim 2617-2612$ cal BC (0.11%)、 $2580-1881$ cal BC (95.14%)、 $1837-1829$ cal BC (0.20%) の暦
後期中葉年代を示した。これは、縄文時代中期後半 \sim 後期中葉に相当する。発掘調査所見では、
試料は縄文時代後期中葉と考えられており、測定結果と調査所見は整合的である。

縄文後期 登録番号 0245 (PLD-47192) は、14C 年代で 3465 ± 40 14C BP、 2σ 暦年代範囲で
前葉 \sim 中葉 $1890-1675$ cal BC (94.22%) および $1653-1642$ cal BC (1.23%) の暦年代を示した。これは、
縄文時代後期前葉 \sim 中葉に相当する。

縄文 登録番号 0280 (PLD-47194) は、14C 年代で 3475 ± 20 14C BP、 2σ 暦年代範囲で
後期中葉 $1882-1741$ cal BC (92.15%) および $1710-1700$ cal BC (3.30%) の暦年代、

登録番号 0109 (PLD-47189) は、14C 年代で 3465 ± 25 14C BP、 2σ 暦年代範囲で
 $1881-1837$ cal BC (28.88%)、 $1830-1735$ cal BC (55.98%)、 $1717-1693$ cal BC (10.59%) の
暦年代、

登録番号 0103 (PLD-47188) は、14C 年代で 3425 ± 20 14C BP、 2σ 暦年代範囲で
 $1871-1847$ cal BC (8.50%) および $1773-1629$ cal BC (86.95%) の暦年代、

登録番号 0163 (PLD-47196) は、14C 年代で 3405 ± 20 14C BP、 2σ 暦年代範囲で
 $1862-1857$ cal BC (0.83%)、 $1765-1761$ cal BC (0.70%)、 $1750-1623$ cal BC (93.92%) の暦
年代をそれぞれ示した。

これは、縄文時代後期中葉に相当する。

縄文後期 登録番号 0018 (PLD-47187) は、14C 年代で 3320 ± 25 14C BP、 2σ 暦年代範囲で
中葉 \sim 後葉 $1666-1659$ cal BC (0.88%) および $1631-1516$ cal BC (94.57%) の暦年代を示した。これ
は、縄文時代後期中葉 \sim 後葉に相当する。発掘調査所見では、登録番号 0018、0103、
0109、0163、0245、0280 の試料は縄文時代後期 \sim 晩期と考えられており、測定結果は
調査所見と整合的である。

縄文晩期 登録番号 0266 (PLD-47193) は、14C 年代で 2565 ± 20 14C BP、2 σ 暦年代範囲で前葉～後葉 803-754 cal BC (87.04%)、681-669 cal BC (3.86%)、629-626 cal BC (0.32%)、610-593 cal BC (4.23%) の暦年代、

登録番号 0326 (PLD-47203) は、14C 年代で 2555 ± 35 14C BP、2 σ 暦年代範囲で 805-738 cal BC (45.54%)、693-664 cal BC (13.26%)、648-546 cal BC (36.65%) の暦年代、

登録番号 0048 (PLD-47185) は、14C 年代で 2520 ± 20 14C BP、2 σ 暦年代範囲で 778-742 cal BC (23.80%)、692-664 cal BC (18.41%)、647-547 cal BC (53.24%) の暦年代、

登録番号 0349 (PLD-47204) は、14C 年代で 2500 ± 20 14C BP、2 σ 暦年代範囲で 772-724 cal BC (19.13%)、706-701 cal BC (1.04%)、699-662 cal BC (17.72%)、651-544 cal BC (57.55%) の暦年代、

登録番号 0320 (PLD-47199) は、14C 年代で 2500 ± 25 14C BP、2 σ 暦年代範囲で 773-720 cal BC (20.01%)、708-662 cal BC (19.25%)、652-543 cal BC (56.19%) の暦年代、

登録番号 0333 (PLD-47197) は、14C 年代で 2490 ± 20 14C BP、2 σ 暦年代範囲で 771-717 cal BC (19.61%)、710-661 cal BC (19.63%)、654-542 cal BC (56.21%) の暦年代をそれぞれ示した。

これは、縄文時代晩期前葉～後葉に相当する。発掘調査所見では、登録番号 0266、0320、0326、0333、0349 は縄文時代後期～晩期頃、および縄文時代晩期～弥生時代前期頃と考えられており、測定結果と調査所見は総合的である。

縄文晩期 また登録番号 0048 の試料は、調査所見では縄文時代後期と考えられており、測定結果の方が新しい暦年代を示した。試料は胴部外面の付着炭化物であり、海洋リザーバー効果の影響は受けていないと考えられる。縄文時代後期に作成された土器が、晩期頃に再利用されていた、もしくは土器が縄文時代晩期頃の試料であった、などの可能性が考えられる。

縄文晩期 登録番号 0256 (PLD-47191) は、14C 年代で 2475 ± 25 14C BP、2 σ 暦年代範囲で前葉～767-510 cal BC (92.59%) および 505-482 cal BC (2.86%) の暦年代を示した。これは、縄文時代晩期前葉～弥生時代前期に相当する。

縄文晩期 登録番号 0317 (PLD-47201) は、14C 年代で 2460 ± 20 14C BP、2 σ 暦年代範囲で中葉～754-681 cal BC (35.83%)、669-608 cal BC (19.21%)、595-461 cal BC (37.92%)、437-420 cal BC (2.49%) の暦年代、

登録番号 0237 (PLD-47190) は、14C 年代で 2440 ± 20 14C BP、2 σ 暦年代範囲で 747-689 cal BC (20.98%)、665-644 cal BC (8.57%)、566-410 cal BC (65.91%) の暦年代、

登録番号 0322 (PLD-47200) は、14C 年代で 2435 ± 40 14C BP、2 σ 暦年代範囲で 754-681 cal BC (21.32%)、669-628 cal BC (10.31%)、627-608 cal BC (2.78%)、594-405 cal BC (61.04%) の暦年代をそれぞれ示した。

これは、縄文時代晩期中葉～弥生時代前期に相当する。発掘調査所見では、登録番号 0256、0317、0322 は縄文時代後期～晩期頃と考えられており、測定結果と調査所見は総合的である。

縄文晩期 また登録番号 0237 の試料は、調査所見では縄文時代後期と考えられており、測定結果の方が新しい暦年代を示した。試料は胴部外面の付着炭化物であり、海洋リザーバー効果の影響は受けていないと考えられる。縄文時代後期に作成された土器が、晩期頃に再利用されていた、もしくは土器が縄文時代晩期頃の試料であった、などの可能性が考えられる。

弥生 登録番号 0363 (PLD-47205) は、23-18 cal BC (0.75%) および 8-124 cal AD (94.70%) 中期～後期で、紀元前 1 世紀後半および紀元後 1 世紀初頭～2 世紀前半の暦年代を示した。これは、弥生時代中期後半～後期に相当する。発掘調査所見では、試料は弥生時代後期と考えられており、測定結果と調査所見は整合的である。

参考文献

(共通) Bronk Ramsey, C. (2009) Bayesian Analysis of Radiocarbon dates. *Radiocarbon*, 51(1), 337-360.

中村俊夫 (2000) 放射性炭素年代測定法の基礎。日本先史時代の 14C 年代編集委員会編「日本先史時代の 14C 年代」: 3-20, 日本第四紀学会。

(I・II) Reimer, P.J., Bard, E., Bayliss, A., Beck, J.W., Blackwell, P.G., Bronk Ramsey, C., Buck, C.E., Cheng, H., Edwards, R.L., Friedrich, M., Grootes, P.M., Guilderson, T.P., Hafflidason, H., Hajdas, L., Hatte, C., Heaton, T.J., Hoffmann, D.L., Hogg, A.G., Hughen, K.A., Kaiser, K.F., Kromer, B., Manning, S.W., Niu, M., Reimer, R.W., Richards, D.A., Scott, E.M., Southon, J.R., Staff, R.A., Turney, C.S.M., and van der Plicht, J. (2013) IntCal13 and Marine13 Radiocarbon Age Calibration Curves 0-50,000 Years cal BP. *Radiocarbon*, 55(4), 1869-1887.

(I) 小林謙一 (2008) 縄文時代の暦年代。小杉 康・谷口康浩・西田泰民・水ノ江和同・矢野健一編「縄文時代の考古学 2 歴史のものさし」: 257-269, 同成社。

工藤雄一郎 (2012) 旧石器・縄文時代の環境文化史—高精度放射性炭素年代測定と考古学—, 373p, 神泉社。

岡田憲一 (2008) 凹線文系土器 (宮滝式・元住吉山 II 式土器)。小林達雄編「総覧縄文土器」: 650-657, アム・プロモーション。

(III) 藤尾慎一郎 (2013) 弥生時代文化像の新構築, 275p, 吉川弘文館。

小林謙一 (2017) 縄文時代の実年代—土器型式編年と炭素 14 年代—, 263p, 同成社。

大森貴之・山崎孔平・柘澤貴行・板橋 悠・尾崎大真・米田 穰 (2017) 微量試料の高精度放射性炭素年代測定, 第 20 回 AMS シンポジウム報告集, 55。

Reimer, P.J., Austin, W.E.N., Bard, E., Bayliss, A., Blackwell, P.G., Bronk Ramsey, C., Butzin, M., Cheng, H., Edwards, R.L., Friedrich, M., Grootes, P.M., Guilderson, T.P., Hajdas, L., Heaton, T.J., Hogg, A.G., Hughen, K.A., Kromer, B., Manning, S.W., Muscheler, R., Palmer, J.G., Pearson, C., van der Plicht, J., Reimer, R.W., Richards, D.A., Scott, E.M., Southon, J.R., Turney, C.S.M., Wacker, L., Adolphi, F., Büntgen, U., Capano, M., Fahrni, S.M., Fogtmann-Schulz, A., Friedrich, R., Köhler, P., Kudsk, S., Miyake, F., Olsen, J., Reinig, F., Sakamoto, M., Sookdeo, A. and Talamo, S. (2020) The IntCal20 Northern Hemisphere radiocarbon age calibration curve (0-55 cal kBP). *Radiocarbon*, 62(4), 725-757, doi:10.1017/RDC.2020.41. <https://doi.org/10.1017/RDC.2020.41> (cited 12 August 2020)

第4節 土器に確認された植物種実圧痕について

川添和暁

資 料 ここで報告する資料は、登録番号0317の弥生時代前期の深鉢である。19B区の谷地形内の黒色土中から見つかった土器で、胴部上半から下半、そして底部にかけて残存している個体である。土器棺墓であった可能性も否定できないが、谷内からの出土で、積極的に埋納状態にあったとすることもできなかった。

試料と方法 土器の表面を観察すると、小さな凹みが散在していた。いずれも外面胴部上半に集中しており、計8箇所を数え、それぞれをa～hとし試料を採取した。採取された試料はシリコン樹脂で型取りされたレプリカで、走査型電子顕微鏡での観察および撮影を実施した。試料a～hの採取場所は、図118左下に示した。このうち、試料cは土器接合面にあたり接着剤のために試料採取が難しかった。また、試料d・eは胎土に含まれる石の痕跡であった。以上を除いた、植物種実圧痕の可能性が高い試料a・b・f・g・hについて報告をする。

結 果

試料 a 平面形状は径2.5mmほどの正円形に近い。先端側には一段のクビレの上に突起があったと考えられる。反対側は茎部分で、試料では種実との接続部分が確認できる。アワ・キビの可能性が高い。

試料 b 平面形状は径2mmほどの紡錘形、あるいは山椋形の種実に近いかもしれない。反対側は茎部分で、試料では種実との接続部分が確認できる。ヒエの可能性のあるものの、外殻残存状態とすると長軸方向への稜線の発達が弱く、特定は難しいか。

試料 f 平面形状は径1.5mmほどの正円形に近い。先端側には一段のクビレの上に突起があったと考えられる。反対側は茎部分で、試料では種実との接続部分が確認できる。法量は異なるが、形状は試料aに酷似している。アワ・キビの可能性が高い。

試料 g 平面形状は2×1.5mmほどの二枚貝貝殻の形状を、側面観では球状を呈する。先端側の突起は不明瞭であるが、茎への接続部分は辛うじて確認できる。種の特定は難しい。

試料 h 平面形状は3×1.5mmほどの細長い紡錘形を呈する。先端側の突起はサヤがかぶせられたような高まりを確認することができる。身部表面は平滑であるが、長軸方向に明瞭な稜線が確認できる。茎への接続部分では明瞭な段差が形成されている。イネ科種実とは考えられるが、法量が小型の上、表面には乳頭状突起はおろか、格子目状の筋も明瞭ではない。

結 論 この分析より、弥生時代前期において当地でのアワ・キビなどの雑穀類の存在を確認できたといえよう。

謝辞

走査型電子顕微鏡撮影については、名古屋大学微細構造解析プラットフォームの支援を受けて実施できた。その際、名古屋大学の荒井重勇氏からは格別のご配慮を賜った。

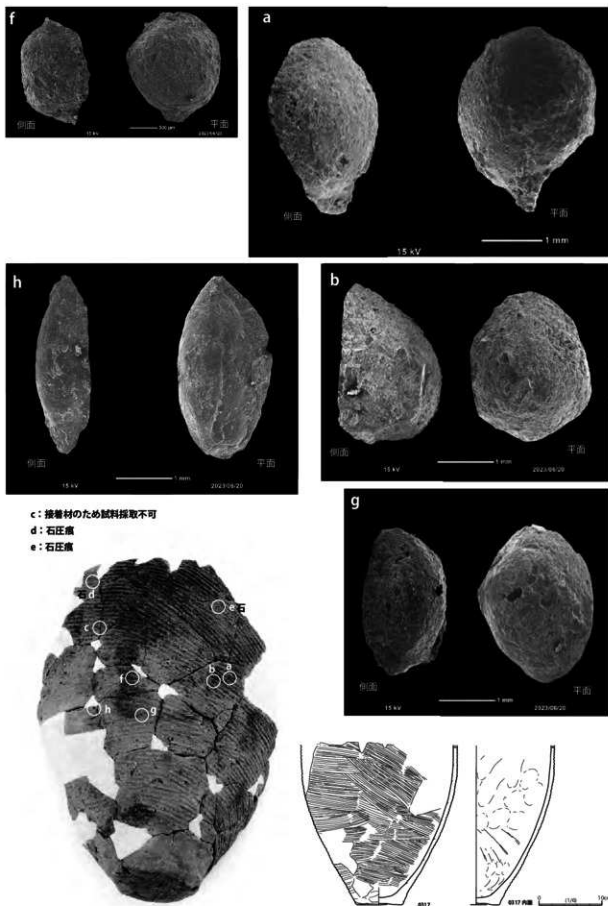


図 118 万瀬遺跡出土土器 (弥生時代前期) 植物種尖圧痕 SEM 画像

第5節 万瀬遺跡における層序と堆積年代

鬼頭 剛・古澤 明・パレオ・ラボ AMS 年代測定グループ

はじめに 万瀬遺跡にて地下層序を観察する機会を得た。その層序解析、火山灰分析および放射性炭素年代測定の結果を報告する。

試料および分析方法 各調査区で地表から、あるいは遺構検出面からバックホーにより掘削し層序断面を露出させ、層序断面図の作成と試料採取を行なった。層序断面図の作成にあたり、層相・粒度・色調・堆積構造・化石の有無などの特徴を詳細に記載した。また、調査地点の地下層序を解析するため試錐（ボーリング掘削）調査を実施した。試錐調査は株式会社アーキジオに依頼した。油圧式ロータリー型試錐機を使用し、コアボックスリブ内蔵型サンプラー（φ 66mm）によりオールコアで実施した。また、コア資料および各調査区の層序断面からは火山灰分析、放射性炭素年代測定の試料を採取した。分析方法の詳細を以下に記す。

火山灰分析の試料は古澤（2003）の方法を基本に前処理を行なった。はじめにナイロン製 # 255 メッシュシート（糸径 $43 \mu\text{m}$ 、オープニングワイド $57 \mu\text{m}$ ）を用い、流水中で洗浄した。残渣を # 125 メッシュシート（糸径 $70 \mu\text{m}$ 、オープニングワイド $133 \mu\text{m}$ ）を用い水中で篩い分けした。これにより極細粒砂サイズ（ $1/8 \sim 1/16$ ）に粒度調整した試料について超音波洗浄器を用いて洗浄し、表面に付着した粘土分などを洗い流した。薄片作成は、鉱物観察用スライドガラスの上に硬化後屈折率が 1.545 程度となる光硬化樹脂をのせ、この樹脂に洗浄・篩い分けを行なった試料を攪拌・封入させ、カバーガラスで覆い粒子組成観察用薄片を作成した。樹脂の屈折率を 1.545 とする目的は石英や長石類の識別にある。前処理・プレバート封入した粒子に対して偏光顕微鏡（100 倍）を用いて観察し、火山灰純層の場合 300 粒子（1000 粒子の平均値）を古澤（2003）の区別手法にしたがって区分した。また、火山灰固有で含有率の低い粒子の産出層準を特定するため 3000 粒子（10000 粒子の平均値）の粒子組成分析も行なった。屈折率の測定には、浸液の温度を直接測定しつつ屈折率を測定する温度変化型測定装置“MAIOT”を使用した。測定精度は火山ガラスで ± 0.0001 、斜方輝石および角閃石で ± 0.0002 程度である（古澤, 1995）。火山ガラスの主成分分析について SEM は HITACHI 製 SU1510 を使用し、エネルギー分散型 X 線マイクロアナライザー（EDX）は HORIBA 製 EMAX ENERGY EX-270 を用いた。火山灰分析は古澤が行なった。

放射性炭素年代測定は加速器質量分析（AMS）法により測定を行なった。加速器質量分析法は $125 \mu\text{m}$ の篩により湿式篩別を行ない、篩を通過したものを酸洗浄し不純物を除去した。石墨（グラファイト）に調整後、加速器質量分析計（パレオ・ラボ、コンパクト AMS: NEC 製 1.5SDH）にて測定した。測定された ^{14}C 濃度について同位体分別効果の補正を行なった後、補正した ^{14}C 濃度を用いて ^{14}C 年代を算出した。 ^{14}C 年代値の算出には、 ^{14}C の半減期として Libby の半減期 5,568 年を使用した。 ^{14}C 年代の暦年代への較正には OxCal4.4（較正曲線データ：INTCAL20）を使用した。なお、 2σ 暦年代範囲は、OxCal の確率法を使用して産出された放射性炭素年代誤差に相当する 95.45% 信頼限界の暦年代範囲であり、カッコ内の百分率の値は、その範囲内に暦年代

が入る確率を意味する。放射性炭素年代測定は株式会社パレオラボAMS年代測定グループが行なった。

分析結果 14A区で1地点(地点1)、19A区で2地点(地点2・地点3)の計3地点(図119)でバックホウによる深掘を実施し、層序の観察・記載と分析試料を採取した。地点番号順に記す。

地点1は14区の北西端において遺構検出面よりバックホウによりさらに約3m掘り下げた(図119・図120)。黄色を呈する粘土層を基盤層とし、緑辺を垂直な潤辺とする埋積谷状の凹地形が確認された。埋積谷状の地形の中には標高411.61m～412.79mまでを灰黒色を呈する角礫層と、その上を標高413.37mの遺構検出面まで、黒褐色を呈する角礫を含んだ粘土層が埋積する状況が確認された。基盤層となる黄色粘土層は塊状・均質で堆積構造はみられない。地層の固結度は高い。本層の標高411.24mで試料1を、標高411.99mで試料2を採取した。試料1の火山灰分析では火山灰は検出さ

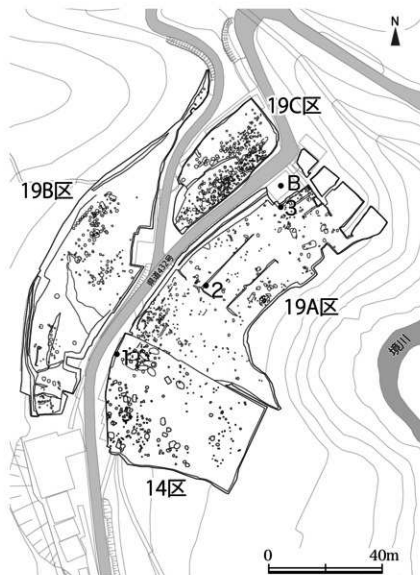


図119 万瀬道路における分析試料採取地点

黒丸は採取地点、数字は地点番号

Bは試掘調査地点を示す

れなかったが、試料2より始良Tn火山灰(AT)が検出された(表14)。始良Tn火山灰(AT)の噴出年代は約2万9000年前～2万6000年前と見積もられている(町田・新井編, 2003)。標高411.61m～412.79mの灰黒色の角礫層は大礫～巨礫サイズの礫を無秩序に含み、堆積構造はみられない。基質は粗粒砂～小礫からなる。灰黒色の角礫層の最下部、標高411.61mで試料3を採取し、火山灰分析では始良Tn火山灰(AT)とともに鬼界アカホヤ火山灰(K-Ah)が検出された(表14)。鬼界アカホヤ火山灰(K-Ah)の噴出年代は約7300年前と見積もられている(町田・新井編, 2003)。また、この角礫層を覆う黒褐色の粘土層の下部、標高412.79mで試料4を採取し、火山灰分析では始良Tn火山灰(AT)とともに鬼界アカホヤ火山灰(K-Ah)が検出された(表14)。また、同じ試料4を用いた放射性炭素年代測定では10571-10367 cal yr BP (8622-8418 BC: PLD-50601)の数値年代が得られた(表15)。

地点2は19A区の中央部で遺構検出面(標高409.89m)よりバックホウによりさらに約1.4m掘り下げた(図119・図121)。最下位層より、標高408.56m～409.16mは青灰色の片麻岩のみからなる角礫を含む粘土層である。片麻岩塊が破断して角礫状になりつつある部分もみられ、破断した礫のすきまを暗褐色の粘土が埋めている。片麻岩の基盤岩が強風化を受けて形成された地層であると推定できる。本層の下部、標高408.73mで試料1を採取し、火山灰分析では始良Tn火山灰(AT)が検出された(表14)。標高409.16m～409.89mは黄褐色を呈する粘土層である。塊状・均質で堆積構造はみられない。地層中に中礫サイズの片麻岩の礫を分散して含む。本層の下部、標高409.28mで試料2を採取し、火山灰分析では始良Tn火山灰(AT)が検出された(表14)。

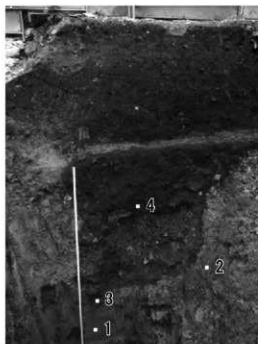


図120 地点1(14区)における深掘の地層断面
東から撮影、白丸は試料採取層、数字は試料番号を示す

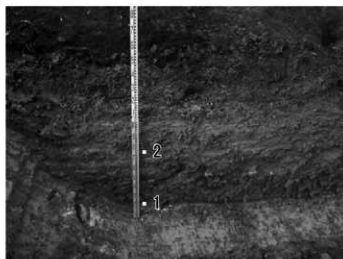


図121 地点2(19A区)における深掘の地層断面
東から撮影、白丸は試料採取層、数字は試料番号を示す

表 14 万瀬道路における火山灰分析結果

地点 No.	調査区	試料No.	標高(m)	火山ガラスの形態別含有量(/3000)			重結物の含有量(/3000)			β石量 (/3000)	テフラ名
				Bw	Pm	O	Opa	Gho	Cum		
1	14区	1	411.24	0	0	0	0	223	0	0	
		2	411.99	1.5	0	0.1	0.2	68	0	0	AT
		3	411.61	0.6	0	0	0.2	37	0	0	AT (K-Ah-混在)
		4	412.79	3.1	0	0	0.1	53	0	0	AT (K-Ah-混在)
2	19A区	1	408.73	0.8	0	0	0	16	0	0	AT
		2	409.28	2.4	0	0	0.1	16	0	0	AT
3	19A区	1	409.74	0.3	0	0	0	62	0	0	
		2	410.60	4.9	0	0	0.3	88	0	0	AT
		3	411.48	32	0	0	9	211	0	0	AT
B		1	410.46	0	0	0	0.1	27	0	0	
		2	411.26	0	0	0	0	43	0	0	
		3	411.61	0	0	0	0	14	0	0	
		4	412.36	1.2	0	0.2	0	24	0	0	AT

Bw:ブルウォールタイプ
Pm:ピュースタイプ
O:優美地タイプ

Opa:斜方輝石
Gho:緑色普通角閃石
Cum:カマンブロン閃石

AT:始良Tn火山灰
K-Ah:鬼野アカヤ火山灰

表 15 地点 1(14区)の放射性炭素年代測定結果

地点 No.	調査区 No.	試料 No.	標高 (m)	堆積物	試料の種類	¹⁴ C年代 (yrs BP)	δ ¹³ C PDB (‰)	2σの暦年代範囲 (AD/BC, probability)	2σの暦年代範囲 (cal yrs BP, probability)	Lab code No.(method)
1	14区	4	412.79	黒褐色粘土層	土壌	9275 ± 30	-25.59 ± 0.16	8622 - 8418 BC (89.23 %)	10671 - 10367 (89.23 %)	PLD - 50601 (AMS)
								8371 - 8353 BC (3.30 %)	10320 - 10302 (3.30 %)	
								8408 - 8390 BC (2.82 %)	10357 - 10339 (2.82 %)	

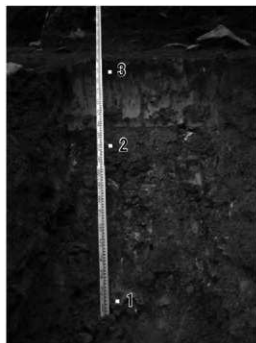


図 122 地点 3(19A区)における深層の地層断面
東から撮影。白丸は試料採取取手、数字は試料番号を示す

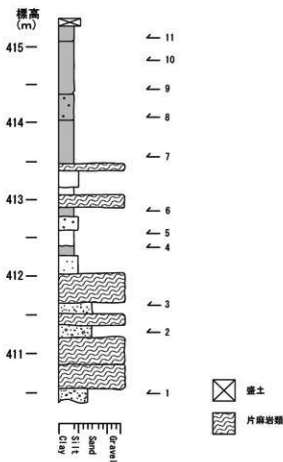


図 123 試掘地点 B の地質柱状図

片矢印は試料採取取手、数字は試料番号

柱状図右に放射性炭素年代測定値 (表 4参照) と火山灰分析結果を示す

AT:始良 Tn 火山灰

地点3は19A区の北西端において、遺構検出面(標高411.63m)よりバックホウによりさらに約2m掘り下げた(図119・図122)。標高409.63m～410.73mは片麻岩である。新鮮な片麻岩から岩盤と、ブロック状になった片麻岩塊の間を褐色の粘土が埋める。岩塊の間を埋める粘土は片麻岩が強風化したものである。本層の下部、標高409.74mの強風化した褐色の粘土層で試料1を採取し火山灰分析を実施したが、火山灰は検出されなかった(表14)。標高410.73m～411.43mは黄褐色の粘土層からなる。塊状・均質で堆積構造はみられない。本層と下位層の片麻岩との層界面は不明瞭で地層境界の凹凸が激しい。本層の下部、標高410.80mで試料2を採取し、火山灰分析により始良Tn火山灰(AT)が検出された(表14)。標高411.43m～411.63mは黒褐色を呈する粘土層からなる。堆積物の固結度は低く、草刈りガマで引っかくだけで簡単に崩れ、いわゆるボソボソした状態を示す。堆積構造はみられない。本層の頂部(標高411.63m)が縄文時代の検出面である。本層の下部、標高411.48mで試料3を採取し、火山灰分析では始良Tn火山灰(AT)が検出された(表14)。また、同じ試料3を用いた放射性炭素年代測定では5323-5278 cal yr BP(3374-3329 BC; PLD-50602)の数値年代が得られた(表16)。

地点Bは試錐地点である。19A区の北端の調査区外において、移設された電柱のあった場所で試錐調査を行なった(図119)。試錐調査地点の地表面の標高は415.36mである。地下へ約4.5m掘削した(図123)。下位層より、標高410.36m～412.08mは片麻岩からなる基盤岩である。片麻岩塊の間に挟まれて肉眼で細粒砂層や中粒砂層に見える部分は堆積物にみえるものの、試錐資料であり側方への連続性が不明であるため、基盤岩である片麻岩の強風化により細粒化した部分を見ている可能性もある。砂層に似る層準の標高410.46mで試料1、標高411.26mで試料2、標高411.61mで試料3を採取し火山灰分析を実施したが、火山灰を検出することはできなかった(表14・図123)。標高412.08m～413.48mは褐色(10YR4/6)からいぶい黄褐色(10YR5/3)を呈する砂質シルト層と黒褐色(10YR3/2)を呈する粘土層との互層から構成される。砂質シルト層、粘土層とも塊状で堆積構造を示さない。互層の間に挟まれる標高412.90m～413.06mや標高413.36m～413.48mにみられる片麻岩は礫として取り込まれたものの断片をみている。標高412.28m～412.46mの黒褐色粘土層の標高412.36mの層準から試料4を採取し、火山灰分析では始良Tn火山灰(AT)が検出された(表14・図123)。また、同じ試料4を用いた放射性炭素年代測定では3930-3831 cal yr BP(1981-1882 BC; PLD-50610)の数値年代が得られた(表17)。標高412.46m～412.59mの粘土層の標高412.54mの層準から試料5を採取し、放射性炭素年代測定では3379-3317 cal yr BP(1430-1368 BC; PLD-50609)、標高412.78m～412.90mの黒褐色粘土層の標高412.84mの層準から試料6を採取し、本試料の放射性炭素年代測定では5042-4872 cal yr BP(3093-

表16 地点2(19A区)の放射性炭素年代測定結果

地点	調査区	試料	標高	堆積物	試料の種類	^{14}C 年代	$\delta^{13}\text{C}$ POB	2 σ 暦年代範囲	2 σ 暦年代範囲	Lab code
No.	No.	(m)				(yr BP)	(‰)	(AD/BC probability)	(cal yr BP , probability)	No.(method)
3	19A区	3	411.48	黒褐色粘土層	土壌	4075 \pm 25	-24.32 \pm 0.20	3274 - 3329 BC (66.57 %) 3218 - 3185 BC (14.78 %)	5323 - 5278 (66.57 %) 5187 - 5134 (14.78 %)	PLD - 50602 (AMS)
								3154 - 3116 BC (7.51 %) 2490 - 2468 BC (0.59 %)	5100 - 5085 (7.51 %) 5439 - 5417 (0.59 %)	

2923 BC : PLD-50608) の数値年代が得られた (表 17)。標高 413.48m ~ 415.26m は黒色 (10YR1.7/1) ないし、黒褐色 (10YR2/2) を呈する粘土層が累重する。粘土層は塊状・均質で堆積構造はみられない。径 2mm の礫が含まれる場合もある。標高 413.48m ~ 414.02m の黒色粘土層の下部、標高 413.56m で試料 7 を採取し、放射性炭素年代測定では 3562 - 3449 cal yr BP(1613 - 1500 BC : PLD-50607)、標高 414.02m ~ 414.36m の黒色粘土層の下部、標高 414.06m で試料 8 を採取し、放射性炭素年代測定では 4408 - 4232 cal yr BP(2459 - 2283 BC : PLD-50606)、標高 414.36m ~ 415.06m の黒色粘土層の下部、標高 414.41m で試料 9 を採取し、放射性炭素年代測定では 3007 - 2875 cal yr BP(1058 - 926 BC : PLD-50605)、中部の標高 414.80m で試料 10 を採取し、放射性炭素年代測定では 4731 - 4574 cal yr BP(2782 - 2625 BC : PLD-50604)、標高 415.06m ~ 415.26m の黒褐色粘土層の下部、標高 415.10m で試料 11 を採取し、放射性炭素年代測定では 2789 - 2752 cal yr BP(840 - 803 BC : PLD-50603) のそれぞれ数値年代が得られている (表 17)。標高 415.26m ~ 415.36m は人工的な盛土であり、標高 415.36m が地表面である。

表 17 試験地点 B の放射性炭素年代測定結果

試料 No.	標高 (m)	堆積物	試料の種類	^{14}C 年代 (yr BP)	$\delta^{13}\text{C}$ PDB (‰)	2 σ 暦年代範囲 (AD/BC, probability)	2 σ 暦年代範囲 (cal yr BP, probability)	Lab code No.(method)
4	412.36	黒褐色粘土層	土壌	3590 ± 20	-24.29 ± 0.14	1981 - 1882 BC (83.91 %) 2021 - 1955 BC (10.82 %)	3930 - 3631 (83.91 %) 3970 - 3844 (10.82 %)	PLD - 50610 (AMS)
5	412.54	にぶい黄褐色細礫混じりシルト質粘土層	土壌	3108 ± 20	-23.88 ± 0.18	1430 - 1388 BC (50.17 %)	3379 - 3317 (50.17 %)	PLD - 50609 (AMS)
						1358 - 1296 BC (45.28 %)	3307 - 3245 (45.28 %)	
6	412.84	黒褐色粘土層	土壌	4400 ± 20	-22.94 ± 0.18	3093 - 2923 BC (95.45 %)	5042 - 4872 (95.45 %)	PLD - 50608 (AMS)
7	413.58	黒色粘土層	土壌	3275 ± 20	-22.72 ± 0.14	1613 - 1500 BC (95.45 %)	3562 - 3449 (95.45 %)	PLD - 50607 (AMS)
8	414.06	黒色粘土層	土壌	3866 ± 20	-24.00 ± 0.22	2459 - 2283 BC (99.92 %)	4408 - 4232 (99.92 %)	PLD - 50606 (AMS)
						2250 - 2234 BC (3.82 %)	4199 - 4183 (3.82 %)	
9	414.41	黒色粘土層	土壌	2850 ± 20	-24.37 ± 0.14	2218 - 2210 BC (1.61 %)	4167 - 4159 (1.61 %)	PLD - 50605 (AMS)
						1058 - 926 BC (88.36 %)	3007 - 2875 (88.36 %)	
10	414.80	黒色粘土層	土壌	4140 ± 20	-24.46 ± 0.17	1085 - 1086 BC (3.83 %)	3034 - 3015 (3.83 %)	PLD - 50604 (AMS)
						1108 - 1082 BC (3.28 %)	3057 - 3041 (3.28 %)	
11	415.10	黒褐色粘土層	土壌	2680 ± 20	-26.31 ± 0.20	2782 - 2625 BC (94.95 %)	4731 - 4574 (94.95 %)	PLD - 50603 (AMS)
						2872 - 2798 BC (30.50 %)	4821 - 4747 (30.50 %)	
						840 - 803 BC (73.79 %)	2789 - 2752 (73.79 %)	
						898 - 882 BC (21.66 %)	2847 - 2812 (21.66 %)	

謝辞

本論を作成するにあたり、放射性炭素年代測定では株式会社パレオ・ラボ AMS 年代測定グループの伊藤 茂氏・佐藤正教氏・廣田正史氏・山形秀樹氏・小林敏一氏・Zaur Lomtadidze 氏・小林克也氏にお世話になった。図表の作成では国際文化財株式会社にお手伝いいただいた。分析試料の整理・保管と原因の作成では整理補助員の前田弘子氏・鈴木好美氏にお手伝いいただいた。記して厚くお礼申し上げます。

引用文献

- 古澤 明 1995 「火山ガラスの屈折率測定・形態分類とその統計的な解析」『地質学雑誌』101, pp.123-133
- 古澤 明 2003 「洞爺火山灰降下以降の岩手火山のテフラの識別」『地質学雑誌』109, pp.1-19
- 町田 洋・新井房夫 2003 『新編 火山灰アトラス [日本列島とその周辺]』東京大学出版会, p.336